

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

( 調 書 )

## 基礎資料 (薬学教育評価用)

(2023年5月1日現在)

大阪医科薬科大学 薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

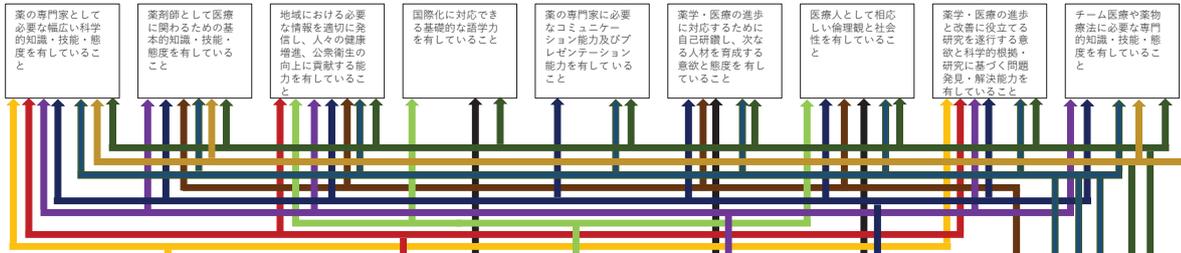
	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	5
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	68
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	72
基礎資料 5	教員・職員の数	5	73
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	74
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	75
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	87
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	88
基礎資料10	学生の健康管理	6	262
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	263
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	265
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	266

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

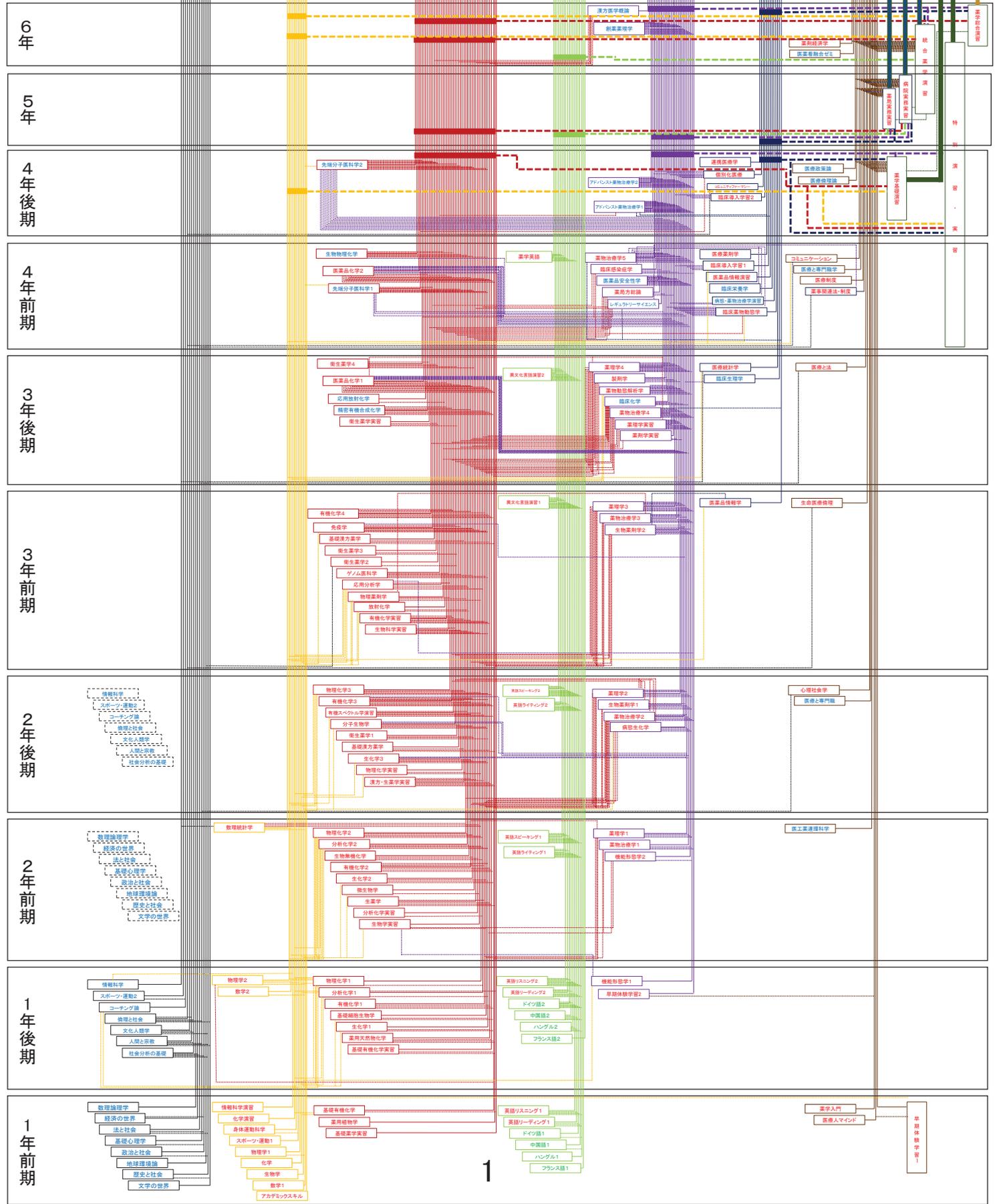
----- (破線) ; 科目間の関連連 ----- (実線) ; 科目そのもの

必修科目 選択科目 選択必修科目

- 教養科目
- 基礎教育科目
- 語学教育科目
- 薬学専門教育科目
- 医療系科目
- 薬学臨床系科目
- 薬学と社会



関連性に関しては科目間の一対一対応であり、起点と終点のみの関係  
破線は起点となる科目群の色で示されており、基本、若いセメスターの科目を起点としている

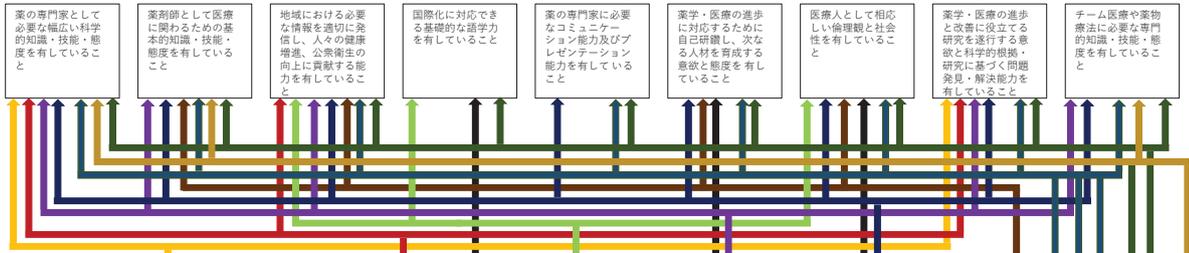


# R3年度カリキュラム カリキュラムツリー (詳細版)

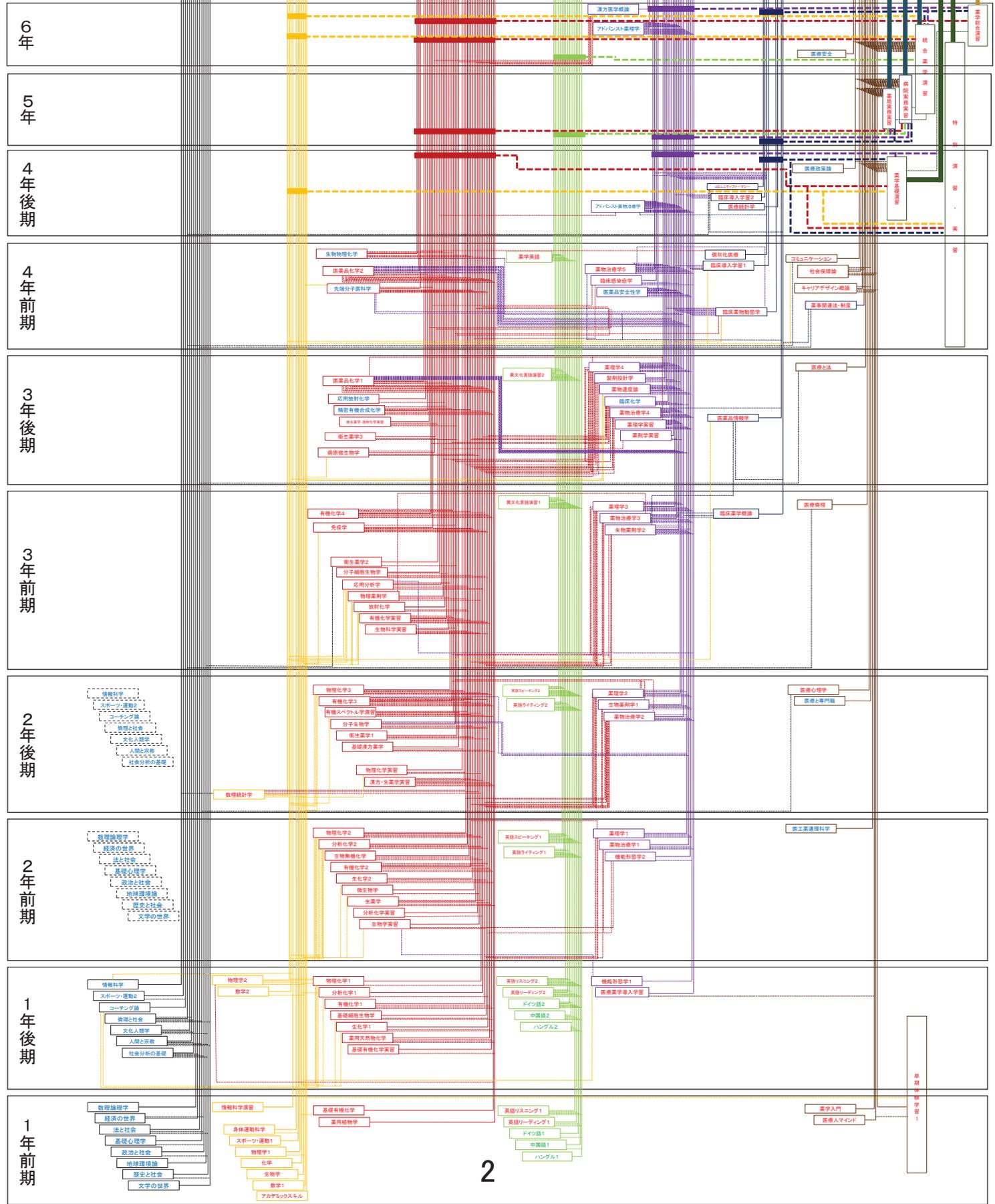
----- (破線) ; 科目間の関連 ----- (実線) ; 科目そのもの

必修科目 選択科目 選択必修科目

- 教養科目
- 基礎教育科目
- 語学教育科目
- 薬学専門教育科目
- 医療系科目
- 薬学臨床系科目
- 薬学と社会



関連性に関しては科目間の一対一対応であり、起点と終点のみの関係。破線は起点となる科目群の色で示されており、基本、若いセメスターの科目を起点としている。



薬学部薬学科 (6年制) カリキュラム・マップ詳細版 平成30～令和2年度入学生

(凡例) 科目名の後ろの数字は単位数を示す

○選択科目 (応用薬学科目、医療薬学科目)

△自由科目

▲選択必修科目 (基礎教育科目)

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	薬学教育 ヒューマンエデュケーション	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人と文化 人の行動と心理 情報リテラシー プレゼンテーション アカデミックスキル 身体運動科学 スポーツ運動実習 物理 化学 生物学 数学 薬学入門 薬学と社会	基礎教育 ヒューマンエデュケーション 薬学を学ぶ上で必要な基礎能力の養成と、医療人として相応しい倫理観と社会性を身に付けていくこと コミュニケーション能力の向上を身に付けます	○ 教養科目 ○ 選択必修科目 (基礎教育科目)	人文学	英語ライティング1	英語ライティング1	英語ライティング2									
			情報科学実習1	アカデミックスキル1	身体運動科学1	スポーツ運動実習1	物理1	化学1	生物1	数学1	薬学入門1	薬学と社会1	英語ライティング1	英語ライティング2	英語ライティング1
国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること	薬学専門家としての基礎的な知識・技能を身に付けていくこと	基礎教育 ヒューマンエデュケーション	英語	英語リスニング1	英語リスニング2	英語ライティング1	英語ライティング2								
			基礎化学1	基礎有機化学1	基礎無機化学1	基礎生化学1	基礎微生物学1	基礎薬理学1	基礎薬物化学1	基礎薬物生理学1	基礎薬物化学2	基礎薬物生理学2	基礎薬理学2	基礎薬物化学3	基礎薬物生理学3
薬学専門家としての基礎的な知識・技能を身に付けていくこと	薬学専門家としての基礎的な知識・技能を身に付けていくこと	基礎教育 ヒューマンエデュケーション	物理系	物理化学1	物理化学2	物理化学3	物理化学4	物理化学5	物理化学6	物理化学7	物理化学8	物理化学9	物理化学10	物理化学11	物理化学12
			有機系	有機化学1	有機化学2	有機化学3	有機化学4	有機化学5	有機化学6	有機化学7	有機化学8	有機化学9	有機化学10	有機化学11	有機化学12
薬学専門家としての基礎的な知識・技能を身に付けていくこと	薬学専門家としての基礎的な知識・技能を身に付けていくこと	基礎教育 ヒューマンエデュケーション	生物系	生化学1	生化学2	生化学3	生化学4	生化学5	生化学6	生化学7	生化学8	生化学9	生化学10	生化学11	生化学12
			医療系	基礎形態学1	基礎形態学2	基礎薬理学1	基礎薬理学2	基礎薬理学3	基礎薬理学4	基礎薬理学5	基礎薬理学6	基礎薬理学7	基礎薬理学8	基礎薬理学9	基礎薬理学10
薬学、医療の進歩に対応し、地域における医療の発展に貢献する能力を養っていくこと	薬学、医療の進歩に対応し、地域における医療の発展に貢献する能力を養っていくこと	基礎教育 ヒューマンエデュケーション	薬学臨床系	薬学臨床学1	薬学臨床学2	薬学臨床学3	薬学臨床学4	薬学臨床学5	薬学臨床学6	薬学臨床学7	薬学臨床学8	薬学臨床学9	薬学臨床学10	薬学臨床学11	薬学臨床学12
			薬学と社会	薬学と社会1	薬学と社会2	薬学と社会3	薬学と社会4	薬学と社会5	薬学と社会6	薬学と社会7	薬学と社会8	薬学と社会9	薬学と社会10	薬学と社会11	薬学と社会12
薬学、医療の進歩に対応し、地域における医療の発展に貢献する能力を養っていくこと	薬学、医療の進歩に対応し、地域における医療の発展に貢献する能力を養っていくこと	基礎教育 ヒューマンエデュケーション	総合演習	総合演習1	総合演習2	総合演習3	総合演習4	総合演習5	総合演習6	総合演習7	総合演習8	総合演習9	総合演習10	総合演習11	総合演習12
			卒業論文	卒業論文1	卒業論文2	卒業論文3	卒業論文4	卒業論文5	卒業論文6	卒業論文7	卒業論文8	卒業論文9	卒業論文10	卒業論文11	卒業論文12

※選択科目は同時期に開講することがある。また履修修級に制限を設けることがある。

※1系...概ね薬学教育モデル・コアカリキュラムに即して科目の内容を整理

卒業要件単位 187



平成30～令和2年度入学者適用

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>A 基本事項</b>						
<b>(1) 薬剤師の使命</b>						
<b>【1 医療人として】</b>						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習1		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習1		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習1		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門 早期体験学習1		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
<b>【2 薬剤師が果たすべき役割】</b>						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習1		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習1					
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 個別化医療		
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 臨床薬物学		
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 早期体験学習1					
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 早期体験学習1			コミュニティファーマシー		
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。				コミュニティファーマシー 個別化医療		
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
<b>【3 患者安全と薬害の防止】</b>						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	医療人マインド 薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	医療人マインド 薬学入門		生命医療倫理	コミュニティファーマシー (選) 医療倫理論		
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	医療人マインド 薬学入門			コミュニティファーマシー 個別化医療		
4) 医薬品が関与する代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。			生命医療倫理	コミュニティファーマシー (選) 医療倫理論		
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			生命医療倫理	(選) 医療倫理論 個別化医療		
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。			生命医療倫理 医薬品化学1	(選) 医薬品安全性学 個別化医療 (選) 医療倫理論		
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
<b>【4 薬学の歴史と未来】</b>						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学入門					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学入門					
3) 薬剤師の誕生から現存までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
4) 将来の薬剤師と薬学が果たすべき役割について討議する。(知識・態度)	薬学入門					
<b>(2) 薬剤師に求められる倫理観</b>						
<b>【1 生命倫理】</b>						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	薬学入門 早期体験学習1		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
<b>【2 医療倫理】</b>						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	薬事関連法・制度 (選) 医療倫理論		
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
<b>【3 患者の権利】</b>						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	薬事関連法・制度 (選) 医療倫理論		
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	薬事関連法・制度 (選) 医療倫理論		
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	薬学入門		生命医療倫理	臨床導入学習1 薬事関連法・制度 (選) 医療倫理論		
<b>【4 研究倫理】</b>						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	薬事・関連法制度 (選) 医療倫理論		
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学入門					
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規則を遵守して研究に取り組む。(態度)	薬学入門					
<b>(3) 信頼関係の構築</b>						
<b>【1 コミュニケーション】</b>						

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。		心理社会		コミュニティファーマシー コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。				コミュニティファーマシー コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。				コミュニティファーマシー コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。		心理社会		コミュニティファーマシー コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)		心理社会		コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
6) 自分の心理状態を認識して、他者と接することができる。(態度)		心理社会		コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)		心理社会		臨床導入学習 1 コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)				臨床導入学習 1 コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	(選) 倫理と社会(教養)			臨床導入学習 1 コミュニケーション (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【2患者・生活者と薬剤師】</b>						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	薬学入門	心理社会	生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)	薬学入門	心理社会	生命医療倫理	(選) 医療倫理論 コミュニケーション		
<b>【4) 多職種連携協働とチーム医療】</b>						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習 1			コミュニティファーマシー コミュニケーション		
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	医療人マインド 薬学入門			コミュニティファーマシー コミュニケーション		
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	医療人マインド 薬学入門			コミュニティファーマシー コミュニケーション		
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	医療人マインド 薬学入門			コミュニケーション		
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	医療人マインド 薬学入門			コミュニケーション		
<b>【5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成】</b>						
<b>【1学習の在り方】</b>						
1) 医療・福祉・医薬品に関する問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学入門 (選) 倫理と社会(教養)		生命医療倫理	(選) 医療倫理論 (選) 病態・薬物治療学演習		
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)				特別演習・実習 (選) 病態・薬物治療学演習	特別演習・実習	特別演習・実習
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	(選) 倫理と社会(教養)			特別演習・実習 (選) 病態・薬物治療学演習	特別演習・実習	特別演習・実習
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	(選) 倫理と社会(教養)			特別演習・実習 (選) 病態・薬物治療学演習	特別演習・実習	特別演習・実習
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	情報科学演習 (選) 倫理と社会(教養)			(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【2薬学教育の振興】</b>						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学入門 早期体験学習 1		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学入門 早期体験学習 1		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
<b>【3生涯学習】</b>						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)			生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
<b>【4次世代を担う人材の育成】</b>						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)				臨床導入学習 1	病院実務実習 薬局実務実習	
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
<b>B 薬学と社会</b>						
<b>【1) 人と社会に関わる薬剤師】</b>						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	薬学入門	心理社会				
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	薬学入門	心理社会				
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)	薬学入門					
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選) 医療倫理論		
<b>【2) 薬剤師と医薬品等に関する法規制】</b>						
<b>【1薬剤師の社会的位置づけと責任に関する法規制】</b>						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。			医療と法	薬事関連法・制度		

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	競 争 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
<b>【2 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規制】</b>						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品）の定義について説明できる。				薬事関連法・制度		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規制について概説できる。			医薬品化学1	薬事関連法・制度		
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。			医薬品化学1	薬事関連法・制度		
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規制について説明できる。				薬事関連法・制度		
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			医薬品化学1	薬事関連法・制度		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規制について説明できる。				薬事関連法・制度		
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。				薬事関連法・制度		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。				薬事関連法・制度 薬局方総論		
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規制について説明できる。				薬事関連法・制度		
10) 健康被害救済制度について説明できる。				薬事関連法・制度		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。				薬事関連法・制度		
<b>【3 特別な管理を要する薬物等に係る法規制】</b>						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関連法・制度		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。				薬事関連法・制度		
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。				薬事関連法・制度		
<b>【3 社会保障制度と医療経済】</b>						
<b>【1 医療、福祉、介護の制度】</b>						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	薬学入門		医療と法	医療制度 コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
2) 医療保険制度について説明できる。	薬学入門		医療と法	医療制度 コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
3) 療養担当規則について説明できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー		
4) 公費負担医療制度について概説できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー		
5) 介護保険制度について概説できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー		
6) 家賃基準制度について概説できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー		
<b>【2 医薬品と医療の経済性】</b>						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー		
2) 国民医療費の動向について概説できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。	薬学入門		製剤学	医療制度 コミュニティファーマシー		薬剤経済学
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。	薬学入門			医療制度		薬剤経済学
<b>【4 地域における薬局と薬剤師】</b>						
<b>【1 地域における薬局の役割】</b>						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		薬剤経済学
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	薬学入門			医療制度 コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
<b>【2 地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</b>						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		

平成26年度改訂版・農学教育モデル・コアカリキュラム (SBOe)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)	薬学入門			コミュニティファーマシー		
<b>C 農学基礎</b>						
<b>C1 物質の物理的性質</b>						
<b>(1) 物質の構造</b>						
<b>【1化学結合】</b>						
1) 化学結合の様式について説明できる。	化学 化学演習 基礎有機化学	物理化学 3	(選) 精密有機合成化学			
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	化学 化学演習 基礎有機化学	物理化学 3	(選) 精密有機合成化学			
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	基礎有機化学	有機化学 3 物理化学 3				
<b>【2分子間相互作用】</b>						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	化学 化学演習 基礎有機化学	物理化学 3				
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理学 2 化学 化学演習 基礎有機化学	物理化学 3	物理薬剤学			
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	化学 化学演習 基礎有機化学	物理化学 3				
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	化学 化学演習 基礎有機化学	物理化学 3				
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	化学 化学演習 基礎有機化学 生化学 1	物理化学 3				
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。		物理化学 3				
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎有機化学 生化学 1	物理化学 3				
<b>【3原子・分子の挙動】</b>						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		物理・放射化学実習 分析化学 2 放射化学				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		分析化学 2 放射化学				
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。			(選) 応用放射化学			
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	物理学 2 有機化学 1					
5) 光の散乱および干渉について説明できる。		物理化学 2 分析化学 2				
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。		物理化学 2	薬剤学実習 物理薬剤学 製剤学			
<b>【4放射線と放射能】</b>						
1) 原子の構造と放射線について説明できる。		物理・放射化学実習 放射化学				
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。		物理・放射化学実習 放射化学				
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		物理・放射化学実習 放射化学				
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		物理・放射化学実習 放射化学				
5) 放射線測定の実験と利用について概説できる。		物理・放射化学実習 放射化学				
<b>(2) 物質のエネルギーと平衡</b>						
<b>【1気体の微視的状態と巨視的状態】</b>						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 1					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理化学 1					
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学 1					
<b>【2エネルギー】</b>						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学 1					
2) 熱力学第一法則を説明できる。	物理化学 1					
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	物理化学 1					
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	物理化学 1					
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理化学 1					
6) エンタルピーについて説明できる。	物理化学 1			物理薬剤学 製剤学		
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	物理化学 1					
<b>【3自発的な変化】</b>						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 1		物理薬剤学			
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物理化学 1					

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOe)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学 1					
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	有機化学 1	物理化学 2 生化学 2	物理薬理学 製剤学			
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		物理化学 2 生化学 2				
<b>【4 化学平衡の原理】</b>						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学 2	物理薬理学			
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。		物理化学 2 生化学 2				
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理化学 2				
4) 共役反応の原理について説明できる。		物理化学 2 生化学 2				
<b>【5 相平衡】</b>						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学 2				
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学 2				
3) 状態図について説明できる。		物理化学 2				
<b>【6 溶液の性質】</b>						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学 3 物理・放射化学実習	物理薬理学			
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理化学 2				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。			応用分析学			
4) イオン強度について説明できる。	分析化学 1					
<b>【7 電気化学】</b>						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		生化学 2				
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。		生化学 2	応用分析学			
<b>(3) 物質の変化</b>						
<b>【1 反応速度】</b>						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学 3 物理・放射化学実習	物理薬理学			
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学 3 物理・放射化学実習	物理薬理学			
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学 3	物理薬理学			
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学 3 物理・放射化学実習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学 3				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。			物理薬理学			
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。		物理化学 3				
<b>02 化学物質の分析</b>						
<b>(1) 分析の基礎</b>						
<b>【1 分析の基本】</b>						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	分析化学 1 基礎薬学実習	分析化学実習	生物科学実習			
2) 測定値を適切に取り換うことができる。(知識・技能)	分析化学 1 基礎薬学実習	分析化学 2 分析化学実習	生物科学実習			
3) 分析法のバージョンについて説明できる。	分析化学 1	分析化学 2				
<b>(2) 溶液中の化学平衡</b>						
<b>【1 酸・塩基平衡】</b>						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	化学 化学演習 基礎薬学実習 分析化学 1 基礎有機化学 生化学 1	物理・放射化学実習	生物科学実習			
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	化学 化学演習 基礎薬学実習 基礎有機化学 分析化学 1 生化学 1	物理・放射化学実習 分析化学実習				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	基礎薬学実習	物理・放射化学実習 分析化学実習				
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	生化学 1 分析化学 1 基礎薬学実習	物理・放射化学実習				
<b>【2 各種の化学平衡】</b>						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学 1					
2) 沈殿平衡について説明できる。	分析化学 1					
3) 酸化還元平衡について説明できる。	分析化学 1					
4) 分配平衡について説明できる。	分析化学 1	物理・放射化学実習				
<b>(3) 化学物質の定性分析・定量分析</b>						
<b>【1 定性分析】</b>						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	基礎薬学実習					
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
<b>【2 定量分析(容量分析・重量分析)】</b>						
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 1		応用分析学			
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。			応用分析学			
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 1		応用分析学			

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	履 修 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学1		応用分析学			
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	分析化学1	分析化学実習	応用分析学			
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。			応用分析学			
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学1					
<b>(4) 機器を用いる分析法</b>						
<b>【1 分光分析法】</b>						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学2 有機スペクトル学演習	生物科学実習 (選) 臨床化学	(選) 生物物理化学		
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析化学2	(選) 臨床化学	(選) 生物物理化学		
3) 赤外線吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		有機スペクトル学演習		(選) 生物物理化学		
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学2				
5) 線光度測定法 (線光分散) の原理および応用例を説明できる。		有機スペクトル学演習		(選) 生物物理化学		
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		分析化学実習				
<b>【2 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】</b>						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		有機スペクトル学演習		(選) 生物物理化学		
<b>【3 質量分析法】</b>						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		有機スペクトル学演習				
<b>【4 X線分析法】</b>						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		物理化学2	薬剤学実習 物理薬剤学 製剤学	(選) 生物物理化学		
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		物理化学2	薬剤学実習 物理薬剤学 製剤学			
<b>【5 熱分析】</b>						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		物理化学2	物理薬剤学 製剤学			
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		物理化学2	物理薬剤学 製剤学	(選) 生物物理化学		
<b>(5) 分離分析法</b>						
<b>【1 クロマトグラフィー】</b>						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	基礎有機化学実習 生化学1	分析化学2	生物科学実習	(選) 生物物理化学		
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	基礎有機化学実習	分析化学2	有機化学実習			
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学2				
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学2				
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	基礎有機化学実習	分析化学2 分析化学実習	生物科学実習			
<b>【2 電気泳動法】</b>						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	生化学1	分析化学2	生物科学実習 (選) 臨床化学			
<b>(6) 臨床現場で用いる分析技術</b>						
<b>【1 分析の準備】</b>						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		分析化学2	(選) 臨床化学			
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			応用分析学 (選) 臨床化学			
<b>【2 分析技術】</b>						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			応用分析学 (選) 臨床化学			
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。			応用分析学 (選) 臨床化学			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			応用分析学 生物科学実習 (選) 臨床化学			
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			応用分析学 (選) 臨床化学			
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。	早期体験学習2	薬物治療学1 薬物治療学2	(選) 応用放射化学 薬物治療学3 (選) 臨床化学			
<b>03 化学物質の性質と反応</b>						
<b>(1) 化学物質の基本的性質</b>						
<b>【1 基本事項】</b>						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎有機化学	有機化学3	有機化学4			
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎有機化学	有機化学3	有機化学4			
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	基礎有機化学					
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	基礎有機化学	有機化学3	(選) 精密有機合成化学			
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	基礎有機化学					
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機化学1 基礎有機化学実習	有機化学2				
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機化学1	有機化学2				
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学1					
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	基礎有機化学 有機化学1 基礎有機化学実習	有機化学2 有機化学3	有機化学実習 有機化学4			
<b>【2 有機化合物の立体構造】</b>						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学1					
2) キラリティーと光学活性の関係概説できる。	有機化学1 生化学1					

平成26年度改訂版・農学教育モデル・コアカリキュラム (SBOe)	履 修 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学 1 生化学 1					
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学 1					
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラリ化合物の構造を書くことができる。(知識・技能)	有機化学 1					
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	基礎有機化学 有機化学 1		有機化学実習			
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化学 1					
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機化学 1					
<b>【2】有機化合物の基本骨格の構造と反応</b>						
<b>【1】アルカン】</b>						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学 1					
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	基礎有機化学 有機化学 1					
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機化学 1					
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	有機化学 1					
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学 1					
<b>【2】アルケン・アルキン】</b>						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 2				
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 2				
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 2				
<b>【3】芳香族化合物】</b>						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学 3				
2) 芳香族性の概念を説明できる。		有機化学 3				
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 3				
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質と芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学 3				
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 3				
<b>【3】官能基の性質と反応</b>						
<b>【1】概説】</b>						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。		有機化学 2 有機化学 3	有機化学 4			
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	基礎有機化学実習		有機化学実習			
<b>【2】有機ハロゲン化合物】</b>						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 1					
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	有機化学 1					
3) 脱離反応の特徴について説明できる。	有機化学 1					
<b>【3】アルコール・フェノール・エーテル】</b>						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 2	有機化学 4			
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 2				
<b>【4】アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】</b>						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学 2 有機化学 3	有機化学 4 有機化学実習 (選) 精密有機合成化学			
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 3	有機化学実習			
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学 3	有機化学実習 有機化学 4			
<b>【5】アミン】</b>						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学 4			
<b>【6】電子効果】</b>						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機化学 1	有機化学 3	有機化学 4 (選) 精密有機合成化学			
<b>【7】酸性度・塩基性度】</b>						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	基礎有機化学	有機化学 3	有機化学 4			
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	基礎有機化学		有機化学 4			
<b>【4】化学物質の構造決定</b>						
<b>【1】核磁気共鳴 (NMR) 】</b>						
1) <sup>1</sup> H および <sup>13</sup> C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
3) <sup>1</sup> H NMR の積分値の意味を説明できる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
4) <sup>1</sup> H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
5) 代表的な化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。(技能)		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
<b>【2】赤外線吸収 (IR) 】</b>						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
<b>【3】質量分析】</b>						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		有機スペクトル学演習				
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		有機スペクトル学演習				
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。		有機スペクトル学演習				

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOe)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		有機スペクトル学演習				
<b>【4総合演習】</b>						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		有機スペクトル学演習				
<b>(5) 無機化合物・錯体の構造と性質</b>						
<b>【1無機化合物・錯体】</b>						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。		生物無機化学				
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。		生物無機化学				
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。		生物無機化学				
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。		生物無機化学				
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。		生物無機化学				
<b>04 生体分子・医薬品の化学による理解</b>						
<b>(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質</b>						
<b>【1 医薬品の標的となる生体分子の化学構造】</b>						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。			ゲノム医科学 医薬品化学1	(選) 生物物理化学		
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			ゲノム医科学 医薬品化学1	(選) 生物物理化学		
<b>【2 生体内で機能する小分子】</b>						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		薬理学1	医薬品化学1			
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			医薬品化学1			
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。			医薬品化学1			
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			医薬品化学1			
<b>(2) 生体反応の化学による理解</b>						
<b>【1 生体内で機能するリン、硫黄化合物】</b>						
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。			医薬品化学1			
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			医薬品化学1			
<b>【2 酵素阻害剤と作用機序】</b>						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学1		医薬品化学1			
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学1		医薬品化学1			
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			医薬品化学1			
<b>【3 受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】</b>						
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		薬理学1	医薬品化学1			
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。			医薬品化学1			
<b>【4 生体内で起こる有機反応】</b>						
1) 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			医薬品化学1			
2) 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。			医薬品化学1			
<b>(3) 医薬品の化学構造と性質、作用</b>						
<b>【1 医薬品と生体分子の相互作用】</b>						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。			医薬品化学1			
<b>【2 医薬品の化学構造に基づく性質】</b>						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。			医薬品化学1			
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			製剤学 医薬品化学1			
<b>【3 医薬品のコンポーネント】</b>						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			医薬品化学1			
2) バイオアイソスター(生物学的等価体)について、代表的な例を挙げて概説できる。			医薬品化学1			
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			医薬品化学1			
<b>【4 酵素に作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) ヌクレオチドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学2		
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学2		
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学2		
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学2		

平成26年度改訂版・農学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【2糖質】</b>						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学 1 薬用天然物化学		医薬品化学 1 (選) 臨床化学	(選) 生物物理化学		
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学 1		医薬品化学 1			
<b>【3アミノ酸】</b>						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学 生化学 1		医薬品化学 1	(選) 生物物理化学		
<b>【4タンパク質】</b>						
1) タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	生物学 生化学 1		生物科学実習 医薬品化学 1	(選) 生物物理化学		
<b>【5ヌクレオチドと核酸】</b>						
1) ヌクレオチドと核酸 (DNA、RNA) の種類、構造、性質を説明できる。	生物学	生化学 3	生物科学実習 ゲノム医学 医薬品化学 1	(選) 生物物理化学		
<b>【6ビタミン】</b>						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。			医薬品化学 1			
<b>【7微量元素】</b>						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。			医薬品化学 1 (選) 臨床化学			
<b>【8生体分子の定性・定量】</b>						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)			生物科学実習	(選) 生物物理化学		
<b>(3) 生命活動を担うタンパク質</b>						
<b>【1タンパク質の構造と機能】</b>						
1) 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	生物学 基礎細胞生物学 生化学 1		(選) 臨床化学	(選) 生物物理化学		
<b>【2タンパク質の成熟と分解】</b>						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	分子細胞生物学				
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	基礎細胞生物学					
<b>【3酵素】</b>						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生物学 生化学 1		生物科学実習 (選) 臨床化学	(選) 生物物理化学		
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生物学 生化学 1		(選) 臨床化学	(選) 生物物理化学		
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生物学 生化学 1			(選) 生物物理化学		
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)			生物科学実習	(選) 生物物理化学		
<b>【4酵素以外のタンパク質】</b>						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生物学			(選) 生物物理化学		
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生化学 2	病態生化学 (選) 臨床化学			
<b>(4) 生命情報を担う遺伝子</b>						
<b>【1概論】</b>						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学 3 分子細胞生物学	ゲノム医学			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学 3	ゲノム医学			
<b>【2遺伝情報を担う分子】</b>						
1) 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学 3				
2) 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エクソン、イントロンなど）を説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学 3				
3) RNA の種類 (hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。	生物学	生化学 3				
<b>【3遺伝子の複製】</b>						
1) DNA の複製の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学 3				
<b>【4転写・翻訳の過程と調節】</b>						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学 3				
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学 3	ゲノム医学			
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学 3				
4) RNA のプロセッシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など）について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学 3				
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学 3				
<b>【5遺伝子の変異・修復】</b>						
1) DNA の変異と修復について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学 3				
<b>【6組換え DNA】</b>						
1) 遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。			ゲノム医学			
2) 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。			ゲノム医学			
<b>(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系</b>						
<b>【1概論】</b>						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生物学	生化学 2				
<b>【2ATP の産生と物質代謝】</b>						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生物学	生化学 2				
2) クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。	生物学	生化学 2				
3) 電子伝達系（酸化リン酸化）と ATP 合成酵素について説明できる。	生物学	生化学 2				
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。		生化学 2 分子細胞生物学	(選) 臨床化学			
5) 糖新生について説明できる。		生化学 2	(選) 臨床化学			
<b>【3脂質代謝】</b>						

平成25年度改訂版・養学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。	生物学 薬用天然物化学	生化学2				
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生化学2				
<b>【4 筋線状態と筋食状態】</b>						
1) 筋線状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。	生物学	生化学2				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学2				
<b>【5 その他の代謝系】</b>						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。	生物学	生化学2				
2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生化学2				
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生化学2				
<b>(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達</b>						
<b>【1 概論】</b>						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	生物学	分子細胞生物学				
<b>【2 細胞内情報伝達】</b>						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学1	薬理学1 分子細胞生物学				
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学1	薬理学1 分子細胞生物学				
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学1	薬理学1 分子細胞生物学				
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	機能形態学1	薬理学1 分子細胞生物学				
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学1	薬理学1 分子細胞生物学				
<b>【3 細胞間コミュニケーション】</b>						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生物学	分子細胞生物学				
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生物学	分子細胞生物学				
<b>(7) 細胞の分類と死</b>						
<b>【1 細胞分類】</b>						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	基礎細胞生物学	分子細胞生物学				
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	基礎細胞生物学	分子細胞生物学				
<b>【2 細胞死】</b>						
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	基礎細胞生物学	分子細胞生物学				
<b>【3 がん細胞】</b>						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	基礎細胞生物学	分子細胞生物学				
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	基礎細胞生物学	分子細胞生物学				
<b>67 人体の成り立ちと生体機能の原簿</b>						
<b>(1) 人体の成り立ち</b>						
<b>【1 遺伝】</b>						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	生物学		ゲノム医学			
2) 遺伝子多型について概説できる。	基礎細胞生物学	生化学3	ゲノム医学			
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。			ゲノム医学 病態生化学			
<b>【2 発生】</b>						
1) 嚢胚発生について概説できる。	基礎細胞生物学					
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	基礎細胞生物学	分子細胞生物学				
<b>【3 器官系概論】</b>						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学1	生物学実習 薬物治療学2				
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学1	生物学実習 薬物治療学2				
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)		生物学実習				
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)		生物学実習				
<b>【4 神経系】</b>						
1) 中枢神経系について概説できる。			薬理学3	(選) 医薬品安全性学		
2) 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	機能形態学1	薬理学1		(選) 医薬品安全性学		
<b>【5 骨格系・筋内系】</b>						
1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態学1			薬物治療学5		
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学1			薬物治療学5		
<b>【6 皮膚】</b>						
1) 皮膚について概説できる。		機能形態学2 薬物治療学2				
<b>【7 循環器系】</b>						
1) 心臓について概説できる。		機能形態学2 薬理学2		(選) 医薬品安全性学		
2) 血管系について概説できる。		機能形態学2 薬理学2		(選) 医薬品安全性学		
3) リンパ管系について概説できる。	機能形態学1		免疫学 病態生化学			
<b>【8 呼吸器系】</b>						
1) 肺、気管支について概説できる。		機能形態学2		(選) 医薬品安全性学		
<b>【9 消化器系】</b>						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学1	機能形態学2 薬物治療学2		(選) 医薬品安全性学		
2) 肝臓、脾臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学1	機能形態学2 薬物治療学2		(選) 医薬品安全性学		
<b>【10 泌尿器系】</b>						
1) 泌尿器系について概説できる。				(選) 医薬品安全性学		

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【⑩生殖系】</b>						
1) 生殖系について概説できる。				薬物治療学 5		
<b>【⑨内分泌系】</b>						
1) 内分泌系について概説できる。	機能形態学 1	分子細胞生物学				
<b>【⑧感覚系】</b>						
1) 感覚系について概説できる。		機能形態学 2		(選) 医薬品安全性学		
<b>【⑦血液・造血系】</b>						
1) 血液・造血系について概説できる。	機能形態学 1	薬物治療学 2 分子細胞生物学				
<b>(2) 生体機能の調節</b>						
<b>【1 神経による調節機構】</b>						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学 1	薬理学 1	薬理学 3			
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 1	薬理学 1 分子細胞生物学	分子細胞生物学 薬理学 3			
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学 1					
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学 1	薬理学 2				
<b>【2 ホルモン・内分泌系による調節機構】</b>						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 1	機能形態学 2 分子細胞生物学				
<b>【3 オートコイドによる調節機構】</b>						
1) 代表的なオートコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学 2 分子細胞生物学				
<b>【4 サイトカイン・増殖因子による調節機構】</b>						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		分子細胞生物学				
<b>【5 血圧の調節機構】</b>						
1) 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態学 2 薬理学 2 分子細胞生物学				
<b>【6 血糖の調節機構】</b>						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	機能形態学 1	生化学 2 分子細胞生物学				
<b>【7 体液の調節】</b>						
1) 体液の調節機構について概説できる。		薬理学 2 分子細胞生物学				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		薬理学 2				
<b>【8 体温の調節】</b>						
1) 体温の調節機構について概説できる。		薬物治療学 2				
<b>【9 血液凝固・線溶系】</b>						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	機能形態学 1	薬物治療学 2 薬理学 2		(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【⑨性周期の調節】</b>						
1) 性周期の調節機構について概説できる。	機能形態学 1					
<b>08 生体防御と微生物</b>						
<b>(1) 身体をまもる</b>						
<b>【1 生体防御反応】</b>						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
<b>【2 免疫を担当する細胞・細胞】</b>						
1) 免疫に関与する細胞を列挙し、その役割を説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
<b>【3 分子レベルで見た免疫のしくみ】</b>						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。	機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。	機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1		免疫学 病態生化学			
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	基礎細胞生物学 機能形態学 1	分子細胞生物学	免疫学			
<b>(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系応用</b>						
<b>【1 免疫応答の制御と破綻】</b>						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学 病態生化学			
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学 病態生化学			
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。			免疫学 病態生化学			
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。			免疫学			
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学			
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫学			
<b>【2 免疫反応の利用】</b>						
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。			免疫学			
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。			免疫学			
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			免疫学			
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）		生物学実習				
<b>(3) 微生物の基本</b>						

平成26年度改訂版・農学教育モデル・コアカリキュラム (SBOe)	競 争 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【1 総論】</b>						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	生物学	微生物学		(選) 臨床感染症学		
<b>【2 細菌】</b>						
1) 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気菌と嫌気菌など)を説明できる。		微生物学		(選) 臨床感染症学		
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		生物学実習 微生物学		(選) 臨床感染症学		
3) 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。		微生物学		(選) 臨床感染症学		
4) 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。		微生物学		(選) 臨床感染症学		
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学		(選) 臨床感染症学		
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学		(選) 臨床感染症学		
<b>【3 ウィルス】</b>						
1) ウィルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学		(選) 臨床感染症学		
<b>【4 真菌・原虫・蠕虫】</b>						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学		(選) 臨床感染症学		
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学		(選) 臨床感染症学		
<b>【5 消毒と滅菌】</b>						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		生物学実習 微生物学		(選) 臨床感染症学		
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		生物学実習 微生物学		(選) 臨床感染症学		
<b>【6 検出方法】</b>						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		生物学実習				
2) 無菌操作を実施できる。(技能)		生物学実習				
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物学実習				
<b>【4】病原体としての微生物</b>						
<b>【1 感染の成立と共生】</b>						
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。				(選) 臨床感染症学		
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。				(選) 臨床感染症学		
<b>【2 代表的な病原体】</b>						
1) DNA ウィルス(ヒトヘルペスウィルス、アデノウィルス、パピローマウィルス、B型肝炎ウィルスなど)について概説できる。				(選) 臨床感染症学		
2) RNA ウィルス(ノロウィルス、ロタウィルス、ポリオウィルス、コクサッキーウィルス、エコーウィルス、ライノウィルス、A型肝炎ウィルス、C型肝炎ウィルス、インフルエンザウィルス、麻疹ウィルス、風疹ウィルス、日本脳炎ウィルス、狂犬病ウィルス、ムンプスウィルス、HIV、HTLV など)について概説できる。				(選) 臨床感染症学		
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。				(選) 臨床感染症学		
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、エルシニア菌、クレブシエラ菌、コレラ菌、百日咳菌、肺炎ピピリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。				(選) 臨床感染症学		
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。				(選) 臨床感染症学		
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。				(選) 臨床感染症学		
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。				(選) 臨床感染症学		
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコール、白黴菌など)について概説できる。				(選) 臨床感染症学		
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。				(選) 臨床感染症学		
<b>D 衛生薬学</b>						
<b>D1 健康</b>						
<b>(1) 社会・集団と健康</b>						
<b>【1 健康と疾病の概念】</b>						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			衛生薬学 4			
<b>【2 保健統計】</b>						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			衛生薬学 4			
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			衛生薬学 4			
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。			衛生薬学 4			
<b>【3 疫学】</b>						
1) 疾病の予防における疫学的作用を説明できる。			衛生薬学 4			
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。			衛生薬学 4			
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。			衛生薬学 4			
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			衛生薬学 4 衛生薬学実習			
<b>(2) 疾病の予防</b>						
<b>【1 疾病の予防とは】</b>						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			衛生薬学 4			
2) 健康増進政策(健康日本21など)について概説できる。			衛生薬学 4			
<b>【2 感染症とその予防】</b>						
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など)の特徴について説明できる。			衛生薬学 4	(選) 臨床感染症学		

平成26年度改訂版・農学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			衛生薬学 4	(選) 臨床感染症学		
3) 代表的な感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			衛生薬学 4	(選) 臨床感染症学		
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。			衛生薬学 4	(選) 臨床感染症学		
<b>【3 生活習慣病とその予防】</b>						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			衛生薬学 4			
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			衛生薬学 4			
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)			衛生薬学実習			
<b>【4 母子保健】</b>						
1) 新生児マスキリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			衛生薬学 4			
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			衛生薬学 4			
<b>【5 労働衛生】</b>						
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。			衛生薬学 4			
2) 労働衛生管理について説明できる。			衛生薬学 4			
<b>(3) 栄養と健康</b>						
<b>【1 栄養】</b>						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			衛生薬学 3	(選) 臨床栄養学		
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	薬物治療学 2		衛生薬学 3	(選) 臨床栄養学		
3) 食品中の三大栄養素の栄養的価値を説明できる。			衛生薬学 3			
4) 五大栄養素以外の食品成分(食物繊維、抗酸化物質など)の機能について説明できる。			衛生薬学 3			
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。			衛生薬学 3	(選) 臨床栄養学		
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。			衛生薬学 3			
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			衛生薬学 3	(選) 臨床栄養学		
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			衛生薬学 3	(選) 臨床栄養学		
<b>【2 食品機能と食品衛生】</b>						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			衛生薬学 3			
2) 油脂が変質する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			衛生薬学 3 衛生薬学実習			
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。			衛生薬学 3			
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生薬学 3			
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生薬学 3			
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			衛生薬学 3			
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			衛生薬学 3			
<b>【3 食中毒と食品汚染】</b>						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	薬物治療学 2		衛生薬学 4			
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	薬物治療学 2		衛生薬学 3			
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			衛生薬学 3			
<b>D2 環境</b>						
<b>(1) 化学物質・放射線の生体への影響</b>						
<b>【1 化学物質の毒性】</b>						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。	衛生薬学 1					
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。	衛生薬学 1					
3) 重金属、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。	衛生薬学 1			(選) 医薬品安全性学		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。	衛生薬学 1					
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)	衛生薬学 1		衛生薬学実習	(選) 医薬品安全性学		
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。	衛生薬学 1			(選) 医薬品安全性学		
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。	衛生薬学 1			(選) 医薬品安全性学		
<b>【2 化学物質の安全性評価と適正使用】</b>						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			衛生薬学実習			
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。	衛生薬学 1			(選) 医薬品安全性学		
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。	衛生薬学 1			(選) 医薬品安全性学		
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。	衛生薬学 1			(選) 医薬品安全性学		
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。	衛生薬学 1		衛生薬学 2			
<b>【3 化学物質による発がん】</b>						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。	衛生薬学 1					
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。	衛生薬学 1			(選) 医薬品安全性学		
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。	衛生薬学 1			(選) 医薬品安全性学		
<b>【4 放射線の生体への影響】</b>						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	衛生薬学 1			(選) 応用放射化学		
2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。	衛生薬学 1			(選) 応用放射化学		
3) 電離放射線を制御する方法について概説できる。	衛生薬学 1			(選) 応用放射化学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。			(選) 応用放射化学 衛生薬学2			
<b>(2) 生活環境と健康</b>						
<b>【1地球環境と生態系】</b>						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			衛生薬学2			
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			衛生薬学2			
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。			衛生薬学2			
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。			衛生薬学2			
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)			衛生薬学実習			
<b>【2環境保全と法規制】</b>						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			衛生薬学2			
2) 環境基本法の理念を説明できる。			衛生薬学2			
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。			衛生薬学2			
<b>【3水環境】</b>						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			衛生薬学2			
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。			衛生薬学2			
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学2 衛生薬学実習			
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			衛生薬学2			
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学2 衛生薬学実習			
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題を挙げ、対策を説明できる。			衛生薬学2			
<b>【4大気環境】</b>						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。			衛生薬学2			
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)			衛生薬学2 衛生薬学実習			
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			衛生薬学2			
<b>【5室内環境】</b>						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学2 衛生薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			衛生薬学2			
<b>【6廃棄物】</b>						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			衛生薬学2			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			衛生薬学2			
3) マニフェスト制度について説明できる。			衛生薬学2			
<b>E 医療薬学</b>						
<b>E1 薬の作用と体の変化</b>						
<b>(1) 薬の作用</b>						
<b>【1薬の作用】</b>						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学1		(選) 医薬品安全性学 臨床薬物動態学		
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		薬理学1	医薬品化学1 薬物治療学3			
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		薬理学1 薬理学2	医薬品化学1 薬物治療学3			
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学1	医薬品化学1			
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【2細胞内情報伝達】1.~5.参照)		薬理学1		医薬品化学2		
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【2吸収】、【3分布】、【4代謝】、【5排泄】参照)		生物薬剤学1 薬理学1	生物薬剤学2 薬物動態解析学 医薬品化学1	臨床薬物動態学 (選) 医薬品安全性学		
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。		薬理学1		(選) 医薬品安全性学		
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【2吸収】5.【4代謝】5.【5排泄】5.参照)		薬理学1		(選) 医薬品安全性学		
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学1	薬物治療学3	(選) 医薬品安全性学		
<b>【2動物実験】</b>						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		生物学実習	薬理学実習			
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)		生物学実習	薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)		生物学実習	薬理学実習			
<b>【3日本薬局方】</b>						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。				薬局方総論		
<b>(2) 身体の病的変化を知る</b>						
<b>【1症状】</b>						

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	設 計 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 以下の症状・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳、痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腰痛、悪心・嘔吐、眩暈・めまい・耳鳴、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・尿色の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰痛・腰痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害		薬物治療学1 薬物治療学2		(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1 薬物治療学5		
<b>【2 病態・臨床検査】</b>						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	(選) 臨床化学			
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	(選) 臨床化学			
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	(選) 臨床化学			
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	(選) 臨床化学			
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1 薬物治療学2		(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
<b>【3 薬物治療の位置づけ】</b>						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。		薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1 薬物治療学5		
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）		薬物治療学2	薬物動態解析学 薬物治療学4	統合薬学演習 (選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1 薬物治療学5	統合薬学演習	統合薬学演習
<b>【4 医薬品の安全性】</b>						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学1 薬物治療学2	薬物治療学4	(選) 医薬品安全性学 個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学1		
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬物治療学2	薬物治療学4	(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
3) 以下の障害を目的とする代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常・肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害	早期体験学習2	薬物治療学2	薬物治療学4 (選) 臨床生理学	(選) 医薬品安全性学 個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学1		
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）			薬物治療学4	(選) 医薬品安全性学		
<b>E2 薬理・病態・薬物治療</b>						
<b>【1 神経系の疾患と薬】</b>						
<b>【1 自律神経系に作用する薬】</b>						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬物治療学2 薬理学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）		薬理学1	薬理学実習			
<b>【2 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習	(選) 病態・薬物治療学演習		
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré (ギラン・バレー) 症候群、重症筋無力症 (重複)			薬物治療学3			
<b>【3 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3	(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3	(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3	(選) 病態・薬物治療学演習		
4) 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬理学2		薬理学3 薬物治療学3	(選) アドバンスト薬物治療学1		
5) うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬理学2		薬理学3 薬物治療学3	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
6) 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
7) てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3	(選) アドバンスト薬物治療学1		
8) 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	早期体験学習2		薬理学3 薬物治療学3			

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習 2	薬理学 2	薬理学 3 薬物治療学 3			
10) 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学 3 薬物治療学 3			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。		薬理学 2	薬理学 3 薬物治療学 3	(選) アドバンスト薬物治療学 1		
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)				(選) 病態・薬物治療学演習		
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎 (重複)、多発性硬化症 (重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症	早期体験学習 2		薬物治療学 3	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
<b>【4化学構造と薬物】</b>						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		生物薬剤学 1	医薬品化学 1 薬物治療学 3			
<b>(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬</b>						
<b>【1 抗炎症薬】</b>						
1) 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬理学 2	薬理学 2 薬理学 3 免疫学	薬物治療学 5		
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			薬理学 3 免疫学	薬物治療学 5		
3) 創傷治癒の過程について説明できる。			薬理学 3	薬物治療学 5		
<b>【2 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療学 1 薬理学 2	薬理学 2 薬理学 3 免疫学	薬物治療学 5		
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療学 1 薬理学 2	薬理学 2 薬理学 3 免疫学	薬物治療学 5		
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)		薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬理学 3 免疫学	薬物治療学 5		
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹		薬物治療学 2	医薬品安全性学	(選) 医薬品安全性学 薬物治療学 5		
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 2	医薬品安全性学 免疫学	(選) 医薬品安全性学 薬物治療学 5		
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水痘症、光線過敏症、ペーチェット病		薬物治療学 2		薬物治療学 5		
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 バセドウ病 (重複)、橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群		薬理学 1 薬物治療学 1 薬物治療学 2	免疫学	薬物治療学 5		
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複)			免疫学 病態生化学	薬物治療学 5		
9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 2	免疫学	薬物治療学 5		
<b>【3 骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学 3 免疫学 病態生化学	薬物治療学 5		
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 3 病態生化学 薬理学 4	薬物治療学 5		
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬物治療学 5		
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 3 病態生化学 薬理学 4	薬物治療学 5		
<b>【4化学構造と薬物】</b>						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			医薬品化学 1	医薬品化学 2 薬物治療学 5		
<b>(3) 循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬</b>						
<b>【1 循環器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮 (PAC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (Af)、発作性上室頻拍 (PSVT)、WPW症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (Vf)、房室ブロック、QT延長症候群	早期体験学習 2	薬物治療学 1 薬理学 2		(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1薬理学2		(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1薬理学2				
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	早期体験学習2	薬物治療学1薬理学2				
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患		薬物治療学1				
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		薬物治療学1	薬理学実習			
<b>【2血液・造血系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2 薬理学2				
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2 薬理学2				
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血		薬物治療学1 薬物治療学2 薬理学2				
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学2		(選) 病態・薬物治療学演習		
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓性血小板減少性紫斑病(重復)、悪性リンパ腫(重復) 【E2(7)】【B悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照		薬物治療学2	薬物治療学4			
<b>【3泌尿器系、生殖系疾患の薬、病態、薬物治療】</b>						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1 薬理学2				
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1				
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1				
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1				
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重復)、糖尿病性腎症(重復)、薬剤性腎症(重復)、腎盂腎炎(重復)、膀胱炎(重復)、尿路感染症(重復)、尿路結石		薬物治療学1				
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内腺症、子宮筋腫		薬理学1 薬物治療学1	薬理学4			
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 薬物治療学1	薬理学4	薬物治療学5		
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			薬理学4	薬物治療学5		
<b>【4化学構造と薬物】</b>						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学1 薬理学2 薬物治療学1	薬理学2 生物薬剤学2	医薬品化学2		
<b>(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬</b>						
<b>【1呼吸器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬理学1 薬物治療学1	薬理学3	(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1	薬理学3	(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1	薬理学3	(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【2消化器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎		薬物治療学2	薬理学3			
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学2	薬理学3			
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学2	薬理学3			
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学2	薬理学3			

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	教 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 胆道疾患 (胆石症、胆道炎) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 2	薬理学 3			
6) 機能性消化管障害 (過敏性腸症候群を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習 2	薬物治療学 2	薬理学 3			
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習 2	薬物治療学 2	薬理学 3			
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物 (催吐薬) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 2	薬理学 3			
9) 疝について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 2				
<b>【3 化学構造と薬物】</b>						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		生物薬剤学 1 薬物治療学 1 薬物治療学 2 薬理学 2	薬理学 3	医薬品化学 2 (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬</b>						
<b>【1 代謝系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習 2	薬物治療学 1	病態生化学 薬理学 4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスド薬物治療学		
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 1	病態生化学 薬理学 4	(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 1	病態生化学 薬理学 4	(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【2 内分泌系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 性ホルモン関連薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学 4			
2) Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生化学 薬理学 4	薬物治療学 5		
3) 甲状腺炎 (慢性 (橋本病)、亜急性) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生化学 薬理学 4	薬物治療学 5		
4) 尿崩症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生化学 薬理学 4	薬物治療学 5		
5) 以下の疾患について概説できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲状腺機能亢進症、低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内頸症 (重複)、アジソン病 (重複)			病態生化学 薬理学 4	薬物治療学 5		
<b>【3 化学構造と薬物】</b>						
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬理学 4 医薬品化学 1	医薬品化学 2 薬物治療学 5 (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬</b>						
<b>【1 眼疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 緑内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学 1	薬物治療学 4			
2) 白内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 4			
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 4			
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎 (重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症			薬物治療学 4			
<b>【2 耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) めまい (動揺病、Meniere (メニエール) 病) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 4			
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎 (重複)、花粉症 (重複)、副鼻腔炎 (重複)、中耳炎 (重複)、口内炎・咽喉炎・扁桃腺炎 (重複)、喉頭蓋炎			薬物治療学 4			
<b>【3 皮膚疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (E2 (2) 【2 免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)		薬物治療学 2	薬物治療学 4			
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (E2 (7) 【5 真菌感染症の薬、病態、治療】参照)		薬物治療学 2	薬物治療学 4			
3) 梅毒について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 2	薬物治療学 4			
4) 以下の疾患について概説できる。 毒疹 (重複)、薬疹 (重複)、水疱症 (重複)、乾癬 (重複)、接触性皮膚炎 (重複)、光線過敏症 (重複)		薬物治療学 2	薬物治療学 4	個別化医療		
<b>【4 化学構造と薬物】</b>						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬理学 1 生物薬剤学 1	薬物治療学 4 医薬品化学 1	薬物治療学 5		
<b>(7) 病原微生物 (感染症) ・悪性新生物 (がん) と薬</b>						
<b>【1 抗菌薬】</b>						

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	教 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤 (ST合剤を含む)、その他の抗菌薬			薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
2) 細菌感染症に関与する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。			薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
<b>【2 抗菌薬の耐性】</b>						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			薬物治療学 4 薬理学 4	臨床薬物動態学 (選) 臨床感染症学		
<b>【3 細菌感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (かぜ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		薬物治療学 1	薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		薬物治療学 2	薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎		薬物治療学 1	薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学		
4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		薬物治療学 1	薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学		
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等		薬物治療学 1	薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学 (選) アドバンスト薬物治療学 1		
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 3 薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学		
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病		薬物治療学 2	薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学		
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等		薬物治療学 1	薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症		薬物治療学 1	薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学		
<b>【4 ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】</b>						
1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学 (選) アドバンスト薬物治療学 1		
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 2	薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
4) ウイルス性肝炎 (HAV、HBV、HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (重複)		薬物治療学 2	薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 4 薬理学 4 免疫学 4	(選) 臨床感染症学 (選) アドバンスト薬物治療学 1		
6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性脳症 (リオン病)、手足口病、伝染性単核球症、免疫性神経、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風疹症候群、Creutzfeldt-Jakob (クワイツフェルト・ヤコブ) 病		薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学		
<b>【5 真菌感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療学 1	薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症		薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
<b>【6 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		薬物治療学 2	薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 臨床感染症学		
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、蛔虫症、アニサキス症		薬物治療学 2	薬物治療学 4	(選) 臨床感染症学		
<b>【7 悪性腫瘍】</b>						
1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。			薬物治療学 4 薬理学 4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学 1		

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	教 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー、腫瘍関連の免疫遺伝子、遺伝子産物を含む）、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			薬物治療学4 薬理学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			薬物治療学4 薬理学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
<b>【8 悪性腫瘍の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			薬物治療学4 薬理学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			薬物治療学4 薬理学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。			薬物治療学4 薬理学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
4) 代表的ながん化学療法レジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。			薬物治療学4 薬理学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）	薬物治療学2		薬物治療学4 薬理学4 病態生化学	(選) アドバンスト薬物治療学1		
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬物治療学2		薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学1		
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学1		
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、肺癌	薬物治療学2		薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学1		
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学4 薬理学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭・咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学1		
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌	薬物治療学1		薬物治療学4 薬理学4	薬物治療学5 (選) アドバンスト薬物治療学1		
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学1		
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学4 薬理学4	薬物治療学5 (選) アドバンスト薬物治療学1		
<b>【9 がん終末期医療と緩和ケア】</b>						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。			薬物治療学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学4	(選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学1		
<b>【10 化学構造と薬物】</b>						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。	薬物治療学1		薬物治療学4 薬理学4	医薬品化学2 (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【8】バイオ・細胞医薬品とゲノム情報</b>						
<b>【1 組換え体医薬品】</b>						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			薬物治療学4	(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			薬物治療学4	(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			薬物治療学4	(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【2 遺伝子治療】</b>						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			ゲノム医科学	(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【3 細胞、組織を利用した移植医療】</b>						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			ゲノム医科学	薬物治療学5 (選) 病態・薬物治療学演習		
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療学5 (選) 病態・薬物治療学演習		
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療学5 (選) 病態・薬物治療学演習		
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。				薬物治療学5 (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【9】薬指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション</b>						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学1		
2) 薬指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学1		
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはならない疾患を列挙できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学1		
4) 薬指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）				臨床導入学習1 コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学1		

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	教 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 以下の疾患・症状に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				コミュニティファーマシー (選) アドバント薬物治療学 1		
6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバント薬物治療学 1		
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバント薬物治療学 1		
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				臨床導入学習 1 コミュニティファーマシー (選) アドバント薬物治療学 1		
<b>【10】医療中の漢方薬</b>						
<b>【1漢方薬の基礎】</b>						
1) 漢方の特徴について概説できる。			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
<b>【2漢方薬の応用】</b>						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
2) 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。		漢方・生薬実習	基礎漢方薬学 薬物治療学 3			(選) 漢方医学概論
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。			基礎漢方薬学 薬物治療学 3			(選) 漢方医学概論
<b>【3漢方薬の注意点】</b>						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			基礎漢方薬学 薬物治療学 3			(選) 漢方医学概論
<b>【11】薬物治療の最適化</b>						
<b>【1総合演習】</b>						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)			薬物治療学 3	(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応 (解毒薬を含む) を討議する。(知識・態度)			薬物治療学 3	(選) 病態・薬物治療学演習 個別化医療		
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)		薬物治療学 2		(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>E3 薬物治療に役立つ情報</b>						
<b>【1】医薬品情報</b>						
<b>【1情報】</b>						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。			医薬品情報学			
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。			医薬品情報学			
3) 医薬品 (後発医薬品等を含む) の開発過程で行われる試験 (非臨床試験、臨床試験、安定性試験等) と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報学			
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報学			
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度 (「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GDP、GIP、GSP、RMP など) とレギュトリーサイエンスについて概説できる。			医薬品情報学			
<b>【2情報源】</b>						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医薬品情報学			
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それぞれの特徴について説明できる。			医薬品情報学			
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。			医薬品情報学			
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけについて説明できる。			医薬品情報学			
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の記載項目 (警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など) を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医薬品情報学	個別化医療		
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医薬品情報学			
<b>【3収集・評価・加工・提供・管理】</b>						
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への授与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)				医薬品情報演習 個別化医療 (選) 病態・薬物治療学演習		
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)				医薬品情報演習 (選) 病態・薬物治療学演習		
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				医薬品情報演習 (選) 病態・薬物治療学演習		
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)				医薬品情報演習 (選) 病態・薬物治療学演習		
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法及び注意点 (知的所有権、守秘義務など) について説明できる。				医薬品情報演習 (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【4EBM (Evidence-based Medicine)】</b>						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 代表的な臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など) の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。				(選) 病態・薬物治療学演習 個別化医療		
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性 (研究結果の正確度や再現性) と外的妥当性 (研究結果の一般化の可能性) について概説できる。 (E3 (1) 【3収集・評価・加工・提供・管理】参照)						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						
<b>【5生物統計】</b>						
1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。			医療統計学	個別化医療		
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。		数理統計学	医療統計学	個別化医療		

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、χ <sup>2</sup> 分布、F分布) について概説できる。		数理統計学	医療統計学	個別化医療		
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。			医療統計学	個別化医療		
5) 二群間の差の検定 (t検定、χ <sup>2</sup> 検定など) を実施できる。(技能)			医療統計学	個別化医療		
6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。			医療統計学	個別化医療		
7) 基本的な生存時間解析法 (カプラン・マイヤー曲線など) について概説できる。			医療統計学	個別化医療		
<b>【6臨床研究デザインと解析】</b>						
1) 臨床研究 (治験を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それぞれの特徴を概説できる。				(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。				(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 観察研究での主要疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など) について概説できる。						
4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。						
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。						
6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。				(選) 病態・薬物治療学演習		
7) 統計解析時の注意点について概説できる。				(選) 病態・薬物治療学演習		
8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。				(選) 病態・薬物治療学演習		
9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。(知識・技能)				(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【7医薬品の比較・評価】</b>						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医薬品情報演習 個別化医療		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)				医薬品情報演習 個別化医療		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)				医薬品情報演習		
<b>(2) 患者情報</b>						
<b>【1情報と情報源】</b>						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報学			
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医薬品情報学			
<b>【2収集・評価・管理】</b>						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。			医薬品情報学			
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			医薬品情報学			
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			医薬品情報学			
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A (2) 【3患者の権利】参照)			医薬品情報学	(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>(3) 個別化医療</b>						
<b>【1遺伝的変異】</b>						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的変異について、例を挙げて説明できる。				(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的変異 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学 2	(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
3) 遺伝的変異を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				個別化医療		
<b>【2年齢的要因】</b>						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学 2	(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学 2	(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
<b>【3臓器機能低下】</b>						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。		薬物治療学 1	生物薬剤学 2 薬物動態解析学	臨床薬物動態学 (選) 医薬品安全性学 個別化医療		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物動態解析学	臨床薬物動態学 (選) 医薬品安全性学 個別化医療		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学 個別化医療		
<b>【4その他の要因】</b>						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。				臨床薬物動態学 個別化医療		
2) 妊婦・授乳期における薬物動態と、生後・妊婦・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学 2	個別化医療		
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				個別化医療		
<b>【5個別化医療の計画・立案】</b>						
1) 個別の患者情報 (遺伝的変異、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)				統合薬学演習 個別化医療 (選) 病態・薬物治療学演習 (選) アドバンスト薬物治療学 1	統合薬学演習	統合薬学演習
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				個別化医療		
<b>E4 薬の生体内運命</b>						
<b>(1) 薬物の体内動態</b>						

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	教 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【1 生体膜透過】</b>						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		生物薬剤学1 物理化学3		(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。		生物薬剤学1 物理化学3	生物薬剤学2	(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【2 吸収】</b>						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		生物薬剤学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。		生物薬剤学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理学的要因など)を列挙し、説明できる。		生物薬剤学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		生物薬剤学1		個別化医療 (選) 病態・薬物治療学演習		
5) 初回通過効果について説明できる。		生物薬剤学1	生物薬剤学2	(選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【3 分布】</b>						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		生物薬剤学1	薬剤学実習	(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。		生物薬剤学1	薬剤学実習	(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。		生物薬剤学1	薬剤学実習	(選) 病態・薬物治療学演習		
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。		生物薬剤学1		(選) 病態・薬物治療学演習		
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。		生物薬剤学1				
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		生物薬剤学1	薬剤学実習	個別化医療 (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【4 代謝】</b>						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			生物薬剤学2	(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 薬物代謝の第I相反応(酸化・還元・加水分解)、第II相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学2	(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。			生物薬剤学2	臨床薬物動態学 (選) 病態・薬物治療学演習		
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			製剤学 生物薬剤学2	(選) 病態・薬物治療学演習		
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学2	個別化医療 (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>【5 排泄】</b>						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			生物薬剤学2 薬剤学実習	(選) 病態・薬物治療学演習		
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			生物薬剤学2	(選) 病態・薬物治療学演習		
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			生物薬剤学2	臨床薬物動態学 (選) 病態・薬物治療学演習		
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			生物薬剤学2	(選) 病態・薬物治療学演習		
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学2 薬剤学実習	個別化医療 (選) 病態・薬物治療学演習		
<b>(2) 薬物動態の解析</b>						
<b>【1 薬物動態論】</b>						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。			薬物動態解析学			
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)			薬剤学実習 薬物動態解析学			
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)			薬物動態解析学 薬剤学実習			
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態解析学			
5) 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態解析学	臨床薬物動態学		
6) 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD解析)について概説できる。				臨床薬物動態学		
<b>【2 TDM (Therapeutic Drug Monitoring)と投与設計】</b>						
1) 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				臨床薬物動態学 個別化医療		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。				臨床薬物動態学 個別化医療		
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			薬剤学実習	臨床薬物動態学		
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			薬剤学実習	臨床薬物動態学		
<b>E5 製剤化のサイエンス</b>						
<b>(1) 製剤の性質</b>						
<b>【1 固形材料】</b>						
1) 粉体の性質について説明できる。			物理薬剤学 製剤学 薬剤学実習			
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		物理化学3	物理薬剤学 製剤学 薬剤学実習			
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2(2)【1酸・塩基平衡】1.及び【2各種の化学平衡】2.参照)		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。		物理・放射化学実習	物理薬剤学			
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤学			
<b>【2 半固形・液状材料】</b>						
1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOe)	履 修 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			
<b>【3分散系材料】</b>						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2〔2〕【2各種の化学平衡】4.参照)		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。			物理薬剤学			
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。			物理薬剤学			
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学 製剤学			
<b>【4薬物及び製剤材料の物性】</b>						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			物理薬剤学 製剤学			
2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (G1〔3〕【1反応速度】1.~7.参照)			物理薬剤学			
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学 製剤学			
<b>(2) 製剤設計</b>						
<b>【1代表的な製剤】</b>						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学	薬局方総論		
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学 薬剤学実習	薬局方総論		
3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。			製剤学	薬局方総論		
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	薬局方総論		
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	薬局方総論		
6) その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤学	薬局方総論		
<b>【2製剤化と製剤試験法】</b>						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学	薬局方総論		
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤学 薬剤学実習			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学	薬局方総論		
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤学 薬剤学実習	薬局方総論		
<b>【3生物学的同等性】</b>						
1) 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤学 薬剤学実習			
<b>(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)</b>						
<b>【1DDS の必要性】</b>						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤学			
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【4代謝】4.も参照)			製剤学			
<b>【2コントロールドリリース(放出制御)】</b>						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。			製剤学			
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			
3) コントロールドリリース技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
<b>【3ターゲティング(細的指向化)】</b>						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤学			
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			
3) ターゲティング技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
<b>【4吸収改善】</b>						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤学			
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			
3) 吸収改善技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
<b>F 薬学臨床</b>						
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
<b>(1) 薬学臨床の基礎</b>						
<b>【1早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項</b>						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期臨床学習 1					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	早期臨床学習 1					
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	早期臨床学習 2					
<b>【2臨床における心構え】【A(1)、(2)参照】</b>						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)				臨床導入学習 1		
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				臨床導入学習 1		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				臨床導入学習 1		
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	職 業 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【3臨床実習の基礎】</b>						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				臨床導入学習 1		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	薬学入門			臨床導入学習 1		
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				臨床導入学習 1		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2 コミュニティファーマシー		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 【B(3)1参照】				コミュニティファーマシー		
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					病院実務実習	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)					病院実務実習	
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
10) 産産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。				(選) 病態・薬物治療学演習	病院実務実習	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。				(選) 病態・薬物治療学演習	病院実務実習	
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					薬局実務実習	
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					薬局実務実習	
15) 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)					薬局実務実習	
<b>(2) 処方せんに基づく調剤</b>						
<b>【1法令・規則等の理解と遵守】【B(2)、(3)参照】</b>						
1) 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義と取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。 (知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					薬局実務実習	
<b>【2処方せんと疑義照会】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	早期体験学習 2			臨床導入学習 2 (選) アドバンスト薬物治療学 1		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				臨床導入学習 1 (選) アドバンスト薬物治療学 1		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				臨床導入学習 1 (選) アドバンスト薬物治療学 1		
5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				臨床導入学習 1 (選) アドバンスト薬物治療学 1		
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2 (選) アドバンスト薬物治療学 1		
7) 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。 (知識・技能)				個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
8) 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)				個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学 1	病院実務実習	
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)				個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方箋が妥当であるか判断できる。(知識・技能)	早期体験学習 2			(選) アドバンスト薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【3処方せんに基づく医薬品の調剤】</b>						
1) 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)	早期体験学習 2			臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
2) 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	早期体験学習 2			臨床導入学習 1		
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				臨床導入学習 1		
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。 (技能)				臨床導入学習 1		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)				臨床導入学習 1		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)	早期体験学習 2				病院実務実習 薬局実務実習	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手法を実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【4患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】</b>						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)					臨床導入学習 1 臨床導入学習 2	
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。					臨床導入学習 2	
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					臨床導入学習 1	
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)					臨床導入学習 1	
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。					臨床導入学習 2	
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)					臨床導入学習 1 臨床導入学習 2	
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。					臨床導入学習 1 臨床導入学習 2	
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)					臨床導入学習 1	
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)						病院実務実習 薬局実務実習
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						病院実務実習 薬局実務実習
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)						病院実務実習 薬局実務実習
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)						病院実務実習 薬局実務実習
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)						病院実務実習 薬局実務実習
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)						病院実務実習 薬局実務実習
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)						病院実務実習 薬局実務実習
<b>【5医薬品の供給と管理】</b>						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。					医療薬剤学	
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。					医療薬剤学	
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管方法を説明できる。		物理・放射化学実習	(選) 応用放射化学		医療薬剤学	
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。					医療薬剤学	
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)						病院実務実習 薬局実務実習
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)						病院実務実習 薬局実務実習
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						病院実務実習 薬局実務実習
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)						病院実務実習 薬局実務実習
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)						病院実務実習
<b>【6安全管理】</b>						
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
3) 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)					臨床導入学習 1 臨床導入学習 2	
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。					医療薬剤学 臨床導入学習 1	
8) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)						病院実務実習 薬局実務実習
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。						病院実務実習 薬局実務実習
10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)						病院実務実習 薬局実務実習
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)						病院実務実習 薬局実務実習
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)						病院実務実習 薬局実務実習

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	職 業 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)					病院実務実習	
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)					病院実務実習	
<b>【3】薬物療法の実践</b>						
<b>【1患者情報の把握】</b>						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	早期体験学習 2			臨床導入学習 2		
2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) (E3(2)1参照)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	早期体験学習 2			臨床導入学習 2		
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)	早期体験学習 2			臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)	早期体験学習 2				病院実務実習 薬局実務実習	
6) 患者・薬局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)	早期体験学習 2			(選) アドバンスト薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【2医薬品情報の収集と活用】【E3(1)参照】</b>						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)					病院実務実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【3処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				個別化医療 臨床導入学習 2		
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				個別化医療 臨床導入学習 2		
3) 前) 患者のアドヒランスの評価方法、アドヒランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				臨床導入学習 2		
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				(選) 臨床栄養学 臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				(選) 臨床栄養学 臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方立案ができる。(知識・態度)				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)					病院実務実習	
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)					病院実務実習	
12) アドヒランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 処方立案に際し、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
14) 処方立案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【4処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	早期体験学習 2			個別化医療 臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)	早期体験学習 2			個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学 1	病院実務実習	
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。(知識・態度)	早期体験学習 2			個別化医療	病院実務実習	
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)	早期体験学習 2			個別化医療	病院実務実習	
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				(選) アドバンスト薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	早期体験学習 2			個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	早期体験学習 2			個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
11) 報告に必要な要素(SWTH)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					病院実務実習	
<b>【4チーム医療への参画【A(4)参照】</b>						
<b>【1医療機関におけるチーム医療】</b>						

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOe)	教 育 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				(選) 臨床感染症学 (選) 臨床栄養学 臨床導入学習1 コミュニティファーマシー1		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				(選) 臨床感染症学 (選) 臨床栄養学 臨床導入学習1 コミュニティファーマシー1		
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニックバス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
4) 薬物療法上の問題を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)					病院実務実習	
5) 医師・看護師等の職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)					病院実務実習	
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)					病院実務実習	
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最適な治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)					病院実務実習	
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)					病院実務実習	
9) 病院内の多様な医療チーム(ICU、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)				(選) 臨床感染症学 (選) 臨床栄養学	病院実務実習	
<b>【2地域におけるチーム医療】</b>						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【5地域保健・医療・福祉への参画【B(4)参画】</b>						
<b>【1在宅(訪問)医療・介護への参画】</b>						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
<b>【2地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】</b>						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)				コミュニティファーマシー	薬局実務実習	
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)				コミュニティファーマシー	病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【3プライマリケア、セルフメディケーションの実践【E2(9)参画】</b>						
1) 前) 現在の医療システム中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学1		
2) 前) 代表的な症状(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)	早期体験学習2			コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学1		
3) 前) 代表的な症状に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学1		
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学1		
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1	薬局実務実習	
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)	早期体験学習2			コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学1	薬局実務実習	
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)	早期体験学習2			コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学1	薬局実務実習	
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学1	薬局実務実習	
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1	薬局実務実習	
<b>【4災害時医療と薬剤師】</b>						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				コミュニティファーマシー		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>6 薬学研究</b>						
<b>(1) 薬学における研究の位置づけ</b>						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。						特別演習・実習 医薬品情報評価学 アドバンスト薬物治療学3

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習 アドバンスト薬物治療学3
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習 アドバンスト薬物治療学3
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習 アドバンスト薬物治療学3
<b>(2) 研究に必要な法規制と倫理</b>						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。			医療と法	生命医療倫理 特別演習・実習	特別演習・実習	医療倫理論 特別演習・実習 医薬品情報科学 アドバンスト薬物治療学3
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。			医療と法	生命医療倫理 特別演習・実習	特別演習・実習	医療倫理論 特別演習・実習 医薬品情報科学 アドバンスト薬物治療学3
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規制を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-4-3再掲			医療と法	生命医療倫理 特別演習・実習	特別演習・実習	医療倫理論 特別演習・実習 アドバンスト薬物治療学3
<b>(3) 研究の実施</b>						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習 アドバンスト薬物治療学3
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習

(基礎資料2)平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

令和3年度以降入学生適用

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>A 基本事項</b>						
<b>(1) 薬剤師の使命</b>						
<b>【1 医療人として】</b>						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理	コミュニケーション		
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理	コミュニケーション		
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理	コミュニケーション		
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理	コミュニケーション		
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理	コミュニケーション		
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理	コミュニケーション		
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理	コミュニケーション		
<b>【2 薬剤師が果たすべき役割】</b>						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理			
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習			キャリアデザイン概論		
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	個別化医療		
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	臨床薬物動態学		
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 早期体験学習			キャリアデザイン概論		
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 早期体験学習			コミュニティファーマシー キャリアデザイン概論		
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。				コミュニティファーマシー 個別化医療		
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理			
<b>【3 患者安全と薬害の防止】</b>						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	医療人マインド 薬学入門		生命医療倫理			
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	医療人マインド 薬学入門		生命医療倫理	コミュニティファーマシー		
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	医療人マインド 薬学入門			コミュニティファーマシー 個別化医療		
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。			生命医療倫理	コミュニティファーマシー		
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			生命医療倫理	個別化医療		
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。			生命医療倫理	医薬品化学2 (選)医薬品安全性学 個別化医療		
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			生命医療倫理			
<b>【4 薬学の歴史と未来】</b>						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学入門					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学入門					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学入門			キャリアデザイン概論		
<b>(2) 薬剤師に求められる倫理観</b>						
<b>【1 生命倫理】</b>						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理			
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理			
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門		生命医療倫理			
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	薬学入門		生命医療倫理			
<b>【2 医療倫理】</b>						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	薬学入門		生命医療倫理			
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	薬事関連法・制度		
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【3 患者の権利】</b>						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学入門		生命医療倫理	コミュニケーション		
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	薬事関連法・制度		
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理	薬事関連法・制度		
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	薬学入門		生命医療倫理	薬事関連法・制度 臨床導入学習1		
<b>【4 研究倫理】</b>						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理			
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学入門					
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規制を遵守して研究に取り組む。(態度)	薬学入門					
<b>(3) 信頼関係の構築</b>						
<b>【1 コミュニケーション】</b>						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。		医療心理学		コミュニティアーマシー コミュニケーション (選)アドバンスト薬物治療学		
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。				コミュニティアーマシー コミュニケーション (選)アドバンスト薬物治療学		
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。				コミュニティアーマシー コミュニケーション (選)アドバンスト薬物治療学		
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。		医療心理学		コミュニティアーマシー コミュニケーション (選)アドバンスト薬物治療学		
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)	医療人マインド	医療心理学		(選)アドバンスト薬物治療学 コミュニケーション		
6) 自分の心理状態を認識して、他者と接することができる。(態度)	医療人マインド	医療心理学		(選)アドバンスト薬物治療学 コミュニケーション		
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	医療人マインド	医療心理学		(選)アドバンスト薬物治療学 コミュニケーション 臨床導入学習1		
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	医療人マインド			(選)アドバンスト薬物治療学 コミュニケーション 臨床導入学習1		
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)				コミュニケーション (選)アドバンスト薬物治療学 臨床導入学習1		
<b>【2 患者・生活者と薬剤師】</b>						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	薬学入門	医療心理学	生命医療倫理	コミュニケーション		
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)	薬学入門	医療心理学	生命医療倫理	コミュニケーション		
<b>(4) 多職種連携協働とチーム医療</b>						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	医療人マインド 薬学入門 早期体験学習			コミュニティアーマシー コミュニケーション キャリアデザイン概論		
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	医療人マインド 薬学入門			コミュニティアーマシー コミュニケーション キャリアデザイン概論		
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	医療人マインド 薬学入門			コミュニティアーマシー コミュニケーション		
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	医療人マインド 薬学入門			コミュニケーション		
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	医療人マインド 薬学入門			コミュニケーション		
<b>(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成</b>						
<b>【1 学習の在り方】</b>						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学入門		生命医療倫理	(選)アドバンスト薬物治療学		
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)				(選)アドバンスト薬物治療学 特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)				(選)アドバンスト薬物治療学 特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)				(選)アドバンスト薬物治療学 特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	情報科学演習			(選)アドバンスト薬物治療学		
<b>【2 薬学教育の概要】</b>						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理			
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【3 生涯学習】</b>						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学入門		生命医療倫理			
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)			生命医療倫理	キャリアデザイン概論		
<b>【4 次世代を担う人材の育成】</b>						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)				臨床導入学習 1	病院実務実習 薬局実務実習	
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
<b>B 薬学と社会</b>						
<b>(1) 人と社会に関わる薬剤師</b>						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	薬学入門	医療心理学				
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	薬学入門	医療心理学				
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)	薬学入門					
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)	薬学入門		生命医療倫理			
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	薬学入門		生命医療倫理			
<b>(2) 薬剤師と医薬品に係る法規範</b>						
<b>【1 薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</b>						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
4) 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
7) 個人情報取扱いについて概説できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。			医療と法	薬事関連法・制度		
<b>【2 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</b>						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品)の定義について説明できる。				薬事関連法・制度		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。			医薬品化学 1	薬事関連法・制度		
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。			医薬品化学 1	薬事関連法・制度		
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。				薬事関連法・制度		
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			医薬品化学 1	薬事関連法・制度		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。				薬事関連法・制度		
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。				薬事関連法・制度		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。			製剤設計学	薬事関連法・制度		
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。				薬事関連法・制度		
10) 健康被害救済制度について説明できる。				薬事関連法・制度		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。				薬事関連法・制度		
<b>【3 特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</b>						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関連法・制度		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。				薬事関連法・制度 医薬品化学 2		
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。				薬事関連法・制度		
<b>(3) 社会保障制度と医療経済</b>						
<b>【1 医療、福祉、介護の制度】</b>						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	薬学入門		医療と法	社会保障論 コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
2) 医療保険制度について説明できる。	薬学入門		医療と法	社会保障論 コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
3) 療養担当規則について説明できる。	薬学入門			社会保障論 コミュニティファーマシー		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 公費負担医療制度について概説できる。	薬学入門			社会保障論 コミュニティファーマシー		
5) 介護保険制度について概説できる。	薬学入門			社会保障論 コミュニティファーマシー		
6) 薬価基準制度について概説できる。	薬学入門			社会保障論 コミュニティファーマシー 薬事関連法・制度		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	薬学入門			社会保障論 コミュニティファーマシー		
<b>【2 医薬品と医療の経済性】</b>						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	薬学入門			社会保障論 薬事関連法・制度 コミュニティファーマシー		
2) 国民医療費の動向について概説できる。	薬学入門			社会保障論 コミュニティファーマシー		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。	薬学入門		製剤設計学	社会保障論 コミュニティファーマシー		
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。	薬学入門			社会保障論 薬事関連法・制度		
<b>(4) 地域における薬局と薬剤師</b>						
<b>【1 地域における薬局の役割】</b>						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。	薬学入門			社会保障論 コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	薬学入門			社会保障論 コミュニティファーマシー (選) 医療政策論		
<b>【2 地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</b>						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。	薬学入門			コミュニティファーマシー		
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)	薬学入門			コミュニティファーマシー		
<b>C 薬学基礎</b>						
<b>G1 物質の物理的性質</b>						
<b>(1) 物質の構造</b>						
<b>【1 化学結合】</b>						
1) 化学結合の様式について説明できる。	基礎有機化学	物理化学3	(選) 精密有機合成化学			
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。		物理化学3	(選) 精密有機合成化学			
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	基礎有機化学	有機化学3 物理化学3				
<b>【2 分子間相互作用】</b>						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	基礎有機化学	物理化学3				
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎有機化学	物理化学3	物理薬剤学			
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎有機化学	物理化学3				
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	基礎有機化学	物理化学3				
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	生化学1	物理化学3				
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。		物理化学3				
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎有機化学 生化学1	物理化学3				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【3 原子・分子の挙動】</b>						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		分析化学 2	放射化学 衛生薬学・放射化学実習			
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		分析化学 2	放射化学			
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。		有機スペクトル学演習				
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	有機化学 1					
5) 光の散乱および干渉について説明できる。		物理化学 2 分析化学 2				
6) 結晶構造と回折現象について解説できる。		物理化学 2	薬剤学実習 物理薬剤学 製剤設計学			
<b>【4 放射線と放射能】</b>						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。			放射化学 衛生薬学・放射化学実習			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。			放射化学 衛生薬学・放射化学実習			
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。			放射化学 衛生薬学・放射化学実習			
4) 核反応および放射平衡について説明できる。			放射化学 衛生薬学・放射化学実習			
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。			放射化学 衛生薬学・放射化学実習			
<b>(2) 物質のエネルギーと平衡</b>						
<b>【1 気体の微視的状態と巨視的状態】</b>						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 1					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理化学 1					
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学 1					
<b>【2 エネルギー】</b>						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学 1					
2) 熱力学第一法則を説明できる。	物理化学 1					
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	物理化学 1					
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	物理化学 1					
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理化学 1					
6) エンタルピーについて説明できる。	物理化学 1		物理薬剤学			
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	物理化学 1					
<b>【3 自発的な変化】</b>						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 1		物理薬剤学			
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物理化学 1					
3) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学 1					
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	有機化学 1	生化学 2 物理化学 2	物理薬剤学			
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		物理化学 2 生化学 2				
<b>【4 化学平衡の原理】</b>						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学 2	物理薬剤学			
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。		物理化学 2 生化学 2				
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理化学 2				
4) 共役反応の原理について説明できる。		物理化学 2 生化学 2				
<b>【5 相平衡】</b>						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学 2				
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学 2				
3) 状態図について説明できる。		物理化学 2				
<b>【6 溶液の性質】</b>						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学 3 物理化学実習	物理薬剤学			
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理化学 2				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。			応用分析学			
4) イオン強度について説明できる。	分析化学 1					
<b>【7 電気化学】</b>						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		生化学 2				
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。		生化学 2	応用分析学			
<b>(9) 物質の変化</b>						
<b>【1 反応速度】</b>						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学 3 物理化学実習	物理薬剤学			
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学 3 物理化学実習				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学 3	物理薬剤学			
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学 3 物理化学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 代表的な複合反応 (可逆反応、平行反応、連続反応など) の特徴について説明できる。		物理化学 3				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。			物理薬理学			
7) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応、酵素反応など) について説明できる。		物理化学 3				
<b>G2 化学物質の分析</b>						
<b>(1) 分析の基礎</b>						
<b>【1 分析の基本】</b>						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	分析化学 1	分析化学実習	生物科学実習			
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	分析化学 1	分析化学 2 分析化学実習	生物科学実習			
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学 1	分析化学 2				
<b>(2) 溶液中の化学平衡</b>						
<b>【1 酸・塩基平衡】</b>						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	生化学 1 分析化学 1 基礎有機化学	物理化学実習	生物科学実習			
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	基礎有機化学 生化学 1 分析化学 1	物理化学実習 分析化学実習				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)		物理化学実習 分析化学実習				
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	生化学 1 分析化学 1	物理化学実習				
<b>【2 各種の化学平衡】</b>						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学 1					
2) 沈殿平衡について説明できる。	分析化学 1					
3) 酸化還元平衡について説明できる。	分析化学 1					
4) 分配平衡について説明できる。	分析化学 1	物理化学実習				
<b>(3) 化学物質の定性分析・定量分析</b>						
<b>【1 定性分析】</b>						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		生物無機化学				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。			応用分析学			
<b>【2 定量分析 (容量分析・重量分析)】</b>						
1) 中和滴定 (非水滴定を含む) の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 1		応用分析学			
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。			応用分析学			
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 1		応用分析学			
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 1		応用分析学			
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	分析化学 1	分析化学実習	応用分析学			
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。			応用分析学			
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学 1		製剤設計学			
<b>(4) 機器を用いる分析法</b>						
<b>【1 分光分析法】</b>						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 2 有機スペクトル学演習	生物科学実習 (選) 臨床化学			
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 2	(選) 臨床化学			
3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		有機スペクトル学演習				
4) 原子吸光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 2	(選) 臨床化学			
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		有機スペクトル学演習				
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		分析化学実習				
<b>【2 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】</b>						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		有機スペクトル学演習				
<b>【3 質量分析法】</b>						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		有機スペクトル学演習	(選) 臨床化学			
<b>【4 X線分析法】</b>						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		物理化学 2	薬理学実習 物理薬理学 製剤設計学			
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		物理化学 2	薬理学実習 物理薬理学 製剤設計学			
<b>【5 熱分析】</b>						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		物理化学 2	物理薬理学 製剤設計学			
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		物理化学 2	物理薬理学 製剤設計学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(5) 分離分析法</b>						
<b>【1クロマトグラフィー】</b>						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	基礎有機化学実習 生化学 1	分析化学 2	生物科学実習			
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	基礎有機化学実習	分析化学 2	有機化学実習			
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学 2				
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学 2				
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	基礎有機化学実習	分析化学 2 分析化学実習	生物科学実習			
<b>【2電気泳動法】</b>						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	生化学 1	分析化学 2	生物科学実習 (選) 臨床化学			
<b>(6) 臨床現場で用いる分析技術</b>						
<b>【1分析の準備】</b>						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		分析化学 2	(選) 臨床化学			
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			応用分析学 (選) 臨床化学			
<b>【2分析技術】</b>						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			応用分析学 (選) 臨床化学			
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。			応用分析学 (選) 臨床化学			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			応用分析学 生物科学実習 (選) 臨床化学			
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			応用分析学 (選) 臨床化学			
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。	医療薬学導入実習	薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 (選) 臨床化学			
<b>03 化学物質の性質と反応</b>						
<b>(1) 化学物質の基本的性質</b>						
<b>【1基本事項】</b>						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎有機化学	有機化学 3	有機化学 4			
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎有機化学	有機化学 3	有機化学 4			
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	基礎有機化学					
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	基礎有機化学	有機化学 3	(選) 精密有機合成化学			
5) ルイス酸・塩基、プレンステッド酸・塩基を定義することができる。	基礎有機化学					
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機化学 1 基礎有機化学実習	有機化学 2				
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機化学 1	有機化学 2				
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学 1					
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	基礎有機化学 有機化学 1 基礎有機化学実習	有機化学 2 有機化学 3	有機化学実習 有機化学 4			
<b>【2有機化合物の立体構造】</b>						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学 1					
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機化学 1 生化学 1					
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学 1 生化学 1					
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学 1					
5) 絶対配置の表示法を説明し、キララ化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	有機化学 1					
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	基礎有機化学 有機化学 1		有機化学実習			
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化学 1					
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機化学 1					
<b>(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応</b>						
<b>【1アルカン】</b>						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学 1					
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	基礎有機化学 有機化学 1					
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機化学 1					
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	有機化学 1					
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学 1					
<b>【2アルケン・アルキン】</b>						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 2				
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 2				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学2				
<b>【3芳香族化合物】</b>						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学3				
2) 芳香族性の概念を説明できる。		有機化学3				
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学3				
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学3				
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学3				
<b>(3) 官能基の性質と反応</b>						
<b>【1概説】</b>						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。		有機化学2 有機化学3	有機化学4			
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	基礎有機化学実習		有機化学実習			
<b>【2有機ハロゲン化合物】</b>						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学1					
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	有機化学1					
3) 脱離反応の特徴について説明できる。	有機化学1					
<b>【3アルコール・フェノール・エーテル】</b>						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学2	有機化学4			
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学2				
<b>【4アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】</b>						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学2 有機化学3	有機化学4 有機化学実習 (選) 精密有機合成化学			
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学4 有機化学実習			
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学実習		有機化学実習 有機化学4			
<b>【5アミン】</b>						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学4			
<b>【6電子効果】</b>						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機化学1	有機化学3	有機化学4 (選) 精密有機合成化学			
<b>【7酸性度・塩基性度】</b>						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	基礎有機化学		有機化学4			
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	基礎有機化学		有機化学4			
<b>(4) 化学物質の構造決定</b>						
<b>【1核磁気共鳴 (NMR)】</b>						
1) <sup>1</sup> H および <sup>13</sup> C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
2) 有機化合物中の代表的なプロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
3) <sup>1</sup> H NMR の積分値の意味を説明できる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
4) <sup>1</sup> H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
5) 代表的な化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。(技能)		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
<b>【2赤外線吸収 (IR)】</b>						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
<b>【3質量分析】</b>						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		有機スペクトル学演習				
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		有機スペクトル学演習				
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。		有機スペクトル学演習				
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		有機スペクトル学演習				
<b>【4総合演習】</b>						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		有機スペクトル学演習				
<b>(5) 無機化合物・錯体の構造と性質</b>						
<b>【1無機化合物・錯体】</b>						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。		生物無機化学				
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。		生物無機化学				
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。		生物無機化学				
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。		生物無機化学				
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。		生物無機化学				
<b>04 生体分子・医薬品の化学による理解</b>						
<b>(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質</b>						
<b>【1医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】</b>						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。			医薬品化学1 (選) 臨床化学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			医薬品化学 1			
<b>【2 生体内で機能する小分子】</b>						
1) 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		薬理学 1	医薬品化学 1			
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			医薬品化学 1			
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。			医薬品化学 1			
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			医薬品化学 1			
<b>(2) 生体反応の化学による理解</b>						
<b>【1 生体内で機能するリン、硫黄化合物】</b>						
1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。			医薬品化学 1			
2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			医薬品化学 1			
<b>【2 酵素阻害剤と作用様式】</b>						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生物学 生化学 1		医薬品化学 1			
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生物学 生化学 1		医薬品化学 1			
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			医薬品化学 1			
<b>【3 受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】</b>						
1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		薬理学 1	医薬品化学 1			
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。			医薬品化学 1			
<b>【4 生体内で起こる有機反応】</b>						
1) 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			医薬品化学 1			
2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。			医薬品化学 1			
<b>(3) 医薬品の化学構造と性質、作用</b>						
<b>【1 医薬品と生体分子の相互作用】</b>						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。			医薬品化学 1			
<b>【2 医薬品の化学構造に基づく性質】</b>						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。			医薬品化学 1			
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			製剤設計学 医薬品化学 1			
<b>【3 医薬品のコンポーネント】</b>						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			医薬品化学 1			
2) バイオイソスター (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。			医薬品化学 1			
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			医薬品化学 1			
<b>【4 酵素に作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 2		
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 2		
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 2		
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 2		
5) $\beta$ -ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 2		
6) ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 2		
<b>【5 受容体に作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		薬理学 1	医薬品化学 1			
2) アセチルコリンアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		薬理学 1	医薬品化学 1			
3) ステロイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 2		
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学 1			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学1			
<b>【6DNAに作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) DNAと結合する医薬品(アルキル化剤、シスプラチン類)を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				医薬品化学2		
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品化学2		
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品化学2		
<b>【7イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造(ジヒドロピリジンなど)の特徴を説明できる。		薬理学2	医薬品化学1	医薬品化学2		
<b>05 自然が生み出す薬物</b>						
<b>(1) 薬になる動植物</b>						
<b>【1薬用植物】</b>						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。	薬用植物学 薬用天然物化学	生薬学				
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	薬用植物学 薬用天然物化学	生薬学				
3) 植物の主な内部形態について説明できる。	薬用植物学					
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケン、アサ)の特徴を説明できる。	薬用植物学 薬用天然物化学					
<b>【2生薬の基原】</b>						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	薬用植物学 薬用天然物化学	漢方・生薬学実習 生薬学				
<b>【3生薬の用途】</b>						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	薬用植物学 薬用天然物化学	漢方・生薬学実習 生薬学				
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。	薬用天然物化学	生薬学	基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
<b>【4生薬の同定と品質評価】</b>						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学				
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		漢方・生薬学実習				
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		漢方・生薬学実習				
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。	薬用天然物化学	漢方・生薬学実習				
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		漢方・生薬学実習				
<b>(2) 薬の宝庫としての天然物</b>						
<b>【1生薬由来の生物活性物質の構造と作用】</b>						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。	薬用天然物化学					
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	薬用天然物化学					
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	薬用天然物化学					
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	薬用天然物化学					
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	薬用天然物化学					
<b>【2微生物由来の生物活性物質の構造と作用】</b>						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	薬用天然物化学					
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	薬用天然物化学					
<b>【3天然生物活性物質の取扱い】</b>						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	基礎有機化学実習	漢方・生薬学実習				
<b>【4天然生物活性物質の利用】</b>						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	薬用天然物化学					
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	薬用天然物化学					
3) 農薬や香料品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	薬用天然物化学					
<b>06 生命現象の基礎</b>						
<b>(1) 細胞の構造と機能</b>						
<b>【1細胞膜】</b>						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生物学					
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生物学					
<b>【2細胞小器官】</b>						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生物学					
<b>【3細胞骨格】</b>						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生物学					
<b>(2) 生命現象を担う分子</b>						
<b>【1脂質】</b>						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学1		(選) 臨床化学 医薬品化学1			
<b>【2糖質】</b>						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学1 薬用天然物化学		(選) 臨床化学 医薬品化学1			
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学1		医薬品化学1			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【3アミノ酸】</b>						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学 生化学 1		医薬品化学 1			
<b>【4タンパク質】</b>						
1) タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	生物学 生化学 1		生物科学実習 医薬品化学 1			
<b>【5ヌクレオチドと核酸】</b>						
1) ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学 2 分子生物学	生物科学実習 医薬品化学 1			
<b>【6ビタミン】</b>						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 1		医薬品化学 1			
<b>【7微量元素】</b>						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。			医薬品化学 1 臨床化学			
<b>【8生体分子の定性、定量】</b>						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。（技能）			生物科学実習			
<b>(3) 生命活動を担うタンパク質</b>						
<b>【1タンパク質の構造と機能】</b>						
1) 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	生物学 基礎細胞生物学 生化学 1		(選) 臨床化学			
<b>【2タンパク質の成熟と分解】</b>						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	分子生物学	分子細胞生物学			
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
<b>【3酵素】</b>						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生物学 生化学 1		生物科学実習			
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生物学 生化学 1		(選) 臨床化学			
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学 1					
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。（技能）			生物科学実習			
<b>【4酵素以外のタンパク質】</b>						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。			分子細胞生物学			
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生化学 2	(選) 臨床化学			
<b>(4) 生命情報を担う遺伝子</b>						
<b>【1概論】</b>						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学	分子細胞生物学			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
<b>【2遺伝情報を担う分子】</b>						
1) 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
2) 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
3) RNA の種類（hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など）と機能について説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
<b>【3遺伝子の複製】</b>						
1) DNA の複製の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
<b>【4転写・翻訳の過程と調節】</b>						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。		分子生物学				
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
4) RNA のプロセッシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など）について説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
<b>【5遺伝子の変異・修復】</b>						
1) DNA の変異と修復について説明できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
<b>【6組換え DNA】</b>						
1) 遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。		分子生物学				
2) 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。		分子生物学				
<b>(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系</b>						
<b>【1概論】</b>						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生物学	生化学 2				
<b>【2ATP の産生と輸送代謝】</b>						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生物学	生化学 2				
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。	生物学	生化学 2				
3) 電子伝達系（酸化的リン酸化）と ATP 合成酵素について説明できる。	生物学	生化学 2				
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。		生化学 2	分子細胞生物学 (選) 臨床化学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 糖新生について説明できる。		生化学 2	(選) 臨床化学			
<b>【3 脂質代謝】</b>						
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。	生物学 薬用天然物化学	生化学 2	(選) 臨床化学			
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生化学 2				
<b>【4 肌糖状態と飽食状態】</b>						
1) 肌糖状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。	生物学	生化学 2				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学 2				
<b>【5 その他の代謝系】</b>						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。	生物学	生化学 2				
2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生化学 2				
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生化学 2				
<b>(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達</b>						
<b>【1 概論】</b>						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	生物学		分子細胞生物学			
<b>【2 細胞内情報伝達】</b>						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学 1	薬理学 1	分子細胞生物学			
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学 1	薬理学 1	分子細胞生物学			
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学 1	薬理学 1	分子細胞生物学			
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	機能形態学 1	薬理学 1	分子細胞生物学			
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学 1	薬理学 1	分子細胞生物学			
<b>【3 細胞間コミュニケーション】</b>						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生物学		分子細胞生物学			
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生物学		分子細胞生物学			
<b>(7) 細胞の分裂と死</b>						
<b>【1 細胞分裂】</b>						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			
<b>【2 細胞死】</b>						
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			
<b>【3 がん細胞】</b>						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			
<b>67 人体の成り立ちと生体機能の調節</b>						
<b>(1) 人体の成り立ち</b>						
<b>【1 遺伝】</b>						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	基礎細胞生物学					
2) 遺伝子多型について概説できる。	基礎細胞生物学	分子生物学				
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		分子生物学				
<b>【2 発生】</b>						
1) 個体発生について概説できる。	基礎細胞生物学					
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			
<b>【3 器官系概論】</b>						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学 1	生物学実習 薬物治療学 2				
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学 1	生物学実習 薬物治療学 2				
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)		生物学実習				
4) 代表的な臓器の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)		生物学実習				
<b>【4 神経系】</b>						
1) 中枢神経系について概説できる。		機能形態学 2	薬理学 3	(選) 医薬品安全性学		
2) 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	機能形態学 1	薬理学 1		(選) 医薬品安全性学		
<b>【5 骨格系・筋肉系】</b>						
1) 骨、筋肉について概説できる。		薬物治療学 2 機能形態学 2		薬物治療学 5		
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		薬物治療学 2 機能形態学 2		薬物治療学 5		
<b>【6 皮膚】</b>						
1) 皮膚について概説できる。		機能形態学 2 薬物治療学 2				
<b>【7 循環器系】</b>						
1) 心臓について概説できる。		機能形態学 2 薬理学 2		(選) 医薬品安全性学		
2) 血管系について概説できる。		機能形態学 2 薬理学 1 薬理学 2		(選) 医薬品安全性学		
3) リンパ管系について概説できる。	機能形態学 1		免疫学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【8呼吸器系】</b>						
1) 肺、気管支について概説できる。		機能形態学 2		(選) 医薬品安全性学		
<b>【9消化器系】</b>						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学 1	薬物治療学 2		(選) 医薬品安全性学		
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学 1	薬物治療学 2		(選) 医薬品安全性学		
<b>【10泌尿器系】</b>						
1) 泌尿器系について概説できる。	機能形態学 1			(選) 医薬品安全性学		
<b>【11生殖系】</b>						
1) 生殖系について概説できる。				薬物治療学 5		
<b>【12内分泌系】</b>						
1) 内分泌系について概説できる。	機能形態学 1		分子細胞生物学			
<b>【13感覚器系】</b>						
1) 感覚器系について概説できる。		機能形態学 2		(選) 医薬品安全性学		
<b>【14血液・造血系】</b>						
1) 血液・造血系について概説できる。	機能形態学 1	薬物治療学 2	分子細胞生物学			
<b>(2) 生体機能の調節</b>						
<b>【1神経による調節機構】</b>						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学 1	薬理学 1	薬理学 3			
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 1	薬理学 1	分子細胞生物学 薬理学 3			
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学 1					
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学 1	薬理学 2				
<b>【2ホルモン・内分泌系による調節機構】</b>						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 1		分子細胞生物学 薬理学 4			
<b>【3オータコイドによる調節機構】</b>						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学 2	分子細胞生物学			
<b>【4サイトカイン・増殖因子による調節機構】</b>						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。			分子細胞生物学			
<b>【5血圧の調節機構】</b>						
1) 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態学 2 薬理学 2	分子細胞生物学			
<b>【6血糖の調節機構】</b>						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	機能形態学 1	生化学 2 薬理学 2	分子細胞生物学			
<b>【7体液の調節】</b>						
1) 体液の調節機構について概説できる。	機能形態学 1	薬理学 2	分子細胞生物学			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	機能形態学 1	薬理学 2				
<b>【8体温の調節】</b>						
1) 体温の調節機構について概説できる。		薬物治療学 2				
<b>【9血液凝固・線溶系】</b>						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	機能形態学 1	薬物治療学 2 薬理学 2		(選) アドバンスト薬 物治療学		
<b>【10性周期の調節】</b>						
1) 性周期の調節機構について概説できる。			薬理学 4			
<b>08 生体防御と微生物</b>						
<b>(1) 身体をまもる</b>						
<b>【1生体防御反応】</b>						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
2) 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
<b>【2免疫を担当する組織・細胞】</b>						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
<b>【3分子レベルで見た免疫のしくみ】</b>						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。	機能形態学 1		免疫学			
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性(遺伝子再構成)と活性化について説明できる。	機能形態学 1		免疫学			
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	生物学 機能形態学 1		免疫学			
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	生物学 機能形態学 1		分子細胞生物学 免疫学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系応用</b>						
<b>【1 免疫応答の制御と破綻】</b>						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	生物学		免疫学			
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	生物学		免疫学			
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。			免疫学			
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。			免疫学			
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学			
6) 腫瘍排除に関する免疫反応について説明できる。			免疫学			
<b>【2 免疫反応の利用】</b>						
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。			免疫学			
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。			免疫学			
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			免疫学			
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）		生物学実習				
<b>(3) 微生物の基本</b>						
<b>【1 細菌】</b>						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	生物学	微生物学		臨床感染症学		
<b>【2 細菌】</b>						
1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。		微生物学		臨床感染症学		
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		生物学実習 微生物学		臨床感染症学		
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。		微生物学		臨床感染症学		
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物学		臨床感染症学		
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
<b>【3 ウイルス】</b>						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学		臨床感染症学		
<b>【4 真菌・原虫・蠕虫】</b>						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学		臨床感染症学		
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学		臨床感染症学		
<b>【5 消毒と滅菌】</b>						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		生物学実習 微生物学		臨床感染症学		
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		生物学実習 微生物学		臨床感染症学		
<b>【6 検出方法】</b>						
1) グラム染色を実施できる。（技能）		生物学実習				
2) 無菌操作を実施できる。（技能）		生物学実習				
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）		生物学実習				
<b>(4) 病原体としての微生物</b>						
<b>【1 感染の成立と共生】</b>						
1) 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
<b>【2 代表的な病原体】</b>						
1) DNAウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど）について概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
2) RNAウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
3) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など）について概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
4) グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、肺炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
5) グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
6) 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
8) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
9) 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>D 衛生薬学</b>						
<b>D1 健康</b>						
<b>(1) 社会・集団と健康</b>						
<b>【1健康と疾病の概念】</b>						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			衛生薬学3			
<b>【2保健統計】</b>						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			衛生薬学3			
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			衛生薬学3			
3) 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。			衛生薬学3			
<b>【3疫学】</b>						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			衛生薬学3			
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。			衛生薬学3			
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。			衛生薬学3			
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）			衛生薬学3 衛生薬学・放射化学実習			
<b>(2) 疾病の予防</b>						
<b>【1疾病の予防とは】</b>						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			衛生薬学3			
2) 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。			衛生薬学3			
<b>【2感染症とその予防】</b>						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			病原微生物学	臨床感染症学		
3) 代表的な感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。			病原微生物学	臨床感染症学		
<b>【3生活習慣病とその予防】</b>						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			衛生薬学3			
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			衛生薬学3			
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）			衛生薬学・放射化学実習			
<b>【4母子保健】</b>						
1) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			衛生薬学3			
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			病原微生物学			
<b>【5労働衛生】</b>						
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。			衛生薬学3			
2) 労働衛生管理について説明できる。			衛生薬学3			
<b>(3) 栄養と健康</b>						
<b>【1栄養】</b>						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			衛生薬学3			
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	薬物治療学2		衛生薬学3			
3) 食品中の三大栄養素の栄養的価値を説明できる。			衛生薬学3			
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。			衛生薬学3			
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。			衛生薬学3			
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。			衛生薬学3			
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			衛生薬学3			
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			衛生薬学3			
<b>【2食品機能と食品衛生】</b>						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		衛生薬学1				
2) 油脂が変質する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）	衛生薬学1		衛生薬学・放射化学実習			
3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。	衛生薬学1					
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。	衛生薬学1					
5) 代表的な食品添加物を用意別に列挙し、それらの働きを説明できる。	衛生薬学1					
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			衛生薬学3			
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。	衛生薬学1					
<b>【3食中毒と食品汚染】</b>						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防法について説明できる。	薬物治療学2 微生物学		病原微生物学			
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	薬物治療学2 微生物学 衛生薬学1		病原微生物学			
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。	衛生薬学1					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>D2 環境</b>						
<b>(1) 化学物質・放射線の生体への影響</b>						
<b>【1 化学物質の毒性】</b>						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		衛生薬学 1				
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。		衛生薬学 1				
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		衛生薬学 1		(選) 医薬品安全性学		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		衛生薬学 1				
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)		衛生薬学 1	衛生薬学・放射化学実習	(選) 医薬品安全性学		
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		衛生薬学 1		(選) 医薬品安全性学		
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。		衛生薬学 1		(選) 医薬品安全性学		
<b>【2 化学物質の安全性評価と適正使用】</b>						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			衛生薬学・放射化学実習			
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			衛生薬学 2	(選) 医薬品安全性学		
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。			衛生薬学 2			
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。			衛生薬学 2			
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。			衛生薬学 2			
<b>【3 化学物質による発がん】</b>						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		衛生薬学 1				
2) 遺伝毒性試験(Amos試験など)の原理を説明できる。		衛生薬学 1		(選) 医薬品安全性学		
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。		衛生薬学 1		(選) 医薬品安全性学		
<b>【4 放射線の生体への影響】</b>						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。		衛生薬学 1	衛生薬学・放射化学実習			
2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。		衛生薬学 1	衛生薬学・放射化学実習			
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。		衛生薬学 1	衛生薬学・放射化学実習			
4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。			衛生薬学 2			
<b>(2) 生活環境と健康</b>						
<b>【1 地球環境と生態系】</b>						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			衛生薬学 2			
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			衛生薬学 2			
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。			衛生薬学 2			
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。			衛生薬学 2			
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)			衛生薬学・放射化学実習			
<b>【2 環境保全と法的規制】</b>						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			衛生薬学 2			
2) 環境基本法の理念を説明できる。			衛生薬学 2			
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。			衛生薬学 2			
<b>【3 水環境】</b>						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			衛生薬学 2			
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。			衛生薬学 2			
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学 2 衛生薬学・放射化学実習			
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			衛生薬学 2			
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学 2 衛生薬学・放射化学実習			
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			衛生薬学 2			
<b>【4 大気環境】</b>						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。			衛生薬学 2			
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)			衛生薬学 2 衛生薬学・放射化学実習			
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			衛生薬学 2			
<b>【5 室内環境】</b>						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学 2 衛生薬学・放射化学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			衛生薬学 2			
<b>【6 廃棄物】</b>						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			衛生薬学 2			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			衛生薬学 2			
3) マニフェスト制度について説明できる。			衛生薬学 2			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>E 医療薬学</b>						
<b>E1 薬の作用と体の変化</b>						
<b>(1) 薬の作用</b>						
<b>【1 薬の作用】</b>						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 1	薬物速度論	(選) 医薬品安全性学 臨床薬物動態学		
2) アゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) について説明できる。		薬理学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4 医薬品化学 1	医薬品化学 2		
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		薬理学 1 薬理学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 医薬品化学 1			
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 1	医薬品化学 1	医薬品化学 2		
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【2細胞内情報伝達】1.~5.参照)		薬理学 1	医薬品化学 1	医薬品化学 2		
6) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【2吸収】、【3分布】、【4代謝】、【5排泄】参照)		生物薬剤学 1 薬理学 1	生物薬剤学 2 薬物速度論 医薬品化学 1	臨床薬物動態学 医薬品化学 2 (選) 医薬品安全性学		
7) 薬物の選択 (禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因 (年齢、疾病、妊娠等) について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 1		(選) 医薬品安全性学		
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【2吸収】5.【4代謝】5.【5排泄】5.参照)		薬理学 1	医薬品化学 1	(選) 医薬品安全性学		
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 1	医薬品化学 1	医薬品化学 2 (選) 医薬品安全性学		
<b>【2 動物実験】</b>						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		生物学実習	薬理学実習			
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)		生物学実習	薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)		生物学実習	薬理学実習			
<b>【3 日本薬局方】</b>						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			製剤設計学			
<b>(2) 身体の病的変化を知る</b>						
<b>【1 症状】</b>						
1) 以下の症状・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満 (腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・尿色の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰部痛、記憶障害、知覚異常 (しびれを含む) ・神経痛、視力障害、聴力障害		薬物治療学 1 薬物治療学 2		薬物治療学 5 (選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【2 病態・臨床検査】</b>						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学 1 薬物治療学 2	(選) 臨床化学	(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学 1 薬物治療学 2	(選) 臨床化学	(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学 1 薬物治療学 2	(選) 臨床化学	(選) アドバンスト薬物治療学		
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学 1		(選) アドバンスト薬物治療学		
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	医療薬学導入実習	薬物治療学 1	(選) 臨床化学	(選) アドバンスト薬物治療学		
6) 代表的な生理機能検査 (心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学 1 薬物治療学 2	(選) 臨床化学	(選) アドバンスト薬物治療学		
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		薬物治療学 1		(選) アドバンスト薬物治療学		
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	医療薬学導入実習	薬物治療学 1 薬物治療学 2	(選) 臨床化学	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>(3) 薬物治療の位置づけ</b>						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療 (外科手術など) の位置づけを説明できる。		薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4	薬物治療学 5 (選) アドバンスト薬物治療学		
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)		薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4	薬物治療学 5 (選) アドバンスト薬物治療学 統合薬学演習	統合薬学演習	統合薬学演習
<b>(4) 医薬品の安全性</b>						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4	(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4	(選) 医薬品安全性学 個別化医療		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害	医療薬学導入学習	薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4	(選) 医薬品安全性学 個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学		
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)			薬物治療学3 薬物治療学4	(選) 医薬品安全性学		
<b>E2 薬理・病態・薬物治療</b>						
<b>(1) 神経系の疾患と薬</b>						
<b>【1 自律神経系に作用する薬】</b>						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1		(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬物治療学2 薬理学1		(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1		(選) アドバンスト薬物治療学		
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
<b>【2 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1		(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1		(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習	(選) アドバンスト薬物治療学		
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)			薬物治療学3 薬物治療学4			
<b>【3 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3	(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3	(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学2	薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4			
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学2	薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
6) 不安神経症(パニック障害と全蝸性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4			
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳血栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習		薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4			
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬理学2	薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4			
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。		薬理学2	薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4			
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)			薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症	医療薬学導入学習		薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【4 化学構造と薬物】</b>						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4 医薬品化学1	医薬品化学2		(選) アドバンスト薬理学
<b>(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬</b>						
<b>【1 抗炎症薬】</b>						
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学2	薬理学3 薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5		
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			薬理学3 薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5		
3) 創傷治癒の過程について説明できる。			薬理学3 薬物治療学3	薬物治療学5		
<b>【2 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1 薬理学2	薬理学3 薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5		
2) 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1	薬理学3 薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)		薬物治療学1 薬物治療学2	薬理学3 薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5		
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson(スティーブンス-ジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹				薬物治療学5 (選)医薬品安全性学		
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5 (選)医薬品安全性学		
6) 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーテット病		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3	薬物治療学5		
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 バセドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シェーグレン症候群		薬理学1 薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5		
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性関節炎、関節リウマチ(重複)			薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5		
9) 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3 免疫学	薬物治療学5		
<b>【3骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3 薬理学3 免疫学	薬物治療学5		
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学2	薬物治療学3	薬物治療学5		
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3	薬物治療学5		
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学2	薬物治療学3	薬物治療学5		
<b>【4化学構造と薬効】</b>						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学3	医薬品化学2 薬物治療学5		(選)アドバンスト薬理学
<b>(3) 循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬</b>						
<b>【1循環器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(AF)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(VF)、房室ブロック、QT延長症候群	医療薬学導入学習	薬物治療学1 薬理学2		(選)アドバンスト薬物治療学		
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬物治療学1 薬理学2		(選)アドバンスト薬物治療学		
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬物治療学1 薬理学2				
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	医療薬学導入学習	薬物治療学1 薬理学2				
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患		薬物治療学1				
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
<b>【2血液・造血系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		役割治療学1 薬物治療学2 薬理学2				
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2 薬理学2				
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血		薬物治療学1 薬物治療学2 薬理学2				
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2		(選)アドバンスト薬物治療学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2(7))【8悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4			
<b>【3泌尿器系、生殖系疾患の薬、病態、薬物治療】</b>						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1 薬理学2				
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1				
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1				
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1				
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石		薬物治療学1				
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫		薬理学1 薬物治療学1	薬理学4			
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 薬物治療学1	薬理学4	薬物治療学5		
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			薬理学4	薬物治療学5		
<b>【4化学構造と薬効】</b>						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学1 薬理学2 薬物治療学1		医薬品化学2		(選)アドバンスト薬理学
<b>(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬</b>						
<b>【1呼吸器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬理学1 薬物治療学1	薬理学3	(選)アドバンスト薬物治療学		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬物治療学1	薬理学3	(選)アドバンスト薬物治療学		
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬物治療学1	薬理学3	(選)アドバンスト薬物治療学		
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1	薬理学3	(選)アドバンスト薬物治療学		
<b>【2消化器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎		薬理学1 薬物治療学2				
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 薬物治療学2				
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 薬物治療学2				
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 薬物治療学2				
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 薬物治療学2				
6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬理学1 薬物治療学2				
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬理学1 薬物治療学2				
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 薬物治療学2				
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学2				
<b>【3化学構造と薬効】</b>						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬物治療学1 薬物治療学2 薬理学1	薬理学3	医薬品化学2 (選)アドバンスト薬物治療学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬</b>						
<b>【1 代謝系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医療薬学導入学習	薬物治療学1 薬理学2		(選)アドバンスト薬物治療学		
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1 薬理学2		(選)アドバンスト薬物治療学		
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1 薬理学2		(選)アドバンスト薬物治療学		
<b>【2 内分泌系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学4			
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学4	薬物治療学5		
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学4	薬物治療学5		
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学4	薬物治療学5		
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内腺症(重複)、アジソン病(重複)			薬理学4	薬物治療学5		
<b>【3 化学構造と薬効】</b>						
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬物治療学1 薬理学2	薬理学4	医薬品化学2 薬物治療学5 (選)アドバンスト薬物治療学		(選)アドバンスト薬理学
<b>(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬</b>						
<b>【1 眼疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1	薬物治療学4			
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学4			
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学4			
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症			薬物治療学4			
<b>【2 耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学4			
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽喉炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎			薬物治療学4			
<b>【3 皮膚疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(2)【2免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)		薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4			
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(7)【5真菌感染症の薬、病態、治療】参照)		薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4			
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4			
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)		薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4	個別化医療		
<b>【4 化学構造と薬効】</b>						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学1	薬物治療学3 薬物治療学4 医薬品化学1	医薬品化学2 薬物治療学5		
<b>(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬</b>						
<b>【1 抗菌薬】</b>						
1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(SI合剤を含む)、その他の抗菌薬	微生物学		薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4 病原微生物学	臨床感染症学 (選)アドバンスト薬物治療学		
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。	微生物学		薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4 病原微生物学	臨床感染症学		
<b>【2 抗菌薬の耐性】</b>						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。	微生物学		薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4 病原微生物学	臨床薬物動態学 臨床感染症学 (選)アドバンスト薬物治療学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【3細菌感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
2) 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
3) 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
4) 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
5) 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
6) 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学 3 薬物治療学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病		薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学 3 薬物治療学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
<b>【4ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】</b>						
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学		
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学		
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学		
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）		薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学		
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学 3 薬物治療学 4 免疫学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、発熱性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病		薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 病原微生物学	臨床感染症学		
<b>【5真菌感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬物治療学 1	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
2) 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症		薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
<b>【6原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 薬理学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蛭虫症、アニサキス症		薬物治療学 2	薬物治療学 4 病原微生物学	臨床感染症学 （選）アドバンスト薬物治療学		
<b>【7悪性腫瘍】</b>						
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。			薬物治療学 4 薬理学 4	（選）アドバンスト薬物治療学		
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			薬物治療学 4 薬理学 4	（選）アドバンスト薬物治療学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【8 悪性腫瘍の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		(選) アドバンスト薬理学
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
4) 代表的ながん化学療法レジメン(FOLFOX等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
5) 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
7) 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、肝癌			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
9) 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌	薬物治療学1		薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	薬物治療学5 (選) アドバンスト薬物治療学		
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
13) 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	薬物治療学5 (選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【9 がん終末期医療と緩和ケア】</b>						
1) がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
2) がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【10 化学構造と薬効】</b>						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	薬物治療学1		薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学4	医薬品化学2 (選) アドバンスト薬物治療学		(選) アドバンスト薬理学
<b>(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報</b>						
<b>【1 組換え体医薬品】</b>						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【2 遺伝子治療】</b>						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)		薬物治療学2	薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【3 細胞、組織を利用した移植医療】</b>						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			薬物治療学3	薬物治療学5 (選) アドバンスト薬物治療学		
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療学5 (選) アドバンスト薬物治療学		
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療学5 (選) アドバンスト薬物治療学		
4) 胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。				薬物治療学5 (選) アドバンスト薬物治療学		
<b>(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション</b>						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学		
2) 要指導医薬品および一般用医薬品(リスクの程度に応じた区分(第一類、第二類、第三類)も含む)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学		
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学		
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学 臨床実習1 薬理		
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学		
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学		
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学 臨床導入学習1		
<b>(10) 医療の中の漢方薬</b>						
<b>【1 漢方薬の基礎】</b>						
1) 漢方の特徴について概説できる。			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虛実、寒熱、表裏、気血水、証			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
<b>【2 漢方薬の応用】</b>						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。			基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。	漢方・生薬学実習		薬物治療学3 薬物治療学4 基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
<b>【3 漢方薬の注意点】</b>						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学4 基礎漢方薬学			(選) 漢方医学概論
<b>(11) 薬物治療の最適化</b>						
<b>【1 総合演習】</b>						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)			薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)			薬物治療学3 薬物治療学4	(選) アドバンスト薬物治療学 個別化医療		
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)	薬物治療学2			(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>E3 薬物治療に役立つ情報</b>						
<b>(1) 医薬品情報</b>						
<b>【1 情報】</b>						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。			医薬品情報学			
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。			医薬品情報学			
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報学			
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報学			
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPS、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。			医薬品情報学			
<b>【2 情報源】</b>						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医薬品情報学			
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。			医薬品情報学			
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。			医薬品情報学			
4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。			医薬品情報学			
5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医薬品情報学	個別化医療		
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医薬品情報学			
<b>【3 収集・評価・加工・提供・管理】</b>						
1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医薬品情報学	個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学		
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学		
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学		
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法及び注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【4 EBM (Evidence-based Medicine)】</b>						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			医薬品情報学	臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学		
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学 個別化医療 臨床導入学習1		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性 (研究結果の正確度や再現性) と外的妥当性 (研究結果の一般化の可能性) について概説できる。 (E3 (1) 【3収集・評価・加工・提供・管理】参照)			医薬品情報学	臨床導入学習 1		
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。			医薬品情報学	臨床導入学習 1		
<b>【5生物統計】</b>						
1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。				個別化医療 医療統計学		
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。		数理統計学		個別化医療 医療統計学		
3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 $\chi^2$ 分布、F分布) について概説できる。		数理統計学		個別化医療 医療統計学		
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。				個別化医療 医療統計学		
5) 二群間の差の検定 (t検定、 $\chi^2$ 検定など) を実施できる。(技能)		数理統計学		個別化医療 医療統計学 特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。				個別化医療 医療統計学		
7) 基本的な生存時間解析法 (カプラン・マイヤー曲線など) について概説できる。				個別化医療 医療統計学		
<b>【6臨床研究デザインと解析】</b>						
1) 臨床研究 (治験を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学 医療統計学		
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学 医療統計学		
3) 観察研究での主要疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など) について概説できる。			医薬品情報学	医療統計学		
4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。			医薬品情報学			
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。			医薬品情報学	医療統計学		
6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学 医療統計学		
7) 統計解析時の注意点について概説できる。			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学 医療統計学		
8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学 医療統計学		
9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。 (知識・技能)			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学 医療統計学		
<b>【7医薬品の比較・評価】</b>						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医薬品情報学	個別化医療		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 (技能)			医薬品情報学	個別化医療		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)			医薬品情報学			
<b>(2) 患者情報</b>						
<b>【1情報と情報源】</b>						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報学			
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医薬品情報学			
<b>【2収集・評価・管理】</b>						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。			医薬品情報学			
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			医薬品情報学			
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			医薬品情報学			
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【3患者の権利】参照)			医薬品情報学	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>(3) 個別化医療</b>						
<b>【1遺伝的素因】</b>						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学 2	(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				個別化医療		
<b>【2年齢的要因】</b>						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学 2	(選) 医薬品安全性学 個別化医療		
<b>【3臓器機能低下】</b>						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。		薬物治療学 1	生物薬剤学 2 薬物速度論	臨床薬物動態学 (選) 医薬品安全性学 個別化医療		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物速度論	臨床薬物動態学 (選) 医薬品安全性学 個別化医療		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				個別化医療 臨床薬物動態学		
<b>【4 その他の要因】</b>						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因(性差、閉経、日内変動など)を列挙できる。				臨床薬物動態学 個別化医療		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学 2	個別化医療		
3) 栄養状態の異なる患者(肥満、低アルブミン血症、腹水など)における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				個別化医療		
<b>【5 個別化医療の計画・立案】</b>						
1) 個別の患者情報(遺伝的要因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)				個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学 統合薬学演習	統合薬学演習	統合薬学演習
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				個別化医療		
<b>E4 薬の生体内運命</b>						
<b>(1) 薬物の体内動態</b>						
<b>【1 生体膜透過】</b>						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		生物薬剤学 1 物理化学 3		(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。		生物薬剤学 1 物理化学 3	生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【2 吸収】</b>						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		生物薬剤学 1		(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。		生物薬剤学 1		(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理的要因など)を列挙し、説明できる。		生物薬剤学 1		(選) アドバンスト薬物治療学		
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		生物薬剤学 1		(選) アドバンスト薬物治療学 個別化医療		
5) 初回通過効果について説明できる。		生物薬剤学 1	生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学		
<b>【3 分布】</b>						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		生物薬剤学 1	薬剤学実習	(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。		生物薬剤学 1	薬剤学実習	(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。		生物薬剤学 1	薬剤学実習	(選) アドバンスト薬物治療学		
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。		生物薬剤学 1		(選) アドバンスト薬物治療学		
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。		生物薬剤学 1				
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		生物薬剤学 1	薬剤学実習	(選) アドバンスト薬物治療学 個別化医療		
<b>【4 代謝】</b>						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 薬物代謝の第I相反応(酸化・還元・加水分解)、第II相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。			生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学 臨床薬物動態学		
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			製剤設計学 生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学		
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学 個別化医療		
<b>【5 排泄】</b>						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			生物薬剤学 2 薬剤学実習	(選) アドバンスト薬物治療学		
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学		
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学 臨床薬物動態学		
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			生物薬剤学 2	(選) アドバンスト薬物治療学		
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学 2 薬剤学実習	(選) アドバンスト薬物治療学 個別化医療		
<b>(2) 薬物動態の解析</b>						
<b>【1 薬物速度論】</b>						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。			薬物速度論			
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]・定速静注)。(知識、技能)			薬物速度論 薬剤学実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)			薬物速度論 薬剤学実習			
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物速度論			
5) 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物速度論	臨床薬物動態学		
6) 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD解析)について概説できる。			薬物速度論	臨床薬物動態学		
<b>【2TDM (Therapeutic Drug Monitoring)と投与設計】</b>						
1) 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			(選) 臨床化学	臨床薬物動態学 個別化医療		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。				臨床薬物動態学 個別化医療		
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			薬剤学実習	臨床薬物動態学		
4) ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。			薬剤学実習	臨床薬物動態学		
<b>E5 製剤化のサイエンス</b>						
<b>(1) 製剤の性質</b>						
<b>【1固形材料】</b>						
1) 粉体の性質について説明できる。			物理薬剤学 製剤設計学 薬剤学実習			
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。	物理化学3		物理薬剤学 製剤設計学 薬剤学実習			
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (G2(2)【1酸・塩基平衡】1.及び【2各種の化学平衡】2.参照)	物理化学3 物理化学実習		物理薬剤学			
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。	物理化学実習		物理薬剤学			
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤設計学			
<b>【2半固形・液状材料】</b>						
1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。		物理化学3 物理化学実習	物理薬剤学			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。	物理化学3 物理化学実習		物理薬剤学			
<b>【3分散系材料】</b>						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (G2(2)【2各種の化学平衡】4.参照)	物理化学3 物理化学実習		物理薬剤学			
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。			物理薬剤学			
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。			物理薬剤学			
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学 製剤設計学			
<b>【4薬物及び製剤材料の物性】</b>						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			物理薬剤学 製剤設計学			
2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (G1(3)【1反応速度】1.~7.参照)			物理薬剤学			
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学 製剤設計学			
<b>(2) 製剤設計</b>						
<b>【1代表的な製剤】</b>						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤設計学			
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤設計学 薬剤学実習			
3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。			製剤設計学			
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤設計学			
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤設計学			
6) その他の製剤(生薬関連製剤、透折に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤設計学			
<b>【2製剤化と製剤試験法】</b>						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤設計学			
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤設計学 薬剤学実習			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤設計学			
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤設計学 薬剤学実習			
<b>【3生物学的同等性】</b>						
1) 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤設計学 薬剤学実習			
<b>(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)</b>						
<b>【1DDSの必要性】</b>						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤設計学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【4代謝】4.も参照)			製剤設計学			
<b>【2コントロールドリリース(放出制御)】</b>						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。			製剤設計学			
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤設計学			
3) コントロールドリリース技術を活用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤設計学			
<b>【3ターゲティング(標的指向性)】</b>						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤設計学			
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤設計学			
3) ターゲティング技術を活用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤設計学			
<b>【4吸収改善】</b>						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤設計学			
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤設計学			
3) 吸収改善技術を活用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤設計学			
<b>F 薬学臨床</b> 前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
<b>(1) 薬学臨床の基礎</b>						
<b>【1早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項</b>						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期体験学習					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	早期体験学習					
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	医療薬学導入学習					
<b>【2臨床における心構え】【A(1)、(2)参照】</b>						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)				臨床導入学習1		
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				臨床導入学習1		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				臨床導入学習1		
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【3臨床実習の基礎】</b>						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				臨床導入学習1		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	薬学入門			臨床導入学習1		
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				臨床導入学習1		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	医療人マインド			臨床導入学習1 臨床導入学習2 コミュニティファーマシー		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 【B(3)1参照】				コミュニティファーマシー		
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					病院実務実習	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)					病院実務実習	
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。				(選)アドバンスト薬物治療学	病院実務実習	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。				(選)アドバンスト薬物治療学	病院実務実習	
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					薬局実務実習	
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					薬局実務実習	
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)					薬局実務実習	
<b>(2) 処方せんに基づく調剤</b>						
<b>【1法令・規則等の理解と遵守】【B(2)、(3)参照】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 前) 調剤業務に関わる事項 (処方せん、調剤録、疑義照会等) の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
2) 調剤業務に関わる法的文書 (処方せん、調剤録等) の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					薬局実務実習	
<b>【2 処方せんと疑義照会】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	医療薬学導入学習			臨床導入学習 2 (選) アドバンスト薬物治療学		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				臨床導入学習 1 (選) アドバンスト薬物治療学		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				臨床導入学習 1 (選) アドバンスト薬物治療学		
5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				臨床導入学習 1 (選) アドバンスト薬物治療学		
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2 (選) アドバンスト薬物治療学		
7) 処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、用法・用量等) が適切であるか確認できる。(知識・技能)				個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学	病院実務実習 薬局実務実習	
8) 注射薬処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等) が適切であるか確認できる。(知識・技能)				個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学	病院実務実習	
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)				個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学	病院実務実習 薬局実務実習	
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)	医療薬学導入学習				病院実務実習 薬局実務実習	
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【3 処方せんに基づく医薬品の調剤】</b>						
1) 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)	医療薬学導入学習			臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
2) 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	医療薬学導入学習			臨床導入学習 1		
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				臨床導入学習 1		
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)				臨床導入学習 1		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)				臨床導入学習 1		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)	医療薬学導入学習				病院実務実習 薬局実務実習	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 一回量 (一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
16) 注射剤 (高カロリー輸液等) の無菌的混合操作を実施できる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
18) 特別な注意を要する医薬品 (劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等) の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
19) 調剤された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【4 患者・薬局者対応、服薬指導、患者教育】</b>						
1) 前) 適切な態度で、患者・薬局者と対応できる。(態度)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				臨床導入学習 2		
3) 前) 患者・薬局者から、必要な情報 (症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等) を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)				臨床導入学習 1		
4) 前) 患者・薬局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)				臨床導入学習 1		
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				臨床導入学習 2		
6) 前) 患者・薬局者に使用上の説明が必要な製剤 (眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等) の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				臨床導入学習 1		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 患者・末局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
10) 患者・末局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 患者・末局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【5 医薬品の供給と管理】</b>						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			臨床薬学概論			
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。			臨床薬学概論			
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。			臨床薬学概論 衛生薬学・放射化学実習			
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。			臨床薬学概論			
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 劇薬・毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)					病院実務実習	
<b>【6 安全管理】</b>						
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
3) 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。			臨床薬学概論	臨床導入学習 1		
8) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)					病院実務実習	
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)					病院実務実習	
<b>【3 薬物療法の実践】</b>						
<b>【1 患者情報の把握】</b>						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	医療薬学導入学習			臨床導入学習 2		
2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) 【E3(2)1参照】				臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	医療薬学導入学習			臨床導入学習 2		
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)	医療薬学導入学習			臨床導入学習 1 臨床導入学習 2		
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)	医療薬学導入学習				病院実務実習 薬局実務実習	
6) 患者・末局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)	医療薬学導入学習				病院実務実習 薬局実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【2 医薬品情報の収集と活用】【E3(1) 参照】</b>						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)					病院実務実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【3 処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				個別化医療 臨床導入学習2		
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				個別化医療 臨床導入学習2		
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				臨床導入学習2		
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方提案できる。(知識・態度)				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)					病院実務実習	
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)					病院実務実習	
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【4 処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価)】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	医療薬学導入学習			個別化医療 臨床導入学習1 臨床導入学習2		
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)	医療薬学導入学習			個別化医療 (選)アドバンスト薬物治療学	病院実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の実案が立てられる。(知識・態度)	医療薬学導入学習			個別化医療	病院実務実習	
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)	医療薬学導入学習			個別化医療	病院実務実習	
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。			(選) 臨床化学		病院実務実習 薬局実務実習	
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	医療薬学導入学習			個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学	病院実務実習 薬局実務実習	
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	医療薬学導入学習			個別化医療 (選) アドバンスト薬物治療学	病院実務実習 薬局実務実習	
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
11) 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					病院実務実習	
<b>【4】チーム医療への参画【A（4）参画】</b>						
<b>【1】医療機関におけるチーム医療</b>						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	医療人マインド			臨床感染症学 臨床導入学習1 コミュニティファーマシー		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	医療人マインド			臨床感染症学 臨床導入学習1 コミュニティファーマシー		
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニックバス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)					病院実務実習	
5) 医師・看護師等の職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。(知識・態度)					病院実務実習	
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。(知識・態度)					病院実務実習	
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)					病院実務実習	
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)					病院実務実習	
9) 病院内の多様な医療チーム（ICU、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)				臨床感染症学	病院実務実習	
<b>【2】地域におけるチーム医療</b>						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【5】地域の保健・医療・福祉への参画【B（4）参画】</b>						
<b>【1】在宅（訪問）医療・介護への参画</b>						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務 (訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務) を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
6) 在宅患者の病状 (症状、疾患と重症度、栄養状態等) とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
<b>【2地域保健 (公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動) への参画】</b>						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動 (薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等) について説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)				コミュニティファーマシー	薬局実務実習	
4) 地域住民の衛生管理 (消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥摂取の予防等) における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)				コミュニティファーマシー	病院実務実習 薬局実務実習	
<b>【3プライマリケア、セルフメディケーションの実践】【E2 (9) 参照】</b>						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)				コミュニティファーマシー (選) アドバンスト薬物治療学		
2) 前) 代表的な症候 (頭痛・腹痛・発熱等) を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)	医療薬学導入学習			コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学		
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学		
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学		
5) 薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1	薬局実務実習	
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状 (疾患、重症度等) や体調を推測できる。(知識・態度)	医療薬学導入学習			コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学	薬局実務実習	
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応 (医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等) を選択できる。(知識・態度)	医療薬学導入学習			コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学	薬局実務実習	
8) 選択した薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 (選) アドバンスト薬物治療学	薬局実務実習	
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)				コミュニティファーマシー 臨床導入学習1	薬局実務実習	
<b>【4災害時医療と薬剤師】</b>						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				コミュニティファーマシー		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
<b>8 薬学研究</b>						
<b>(1) 薬学における研究の位置づけ</b>						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。						特別演習・実習
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
<b>(2) 研究に必要な法規制と倫理</b>						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。			医療と法	特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。			医療と法	特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-4-3再掲			医療と法	特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
<b>(3) 研究の実践</b>						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 <sup>1)</sup>		294	294	294	294	294	294
入学時の学生数 <sup>2)</sup>	A	307	333	309	312	311	307
在籍学生数 <sup>3)</sup>	B	324	366	296	270	283	311
過年度在籍者数 <sup>4)</sup>	留年による者	23	62	60	41	28	69
	休学による者	0	0	0	0	0	0
編入学などによる在籍者数	E	0	0	0	0	0	0
スレート在籍者数 <sup>5)</sup>	F	307	308	236	229	255	242
スレート在籍率 (%) <sup>6)</sup>	F/A	100%	92.4%	76.3%	73.3%	81.9%	78.8%
過年度在籍率 (%) <sup>7)</sup>	(C+D)/B	7.0%	16.9%	20.2%	15.1%	9.8%	22.1%

[注]

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記入してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者を記入してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記入してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記入してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記入してください。  $F = B - (C+D+E)$  となります。
- 6) F/A の値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。
- 7) (C+D)/B の値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

## (基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	330	328	326	368	324
	休学者数 <sup>2)</sup>	3	3	7	2	4
	退学者数 <sup>2)</sup>	11	11	10	25	10
	留年者数 <sup>2)</sup>	13	14	27	15	10
	進級率(%) <sup>3)</sup>	91.8%	91.5%	86.5%	88.6%	92.6%
2年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	304	335	311	330	366
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	2	8	4	5
	退学者数 <sup>2)</sup>	8	8	8	12	11
	留年者数 <sup>2)</sup>	31	10	40	37	30
	進級率(%) <sup>3)</sup>	86.8%	94.0%	82.0%	83.9%	87.4%
3年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	324	280	320	278	296
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	3	1	0	1
	退学者数 <sup>2)</sup>	2	1	5	7	4
	留年者数 <sup>2)</sup>	15	2	21	19	22
	進級率(%) <sup>3)</sup>	94.4%	97.9%	91.6%	90.6%	90.9%
4年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	308	324	280	304	270
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	0	3	2
	退学者数 <sup>2)</sup>	1	1	0	2	3
	留年者数 <sup>2)</sup>	18	8	11	15	6
	進級率(%) <sup>3)</sup>	93.8%	97.2%	96.1%	93.4%	95.9%
5年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	282	290	315	270	283
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	0	1	0	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	1	0	0	0	0
	留年者数 <sup>2)</sup>	0	0	0	0	0
	進級率(%) <sup>3)</sup>	99.3%	100.0%	99.7%	100.0%	100.0%

1) 各年度の5月1日における各学年の在籍者数を記入してください。ただし、2023年度のデータは、草案提出時には空欄でかまいません。調書提出時に、その時点でのデータを記入して提出してください。

2) 各年度末に在学年から上級学年に進級出来なかった学生数を、休学、退学、留年に分けて記入してください。

3) 各年度の各学年について、{(在籍者数) - (休学者数 + 退学者数 + 留年者数)} / 在籍者数の値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

(基礎資料 3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 <sup>1)</sup>	295	282	295	318	277
学士課程修了(卒業)者数 <sup>1)</sup>	271	249	265	276	237
卒業率(%) <sup>2)</sup>	91.9%	88.3%	89.8%	86.8%	85.5%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 <sup>3)</sup>	6年	240	227	241	219
	7年	21	15	19	18
	8年	5	5	2	7
	9年以上	5	2	3	0
入学時の学生数(実入学者数) <sup>4)</sup>	303	311	316	306	307
スタート卒業率(%) <sup>5)</sup>	79.2%	72.9%	76.2%	82.0%	71.3%

- 1) 年度途中に卒業した学生(秋卒者など)の数は除いてください。
- 2) B/Aの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。
- 3) Bの人数(編入学者があれば除く)の卒業までに要した<sup>3)</sup>在学期間別の内訳を記入してください。
- 4) 各年度の正規卒業学生が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記入してください。
- 5) C/Dの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	平均値 <sup>5)</sup>
入学定員 A	294	294	294	294	294	294	
実入学者数 <sup>1)</sup> B	307	311	312	309	333	307	313
入学定員充足率(%) <sup>2)</sup> B/A	104.4%	105.8%	106.1%	105.1%	113.3%	104.4%	106.5%
編入学定員	0	0	0	0	0	0	
編入学者数 <sup>3)</sup> C+D+E	0	0	0	0	0	0	0
編入学した学年別の内数 <sup>4)</sup>	2年次 C	0	0	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の5月1日において1年次に在籍していた新入生数を記入してください。
- 2) 各年度のB/Aの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。
- 3) 各年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記入してください。
- 4) 編入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 人数は整数(端数は四捨五入)で、入学定員充足率については%(小数点以下第1位まで表示)で記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況 (入学試験種類別)

	学科名	入試の種類	2019年度入試 (2018年度実施)		2020年度入試 (2019年度実施)		2021年度入試 (2020年度実施)		2022年度入試 (2021年度実施)		2023年度入試 (2022年度実施)		2024年度入試 (2023年度実施)		募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
			受験者数	合格者数	入学者数(A)	募集定員数(B)	充足率(A/B)(%)	受験者数	合格者数	入学者数(A)	募集定員数(B)	充足率(A/B)(%)	受験者数	合格者数	
薬学部	指定校制推薦入試	受験者数	35	33	50	53	52	51							106.1%
		合格者数	35	33	50	53	52	51							
		入学者数(A)	35	33	50	53	52	51							
		募集定員数(B)	40	40	40	40	40	40							
		充足率(A/B)(%)	87.5%	82.5%	125.0%	132.5%	130.0%	127.5%							
	公募制推薦入試	受験者数	527	588	387	375	433	474							
		合格者数	226	239	193	227	205	220							
		入学者数(A)	103	99	91	123	95	101							
		募集定員数(B)	90	90	90	90	90	100							
		充足率(A/B)(%)	114.4%	110.0%	101.1%	136.7%	105.6%	101.0%							
	桐園生徒特別選抜入試	受験者数	2	0	0	0	1	0							
		合格者数	2	0	0	0	0	0							
		入学者数(A)	1	0	0	0	0	0							
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名							
	一般入試A	受験者数	690	766	613	651	563	553							
		合格者数	268	359	314	321	293	265							
		入学者数(A)	100	121	91	101	134	128							
		募集定員数(B)	100	100	100	100	100	100							
		充足率(A/B)(%)	100.0%	121.0%	91.0%	101.0%	134.0%	128.0%							
	一般入試B	受験者数	478	434	339	377	298	300							
		合格者数	137	116	158	161	96	69							
		入学者数(A)	60	54	75	53	19	17							
		募集定員数(B)	50	50	50	50	50	40							
		充足率(A/B)(%)	120.0%	108.0%	150.0%	106.0%	38.0%	42.5%							
	センター利用入試	受験者数	355	450											
		合格者数	188	211											
		入学者数(A)	12	5											
		募集定員数(B)	14	14											
大学入学共通テスト 利用入試	受験者数			315	371										
	合格者数			146	177										
	入学者数(A)			2	3										
	募集定員数(B)			14	14										
大学入学共通テスト 利用入試(前期)	受験者数					380	320								
	合格者数					173	114								
	入学者数(A)					5	2								
	募集定員数(B)					10	10								
大学入学共通テスト 利用入試(後期)	受験者数					26	18								
	合格者数					11	6								
	入学者数(A)					2	0								
	募集定員数(B)					4	4								
学 科 計	受験者数	2,087	2,271	1,704	1,827	1,753	1,716								
	合格者数	856	958	861	939	830	725								
	入学者数(A)	311	312	309	333	307	299								
	募集定員数(B)	294	294	294	294	294	294								
	充足率(A/B)(%)	105.8%	106.1%	105.1%	113.3%	104.4%	101.7%								
編(転)入試験	受験者数														
	合格者数														
	入学者数(A)														
	募集定員数(B)														

- [注] 1 入試の種類は例示です。受審大学の実態に即した名称を記入してください。
- 2 6年制課程が複数学科あるが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に連記して「学科計」欄を「学部計」としてください。
- 3 6年制課程が複数学科あり入試を学科別に行っている場合は、学科毎に欄を設けた上で、末尾に「学部合計」欄も設けてください。
- 4 4年制学科を併設するが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に4年制学科名も記入し、「学科計」欄を「学部計」とした上で、欄外に『（備考）〇年次進級時に6年制学科と4年制学科に分割する。なお、薬学科（6年制）の定員は△△△名である。』という「注」を記載してください。
- 5 「入試の種類」が対象年度の間に変更されている場合は、すべての種類を記入した上で、対応のない年度の欄に斜線を入れてください。
- 6 「入学者数（A）」には、各年度の5月1日に在籍した新入学者を構成する入試の種類ごとの入学者数を記入してください。
- 7 「募集定員数（B）」には、各年度の募集要項に記載した人数を記入してください。
- 8 充足率は募集定員に対する入学者の割合（A/B）を%で記入してください（小数点以下第1位まで表示）。ただし、募集定員が「若干名」の場合は「—」とします。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 <sup>1)</sup>
32名	23名	12名	16名	83名	37名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 <sup>2)</sup>
10名	1名	0名	1名	12名	7名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数で、別表2の数は含めない。

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 <sup>1)</sup>	兼任教員 <sup>2)</sup>
2名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 <sup>1)</sup>	合計
2名	57名	19名	78名

自己点検・評価を実施した年度の実績を延べ人数ではなく正味の人数で記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員<sup>1)</sup>

事務職員	技能職員 <sup>2)</sup>	その他 <sup>3)</sup>	合計
50(9)名	1名	1名	52(9)名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は( )に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	12名	4名	1名	0名	17名	20.5%
50代	14名	11名	7名	1名	33名	39.7%
40代	6名	6名	3名	4名	19名	22.9%
30代	0名	2名	1名	11名	14名	16.9%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
合計	32名	23名	12名	16名	83名	

専任教員の定年年齢：( 65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
男性	26名	16名	7名	12名	61名	73.5%
女性	6名	7名	5名	4名	22名	26.5%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科 (兼薬科学科)	教授						物理化学1	15.00	0.50	
							物理化学2	15.00	0.50	
							統合薬学演習	22.50	0.75	
							物理化学実習	◎	108.00	3.60
							創薬化学演習	院	3.00	0.10
							創薬化学特論II	院	1.50	0.05
							領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	166.50	5.55	
薬学科 (兼薬科学科)	教授						生化学2	22.50	0.75	
							アカデミックスキル	12.00	0.40	
							生物科学実習	◎	108.00	3.60
							生物科学特論	院	3.00	0.10
							薬学倫理教育特論	院	7.50	0.25
							薬学倫理教育特論I	院	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	156.00	5.20	
薬学科 (兼薬科学科)	教授						有機化学1	4.50	0.15	
							有機化学2	4.50	0.15	
							有機化学3	18.00	0.60	
							有機化学4	22.50	0.75	
							基礎有機化学	3.00	0.10	
							有機スペクトル学演習	4.50	0.15	
							統合薬学演習	22.50	0.75	
							有機化学実習	◎	108.00	3.60
							創薬化学演習	院	4.50	0.15
							創薬化学特論II	院	1.50	0.05
							領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05
							医療薬学総論	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	196.50	6.55	
薬学科 (兼薬科学科)	教授						有機化学1	4.50	0.15	
							有機化学2	22.50	0.75	
							有機化学3	4.50	0.15	
							有機化学4	4.50	0.15	
							基礎有機化学	3.00	0.10	
							有機スペクトル学演習	4.50	0.15	
							精密有機合成化学	12.00	0.40	
							有機化学実習	◎	108.00	3.60
							創薬化学演習	院	3.00	0.10
							創薬化学特論II	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	168.00	5.60	
							薬学科 (兼薬科学科)	教授		
薬用植物学	18.00	0.60								
漢方・生薬学実習	◎	108.00	3.60							
生薬・天然物化学特論	院	3.00	0.10							
創薬化学演習	院	1.50	0.05							
創薬化学特論II	院	1.50	0.05							
領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05							
授業担当時間の合計	156.00	5.20								
薬学科 (兼薬科学科)	教授						臨床薬学概論	12.00	0.40	
							アドバンスト薬物治療学2	1.50	0.05	
							コミュニケーション	36.00	1.20	
							医療薬剤学	12.00	0.40	
							臨床導入学習1	144.00	4.80	
							臨床導入学習2	81.00	2.70	
							統合薬学演習	22.50	0.75	
							処方解析演習	院	6.00	0.20
							治験・臨床試験演習	院	4.50	0.15
							薬学臨床特論I	院	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	322.50	10.75	

薬学科 (兼薬科学科)	教授	基礎漢方薬学		22.50	0.75
		医工薬連環科学		1.50	0.05
		早期体験学習		22.50	0.75
		生薬学		18.00	0.60
		漢方医学概論		7.50	0.25
		漢方・生薬学実習	◎	108.00	3.60
		生薬・天然物化学特論	院	3.00	0.10
		処方解析演習	院	4.50	0.15
		薬学臨床特論 I	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		189.00	6.30
薬学科 (兼薬科学科)	教授	薬物速度論		22.50	0.75
		臨床薬物動態学		21.00	0.70
		アカデミックスキル		12.00	0.40
		薬剤学実習	◎	108.00	3.60
		薬学倫理教育特論	院	7.50	0.25
		薬学倫理教育特論 I	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		174.00	5.80
薬学科 (兼薬科学科)	教授 (実務)	コミュニティファーマシー		18.00	0.60
		薬事関連法・制度		36.00	1.20
		薬剤経済学		15.00	0.50
		臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		医療評価演習	院	4.50	0.15
		医療評価薬学特論 I	院	6.00	0.20
		医療評価薬学特論 II	院	6.00	0.20
		医療薬学総論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		312.00	10.40
		薬学科 (兼薬科学科)	教授	機能形態学 1	
機能形態学 2				6.00	0.20
薬学入門				1.50	0.05
薬理学 3				13.50	0.45
創薬薬理学				7.50	0.25
統合薬学演習				22.50	0.75
薬理学実習	◎			108.00	3.60
病態薬理学特論 I	院			3.00	0.10
薬理学特論	院			3.00	0.10
薬効評価演習	院			4.50	0.15
授業担当時間の合計				172.50	5.75
薬学科 (兼薬科学科)	教授			機能形態学 1	
		薬学入門		1.50	0.05
		生物学		18.00	0.60
		先端分子医科学 2		1.50	0.05
		統合薬学演習		22.50	0.75
		生物科学実習	◎	108.00	3.60
		病態薬理学特論 I	院	3.00	0.10
		薬効評価演習	院	3.00	0.10
		予防薬学特論 I	院	3.00	0.10
		領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05
		環境科学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		180.00	6.00
薬学科 (兼薬科学科)	教授	薬理学 2		22.50	0.75
		薬理学 4		22.50	0.75
		創薬薬理学		7.50	0.25
		薬学総合演習		13.50	0.45
		薬理学実習	◎	108.00	3.60
		病態薬理学特論 I	院	3.00	0.10
		薬理学特論	院	3.00	0.10
		薬効評価演習	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		184.50	6.15
薬学科 (兼薬科学科)	教授	分子生物学		22.50	0.75
		分子細胞生物学		22.50	0.75
		先端分子医科学 1		7.50	0.25
		生物科学実習	◎	108.00	3.60
		生物科学特論	院	1.50	0.05
		領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計		163.50	5.45		

薬学科 (兼薬科学科)	教授	英語ライティング1		36.00	1.20
		英語ライティング2		36.00	1.20
		異文化言語演習1		36.00	1.20
		異文化言語演習2		36.00	1.20
		薬学英語		36.00	1.20
		授業担当時間の合計		180.00	6.00
薬学科 (兼薬科学科)	教授	製剤設計学		7.50	0.25
		薬局方総論		15.00	0.50
		早期体験学習		22.50	0.75
		統合薬学演習		22.50	0.75
		薬剤学実習	◎	108.00	3.60
		医薬品動態制御学特論I	院	3.00	0.10
		医療評価演習	院	1.50	0.05
		薬物生体機能科学特論	院	3.00	0.10
		医療薬学総論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		184.50	6.15
		薬学科 (兼薬科学科)	教授	ドイツ語1	
ドイツ語2				36.00	1.20
薬学入門				1.50	0.05
多職種連携論3－医療倫理				18.00	0.60
医療倫理論				7.50	0.25
倫理と社会				12.00	0.40
授業担当時間の合計				111.00	3.70
薬学科 (兼薬科学科)	教授	薬学入門		1.50	0.05
		生物薬剤学1		18.00	0.60
		医工薬連環科学		18.00	0.60
		情報科学演習		72.00	2.40
		統合薬学演習		22.50	0.75
		薬剤学実習	◎	108.00	3.60
		医薬品動態制御学特論I	院	3.00	0.10
		医療評価演習	院	1.50	0.05
		薬物生体機能科学特論	院	3.00	0.10
		医療薬学総論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		249.00	8.30
薬学科 (兼薬科学科)	教授 (実務)	臨床薬物動態学		3.00	0.10
		医療薬剤学		12.00	0.40
		臨床導入学習1		144.00	4.80
		臨床導入学習2		81.00	2.70
		統合薬学演習		22.50	0.75
		処方解析演習	院	4.50	0.15
		治験・臨床試験演習	院	9.00	0.30
		薬学臨床特論I	院	3.00	0.10
		医療薬学総論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		280.50	9.35
薬学科 (兼薬科学科)	教授 (実務)	薬学入門		12.00	0.40
		多職種連携論1－医療人マインド		12.00	0.40
		多職種連携論2－医療と専門職		12.00	0.40
		多職種連携論3－医療倫理		18.00	0.60
		早期体験学習		22.50	0.75
		医薬品情報学		108.00	3.60
		医薬品情報演習		36.00	1.20
		医薬看融合ゼミ		15.00	0.50
		臨床導入学習1		144.00	4.80
		臨床導入学習2		81.00	2.70
		統合薬学演習		22.50	0.75
		医療評価薬学特論I	院	4.50	0.15
		医療評価薬学特論II	院	4.50	0.15
		健康環境予防評価演習	院	7.50	0.25
		処方解析演習	院	3.00	0.10
		治験・臨床試験演習	院	4.50	0.15
		薬学臨床特論I	院	3.00	0.10
		予防薬学特論I	院	3.00	0.10
		医療薬学総論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計		514.50	17.15		

薬学科 (兼薬科学科)	教授	分析化学 1		18.00	0.60
		薬学入門		1.50	0.05
		生物無機化学		12.00	0.40
		放射化学		18.00	0.60
		アドバンスト薬物治療学 2		1.50	0.05
		統合薬学演習		22.50	0.75
		衛生薬学・放射化学実習	◎	108.00	3.60
		分析化学実習	◎	108.00	3.60
		病態解析学特論 I	院	3.00	0.10
		病態評価演習	院	4.50	0.15
		医療薬学総論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計			298.50
薬学科 (兼薬科学科)	教授	基礎有機化学		3.00	0.10
		有機化学 1		4.50	0.15
		有機化学 2		4.50	0.15
		有機化学 3		4.50	0.15
		有機化学 4		4.50	0.15
		薬学入門		1.50	0.05
		有機スペクトル学演習		4.50	0.15
		医薬品化学 1		22.50	0.75
		医薬品化学 2		36.00	1.20
		アドバンスト薬物治療学 2		1.50	0.05
		統合薬学演習		22.50	0.75
		基礎有機化学実習	◎	108.00	3.60
		創薬化学演習	院	3.00	0.10
		創薬化学特論 II	院	1.50	0.05
領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05		
授業担当時間の合計			223.50	7.45	
薬学科 (兼薬科学科)	教授	微生物学		16.50	0.55
		病原微生物学		12.00	0.40
		先端分子医科学 2		1.50	0.05
		アドバンスト薬物治療学 1		1.50	0.05
		病態・薬物治療学演習		12.00	0.40
		臨床感染症学		36.00	1.20
		医療薬学導入学習		90.00	3.00
		生物学実習	◎	108.00	3.60
		健康環境予防評価演習	院	7.50	0.25
		病態解析学特論 I	院	1.50	0.05
		予防薬学特論 I	院	1.50	0.05
		領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05
		医療薬学総論	院	1.50	0.05
		環境科学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計			292.50	9.75	
薬学科 (兼薬科学科)	教授	衛生薬学 1		9.00	0.30
		衛生薬学 2		16.50	0.55
		衛生薬学 3		3.00	0.10
		レギュラトリーサイエンス		7.50	0.25
		衛生薬学・放射化学実習	◎	108.00	3.60
		健康環境予防評価演習	院	7.50	0.25
		予防薬学特論 I	院	1.50	0.05
		領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05
		環境科学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計			156.00
薬学科 (兼薬科学科)	教授	薬物治療学 1		6.00	0.20
		薬物治療学 2		3.00	0.10
		薬物治療学 3		4.50	0.15
		薬物治療学 5		12.00	0.40
		アドバンスト薬物治療学 1		1.50	0.05
		病態・薬物治療学演習		12.00	0.40
		医療薬学導入学習		90.00	3.00
		統合薬学演習		22.50	0.75
		病態解析学特論 I	院	1.50	0.05
		病態評価演習	院	3.00	0.10
領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05		
授業担当時間の合計			157.50	5.25	

薬学科 (兼薬科学科)	教授 (実務)	多職種連携論 1－医療人マインド		12.00	0.40
		多職種連携論 2－医療と専門職		12.00	0.40
		多職種連携論 3－医療倫理		18.00	0.60
		薬物治療学 4		16.50	0.55
		連携医療学		10.50	0.35
		病態・薬物治療学演習		12.00	0.40
		医薬看融合ゼミ		7.50	0.25
		臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		統合薬学演習		22.50	0.75
		医療評価薬学特論 I	院	4.50	0.15
		医療評価薬学特論 II	院	4.50	0.15
		処方解析演習	院	3.00	0.10
		治験・臨床試験演習	院	4.50	0.15
		薬学臨床特論 I	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		354.00	11.80
		薬学科 (兼薬科学科)	教授	多職種連携論 1－医療人マインド	
多職種連携論 2－医療と専門職				12.00	0.40
多職種連携論 3－医療倫理				18.00	0.60
早期体験学習				22.50	0.75
薬物治療学 1				3.00	0.10
薬物治療学 2				13.50	0.45
アドバンスト薬物治療学 1				1.50	0.05
アドバンスト薬物治療学 2				1.50	0.05
病態・薬物治療学演習				12.00	0.40
個別化医療				7.50	0.25
医薬看融合ゼミ				15.00	0.50
医療薬学導入学習				90.00	3.00
病態解析学特論 I	院			4.50	0.15
病態評価演習	院			4.50	0.15
授業担当時間の合計		217.50	7.25		
薬学科 (兼薬科学科)	専門教授 (実務)	薬学入門		12.00	0.40
		多職種連携論 1－医療人マインド		12.00	0.40
		多職種連携論 2－医療と専門職		12.00	0.40
		多職種連携論 3－医療倫理		18.00	0.60
		早期体験学習		22.50	0.75
		医薬品情報学		108.00	3.60
		医薬品情報演習		36.00	1.20
		医薬看融合ゼミ		15.00	0.50
		臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		処方解析演習	院	3.00	0.10
		治験・臨床試験演習	院	4.50	0.15
		薬学臨床特論 I	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		469.50	15.65
薬学科	特任教員 (教授) (実務)	臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		授業担当時間の合計		225.00	7.50
薬学科	特任教員 (教授) (実務)	臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		早期体験学習		22.50	0.75
授業担当時間の合計		247.50	8.25		
薬学科	特任教員 (教授) (実務)	臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		授業担当時間の合計		225.00	7.50
薬学科	特任教員 (教授) (実務)	臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		授業担当時間の合計		225.00	7.50
薬学科	特任教員 (教授) (実務)	臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		授業担当時間の合計		225.00	7.50
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	化学		22.50	0.75
		物理化学 3		6.00	0.20
		物理化学実習	◎	108.00	3.60
		構造生物学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		139.50	4.65

薬学科 (兼薬科学科)	准教授	衛生薬学 2		6.00	0.20
		衛生薬学 3		10.50	0.35
		衛生薬学・放射化学実習	◎	108.00	3.60
		健康環境予防評価演習	院	7.50	0.25
		予防薬学特論 I	院	1.50	0.05
		環境科学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		135.00	4.50
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	基礎細胞生物学		22.50	0.75
		先端分子医科学 1		1.50	0.05
		生物学実習	◎	108.00	3.60
		病態薬理学特論 I	院	3.00	0.10
		生物科学特論	院	1.50	0.05
		薬効評価演習	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		139.50	4.65
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	医工薬連環科学		1.50	0.05
		微生物学		6.00	0.20
		生物科学実習	◎	108.00	3.60
		健康環境予防評価演習	院	7.50	0.25
		生物科学特論	院	3.00	0.10
		予防薬学特論 I	院	1.50	0.05
		環境科学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計		129.00	4.30		
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	物理化学 3		12.00	0.40
		生物物理化学		12.00	0.40
		物理化学実習	◎	108.00	3.60
		領域統合型先端科学特論	院	1.50	0.05
		構造生物学特論	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		138.00	4.60
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	化学		22.50	0.75
		生物学		6.00	0.20
		アカデミックスキル		12.00	0.40
		多職種連携論 1-医療人マインド		12.00	0.40
		多職種連携論 2 -医療と専門職		12.00	0.40
		多職種連携論 3-医療倫理		18.00	0.60
		分析化学 2		22.50	0.75
		応用分析学		18.00	0.60
		医薬看融合ゼミ		15.00	0.50
		薬学基礎演習		12.00	0.40
		分析化学実習	◎	108.00	3.60
		薬学倫理教育特論	院	7.50	0.25
		薬学倫理教育特論 I	院	3.00	0.10
授業担当時間の合計		268.50	8.95		
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	身体運動科学		12.00	0.40
		コーチング論		12.00	0.40
		スポーツ・運動 1		72.00	2.40
		スポーツ・運動 2		12.00	0.40
		授業担当時間の合計		108.00	3.60
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	化学		22.50	0.75
		早期体験学習		22.50	0.75
		分析化学実習	◎	108.00	3.60
		構造生物学特論	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		157.50	5.25
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	基礎有機化学		3.00	0.10
		化学		22.50	0.75
		早期体験学習		22.50	0.75
		有機スペクトル学演習		18.00	0.60
		有機化学 1		4.50	0.15
		有機化学 2		4.50	0.15
		有機化学 3		4.50	0.15
		有機化学 4		4.50	0.15
		アドバンスト薬物治療学 2		1.50	0.05
		基礎有機化学実習	◎	108.00	3.60
		生薬・天然物化学特論	院	3.00	0.10
		創薬化学演習	院	1.50	0.05
		創薬化学特論 II	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		199.50	6.65

薬学科 (兼薬科学科)	准教授	有機化学 1		22.50	0.75
		有機化学 2		4.50	0.15
		有機化学 3		4.50	0.15
		有機化学 4		4.50	0.15
		基礎有機化学		18.00	0.60
		有機スペクトル学演習		4.50	0.15
		有機化学実習	◎	108.00	3.60
		臨床導入学習 1		144.00	4.80
		創薬化学演習	院	1.50	0.05
		創薬化学特論Ⅱ	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		313.50	10.45
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	物理化学 1		3.00	0.10
		物理化学 2		3.00	0.10
		化学		22.50	0.75
		物理化学実習	◎	108.00	3.60
		創薬化学演習	院	1.50	0.05
		創薬化学特論Ⅱ	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		139.50	4.65
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	薬物治療学 2		6.00	0.20
		薬物治療学 4		6.00	0.20
		薬物治療学 3		3.00	0.10
		薬物治療学 5		15.00	0.50
		アドバンスト薬物治療学 1		1.50	0.05
		病態・薬物治療学演習		12.00	0.40
		医療薬学導入学習		90.00	3.00
		病態解析学特論Ⅰ	院	1.50	0.05
		病態評価演習	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		139.50	4.65
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	数学 1		45.00	1.50
		数学 2		24.00	0.80
		数理統計学		22.50	0.75
		数理論理学		12.00	0.40
		授業担当時間の合計		103.50	3.45
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	多職種連携論 1－医療人マインド		12.00	0.40
		多職種連携論 2－医療と専門職		12.00	0.40
		多職種連携論 3－医療倫理		18.00	0.60
		機能形態学 2		16.50	0.55
		薬理学 3		9.00	0.30
		医薬看融合ゼミ		15.00	0.50
		創薬薬理学		7.50	0.25
		薬理学実習	◎	108.00	3.60
		病態薬理学特論Ⅰ	院	3.00	0.10
		薬理学特論	院	3.00	0.10
		薬効評価演習	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		208.50	6.95
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	製剤設計学		7.50	0.25
		物理薬剤学		12.00	0.40
		薬剤学実習	◎	108.00	3.60
		薬物生体機能科学特論	院	3.00	0.10
		医薬品動態制御学特論Ⅰ	院	3.00	0.10
		医療評価演習	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		135.00	4.50
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	個別化医療		4.50	0.15
		病態・薬物治療学演習		12.00	0.40
		臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
		処方解析演習	院	3.00	0.10
		治験・臨床試験演習	院	4.50	0.15
		薬学臨床特論Ⅰ	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計		250.50	8.35		
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	異文化言語演習 1		36.00	1.20
		異文化言語演習 2		36.00	1.20
		医療と法		12.00	0.40
		医療政策論		7.50	0.25
		医療制度		24.00	0.80
授業担当時間の合計		115.50	3.85		

薬学科 (兼薬科学科)	准教授	物理学 1		12.00	0.40
		物理学 2		12.00	0.40
		数学 1		45.00	1.50
		数学 2		24.00	0.80
		アカデミックスキル		12.00	0.40
		授業担当時間の合計		105.00	3.50
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	衛生薬学 3		9.00	0.30
		アカデミックスキル		12.00	0.40
		衛生薬学・放射化学実習	◎	108.00	3.60
		薬学倫理教育特論	院	7.50	0.25
		薬学倫理教育特論 I	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		139.50	4.65
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	生物薬剤学 2		18.00	0.60
		薬剤学実習	◎	108.00	3.60
		医薬品動態制御学特論 I	院	3.00	0.10
		医療評価演習	院	3.00	0.10
		薬物生体機能科学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		135.00	4.50
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	英語スピーキング 1		36.00	1.20
		英語スピーキング 2		36.00	1.20
		異文化言語演習 1		36.00	1.20
		異文化言語演習 2		36.00	1.20
		薬学英語		36.00	1.20
		授業担当時間の合計		180.00	6.00
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	薬理学 1		22.50	0.75
		医工薬連環科学		1.50	0.05
		創薬薬理学		7.50	0.25
		薬理学実習	◎	108.00	3.60
		病態薬理学特論 I	院	3.00	0.10
		薬理学特論	院	3.00	0.10
		薬効評価演習	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		150.00	5.00
薬学科	特任教員 (准教授) (実務)	臨床導入学習 1		144.00	4.80
		臨床導入学習 2		81.00	2.70
				授業担当時間の合計	
薬学科 (兼薬科学科)	講師	化学		22.50	0.75
		早期体験学習		22.50	0.75
		分析化学実習	◎	108.00	3.60
				授業担当時間の合計	
薬学科 (兼薬科学科)	講師	薬物治療学 1		4.50	0.15
		薬物治療学 5		9.00	0.30
		臨床化学		12.00	0.40
		アドバンスト薬物治療学 1		1.50	0.05
		病態・薬物治療学演習		12.00	0.40
		医療薬学導入学習		90.00	3.00
		病態評価演習	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		132.00	4.40
薬学科 (兼薬科学科)	講師	医薬品安全性学		12.00	0.40
		アカデミックスキル		12.00	0.40
		薬理学実習	◎	108.00	3.60
		薬理学特論	院	3.00	0.10
				授業担当時間の合計	
薬学科 (兼薬科学科)	講師	生化学 1		22.50	0.75
		生物科学実習	◎	108.00	3.60
		生物科学特論	院	3.00	0.10
				授業担当時間の合計	
薬学科 (兼薬科学科)	講師	化学		22.50	0.75
		応用放射化学		3.00	0.10
		衛生薬学・放射化学実習	◎	108.00	3.60
		生薬・天然物化学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		136.50	4.55

薬学科 (兼薬科学科)	講師	化学		22.50	0.75
		応用放射化学		12.00	0.40
		分析化学実習	◎	108.00	3.60
		病態評価演習	院	4.50	0.15
		構造生物学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		150.00	5.00
薬学科 (兼薬科学科)	講師	免疫学		22.50	0.75
		先端分子医科学2		1.50	0.05
		生物学実習	◎	108.00	3.60
		健康環境予防評価演習	院	7.50	0.25
		生物科学特論	院	1.50	0.05
		環境科学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		142.50	4.75
薬学科 (兼薬科学科)	講師	有機化学1		4.50	0.15
		有機化学2		4.50	0.15
		有機化学3		4.50	0.15
		有機化学4		4.50	0.15
		化学		22.50	0.75
		基礎有機化学		3.00	0.10
		有機スペクトル学演習		4.50	0.15
		有機化学実習	◎	108.00	3.60
		創薬化学演習	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		157.50	5.25
		薬学科 (兼薬科学科)	講師	多職種連携論1－医療人マインド	
多職種連携論2－医療と専門職				12.00	0.40
多職種連携論3－医療倫理				18.00	0.60
衛生薬学1				13.50	0.45
先端分子医科学2				1.50	0.05
医薬看融合ゼミ				15.00	0.50
衛生薬学・放射化学実習	◎			108.00	3.60
薬効評価演習	院			3.00	0.10
環境科学特論	院			1.50	0.05
授業担当時間の合計				184.50	6.15
薬学科 (兼薬科学科)	講師	工医薬連携科学		1.50	0.05
		製剤設計学		7.50	0.25
		物理薬剤学		10.50	0.35
		薬剤学実習	◎	108.00	3.60
		医療評価演習	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		129.00	4.30
薬学科 (兼薬科学科)	講師	英語リーディング1		36.00	1.20
		英語リーディング2		36.00	1.20
		英語リスニング1		36.00	1.20
		英語リスニング2		36.00	1.20
		授業担当時間の合計		144.00	4.80
薬学科 (兼薬科学科)	講師	薬物治療学3		15.00	0.50
		病態・薬物治療学演習		12.00	0.40
		医療薬学導入学習		90.00	3.00
		病態解析学特論1	院	0.00	0.00
		病態評価演習	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科 (兼薬科学科)	助教 (実務)	多職種連携論1－医療人マインド		12.00	0.40
		多職種連携論2－医療と専門職		12.00	0.40
		多職種連携論3－医療倫理		18.00	0.60
		アカデミックスキル		12.00	0.40
		早期体験学習		22.50	0.75
		医薬看融合ゼミ		15.00	0.50
		臨床導入学習1		144.00	4.80
		臨床導入学習2		81.00	2.70
		授業担当時間の合計		316.50	10.55

薬学科 (兼薬科学科)	助教	多職種連携論1－医療人マインド		12.00	0.40
		多職種連携論2－医療と専門職		12.00	0.40
		多職種連携論3－医療倫理		18.00	0.60
		生物学		6.00	0.20
		医薬看融合ゼミ		15.00	0.50
		生物学実習	◎	108.00	3.60
		薬効評価演習	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		174.00	5.80
薬学科 (兼薬科学科)	助教	分析化学実習	◎	108.00	3.60
		健康環境予防評価演習	院	12.00	0.40
		授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科 (兼薬科学科)	助教	有機化学1		4.50	0.15
		有機化学2		4.50	0.15
		有機化学3		4.50	0.15
		有機化学4		4.50	0.15
		基礎有機化学		3.00	0.10
		有機スペクトル学演習		4.50	0.15
		漢方・生薬学実習	◎	108.00	3.60
		創薬化学演習	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		135.00	4.50
		薬学科 (兼薬科学科)	助教	有機化学1	
有機化学2				4.50	0.15
有機化学3				4.50	0.15
有機化学4				4.50	0.15
基礎有機化学				3.00	0.10
有機スペクトル学演習				4.50	0.15
基礎有機化学実習	◎			108.00	3.60
創薬化学演習	院			1.50	0.05
授業担当時間の合計				135.00	4.50
薬学科 (兼薬科学科)	助教	臨床導入学習1		144.00	4.80
		臨床導入学習2		81.00	2.70
		医療評価演習	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計		226.50	7.55		
薬学科 (兼薬科学科)	助教	多職種連携論1－医療人マインド		12.00	0.40
		多職種連携論2－医療と専門職		12.00	0.40
		多職種連携論3－医療倫理		18.00	0.60
		薬物治療学1		9.00	0.30
		医薬看融合ゼミ		15.00	0.50
		医療薬学導入学習		90.00	3.00
		病態評価演習	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		160.50	5.35
薬学科 (兼薬科学科)	助教	薬剤学実習	◎	108.00	3.60
		授業担当時間の合計		108.00	3.60
薬学科 (兼薬科学科)	助教	物理化学実習	◎	108.00	3.60
		創薬化学演習	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		109.50	3.65
薬学科 (兼薬科学科)	助教	薬理学実習	◎	108.00	3.60
		授業担当時間の合計		108.00	3.60
薬学科 (兼薬科学科)	助教	応用分析学		6.00	0.20
		衛生薬学・放射化学実習	◎	108.00	3.60
		病態評価演習	院	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		118.50	3.95
薬学科 (兼薬科学科)	助教	機能形態学1		4.50	0.15
		薬理学実習	◎	108.00	3.60
		薬効評価演習	院	4.50	0.15
授業担当時間の合計		117.00	3.90		
薬学科 (兼薬科学科)	助教	基礎有機化学		3.00	0.10
		有機化学1		4.50	0.15
		有機化学2		4.50	0.15
		有機化学3		4.50	0.15
		有機化学4		4.50	0.15
		有機スペクトル学演習		4.50	0.15
		有機化学実習	◎	108.00	3.60
		創薬化学演習	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		135.00	4.50

薬学科 (兼業科学科)	助教	生物学		6.00	0.20
		生物科学実習	◎	108.00	3.60
		授業担当時間の合計		114.00	3.80
		基礎有機化学		3.00	0.10
薬学科 (兼業科学科)	助教	有機化学 1		4.50	0.15
		有機化学 2		4.50	0.15
		有機化学 3		4.50	0.15
		有機化学 4		4.50	0.15
		有機スペクトル学演習		4.50	0.15
		基礎有機化学実習	◎	108.00	3.60
		創薬化学演習	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		135.00	4.50
薬学科 (兼業科学科)	助教	生物学		6.00	0.20
		生物科学実習	◎	108.00	3.60
		薬効評価演習	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		117.00	3.90

- 2 学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間(実働時間)の時間数を、以下に従ってご記入ください(小数点以下2桁まで)。  
 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。  
 ※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。  
 ※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。  
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。
- 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。評価用の基礎資料とは別に、該当箇所(項目名以外)を黒塗りにした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況(続)

表2. 助手(基礎資料5の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
薬学科	助手						臨床導入学習1	144.00	4.80
							授業担当時間の合計	144.00	4.80
薬学科	助手						臨床導入学習1	144.00	4.80
							授業担当時間の合計	144.00	4.80

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、(基礎資料7(続き 例示))に従って記入してください。)

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料5の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
〇〇薬科学科		該当者なし							
〇〇薬科学科									

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、(基礎資料7(続き 例示))に従って記入してください。)

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

## (基礎資料8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	270名
5年生の在籍学生数	283名
6年生の在籍学生数	311名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m <sup>2</sup> )
1	病態分子薬理学	3	12	15	11	38	165.6
2	薬品作用解析学	3	12	14	13	39	170.7
3	薬物治療学Ⅰ	3	12	20	28	60	335.3
4	薬物治療学Ⅱ	3	13	13	12	38	165.6
5	病態生化学	3	11	14	13	38	164.7
6	生体分析学	2	10	10	14	34	170.6
7	薬剤学	3	12	14	13	39	170.6
8	製剤設計学	3	12	14	13	39	169.9
9	社会薬学・薬局管理学	2	11	10	11	32	164.7
10	臨床漢方薬学	2	9	11	5	25	170.7
11	臨床薬学教育研究センター	7	25	20	17	62	221.3
12	衛生化学	3	13	13	14	40	165.6
13	感染制御学	3	13	11	21	45	170.7
14	生体機能解析学	2	11	9	11	31	170.7
15	生化学	3	11	14	16	41	164.7
16	薬品物理化学	2	9	7	15	31	170.7
17	機能分子創製化学	3	7	6	14	27	164.7
18	有機薬化学	3	13	13	14	40	170.7
19	医薬分子化学	3	11	14	16	41	164.7
20	生薬科学	2	11	8	11	30	165.6
21	分子構造化学	3	12	10	13	35	164.7
22	薬学教育推進センター	4	14	18	16	48	164.7
23	薬学研究支援センター	3	6	5	0	11	705.5
	合 計	68	270	283	311	864	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。  
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。  
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。  
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 分子構造化学研究室	職名 教授	氏名 土井 光暢
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2022年9月27日 ~11月22日	科目「物理化学1」において、練習問題を用いて講義内容を理解しているか確認できるようにした。
		2023年4月12日 ~5月17日	科目「物理化学2」において、練習問題を用いて講義内容を理解しているか確認できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Puckering of 4-Fluoro-L-proline Isomers and 4,4-Difluoro-L-proline Influencing Conformation of Ornithine-free Gramicidin S</i>	共著	2023年4月	<i>Chemistry Lett.</i> , 52
<i>Experimental evidence for CH<math>\cdots</math><math>\pi</math> interaction-mediated stabilization of the square form in phenylglycine-incorporated ascidiacyclamide</i>	共著	2023年2月	<i>RSC Adv.</i> , 13
<i>Effects of Substituting Disubstituted Amino Acids into the Amphipathic Cell Penetrating Peptide Pep-1</i>	共著	2022年11月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 70
<i>E-Selective Ring-Closing Metathesis in <math>\alpha</math>-Helical Stapled Peptides Using Carbocyclic <math>\alpha</math>, <math>\alpha</math>-Disubstituted <math>\alpha</math>-Amino Acids</i>	共著	2022年1月	<i>Org. Lett.</i> , 24
<i>An Ornithine-Free Gramicidin S Analogue Using Norleucine, Cyclo(Val-Mle-Leu-D-Phe-Pro)<sub>2</sub> Forms Helically Aligned <math>\beta</math>-Sheets</i>	共著	2021年12月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 69
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
生理活性ペプチドの効率的導出に向けたヘリカルテンプレートの開発		2023年5月	日本ケミカルバイオロジー学会 第17回年会
架橋部位を持つ五員環状アミノ酸によるAib配列ペプチドの二次構造変化		2023年5月	日本ケミカルバイオロジー学会 第17回年会
キラルな三員環状ジ置換アミノ酸を含むAibペプチドのコンフォメーション解析		2023年7月	第60回化学関連支部合同九州大会
Buforin IIをモデルとしたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの創製と評価		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
C18AAをモデルとしたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの合成と評価		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
Development of helical peptides utilizing aspartate picolyl ester as a side chain crosslink by metal ions.		2023年11月	第60回ペプチド討論会
$\alpha$ -トリフルオロメチル基を含む非天然アミノ酸の合成とペプチドステーブル化への影響		2023年11月	第40回日本薬学会九州山口支部大会
側鎖にピコリルエステルを含有するペプチドの金属イオンを介した側鎖架橋によるヘリックス構造の安定性評価		2024年3月	日本薬学会第144年会
両親媒性ペプチド中のアミノ酸側鎖環サイズが脂質二重膜へ及ぼす影響の評価		2024年3月	日本薬学会第144年会
両親媒性ヘリックスペプチド中のジ置換アミノ酸の導入位置による脂質二重膜への影響評価		2024年3月	日本薬学会第144年会
$\alpha$ -トリフルオロメチル $\alpha$ -(4-ペンテニル)グリシンの合成とペプチド側鎖架橋への応用		2024年3月	日本薬学会第144年会
架橋部位を有する環状ジ置換アミノ酸を導入したヘリカルペプチドによる不斉エポキシ化		2024年3月	日本薬学会第144年会
ヘリカルテンプレートペプチドの開発とDDSキャリアへの応用		2024年3月	日本薬学会第144年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2020年4月～2023年3月	大阪医科薬科大学評議員
2019年4月～2022年3月	日本薬学会代議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 教授	氏名 井上 晴嗣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月 2018年4月	生化学2の講義でクリッカー (respon) 導入 アカデミックスキルの講義でグループワーク導入	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年3月20日	レーニンジャーの新生化学 [上] 第7版 Chap. 14	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	~2021年3月 2021年4月~2022年3月 2018年4月~2020年3月 ~2020年3月	GBT実施部会責任者 GBT対策委員長 修学指導委員会委員長 広域大学連携事業代表教員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Chap. 14 解糖、糖新生およびペントースリン酸経路	共著	2019年3月	『レーニンジャーの新生化学 [上] 第7版』廣川書店
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月~現在	日本薬学会近畿支部委員		
2018年4月~現在	論文査読 (Toxins, Molecules, Biology, Processes, Apoptosis, Biochimie)		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



(論文) <i>α-Aminoisobutyric Acid-Containing Amphipathic Helical Peptide-Cyclic RGD Conjugation as a Potential Drug Delivery System for MicroRNA Replacement Therapy in Vitro.</i>	共著	2019年	<i>Molecular Pharmaceutics</i> , 16, 4542-4550 (2019).
(論文) <i>Enzymatic formation of consecutive thymine-Hg(II)-thymine base pairs by DNA polymerases.</i>	共著	2020年	<i>Chemical Communications</i> , 56, 12025-12028 (2020).
(論文) <i>Silver(I)-Ion-Mediated Cytosine-Containing Base Pairs: Metal Ion Specificity for Duplex Stabilization and Susceptibility toward DNA Polymerases.</i>	共著	2020年	<i>ChemBioChem</i> 21, 517-522 (2020).
(論文) <i>Effects of metal ions on thermal stabilities of DNA duplexes containing homo- and heterochiral mismatched base pairs: comparison of internal and terminal substitutions.</i>	共著	2020年	<i>Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids</i> 39, 310-321 (2020).
(著書) 「医薬品におけるDDS技術開発と製剤への応用」第3章 第3節 核酸医薬における化学修飾核酸の概要と研究開発	共著	2021年	情報機構
(著書) 「新規モダリティ医薬品のための新しいDDS技術と製剤化」第7章 第6節 Aib含有ペプチド性キャリアによる核酸医薬の細胞内移送技術	共著	2022年	技術情報協会
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ApoB標的アンチセンス核酸gap領域へのリン酸トリエステル修飾の導入と活性への影響		2023年7月	日本核酸医薬学会第8年会
Effect of lysine replacement with arginine in amphipathic helical peptide on siRNA delivery into cells		2023年11月	第60回ペプチド討論会
還元環境に応答するリンカーを有した5-aminolevulinic acid-環状 RGDコンジュゲート体の合成		2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2002年～現在	新エネルギー・産業技術総合開発機構事前評価者		
2019～2020年	大学基準協会 大学評価委員		
2023年～	薬学共用試験センター財務委員会地区委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪医科薬科大学	講座名	有機薬化学研究室
職名	教授	氏名	宇佐美 吉英
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	令和2、3年 令和2年— 令和4年	遠隔授業で板書しながらの通常講義を配信した。 Formsによる課題提出を課した。 精密有機合成化学テキストを作成した。
2	作成した教科書、教材、参考書	令和4年9月  令和2年—	精密有機合成化学テキスト (オリジナル)  Forms課題回答例: pdf (有機化学2、1.5単位および 2単位ものは2回配信、精密有機合成化学1回配信)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	毎年参加している と 思います  2021年、2022年4月  2023年3月  2023年3月	FD講演会に参加、遠隔を含む  3学部合同新入生導入教育チューター 統合薬学演習ファシリテーター 新モデルコアカリキュラム学内ワークショップ参加
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)
			発行所、発表雑誌 (巻・ 号数) 等の名称
	Synthesis of 5,6-Dihydro-4H-pyrrolo[1,2-b]pyrazoles and Homologous Cyclic Pyrazoles from 5-Substituted 2-(Alkynyl)tetrazoles via Microwave-induced Intramolecular Nitrile Imine-Alkyne 1,3-Dipolar Cycloaddition	共著	2023年3月  Synthesis vol.55
	Enantiomeric composition of natural pericosine A derived from Periconia byssoides and □-glycosidase inhibitory activity of (-)-enantiomer	共著	2022年10月  Chirality vol. 34, No. 10
	Design, synthesis, and evaluation of new vanin-1 inhibitors based on RR6	共著	2022年6月  Bioorg. Med. Chem. vol. 65
	CuI-Catalyzed Coupling Reactions of 4-Iodopyrazoles and Alcohols: Application toward Withasomnine and Homologs	共著	2021年6月  Molecules vol.26
	Transformation of ketoaldehyde acetals into 3-substituted-2-cyclopentenones via cyanophosphates under neutral conditions	共著	2021年2月  Tetrahedron vol. 82, No.26
2.	学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月
			学会名
	Rancinamycin 1a の合成研究		2023年10月  第73回日本薬学会関西支部大会
	フッ素置換基を有するパンテイン誘導体の開発と vanin-1 阻害作用の構造活性評価		2023年10月  第73回日本薬学会関西支部大会
	ヒト血清中アピラテロンの未知代謝物の同定と合成		2023年10月  第73回日本薬学会関西支部大会
	腎疾患治療薬開発を指向したパンテイン類縁体の合成と vanin-1阻害活性の評価		2023年11月  第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
	触媒的不斉アザマイケル反応を用いた不斉四級炭素構築法の検討		2023年11月  第49回反応と合成の進歩シンポジウム
	アピラテロンの新規代謝物の合成研究		2024年3月  日本薬学会第144年会

α-ケトビニルカルビノール部分構造を有するβ-クロペンテノン型天然物の合成研究	2024年3月	日本薬学会第144年会
ヒト血清中のアビラテロン未知代謝物の構造解析	2023年5月	第71回質量分析総合討論会
腎疾患治療薬開発を指向した新規vanin-1阻害剤の創製	2023年8月	第28回病態プロテアーゼ学会 学術集会
Identification of unknown metabolites of abiraterone in human serum	2023年10月	3rd International BMS Symposium
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2008年～現在	Marine Drugs 編集委員	
2016年4月～2019年3月	日本薬学会学術論文編集委員	
2019年1月～現在	日本薬学会関西支部委員	
2023年1月～現在	日本薬学会代議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 生薬科学研究室	職名 教授	氏名 谷口 雅彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年7月20日	スタンダード薬学シリーズII 3、化学系薬学 III. 自然が生み出す薬物、第3章 生薬の基原と用途 生薬各論③～④
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) New 5-Aryl-Substituted 2-Aminobenzamide-Type HDAC Inhibitors with a Diketopiperazine Group and Their Ameliorating Effects on Ischemia-Induced Neuronal Cell Death	共著	2018年	Sci. Rep., 8:1400, 2018
(論文) Anti-inflammatory effects of flavonoids in Citrus jabara fruit peels	共著	2020年	Trends in Immunotherapy, 4, 5-14, 2020.
(論文) Effects of Perilla frutescens var. crispa herb extract, the essential oil perillaldehyde, and the caffeoyltannin rosmarinic acid on gastric emptying and gastrointestinal motility in mice	共著	2021年	Traditional & Kampo Medicine, 8, 194-203, 2021.
(論文) Daily intake of Citrus jabara fruit peel powder (Japanese Patent No. 5,323,127) improves allergy-like symptoms: A randomized double-blind parallel-group comparative study	共著	2021年	Trends in Immunotherapy, 5, 21-31, 2021.
(論文) Activation of proteinase-activated receptor-2 (PAR-2) simultaneously induces interleukin 8 (IL-8) and suppresses monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) in HaCaT cells	共著	2022年	Trends in Immunotherapy, 6, 41-49, 2022.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Picrasidine L の p53/DRAM 経路を介したオートファジー誘導メカニズムについて		2023年9月	日本生薬学会 第69年会
柑橘ジャバラ果皮成分による黄砂誘導性炎症反応の抑制		2023年9月	日本生薬学会 第69年会
酸棗仁由来アボルフィンアルカロイドと相互作用する神経変性疾患関連分子の探索		2024年3月	日本薬学会第144年会
オゾンガスによる環境アレルゲンの失活		2024年3月	日本薬学会第144年会
ルテニウムポリピリジル錯体の疎水性評価と抗がん活性		2023年9月	錯体化学会 第73回討論会
ルテニウムポリピリジル錯体の抗がん活性		2024年1月	関西大学・大阪医科薬科大学医薬工業連携科学研究機構研究発表会
Inflammation of epidermal keratinocytes induced by various indoor air pollutants and its suppression by naringenin.		2023年5月	International Societies for Investigative Dermatology (ISID) 2023
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年4月～現在	日本生薬学会関西支部委員		
2012年4月～現在	漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習・講師		
2013年4月～現在	日本生薬学会・代議員		
2013年4月～現在	日本薬学会関西支部委員		
2013年4月～現在	生薬分析シンポジウム・幹事		
2015年4月～現在	大阪生薬協会・顧問		
2017年4月～2020年3月	日本薬学会・学術編集委員		
2017年4月～2020年3月	生薬分析シンポジウム・事務局長		
2022年2月～現在	日本生薬学会・理事		
2022年4月～現在	日本生薬学会関西支部・支部長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授	氏名 岩永 一範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
「臨床薬学概論」における学生の集中力向上	2023年4月～	多くの科目にまたがる知識を統合して理解できるように講義内容に改善した。	
「コミュニケーション」授業内容の変更	2021年4月～	ファーマシューティカルコミュニケーションの内容を取り入れ、より実践的な内容に変更した。	
「アドバンスト薬物治療学3」における理解度改善	2020年4月～	研究例を取り入れた題材をより多く用いることによって、理科度の改善を行った。	
「医療薬剤学」における理解度改善	2018年4月～	関連科目の復習を多く取り入れることにより理解度の改善を行った。	
臨床導入学習1における学生の取り組み方の改善	2018年4月～	薬局・病院薬剤師それぞれに関連する項目に分け、全体の流れを想定して学習できるよう内容を変更した。	
臨床導入学習2における理解度改善	2018年4月～	臨床導入学習1との連続性を意識させることにより技能・態度を図った。	
薬学総合演習における成績向上の取り組み	2018年4月～	多くの科目にまたがる知識を統合して理解できるように講義内容に改善した。	
特別演習・実習1、2における学生の取り組み方の改善	2018年4月～	学会発表の機会を作ることにより、研究内容のより深い理解と研究の楽しさを伝えられるよう工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
日本薬剤学会第38年会薬学教育シンポジウム	2023年5月17日	同シンポジウムのオーガナイザーとして企画・運営を行った	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
OSCE実施責任者	2019年2月～	OSCEの公平で公正な実施のための計画・運営を通じて事前学習の適正評価に努めた	
市民講座委員会委員長	2021年4月～2022年3月	医療、健康に関する講座を企画運営し、市民の健康教育の推進と意識の向上に努めた	
国家試験対策委員長	2016年4月～2020年3月	授業・模試受験の企画運営を行い国家試験の合格率向上に努めた	
認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	2009年5月～2018/10月	タスクフォースとして参加し、実務実習認定指導薬剤師の養成に努めた	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Safety profiles of new xanthine oxidase inhibitors: A post-marketing study.</i>	共著	2021年5月	<i>Int J Clin Pharmacol Ther.</i> 59:372-377.
<i>Drug-induced Neuropsychiatric Adverse Events Using Post-Marketing Surveillance</i>	共著	2021年2月	<i>Curr Rev Clin Exp Pharmacol.</i> , 17(2):144-148.
<i>Pharmacokinetic-pharmacodynamic modelling of the hypoglycaemic effect of pulsatile administration of human insulin in rats</i>	共著	2020年11月	<i>Sci. Rep.</i> , Nov 2:10(1):18876.
<i>Evaluation of the changes in exposure to thiol compounds in chronic kidney disease patients using the PBPK model</i>	共著	2020年8月	<i>Xenobiotica</i> , 51: 31-39.
<i>The influence of multiple oral administration on the pharmacokinetics and distribution profile of dalcetrapib in rats</i>	共著	2020年8月	<i>Xenobiotica</i> , 51: 82-87.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
点鼻剤を経口剤の代替製剤とするための基礎検討～剤形による薬物吸収速度の制御～	2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
ARB/カルシウム拮抗薬配合錠の処方歴と血圧の変化との関連解析	2023年6月	日本医療薬学会 第6回 フレッシュヤーズ・カンファランス（京都）
ペクチン添加量の違いによる溶液中レボドパ濃度の評価	2023年6月	日本医療薬学会 第6回 フレッシュヤーズ・カンファランス（京都）
80歳以上の高血圧患者におけるARB/サイアザイド系利尿薬配合錠開始後の血圧値の分類変化	2023年6月	日本医療薬学会 第6回 フレッシュヤーズ・カンファランス（京都）
食道癌FP療法施行患者における術後回復期以降のプラチナ血中濃度推移と臨床検査値との関連解析	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会・総会
HIV薬物療法における使用薬剤の簡易懸濁法可否に関する検討ードルテグラビルの溶解性に及ぼすラミブジン・アバカビル硫酸塩配合剤の影響ー	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会・総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2022年11月	健康マスター関西会 講演	
2020年4月～現在	日本薬剤学会 教育分科会 代表世話人	
2014年4月～現在	日本薬剤学会 代議員	
2014年1月～現在	日本薬物動態学会 評議員	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床漢方薬学研究室	教授	氏名 芝野 真喜雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)  生薬学 基礎漢方薬学	2018年～	<p>現代医療において漢方薬の作用が注目され、その特性を治療に上手く活用できる知識が求められている。しかしながら、大学で「生薬学」を懸命に学んでも全く「漢方薬」を理解することが出来ないという大きな問題があった。</p> <p>これらの背景と医療現場の多くの薬剤師の先生方の意見をもとに、大学教育で「漢方薬」が理解できるカリキュラムの構築を図った。生薬学では、薬学モデル・コアカリキュラムに従い、生薬の科学的なエビデンスを重要視しながら、東洋医学的な観点である「生薬の経験的薬効(薬能)」をシラバスに組み入れ、現代医学的思考と漢方医学的思考のバランスを整えながら一歩踏み込んだ内容とした。続いて、「生薬学」から「基礎漢方薬学」へという学びの流れを作成し、学生に過度な負担をかけることなく「漢方薬」を系統的に学べる様に工夫を凝らした。また、臨床応用の観点から6年生の選択科目として「漢方医学概論」を設定し、臨床医から多くの症例を学べる機会を設定した。</p> <p>授業評価アンケートでは、各学年の科目平均点を大きく上回り、ベストティチャーも受賞した。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書 ミニマムファクター漢方生薬学 (京都廣川書店) ミニマムファクター漢方生薬学 第2版 (京都廣川書店)	2019年3月 2022年3月	生薬学と漢方薬学を融合させた教科書を作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Antioxidant properties and applications of <i>Ophiopogon japonicus</i> root for age-related disease	共著	2020年	Aging: Oxidative Stress and Dietary Antioxidants 2nd. Edition (Elsevier) Chapter 27, 275-282.
(論文) Anti-inflammatory activities of <i>Ophiopogonis Radix</i> on hydrogen peroxide-induced cellular senescence of normal human dermal fibroblasts.	共著	2018年	J. Nat. Med. 72(4): 905-914
(論文) Phytochemical characterization of <i>Rosa multiflora</i> Thunb. (Rosaceae) in Japan and South Korea, with a focus on the bioactive flavonol glycoside 'multiflorin A'	共著	2019年	J. Nat. Med. 73(3):555-565
(論文) 秋田県美郷町における甘草生産の試み(1): ウラルカンゾウ ( <i>Glycyrrhiza uralensis</i> Fischer) 実生株からの個体選抜	共著	2020年	薬用植物研究 43(1), 10-20
(論文) Seasonal variation in the total saponin content of platycodon roots cultivated in Japan	共著	2023年	J Nat Med, 77: 64-72

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
六味地黄丸の老化細胞に対する抗炎症効果	2023年9月	第69回生薬学会年会
ジャノヒゲとセッコウリュウノヒゲの実証栽培試験より得られた課題と考察について	2023年12月	薬用植物栽培研究会第5回研究総会
キキョウの種子生産とその出芽特性について(その2)	2023年12月	薬用植物栽培研究会第5回研究総会
秋田県美郷町におけるエイジツ生産の試み ノイバラ真果におけるmultiflorin類の季節的変動	2023年12月	薬用植物栽培研究会第5回研究総会
ジャノヒゲにおけるキトサンおよび酸化型グルタチオン処理が根の膨大部形成に及ぼす影響	2023年12月	薬用植物栽培研究会第5回研究総会
加熱処理生薬・清炒麻黄の標準化 -分光測色計を用いた色による規定-	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2022年1月～現在	公益社団法人「東京生薬協会」栽培指導員	
2019年7月～現在	「薬用植物研究」編集委員長	
2015年より継続	滋賀県草津市「草津あおばな会」顧問	
2015年より継続	薬用植物栽培研究会（役員）	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 教授	氏名 宮崎 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 定期試験の妥当性の客観的評価 反転授業による予習中心の学習サイクルの構築	2018年4月～現在 2018年4月～現在	S-P表分析による問題、採点、成績の妥当性確認 予習成果に応じた学生ファーストな授業の実施	
2 作成した教科書、教材、参考書 ICTによる予習復習支援システムの開発と運用 生理学的モデル学習用シミュレーターの開発	2018年4～7月 2022年3月	Google Forms, Siteによる開発 自習用シミュレーター	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 IR研修会講師 医療系大学のための教学IRセミナー講師	2019年9月25日 2021年10月20日	学生の読解力と学内成績との関係 薬学部とIR	
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD活動：データサイエンス通信教育受講と修了 FD活動：多変量データ解析通信教育受講と修了	2020年7月 2021年3月	gacco利用 gacco利用	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 薬学部学生の読解力と学内成績および薬剤師国家試験成績との関係	単著	2023年	薬学教育 (in press)
(論文) 初年度教育「アカデミックスキル」の効果解析	共著	2021年	大阪薬科大学紀要 (第15号)
(論文) Pharmacokinetic-pharmacodynamic modelling of the hypoglycaemic effect of pulsatile administration of human insulin in rats	共著	2020年11月	Scientific Reports (18876)
(論文) 添付文書の読み解き方に関する卒後研修会の評価(第2報)～受講前後における「薬物動態」及び「臨床成績」に対する認識の変化～	共著	2019年	大阪薬科大学紀要 (第13号)
(論文) 心臓移植後患者にお心臓移植後患者における母集団薬物動態解析を用いたミコフェノール酸AUC0-12h推定法の検討	共著	2019年1月	医療薬学 (第45巻第1号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬物動態パラメータの生体リズムは血中薬物濃度推移にどのような影響を与えるか?		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1990年4月～現在	日本薬学会会員		
2007年～現在	日本時間生物学会評議委員		
2020年～現在	日本薬学会関西支部委員		
2021年2月～2023年3月	日本薬学会代議委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪医科薬科大学	講座名	社会薬学・薬局管理 理学研究室
職名	教授	氏名	恩田 光子
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～現在 2018年～現在 2018年～現在	薬事関連法・制度(4年次必修科目) コミュニティファーマシー(4年次必修科目) 臨床導入学習1, 2(4年次必修科目)
2	作成した教科書、教材、参考書	2018年～2022年	臨床導入学習1ノート(学内)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬学生・薬剤師に実践的なEBM教育を進めていこう! 4年次臨床導入学習における反転授業を利用したEBM演習の取り組み	2018年5月	薬学雑誌138巻5645-647 日本薬学会年会137年会
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年～2019年 2018年～現在 2018年～現在	FD委員会委員 教務部委員会委員 OSCE実施部会委員、SP養成ワーキング委員長
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦) 発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
	(著書) 薬事法規・制度・倫理マニュアル	共著	2021年4月 南山堂
	(著書) 社会・環境と健康(公衆衛生学)	共著	2021年4月 化学同人
	(論文) Study of pharmacist intervention in polypharmacy among older patients: Non-randomized, controlled trial	共著	2019年12月 Geriatr Gerontol Int., doi:10.1111/ggi.13850
	(論文) A Pragmatic Pilot Cluster-Randomized Study of Tobacco Screening and Smoking Cessation Program for Community Pharmacies in Japan: FINE Program	共著	2021年3月 J Smok Cessat., doi:10.1155/2021/9983515.
	(論文) Impact of interventions by a community pharmacist on care burden for people with dementia: development and randomized feasibility trial of an intervention protocol	共著	2022年6月 Pilot Feasibility Stud. Jun 2:8(1):118, doi:10.1186/s40814-022-01071-7
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	薬局薬剤師と管理栄養士の実症例を通した連携学習「くすりと食事研究会」の実施及び評価	2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会
	地域薬局における骨粗鬆症の予防・啓発活動に関するスコーピングレビュー	2023年11月	第33回日本医療薬学会
	薬局管理栄養士と薬剤師の協働による高血圧症患者の食事支援効果の検証—スタディプロトコル	2023年9月	日本社会薬学会第41年会
	薬局薬剤師と薬局管理栄養士の協働による治療効果に関するスコーピングレビュー	2024年3月	日本薬学会第144年会
	薬局薬剤師による糖尿病患者に対する運動療法、健康教室の効果に関するスコーピングレビュー	2024年3月	日本薬学会第144年会
	認知症患者に対する家族介護者の服薬介助の負担感と影響要因	2024年3月	日本薬学会第144年会
	有害事象自発報告データベースおよびレセプトデータベースを用いたジバプチルペプチダーゼ-4阻害薬による上部消化管症状発現リスクの解析	2024年3月	日本薬学会第144年会
	調剤前確認を取り入れた副作用モニタリングプログラムに対する患者及び薬剤師の評価	2023年10月	第17回日本薬局学会学術総会
	薬学部生に対する認知行動変容アプローチに基づく服薬支援演習の実施報告-受講者の立場から-	2023年11月	第17回日本薬局学会学術総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～2019年3月	厚生労働省薬剤師国家試験委員		
2018年4月～現在	厚生労働省薬事・食品衛生審議会薬事分科会委員		
2018年4月～現在	日本老年薬学会 理事		
2018年4月～現在	日本社会薬学会 理事		
2022年4月～現在	薬学教育協議会「社会と薬学」教科担当教員会議世話人		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬品作用解析学研究室	職名 学部長・教授	氏名 大野 行弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)			「薬理学3」、「機能形態学1」、「機能形態学2」、「創薬薬理学」などの科目について、Web配信授業のコンテンツを作成してコロナ禍でのICT教育を推進した。  機能形態学1・2の関連実習として、献体を使用した人体解剖見学実習を医学部協力のもと実施し、解剖学的知識のみでなく、生命の尊厳と医療人としての責任について教育した
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年	共著(第5章担当)で「疾患薬理学(改訂版)」(メオメディカル)を出版した
		2019年1月	共著(第1章担当)で「ペランパネルによるてんかん治療のストラテジー」(先端医学社)を出版した
		2019年8月	共著(第1章担当)で「臨床薬学テキストシリーズ:神経・筋・精神・麻酔・鎮痛」(中山書店)を出版した
		2018年11月	共著(第1章担当)で「臨床薬学テキストシリーズ:薬物治療総論/症候・臨床検査/個別化医療」(中山書店)を出版した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2020年9月23	「てんかんの薬物治療と新たな創薬展開」と題する医療記事が「薬事日報」第12359号(4-5面)に掲載された
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Mechanisms Underlying Dopaminergic Regulation of Nicotine-Induced Kinetic Tremor.	共著	2022年6月	Front. Pharmacol., 13, 938175
(論文) Emerging roles of astrocytic Kir4.1 channels in modulating brain diseases.	共著	2021年9月	Int. J. Mol. Sci., 22, 10236
(論文) Role of astrocytic inwardly rectifying potassium (Kir) 4.1 channels in epileptogenesis.	共著	2020年12月	Front. Neurol., 11, 626658
(論文) Increased seizure sensitivity, emotional defects and cognitive impairment in PHD finger protein 24 (Phf24)-null rats	共著	2019年4月	Behav. Brain Res., 369, 111922
(論文) Treatment of Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia (BPSD): Management of Extrapyramidal Side Effects.	共著	2019年9月	Front. Pharmacol., 10, 1045
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
抗てんかん薬の反復的投与によるけいれん発作の予防効果および神経興奮性及ぼす影響		2023年6月	第143回日本薬理学会近畿部会

ニコチンによる運動興奮症状の発現におけるアストロサイトの関与	2023年6月	第143回日本薬理学会近畿部会
ニコチンによる運動興奮症状発現におけるアストロサイト活性化の役割	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会大会
フルオロクエン酸投与によるアストロサイト不活性化モデルの作成	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会大会
抗LGI1抗体の海馬内投与マウスにおけるけいれん感受性の評価	2023年11月	第53回日本臨床神経生理学会学術大会
Effect of the Kir4.1 blocker, quinacrine, on lipopolysaccharide-induced cognitive impairment	2023年12月	第97回日本薬理学会年会
Effects of the intrahippocampal injection of anti-Lgi1 antibody on cognitive function and seizure susceptibility in mice	2023年12月	第97回日本薬理学会年会
神経炎症を伴う認知機能障害に対するKir4.1チャンネル阻害薬の作用評価	2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
フルオロクエン酸によるアストロサイトの不活性化がペンチレンテトラゾール誘発けいれんに及ぼす影響	2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
Kir4.1チャンネル阻害薬quinacrineの抗うつ効果におけるアストロサイトの関与	2024年3月	日本薬学会第144年会
Kir4.1チャンネル阻害薬quinacrineの神経炎症を伴う認知機能障害に対する改善作用	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2021年4月～現在	全国薬科大学長・薬学部長会議 理事	
2020年9月～現在	医薬品医療機器総合機構（PMDA）専門委員	
2018年4月～現在	日本薬理学会 代議員、学術評議員、編集委員会委員、J. Pharmacol. Sci., Editor	
2022年4月～現在	日本薬学会 代議員、近畿支部委員、学会誌編集委員	
2019年4月～現在	関西広域連合 登録販売員試験委員	
2017年4月～2022年3月	厚生労働省 薬剤師国家試験委員	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 病態生化学研究室	職名 教授	氏名 藤森 功
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Leukotriene C4 synthase is a novel PPAR $\gamma$ target gene, and leukotriene C4 and D4 activate adipogenesis through cysteinyl LT1 receptors in adipocytes.	共著	2022年3月	Biochim. Biophys. Acta Mol. Cell Res. 1869: 119203
(総説) Prostaglandin D2 and F2 $\alpha$ as regulators of adipogenesis and obesity.	単著	2022年8月	Biol. Pharm. Bull. 45: 985-991
(論文) Glycyrrhizic acid suppresses early stage of adipogenesis through repression of MEK/ERK-mediated C/EBP $\beta$ and C/EBP $\delta$ expression in 3T3-L1 cells	共著	2021年9月	Chem. Biol. Interact. 346: 109595
(論文) Formononetin attenuates H2O2-induced cell death through decreasing ROS level by PI3K/Akt-Nrf2-activated antioxidant gene expression and suppressing MAPK-regulated apoptosis in neuronal SH-SY5Y cells	共著	2021年7月	Neurotoxicology 85: 186-200
(論文) Protection of 6-OHDA neurotoxicity by PGF2 $\alpha$ through FP-ERK-Nrf2 signaling in SH-SY5Y cells	共著	2021年2月	Toxicology 450: 152686
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
肥満によるエストロゲン受容体陽性乳癌のTamoxifen耐性獲得機構の解明		2023年5月	第69回日本生化学会近畿支部例会
H-PGDS阻害剤による急性膵炎の抑制機構の解析		2023年5月	第69回日本生化学会近畿支部例会
肺線維症急性増悪における炎症誘導機構の解析		2023年5月	第69回日本生化学会近畿支部例会
H-PGDS阻害剤は急性膵炎の炎症を抑制する		2023年6月	第65回日本脂質生化学会
肥満による乳癌の薬剤耐性獲得におけるHippo経路の関与		2023年6月	第65回日本脂質生化学会
H-PGDS阻害剤によるセルレイン誘発性急性膵炎の炎症制御機構の解析		2023年9月	第22回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム2023
薬剤誘導性肺線維症の急性増悪機構の解析		2023年9月	第22回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム2023

肥満によるエストロゲン受容体陽性乳癌のホルモン療法耐性獲得機構の解明	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
癌微小環境において脂肪細胞がトリプルネガティブ乳癌の転移能に与える影響	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
Necrosulfonamideによるすい臓がん細胞株の細胞死誘導機構の解析	2023年10月	第96回日本生化学会大会
脂肪細胞の培養上清を加えて培養することによる ER陽性乳癌のTamoxifen耐性にHippo経路が関係する	2023年10月	第96回日本生化学会大会
癌微小環境における脂肪細胞によるトリプルネガティブ乳癌細胞の遊走促進	2024年3月	日本薬学会第144年会
肥満がブレオマイシン誘導性肺線維症に及ぼす影響の解析	2024年3月	日本薬学会第144年会
H-PGDS阻害剤による急性膵炎の炎症制御	2024年3月	日本薬学会第144年会
脂肪細胞によるエストロゲン受容体陽性乳癌のタモキシフェン耐性の獲得	2024年3月	日本薬学会第144年会
膵臓がん細胞におけるnecrosulfonamideの細胞死誘導機構の解析	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2023年1月～現在	日本薬学会 代議員	
2020年4月～現在	日本薬学会 生物系薬学部会 常任世話人	
2018年4月～現在	日本生化学会 評議員	
2017年4月～現在	薬学教育協議会 生化学分野教科担当教員会議 委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 病態分子薬理学研究室	職名 教授	氏名 大喜多 守
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書 「新しい薬理学」西村書店	2018年5月15日	「コリン作用薬」「抗コリン作用薬」を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Acute Kynurenic Exposure of Rat Thoracic Aorta Induces Vascular Dysfunction via Superoxide Anion Production.	共著	2022年4月	Biol Pharm Bull, 45:522-527
(論文) Indoxyl sulfate induces ROS production via the aryl hydrocarbon receptor-NADPH oxidase pathway and inactivates NO in vascular tissues.	共著	2021年1月	Life Sci. 265:118807
(論文) Grape Extract from Chardonnay Seeds Restores Deoxycorticosterone Acetate-Salt-Induced Endothelial Dysfunction and Hypertension in Rats.	共著	2020年1月	Biol Pharm Bull, 43(1):59-67
(論文) Preventive Effects of Grape Extract on Ischemia/Reperfusion-Induced Acute Kidney Injury in Mice.	共著	2019年11月	Biol Pharm Bull. 42(11):1883-1890
(論文) Involvement of $\gamma$ -Glutamyl Transpeptidase in Ischemia/Reperfusion-Induced Cardiac Dysfunction in Isolated Rat Hearts.	共著	2019年11月	Biol Pharm Bull. 42(11):1947-1952
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬の冠攣縮性狭心症治療薬としての可能性		2023年8月	生体機能と創薬シンポジウム2023
モノクロタリン誘発肺高血圧症に対するビートルートジュース摂取の治療効果		2023年9月	第45回日本高血圧学会総会
冠攣縮に対する可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬の有用性		2024年1月	第33回日本循環薬理学会
虚血性急性腎障害に対する可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬の影響		2024年1月	第33回日本循環薬理学会
高齢マウスの血管老化に対するビートルートジュース摂取の効果		2024年2月	第53回日本心脈管作動物質学会
可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬のブタ冠動脈および冠静脈に対する弛緩作用の比較		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会

Roxadustat がラット胸部大動脈の血管緊張調節に及ぼす影響	2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬が虚血性急性腎障害に及ぼす影響	2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
尿毒素キヌレニンが血管機能に及ぼす影響	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2008年3月～現在	日本薬理学会評議員	
2010年10月～現在	大阪信愛学院大学（旧大阪信愛女学院短期大学）看護学科非常勤講師	
2021年7月～現在	日本心脈管作動物質学会評議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪医科薬科大学	講座名	生化学研究室
職名	教授	氏名	福永 理己郎
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
(論文) A simple, rapid, and efficient method for generating multigene-knockout culture cells by the CRISPR/Cas9 system.	共著	in press	Wiley-Blackwell, Genes to Cells
(論文) MAPK-interacting kinase 1 regulates platelet production, activation, and thrombosis.	共著	2022年12月	American Society of Hematology, Blood, 140, 2477-2489
(論文) Circadian activities of the brain MNK - eIF4E signalling axis contribute to diurnal rhythms of some cognitive functions.	共著	2022年8月	Wiley-Blackwell, Eur. J. Neurosci., 56, 3553-3569
(論文) Ep400 deficiency in Schwann cells causes persistent expression of early developmental regulators and peripheral neuropathy.	共著	2019年5月	Nature Research, Nat. Commun. 10, 2361-2374
(論文) Chromatin remodeler Ep400 ensures oligodendrocyte survival and is required for myelination in the vertebrate central nervous system.	共著	2019年7月	Oxford Academic, Nucl. Acids Res. 47, 6208-6224
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
炎症応答におけるストレス応答プロテイン キナーゼ(SAPK)ファミリーの機能- ヒト単球系細胞株THP-1の多重遺伝子ノックアウト細胞を用いた解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
Jun/Fosファミリー遺伝子の多重ノックアウトHeLa細胞を用いたAP-1標的遺伝子の発現応答性の解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
RSK/MSKファミリーキナーゼの多重ノックアウトHeLa細胞の作成と解析 - CRISPR/Cas9による多重ノックアウト法を用いて-		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
初期応答遺伝子誘導におけるストレス応答プロテインキナーゼの役割分担の解析		2023年10月	第96回日本生化学会大会
MAPKAPキナーゼファミリー遺伝子の網羅的多重ノックアウトHeLa細胞を用いたシグナル経路の解析		2023年12月	第46回日本会分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月~2022年3月	日本薬学会関西支部委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 言語文化学グループ	職名 教授	氏名 スミス 朋子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2018年～2023年 現在	担当英語科目に於いて、ペアワーク、グループワーク、ピアエディティング、プレゼンテーション、ロールプレイなどアクティブラーニングを取り入れている。	
	2018年～2023年 現在	自律学習を促すために授業の一部では、タスク活動(task based learning)を取り入れている。	
	2020年5月～ 2023年現在	スマートフォン語彙学習アプリを教材として利用している。	
	2020年5月～ 2020年12月	MS Teams, Ms Formsなどを利用してオンデマンド授業を運営した。	
	2021年4月～ 2023年現在	MS TeamsをLearning Management Systemとして利用し、MS Formを一部の課題に用い授業運営を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年9月30日	共著で『これからの薬学英語』（講談社）を出版した。	
	2020年5月	共著で、医学薬学専門語彙学習アプリ iOS, Android版 “Medical Terminology: Affixes” をリリースした。	
	2020年9月	共著で、医学薬学専門語彙学習アプリ iOS, Android版 “Medical Terminology: Basic” をリリースした。	
	2021年3月	共著で、医学薬学専門語彙学習アプリ iOS, Android版 “Medical Terminology: Subtechnical” をリリースした。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年9月1日	日本薬学教育学会第3回大会で、「薬学系大学生対象の多義語の習得を中心とした英語専門用語の指導の試み」と題して発表した。	
	2019年2月23日	JACET関西ESP SIG 第4回研究会で、「薬学系大学生のための専門語彙教材開発と効果の検証」と題して発表した。	
	2019年8月25日	日本薬学教育学会第4回大会で、「大阪薬科大学応用薬学科目「薬学英語」における取り組み—質問紙法による受講生の授業評価—」と題して発表した。	
	2020年9月12・ 13日	日本薬学教育学会第5回大会で、「大阪薬科大学応用薬学科目「薬学英語」における取り組み—質問紙法による受講生の授業評価—」と題して発表した。	
	2020年12月6日	第3回JAAL in JACET 学術交流集会で、「薬学系大学生のための 専門語彙学習アプリの開発と評価：語構成 (affix) から学ぶ専門用語」と題して発表した。	
	2021年8月22日	日本薬学教育学会第6回大会で、「2020年度薬学系大学生のための専門語彙学習アプリの導入と評価」と題して発表した。	
	2022年3月27日	日本薬学会第142年会で、「多義語である英語医療用語の習得に関する予備的研究」と題して発表した。	

	2022年7月30日	大学英語教育学会（JACET）関西支部 ESP研究会 2022年度第1回研究会で、「多義語である英語医療用語の習得と学習者の意識調査」と題して発表した。	
	2023年3月4日	2022年度 大学英語教育学会（JACET）関西支部大会で、「カタカナ語の対応がある医療専門語彙の発音の学習」と題して発表した。	
	2023年3月26日	日本薬学会第143年会で、「英語医療専門用語指導における発音指導の重要性の検証」と題して発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2022年5月22日	大阪医科薬科大学薬学部サテライトセミナー「薬剤師のための実践英語ワークショップ：初回面談・OTC販売」において講師を務めた。	
	2022年10月29日	医療系学生・医療従事者のための医療通訳入門セミナーの企画・運営及び講師を務めた。	
	2022年10～11月	国連大学SDG-UPによる「国連SDGs入門」で薬学部受講生担当教員を務めた。	
	2018年4～2023年5月現在	課外活動としての英会話講座E-chatの企画運営を行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）意味と発音に焦点を当てた薬学生の専門用語の語彙習得について	共著	2020年3月	大阪薬科大学紀要、Vol.14
（論文）訪日外国人の日本における薬局利用状況と傷病時の対処行動に関する調査	共著	2020年3月	大阪薬科大学紀要、Vol.14
（論文）英語医療用語における多義語の習得と学習者の意識調査	共著	2023年3月	大阪医科薬科大学 薬学部雑誌、Vol.2
（論文）英語医療用語における多義語の習得と学習者の意識調査	共著	2023年3月	大阪医科薬科大学 薬学部雑誌、Vol.2
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
大学の化学の教科書にみるカタカナ語の使用の分析		2024年3月	第1回タイ国日本語教育国際シンポジウム
Acquisition of the meanings of medical terms with katakana counterparts		2023年7月	The 26th JASMEE Academic Meeting
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2002年1月～2023年5月現在	みのお外国人医療サポートネット会員（運営委員・2022年度：書記）		
2018年4月～2019年3月	大学英語教育学会（JACET）JACET関西支部紀要 査読委員		
2019年4月～2023年3月	大学英語教育学会（JACET）関西支部 ESP研究会 副代表		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 製剤設計学研究室	職名 教授	氏名 戸塚 裕一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書 広義 製剤学 第2版 (京都廣川書店) 基礎から学ぶ製剤化のサイエンス (ELSEVIER)		2022年8月26日 2021年9月1日	製剤設計学の授業に適した教科書の作成 物理薬剤学の授業に適した教科書の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
(総説) A review of transglycosylated compounds as food additives to enhance the solubility and bioavailability of active components with poor aqueous solubility	共著	2022年6月	Crit. Rev. Food Sci. Nutr
(論文) Tuning Phytyglycogen Size and Aggregate Structure with Solvent Quality: Influence of Water-Ethanol Mixtures Revealed by X-Ray and Light Scattering Techniques	共著	2023年4月	Biomacromolecules, 24, 225-237
(論文) In silico evaluation of particle transport and deposition in the airways of individual patients with chronic obstructive pulmonary disease	共著	2022年8月	Euro. J. Pharm. Biopharm., 174, 10-19
(論文) Modulating Pore Space Architecture of Ice-Templated Dextran Microparticles Using Molecular Weight and Concentration	共著	2022年6月	Langmuir, 38, 6741-6751
(論文) Porous Particles and Novel carrier particles with enhanced penetration for efficient pulmonary delivery of antitubercular drugs	共著	2021年6月	Euro. J. Pharm. Biopharm., 167, 116-126
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
グリチルリチン酸モノアンモニウムが形成するゾルおよびゲルの物性に関する検討.		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
重水素化フルルビプロフェンの物理化学的性質および膜透過性の評価.		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
乾式コーティングによる不快な味抑制微粒子の設計と味覚センサー評価.		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
アミロイドナノフィブリルをバインダーとした薬物含有超微粒子集合体.		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
シクロデキストリンによるブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボンの可溶化.		2023年9月	第39回シクロデキストリンシンポジウム
グリチルリチン酸モノアンモニウムの分子集合体形成と薬物の可溶性機構の検討		2023年10月	73回日本薬学会関西支部会
乾式コーティング法によるマスキング微粒子設計の最適化と味評価.		2023年11月	第40回製剤と粒子設計シンポジウム
生体適合・生分解性CD-MOFの合成の洗浄レス化と医薬応用.		2023年11月	第39回ゼオライト研究発表会
メカノケミカル法を用いた CD-MOF の合成と薬物導入.		2023年12月	第36回日本吸着学会
噴霧乾燥法による4-aminosalicylic acid-isoniazid共結晶吸入製剤の設計.		2024年3月	日本薬学会第144年会
Carvedilolを含有した様々な粒子形態を持つSupraparticlesの作製.		2024年3月	日本薬学会第144年会
A jelly formulation design for suppressing bitter taste of catechin.		2023年9月	20th APCChE2023
Design of jelly formulations improved solubility of poorly-water soluble polyphenols.		2023年9月	20th APCChE2023

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2019年4月～2023年3月	日本薬学会関西支部会 幹事
2019年4月～現在	日本薬剤学会 代議員
2019年4月～現在	製剤機械技術学会 評議員
2019年4月～現在	文部科学省 科学技術動向研究センター 専門調査員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 環境医療学グループ	職名 教授	氏名 阪本 恭子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
1) 視覚教材の活用		2018年4月～現在	授業ではできる限り、テーマに関連した記録映像やドキュメンタリー映画等の視覚教材を活用する。私たちが普段は見えない、また見ようとしにくい社会問題に対して想像力と共感力を養って、具体的な思考を促すためである。視聴後はグループディスカッションを行って、自分と他人との物の見方や考え方の違いを認識しながら、協同して解決策を探ってもらう。
2) 小論文指導		2018年4月～現在	アクティブ・ラーニングを旨とする授業であっても、テーマごとに小論文を随時課す。学生一人ひとりが自分自身と向き合い、自分の意見を論理的に表現する文章能力を磨くためである。作成した文章は互いに論評しあって、分析力と批判力も体得してもらう。
3) PBL(問題発見・解決型学習)に基づくグループディスカッション		2018年4月～現在	授業ではできる限り、グループディスカッションを取り入れる。授業に単独で、また受動的に参加するのではなく、多くの人々と意見を交わす中で新たな問題を発見して、より多くの問題に取り組んでもらうためである。その後、ディスカッションの成果をクラス全員の前で発表して、プレゼンテーション能力も高める。
2 作成した教科書、教材、参考書			
『共に生きる倫理』		2019年5月	森田美芽編著、萌書房。分担執筆：「人は互いに気を遣う／助け合うべきである」(P.57 - P.70)。大学の哲学・倫理学の教材として、倫理的諸価値を省察できるように工夫して解説した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
教育部門功労賞		2022年9月	大阪医科薬科大学FD委員会
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 『共に生きる倫理』	共著	2019年5月	萌書房
(論文) 「こうのとりのゆりかごと子どもの権利」	単著	2019年8月	日本子ども虐待防止学会『子どもの虐待とネグレクト』Vol. 21, No. 2, P. 210~P. 218

(翻訳)「関係諸機関の立場と期待、相談を受けた女性がおかれている問題状況と相談の手順」	単著	2018年6月	「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」に基づいて実施した全ての取り組みと支援に関する評価調査(抄訳3)、P.1~P.11、日独両国の赤ちゃんポストと関連諸問題における出自を知る権利の取り扱いに関する研究・平成28年度~平成30年度科学研究費助成事業〔基盤研究(C)〕研究成果報告書
(翻訳)「女性の相談へのアプローチ、妊娠相談所による支援制度への手引き、内密出産までの手順、匿名による子どもの委託の諸形態に関する質的調査結果」	単著	2019年12月	「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」に基づいて実施した全ての取り組みと支援に関する評価調査(抄訳4)、P.3~P.20、熊本大学・学術リポジトリ ( <a href="http://hdl.handle.net./2298/42961">http://hdl.handle.net./2298/42961</a> )
(翻訳)「AID(非配偶者間人工授精)で生まれた人を対象としたアンケート調査」	単著	2020年12月	ドイツ、ブランシュヴァイク工科大学との共同研究報告書、 <a href="https://www.soscisurvey.de/di_offspring/?act=IXrEyRvHa0jgEi9XpDTWe7F">https://www.soscisurvey.de/di_offspring/?act=IXrEyRvHa0jgEi9XpDTWe7F</a>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
赤ちゃんポストと匿名出産から内密出産までの経緯		2023年8月	日独国際ワークショップ① 「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」
内密出産制度の法的問題		2023年8月	日独国際ワークショップ② 「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」
匿名・内密で生まれた子どもの養子縁組斡旋の現状と課題		2023年8月	日独国際ワークショップ③ 「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」
内密出産の法的規制とその課題		2023年8月	日独国際ワークショップ④ 「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」
妊娠相談所における内密出産の実情		2023年8月	日独国際ワークショップ⑤ 「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」
妊娠相談からみた内密出産の課題		2023年8月	日独国際ワークショップ⑥ 「匿名による子どもの委託と出自を知る権利」
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
[学会活動]			
2007年4月~現在	日本医学哲学・倫理学会会員		
2010年4月~現在	日本生命倫理学会会員		
2016年4月~現在	日本子ども虐待防止学会会員		
2021年9月~現在	比較家族史学会会員		
[学会評議員等役職]			
2018年4月~2020年3月	日本医学哲学・倫理学会評議員		
[社会連携活動]			
2013年4月~現在	国立循環器病研究センター治験審査委員会専門委員		

2014年4月～現在	日本たばこ産業（JT）研究倫理審査委員会外部委員
2016年4月～現在	国立循環器病研究センター特定再生医療等委員会専門委員
2021年4月～現在	健康長寿再生医療委員会専門委員

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬剤学研究室	職名 教授	氏名 永井 純也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～現在	<p>生物薬剤学1： 本講義は2年次後期に開講している。本講義では、薬物の生体内運命を表す諸過程（吸収、分布、代謝、排泄）において、「吸収」と「代謝」に関する基本的な知識を修得することを目的としている。講義においては、生体内における薬物の挙動を考える上での基礎となる「生体膜輸送」の理解を図るとともに、実際の医療現場で使用されている薬物を中心に取り上げることで、薬剤師が本分野において必要とする知識を学生が実感できるように心掛けている。また、毎回の講義において、それまでに講義した内容に関連する問題の演習を行い、詳しく解説することで学生の理解がより深まるように努めている。その演習問題には薬剤師国家試験の過去問を取り入れることにより、早期に国家試験に対する意識が高まるように心掛けている。さらに、聴講した学生に授業アンケートを行い、授業方法の改善に取り組んでいる。</p>	
	2018年4月～現在	<p>薬剤学実習： 本講義は3年次後期に実施している。本実習では、大きく薬物動態学的内容と製剤学的内容に分けて実施しているが、本教員は主に前者を担当している。本実習では、臨床において起こりうる、タンパク結合や腎排泄過程における薬物間相互作用に関する内容を題材にしている。また本実習では、薬物速度論的解析を実際にグラフ用紙に描出しながら進めていくことで、本解析手法の本質をより実感できるようにしている。さらに、TDMソフトを用いた薬物投与設計シミュレーション演習を取り入れている。</p>	
	2018年4月～現在	<p>特別演習・実習： 本科目では、4年次前期から6年次前期までにわたって研究室に配属し、研究を進めていく上での基礎的実験技術、プロトコル作成、データ解析手法、実験データの論理的考察といった一連の作業を修得できるように指導している。また、定期的に、英語学術論文を紹介するセミナーや研究の進捗状況を報告する発表会を実施することで、プレゼンテーションを行う機会を設けている。さらに、学会や研究会などの学外での発表も経験できるように研究指導を行っている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年4月	薬学テキストシリーズ 生物薬剤学（西田孝洋 編著）（分担執筆）6章 排泄 pp.86-114 朝倉書店	
	2021年12月	できる薬剤師と呼ばれるために 上手に使いたい薬学ナレッジ101（北河修二 編集代表）（分担執筆）31 インスリン製剤に超速効型から持効型まで揃えられているのはなぜ？製剤学的工夫とは？ pp.94-97 じほう	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

	2021年5月	日本薬剤学会第36年会 教育シンポジウム：コロナ禍での薬学教育の実践 「コロナ禍における大阪薬科大学の令和2年度教育 研究活動への対応について」	
	2022年8月	第7回日本薬学教育学会大会 シンポジウム4：薬学部学生における研究志向のマ インドセット醸成を目指して 「6年制課程薬学部生の研究活動について— 医療 系総合大学薬学部教員としての一考察 —」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年8月	平成30年度薬剤学教科担当教員会議開催（委員長）	
	2023年4月	6年制薬学教育の内部質保証に関するワークショッ プ参加（主催：薬学教育評価機構）	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
(論文) Pioglitazone induces hypoxia-inducible factor 1 activation in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2.	共著	2018年9月	Biochem Biophys Res Commun. 503(3):1682-1688
(論文) Effects of cyanidin and its glycosides on the transport of rhodamine 123 in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2.	共著	2018年	Current Topics in Pharmacology 22:11-18
(論文) 心臓移植後患者における母集団薬物動態解析を 用いたミコフェノール酸AUC0-12h推定法の検討.	共著	2019年1月	医療薬学 45(1):1-10
(論文) Fatty acids bound to albumin induce prostaglandin E2 production in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2.	共著	2020年9月	Biochem Biophys Res Commun. 530(1):273-277
(論文) Internalization of FITC-albumin in human adipose-derived stem cells: Involvement of clathrin and caveolin.	共著	2022年5月	Pharmazie 77(5):141-146
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ドキシソルビシンを負荷したヒト脂肪幹細胞由来条件培地の殺細胞効果		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
腎近位尿管上皮細胞株HK-2におけるHIF-1活性化に及ぼすEPレセプター アゴニストの影響		2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会
ヒト近位尿管上皮細胞株RPTEC/TERT1及びHK-2を用いたベンダムスチン の細胞内蓄積における薬物トランスポーターの役割の解析		2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会
ヒト脂肪幹細胞由来順化培地によるドキシソルビシン誘発細胞障害に対する 保護効果		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
ヒト脂肪幹細胞におけるカルニチン輸送特性		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年1月～現在	日本薬物動態学会 代議員		
2017年2月～2023年1月	日本薬学会 代議員		
2018年4月～現在	日本薬剤学会 代議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授	氏名 中村 任
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ①大阪医科薬科大学薬学部講義・実習・演習における実践	2016年4月 ～現在	<p>「薬学教育モデル・コアカリキュラム（公益社団法人日本薬学会）」に従い、薬学に必要な知識や技術の習得を目的として、医療薬剤学、臨床薬物動態学、早期体験学習、臨床導入学習、薬学総合演習に係る講義や指導を行っている。必要に応じて、臨床薬学分野や薬剤師業務で使用する専門用語を容易に理解できるよう平易且つ実践に即した資料を作成し、配布している。実習においては、終了後に提出を義務づけているレポートを通じ、各人の理解度を把握するとともに必要な事項を補足説明している。また、学生による授業評価アンケートを通して講義等の自己点検を行い、次回以降の講義や実習に活用している。</p> <p>担当講義・実習・演習名とその概要は以下の通りである。</p> <p>[医療薬剤学]（科目責任者）                      本科目は、「薬学臨床」の講義項目の一部であり、薬学科4年次で行われる「臨床導入実習」の序論を成すもので、さらに同5年次で行われる「病院・薬局実務実習」のための準備学習となることを目的としている。授業では、医療の担い手としての倫理、医療現場における薬剤師業務、薬剤管理指導業務、医薬品管理、院内製剤、および院内感染対策（感染制御）などのチーム医療について、その基礎的事項を講義する。                      なお、本科目はオムニバス形式であり、申請者は主に薬剤師業務、薬剤管理指導業務、医薬品管理に関する領域を担当している。</p> <p>[臨床薬物動態学]                      本科目では、薬物動態学（PK）と薬力学（PD）の関係（PK-PD）の理論や生理機能変化による体内動態の変動予想、PPK、病院の栄養サポートチームでも必要な時間薬理学・時間治療、TDMの概略を扱う。また、本科目は、大阪医科薬科大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムに含まれる。                      なお、本科目はオムニバス形式であり、申請者は主に治療薬物モニタリング（TDM）に関する領域を担当している。</p> <p>[臨床導入学習1]                      本科目は薬学科5年次に設定されている「病院・薬局実務実習」のための準備学習である。したがって、処方箋と調剤、疑義照会、医薬品の管理と供給、服薬指導と薬剤管理指導、医薬品の安全基準等の病院及び薬局で行われる薬剤師業務全般の項目について実習、演習、講義形式での学習を行う。</p> <p>[臨床導入学習2]                      本科目は、「臨床導入学習1」と共に、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のうちの「F薬学臨床」の事前学習で示されている項目を行うもので、薬学科5年次で行われる「病院・薬局実務実習」のための事前学習となることを目的とする。授業では、講義と演習を組み合わせた学習を行う。</p>	

<p>②大阪医科薬科大学大学院薬学研究科講義・演習における実践</p>	<p>2016年4月 ～現在</p>	<p>薬学研究科の目的達成に向け、自身の持つ専門性を活かし、医療薬学総論、治験・臨床試験演習、処方解析演習、薬学臨床特論Ⅰに係る講義や指導を行っている。必要に応じて、臨床薬学分野や薬剤師業務で使用する専門用語を容易に理解できるよう平易且つ実践に即した資料を作成し、配布している。担当講義・演習名とその概要は以下の通りである。</p> <p>[薬学臨床特論Ⅰ]（科目責任者） 本科目では、医薬品の適正使用に向けた薬剤師業務ならびに臨床教育・研究を実践するために必要な研究立案や評価ならびに教育の方法について解説する。 なお、本科目はオムニバス形式であり、申請者は主に薬物療法とバイオマーカーに関する講義を担当している。</p>
<p>③神戸大学大学院医学系研究科講義（修士課程）における実践</p> <p>④神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科講義（修士課程）における実践</p>	<p>2009年4月 ～現在</p> <p>2017年4月 ～現在</p>	<p>[医療薬学総論] 本科目では、医療薬学、薬学臨床および生物・予防薬学等の領域において必要とされる知識を修得し、各領域の連関を理解することを目的に最新の情報を提供するとともに、薬物専門家としてのプロフェッショナルリズム教育を行う。 なお、本科目はオムニバス形式であり、申請者は主に臨床における医薬品情報の活用に関する講義を担当している。</p> <p>[治験・臨床試験演習]（科目責任者） 本科目では、治験および臨床試験における薬学的評価手法を理解し、研究技能の向上を目指した演習を行う。 なお、本科目はオムニバス形式であり、申請者は主に治験・臨床試験における有効性と安全性の評価に関する領域を担当している。</p> <p>[処方解析演習] 薬剤師は処方箋に記載されている薬剤の種類、用法・用量から患者の病態を推定し、処方の妥当性評価や別処方の提案を行う必要があることから、本科目では、より高度な処方解析能力を修得することを目的とする。できるだけ多くの疾患分野における処方例について解析を行うことにより、対応能力の向上に努める。 なお、本科目はオムニバス形式であり、申請者は一部の講義・演習を担当している。</p> <p>担当講義名：薬物治療学特論（11回分のうちの1回） がん化学療法時の薬物体内動態とバイオメタル情報について、基礎研究の成果を薬物治療に生かす方法論や実例を示した講義を行い、講義後には理解度を確認するためのテストを行うとともに学生からの質問や疑問に対して回答するようにしている。</p> <p>担当講義名：先端医療学概論（16回分のうちの1回） 薬学概論と現在の創薬動向についての講義を行い、講義後には理解度を確認するための意見交換を行っている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>		

できる薬剤師とよばれるために 上手に使いたい薬学ナレッジ101	2021年12月	薬剤師が日常業務の中で感じる疑問を基礎薬学の知識を活かしながら理解できるようにQ&A形式を用いて解説した書籍であり、主に薬剤師や初学者に対して理解しやすいように解説している。 なお、申請者は本書の共同編集者であり、また、一部執筆を担当した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 ①神戸大学医学部附属病院薬剤部薬剤師指導  ①国立循環器病研究センター薬剤部薬剤師指導	2007年5月～現在  2016年4月～現在	申請者は神戸大学客員教授および非常勤講師である。また、同病院薬剤部の医療従事許可を得ており、病院薬剤師業務に必要な知識や技術の習得を目的として、実務上生じてきた疑問点や問題点に対して講義や指導を行っている。また、学術論文や学会での情報公開についても指導や助言を行っている。  申請者は国立循環器病研究センターの外来研究員である。また、同センターにて病院情報管理システム利用許可を得ており、病院薬剤師業務に必要な知識や技術の習得を目的として、実務上生じてきた疑問点や問題点に対して講義や指導を行っている。また、学術論文や学会での情報公開についても指導や助言を行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）できる薬剤師とよばれるために 上手に使いたい薬学ナレッジ101	共著	2021年12月	じほう（東京）
（著書）Role of the Transplant Pharmacist	共著	2022年2月	IntechOpen (London)
（論文）Pharmacokinetics of oxaliplatin in a hemodialysis patient with metastatic colon cancer.	共著	2019年9月	Int J Oncol Res（第2巻第2号）
（論文）Association between dexamethasone treatment and alterations in serum concentrations of trace metals.	共著	2020年5月	Pharmazie（第75巻第5号）
（論文）Discontinuation of oral amphotericin B therapy dose not influence the pharmacokinetics of tacrolimus in heart transplant patients.	共著	2021年8月	Int. J. Clin. Pharmacol. Ther.（第59巻第8号）
（論文）Risk assessment of neutropenia during low-dose valganciclovir prophylaxis for heart transplant recipients.	共著	2022年4月	Biol.Pharm. Bull.（第45巻第4号）
（論文）Plasma clearance of intravenously infused adrenomedullin in rats with acute renal failure.	共著	2022年9月	Biomolecules（第12巻第9号）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ペクチン添加量の違いによる溶液中レボドパ濃度の評価		2023年6月	日本医療薬学会第6回フレッシュアズカンファランス

ARB/カルシウム拮抗薬配合錠処方歴と血圧の変化との関連解析	2023年6月	日本医療薬学会第6回フレッシュャーズカンファランス
80歳以上の高血圧患者におけるARB/サイアザイド系利尿薬配合錠開始後の血圧値の分類変化	2023年6月	日本医療薬学会第6回フレッシュャーズカンファランス
食道癌FP療法施行患者における術後回復期以降のプラチナ血中濃度推移と臨床検査値との関連解析	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
HIV薬物療法における使用薬剤の簡易懸濁法可否に関する検討～ドルテグラビルの溶解性に及ぼすラミブジン・アバカビル硫酸塩配合剤の影響について～	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
心臓移植患者におけるLSSによるミコフェノール酸AUC算出の実践と目標域の検討	2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2006年6月～現在	日本薬学会メールマガジン発行委員会委員	
2009年4月～現在	日本薬学会関西支部委員（同支部幹事 2023年4月～現在）	
2018年5月～現在	日本TDM学会評議員	
2020年1月～2021年12月	日本薬学会医療薬科学部会常任世話人	
2020年4月～現在	日本医療薬学会臨床研究推進委員会委員	
2020年4月～現在	日本医療薬学会JPHCS編集委員	
2022年12月～現在	日本臨床薬理学会社員（評議員）	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	大阪医科薬科大学	講座名	臨床薬学教育研究センター	職名 教授 氏名 中村 敏明
I 教育活動				
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年8月 2017年9月 2017年4月 2018年4月	医学部、薬学部、看護学部の3学部合同授業ならびに研修を開始し、現在まで継続している。 1年次生を対象にシミュレーション教育を開始し、現在まで、継続している。 4年次生を対象にフィジカルアセスメント実習を導入し、現在まで継続している。 医薬品情報演習を新たに開始し、現在まで継続。	
2	作成した教科書、教材、参考書	2018年 2019年10月 2021年 2023年4月	スタンダード薬学シリーズⅡ 7 医療薬学のⅡ. 薬物療法実践 2.2新薬採用時の医薬品情報 日本薬学会 編、東京化学同人(東京)を担当した。 みてわかる薬学 図解 医薬品情報学 改訂4版 第2章2 医療用医薬品添付文書、折井孝男 監修、南山堂(東京)を担当した 薬剤疫学の基礎と実践 改訂第3版 第9章 ファーマコビジランス・スペシャリスト、影山茂、久保田潔 編、ライフサイエンス出版を担当した みてわかる薬学 図解 医薬品情報学 改訂5版 第2章2 医療用医薬品添付文書、折井孝男 監修、「医薬品情報学」総論 他、複数の章 折井孝男 監修、南山堂(東京)を担当した	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年6月 2018年8月 2018年9月 2018年10月 2019年7月 2019年1月 2019年8月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会において「医薬品リスク管理計画(RMP)の利活用に関する卒後研修会の有用性評価」を発表 第50回日本医学教育学会において「高知県多職種連携地域医療実習の試み(第2報)」を発表 第3回薬学教育学会において「薬学的知見に基づく管理・指導に関する卒後研修会の有用性評価～ポリファーマシー状態の評価と処方提案～」を発表 第1回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forumにおいて「どうする?改訂モデルコアカリキュラムに準拠した実習」を発表 第51回日本医学教育学会大会において「医薬看での高知県多職種連携地域医療実習の試み(第3報)」を発表 第14回日本医学シミュレーション学会学術大会において「薬学部初年次における学習意欲向上を目指したシミュレーション教育の実践とその評価」を発表 第4回日本薬学教育学会大会において「薬学部生の	

		のキャリアデザインを支援する～大阪薬科大学における薬学志望動機と将来の希望職種の実態調査～」を公表	
	2019年3月	日本薬学会第139年会において「初年次教育における学習意欲向上を目指したシミュレーション教育の評価」を公表	
	2020年10月	第30回日本医療薬学会年会において「保険薬局薬剤師を対象とした無菌調製実技セミナーに関する有用性評価」を公表	
	2020年7月	第52回日本医学教育学会大会において「大学間の物理的課題を乗り越える多職種連携教育の授業方法の評価」を公表	
	2020年7月	第52回日本医学教育学会大会において「高知県多職種連携地域医療実習の試み(第4報)」を公表	
	2020年10月	第30回日本医療薬学会年会において「病院実務実習で最も習得したアウトカムと要因解析～学生アンケート調査より～」を公表	
	2021年3月	日本薬学会 第141年会において「初年次教育におけるインスリン自己注射及び自己血糖測定体験前後の学生の意識変化に関する評価」を公表	
	2021年3月	日本薬学会 第141年会において「患者の視点に立った薬学的関与の意識教育におけるインスリン自己注射及び自己血糖測定の体験の有用性評価」を公表	
	2021年7月	医療薬学フォーラム2021 第29回クリニカルファーマシーシンポジウムにおいて「連携病院とのグループ実習における実習順序の影響～学生の到達度からみた評価～」を公表	
	2021年7月	第53回日本医学教育学会大会において「大学統合へ向けた初年次から高学年までの垂直統合型多職種連携教育カリキュラム編成」を公表	
	2021年10月	第31回日本医療薬学会年会において「オンデマンド教材を併用した臨床実習形式の評価」を公表	
	2022年3月	日本薬学会 第143年会において「授業アンケートに基づく「多職種連携論－医療倫理」演習の評価と今後の課題」を公表	
	2022年8月	第54回 日本医学教育学会大会において「遠隔会議システムを活用した医療倫理に関する多職種連携教育の試み」を公表	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2016年8月	医学部、薬学部、看護学部の3学部合同の地域医療実習を新たに開始し、現在まで継続	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 治療薬ハンドブック、検査値リスト	共著	2018年1月以降毎年	じほう

(論文) <i>Influence of UGT1A1 polymorphism on etoposide plus platinum-induced Influence of UGT1A1 polymorphism on etoposide plus platinum-induced neutropenia in Japanese patients with small-cell lung cancer</i>	共著	2018年	<i>International Journal of Clinical Oncology</i>
(論文) <i>Outcomes of Pharmacists' Involvement with Residents of Special Nursing Homes for the Elderly.</i>	共著	2018年	<i>Yakugaku Zasshi.</i> , 138:1217-1225.
(論文) 薬学的管理における副作用管理支援システム (メディア・スピーク®) の有用性評価	共著	2020年	<i>医薬品情報学</i> , 22, 108-115, 2020
(論文) <i>Evaluation of rapid drug safety communication materials for patients in Japan</i>	共著	2021年	<i>Drug Discov. Ther.</i> , 15, 101-107, 2021
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	日本医薬品情報学会 代議員 医薬品情報専門薬剤師認定試験委員会 委員長		
2022年10月～現在	日本医療薬学会 理事 広報・出版委員会委員長		
2018年～現在	大阪府薬剤師会 教職支部 会長		
2018年～現在	社会医療法人 愛仁会 千船病院 倫理委員会 委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 生体分析学研究室	職名 教授	氏名 天満 敬
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		講義では毎回responを用い双方向授業を心掛けている 学生アンケートによるベストティーチャー賞 (2018年, 2020年, 2021年)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年8月	9章 物理的画像診断法とそれに用いる診断薬、新放射化学・放射性医薬品学改訂第5版 (南江堂)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Development of a 2-(2-Hydroxyphenyl)-1 H-benzimidazole-Based Fluorescence Sensor Targeting Boronic Acids for Versatile Application in Boron Neutron Capture Therapy	共著	2023年3月	Cancers, 15(6):1862.
(論文) Radiobrominated probe targeting activated p38 $\alpha$ in inflammatory diseases	共著	2022年10月	Ann Nucl Med, 36(10):845-852.
(論文) Evaluation of 3-Borono-1-Phenylalanine as a Water-Soluble Boron Neutron Capture Therapy Agent	共著	2022年5月	Pharmaceutics, 14(5):1106.
(論文) Radioiodinated bicyclic RGD peptide for imaging integrin $\alpha v \beta 3$ in cancers	共著	2020年7月	Biochem Biophys Res Commun, 528(1):168-173.
(論文) Development of matrix metalloproteinase-targeted probes for lung inflammation detection with positron emission tomography	共著	2018年1月	Sci Rep, 8(1):1347.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
BNCTの発展のための薬剤開発に関する研究		2023年6月	大阪医科薬科大学第一回BNCT研究会
シグナル伝達兼転写活性化因子3のPETイメージングを目的とした[18F]KYZ3の開発に関する研究		2023年6月	第17回日本分子イメージング学会総会・学術集会
自己集合による細胞内滞留を指向したメラノーマ標的BNCT/SPECT用薬剤の開発		2023年7月	第35回バイオメディカル分析科学シンポジウム
生体内MMPのインビボイメージングのための分子プローブ開発研究		2023年8月	第28回日本病態プロテアーゼ学会学術集会
ポジトロン断層撮像法による活性化p38 $\alpha$ イメージングのための放射性フッ素標識R1487の合成		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
STAT3を標的としたPET用イメージングプローブの有効性評価に関する検討		2024年3月	日本薬学会第144年会
STAT3を標的としたSPECT用イメージングプローブの合成と評価		2024年3月	日本薬学会第144年会

PSMAへの不可逆的放射標識を目指した放射性ヨウ素標識ペプチドの開発	2024年3月	日本薬学会第144年会
高い腫瘍特異的集積性を目指した5-[18F]F- $\alpha$ -Me-3BPAのLAT1標的イメージングプローブとしての有効性評価	2024年3月	日本薬学会第144年会
活性酸素種の核医学イメージングのための放射性ヨウ素標識プローブの開発	2024年3月	日本薬学会第144年会
Development of fluorinated $\alpha$ -methyl-3BPA derivatives for BNCT/PET theranostics	2023年9月	Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine 2023
Development of a boronic acid targeting fluorescent sensor for evaluation of intracellular localization and quantification of blood concentration of boronoagents for BNCT	2023年9月	Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine 2023
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年4月～現在	日本薬学会近畿支部委員	
2018年7月～現在	日本分析化学会近畿支部幹事	
2021年5月～現在	日本薬学会長井記念薬学研究奨励支援選考委員会委員	
2022年11月～現在	日本脳循環代謝学会幹事	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 医薬分子化学研究室	職名 教授	氏名 平野 智也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2019年4月～ 2022年12月  2019年9月～ 2022年12月  2022年9月	「医薬品化学1、2」において、各医薬品の臨床での知見と分子構造から理解するための講義を行った。  「基礎有機化学実習」において、化学物質の安全な取り扱いを考慮した実習を実施した。  高槻中学・高校での「基礎薬学講座」において、分子構造に基づく化学と薬の作用を関連づけた講義を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年3月28日  2020年3月28日  2022年10月30日	マクマリー生化学反応機構-ケミカルバイオロジー理解のために-第2版(東京化学同人)の7章、8章を担当  ダンラップ・ヒューリン創薬化学(東京化学同人)の11章および3章と7章の一部を担当  創薬科学・医薬化学(第2版)(化学同人)の8章、12章を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Development of novel inhibitors for histone methyltransferase SET7/9 based on cyproheptadine	共著	2018年6月	ChemMedChem 13(15): 1530-1540
Development of functional molecules for regulating and elucidating histone methyltransferase	共著	2018年12月	Chemical Record 18(12): 1745-1759
A Polarity - Sensitive Fluorescent Amino Acid and its Incorporation into Peptides for the Ratiometric Detection of Biomolecular Interactions	共著	2019年10月	ChemPlusChem 84(11): 1716-1719
6-Arylcoumarin as a Scaffold of Photofunctional Molecules with OFF-ON-OFF Type Regulation	共著	2021年2月	J. Org. Chem. 86(3): 2264-2270
ASKA technology-based pull-down method reveals a suppressive effect of ASK1 on the inflammatory NOD-RIPK2 pathway in brown adipocytes	共著	2021年11月	Sci. Rep. 11: 22009
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
亜鉛イオン応答型光分解性保護基の開発研究		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
柑橘系果皮に含まれるPMFの蛍光特性と細胞への応用		2023年10月	第67回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
亜鉛イオン応答型光分解性保護基の開発		2023年11月	第49回反応と合成の進歩シンポジウム
柑橘果皮由来の蛍光成分の蛍光特性と生細胞への応用		2024年3月	日本薬学会第144年会
側鎖にアセトアミド構造を有するナフトレン誘導体の細胞内Nrf2活性化効果		2024年3月	日本薬学会第144年会
亜鉛イオン応答型光分解性保護基の開発研究		2024年3月	日本薬学会第144年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2016年6月～現在	日本ケミカルバイオロジー学会世話人
2019年5月～現在	日本薬学会関西支部委員
2021年4月～現在	日本光医学・光生物学会評議員
2021年7月	第43回日本光医学・光生物学会副会頭

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 感染制御学研究室	職名 教授	駒野 淳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年-2023年 2020年-2023年	臨床感染症学 微生物学
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年	南江堂 薬系微生物学・化学療法学・感染症学(共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年	第73回国立病院総合医学会(単独) セッション名: 新人教育とリーダー育成のプログラム タイトル: 人材育成のPDCAサイクル
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022年	高槻高校での講義
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Impact of COVID-19 Countermeasures on Pediatric Infections</i>	共著	2022年9月	<i>microorganisms</i> 10101947
(論文) <i>Relationship between biochemical markers and measles viral load in patients with immunologically naive cases and secondary vaccine failure: LDH is one of the potential auxiliary indicators for secondary vaccine failure</i>	共著	2021年7月	<i>Microbiol Immunol</i>
(論文) <i>Extracellular nanovesicles for packaging of CRISPR-Cas9 protein and sgRNA to induce therapeutic exon skipping</i>	共著	2020年11月	<i>NATURE COMMUNICATIONS</i>
(論文) <i>Bejel, a Nonvenereal Treponematosi, among Men Who Have Sex with Men, Japan</i>	共著	2019年8月	<i>Emerging Infectious Diseases</i>
(論文) <i>First isolation and characterization of vancomycin-resistant Enterococcus faecium harboring vanD5 gene cluster recovered from a 79-year-old female inpatient in Japan</i>	共著	2019年12月	<i>Diagnostic Microbiology and Infectious Disease</i> 95
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
全国12医療施設で分離されたClostridioides difficileのP0T型による分子疫学的解析		2023年4月	第97回日本感染症学会
Clostridioides difficile の環境分離株と臨床分離株の分子疫学的検討		2023年4月	第97回日本感染症学会
RSV 感染症の流行と人流との相関に関するインフォグラフィック的解析		2023年4月	第97回日本感染症学会
ヒト細胞におけるオートファジーと風疹ウイルス持続感染の相互作用に関する解析		2023年9月	第70回日本ウイルス学会学術集会
屋内における運動クラブ活動に伴う新型コロナウイルス感染者の集団発生に関する疫学解析		2023年9月	第70回日本ウイルス学会学術集会
栄養飢餓ストレスで誘導されるp62-bodyの可塑性と風しんウイルス持続感染との関係		2023年12月	第46回日本分子生物学会
クリニックにおけるMSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン(2022年度実績報告)		2023年12月	第37回日本エイズ学会
バイオエアロゾルから分離されたClostridioides difficileの遺伝子型と臨床分離株との比較検討		2024年2月	第15回大気バイオエアロゾルシンポジウム

栄養飢餓ストレスで誘導されるp62-bodyの可塑性と風疹ウイルス(RV)持続感染との関係	2024年3月	第144回日本薬学会
新型コロナウイルス感染症アウトブレイクの発生状況と発症までの期間に関するメタ解析	2024年3月	第144回日本薬学会
風しんウイルス複製における選択的オートファジー受容体p62/SQSTM1の役割について	2024年3月	第144回日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2023年3月～2024年2月	日本感染症学会会員	
2023年1月～12月	日本癌学会会員	
2023年度	日本嫌気性菌感染症学会会員	
2023年度	近畿エイズ研究会会員	
2023年度	日本薬学会会員	
2023年度	日本分子生物学会会員	
2022年5月14日	PA会 新型コロナウイルス感染症に学んだこと	
2021年-2022年	学術論文の審査員（4件）	
2020年2月2日	学術講演会 分子疫学研究による梅毒流行実態の解明と新たな謎	
2019年-2020年	科学研究費補助金 審査員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 衛生化学研究室	職名 教授	氏名 奥平 桂一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2018年4月～ 2023年3月	講義の内容について体系的な理解を深めることを目的として、教科書、参考書、インターネット等から得た最新の情報を含む講義スライドを作成した。スライドはイラストを多用し、時事問題や新聞記事などを引用することで、講義内容に対する興味を持ちやすいように工夫した。また、講義毎に確認テストを実施し、実際に問われる形について学習し、内容の理解度を各自で確認することを促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年4月～ 2023年3月  2020年4月～ 2023年3月	講義で使用するスライド、配布用の資料を作成した。  衛生薬学実習の実習書を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年4月～ 2023年3月	衛生薬学担当教員会議及びレギュラトリーサイエンス教員担当会議に参加。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
Effect of Phosphatidylserine and Cholesterol on Membrane-mediated Fibril Formation by the N-terminal Amyloidogenic Fragment of Apolipoprotein A-I.	共著	2018年4月	Sci Rep. 8, 5497
Derivatization of inhibitor of apoptosis protein (IAP) ligands yields improved inducers of estrogen receptor $\alpha$ degradation.	共著	2018年5月	J Biol Chem. 293, 6776-6790
A Novel Strategy to Increase the Yield of Exosomes (Extracellular Vesicles) for an Expansion of Basic Research.	共著	2018年5月	Biol Pharm Bull. 41, 733-742
A hydroxyl PEG version of PEGylated liposomes and its impact on anti-PEG IgM induction and on the accelerated clearance of PEGylated liposomes.	共著	2018年6月	Eur J Pharm Biopharm. 127, 142-149
Doxorubicin Expands in Vivo Secretion of Circulating Exosome in Mice.	共著	2018年7月	Biol Pharm Bull. 41, 1078-1083

Liposome co-incubation with cancer cells secreted exosomes (extracellular vesicles) with different proteins expressions and different uptake pathways.	共著	2018年9月	Sci Rep. 8, 14493
A Cell Assay for Detecting Anti-PEG Immune Response against PEG-Modified Therapeutics.	共著	2018年10月	Pharm Res. 35, 223
A novel platform for cancer vaccine: Antigen-selective delivery to splenic marginal zone B cells via repeated injections of PEGylated liposomes.	共著	2018年11月	J Immunol. 201, 2969-2976
The Accumulation of Heparan Sulfate S-domains in Kidney Transthyretin Deposits Accelerates Fibril Formation and Promotes Cytotoxicity.	共著	2019年2月	Am J Pathol. 189, 308-319
Distribution of Polysulfide in Human Biological Fluids and Their Association with Amylase and Sperm Activities.	共著	2019年4月	Molecules. 24, pii: E1689
A simplified method for manufacturing RNAi therapeutics for local administration.	共著	2019年6月	Int J Pharm. 564, 256-262
A photo-activatable peptide mimicking functions of apolipoprotein A-I.	共著	2019年6月	Biol Pharm Bull. 42, 1019-102
Cancer cell-type tropism is one of crucial determinants for the efficient systemic delivery of cancer cell-derived exosomes to tumor tissues.	共著	2019年12月	Eur. J. Pharm. Biopharm. 145, 27-34
抗動脈硬化性タンパク質を利用した創薬への挑戦.	単著	2020年2月	YAKUGAKU ZASSHI 140, 153-157
Albumin domain mutants with enhanced A $\beta$ binding capacity identified by phage display analysis for application in various peripheral A $\beta$ elimination approaches of Alzheimer's disease treatment.	共著	2020年4月	IUBMB Life. 72, 641-651
Sequence-Independent Traceless Method for Preparation of Peptide/Protein Thioesters Using CPaseY-Mediated Hydrazinolysis.	共著	2020年12月	Chem Pharm Bull. 68, 1226-1232

Apolipoprotein A-I in mouse cerebrospinal fluid derives from the liver and intestine via plasma high-density lipoproteins assembled by ABCA1 and LCAT.	共著	2021年3月	FEBS Lett. 595, 773-788
Reduction-Responsive and Multidrug Deliverable Albumin Nanoparticles: An Antitumor Drug to Abraxane against Human Pancreatic Tumor-Bearing Mice.	共著	2021年5月	ACS Appl Bio Mater. 4(5):4302-4309
The Therapeutic Effect of Human Serum Albumin Dimer-Doxorubicin Complex against Human Pancreatic Tumors.	共著	2021年8月	Pharmaceutics. 13(8):1209
Comparative effects of luteolin and quercetin on adipogenesis in 3T3-L1 cells.	共著	2021年11月	J. Pharm. Nutr. Sci., 11: 65-72
Comparative effects of sulforaphane and allyl isothiocyanate on 3T3-L1 adipogenesis.	共著	2022年1月	J. Nutr. Metab., 2022:8705163
Molecular Design, Synthesis, and Evaluation of SNIPER (ER) that Induces Targeted Protein Degradation of ER $\alpha$	共著	2022年2月	Methods Mol Biol, 2418:363-382
FTY720 Reduces Lipid Accumulation by Upregulating ABCA1 through Liver X Receptor and Sphingosine Kinase 2 Signaling in Macrophages.	共著	2022年11月	Int J Mol Sci, 23(23):14617
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
天然イソチオシアネート化合物Erysolinによる抗肥満効果の検討		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
ヒト脳血管内皮細胞hCMEC/D3の密着結合に対するメチルグリオキサール及びL-テアニンの影響		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
多剤耐性慢性骨髄性白血病細胞におけるHDAC阻害剤耐性克服法について		2023年6月	第27回日本がん分子標的治療学会学術集会
ApoA-1結合タンパク質(AIBP)によるHDLの抗炎症効果への影響		2024年3月	日本薬学会第144回
線虫の核酸トランスポーターSID-1のヒト相同分子の解析		2024年3月	日本薬学会第144回
グルコース単独による膜トランスポーターABCA7の発現制御の解明		2023年11月	第96回日本生化学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2006年2月～現在	日本薬学会会員
2010年3月～現在	日本がん分子標的治療学会会員
2015年10月～現在	日本生化学会会員
2016年3月～現在	日本薬剤学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬物治療学Ⅱ研究室	職名 教授	氏名 福森 亮雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 勉強会 (FD) (FDを含む)	令和4年3月4日	参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
APLP2 is predominantly cleaved by $\beta$ -secretase and $\gamma$ -secretase in the human brain.	共著	2023年3月	Psychogeriatrics. 23(2):311-318
Active site geometry stabilization of a presenilin homolog by the lipid bilayer promotes intramembrane proteolysis.	共著	2022年5月	Elife 11:e76090
ELISA Evaluation of Tau Accumulation in the Brains of Patients with Alzheimer Disease.	共著	2021年8月	J Neuropathol Exp Neurol. 80(7):652-662.
Deletion of B-cell translocation gene 2 (BTG2) alters the responses of glial cells in white matter to chronic cerebral hypoperfusion.	共著	2021年4月	J Neuroinflammation. 18(1):86.
Substrate recruitment by $\gamma$ -secretase.	共著	2020年9月	Semin Cell Dev Biol. 105:54-63.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アミロイドペプチドA $\beta$ 49の合成研究		2024年3月	日本薬学会第144年会
自閉症の原因遺伝子であるNLGN4の切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
慢性炎症性脱髄性多発神経炎に関連する分子であるneurofascinの代謝		2024年3月	日本薬学会第144年会
認知機能に関与するシナプス分子であるLRRC4Bの $\gamma$ -セクレターゼによる代謝について		2024年3月	日本薬学会第144年会
L1CAMの膜の内外でのプロテアーゼ切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
ミクログリアがA $\beta$ を認識し貪食する際に利用するタンパク質であるAXLの $\gamma$ -セクレターゼによる切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
膜内プロテアーゼである $\gamma$ -セクレターゼによるEphrin-B3の切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
脳ミクログリアに特異的に発現するTMEM119のプロテアーゼによる代謝		2024年3月	日本薬学会第144年会
抗NMDA受容体脳炎の患者の髄液中の抗体の新規検出法		2024年3月	日本薬学会第144年会

抗AMPA受容体脳炎1例の髄液中の抗体の標的サブユニットと抗原決定基	2024年3月	日本薬学会第144年会
ミミズ抽出液は培養細胞上清中のタウへ分解作用を示す	2024年3月	日本薬学会第144年会
認知症関連蛋白であるタウ蛋白の重合過程における蛋白間分子架橋の影響についての検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
$\gamma$ -Secretase exosites as targets for substrate-selective inhibition of intramembrane proteolysis	2023年6月	12th General Meeting of the International Proteolysis Society
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
	日本認知症学会プログラム委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授	氏名 矢野 良一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
		2020年4月	(前任・福井大学) 医学部3年生を対象に、4コマの「生体と薬物(薬物動態学・臨床薬理学)」を担当した。図を多用したPPTハンドアウトとともに、演習課題冊子を別途作成し、授業中に課題に取り組みながら解説を加え、学生が理解を深められるよう工夫した。また、毎回の授業後にミニツッパーパーの提出を求め、その内容を踏まえて次回の授業内容をアレンジする等、学生の理解に応じた進行を心掛けた。授業後の感想では、授業資料・スライドの見やすさ、演習課題による理解向上について好意的な意見が多く認められた。
		2021年4月	4年次生「臨床導入学習1」で内容を大幅に変更を加えた。これまでの調剤技術偏重の内容から、知識を臨床でどのように活用するのか、学生が考え経験できるように、課題に工夫を凝らして実施した。特に、薬理学や薬物治療学の基本的な知識を再確認するとともに、患者指導や処方提案に活かせるよう、多くの症例ワークシートを作成した。さらに、実習中の学びの過程を評価するために、学生に本実習における学習目標の設定、学習過程の記録、省察を求め、これらを総合的に評価して成績評価を行った。
		2021年9月	新設科目の「連携医療学」を設計・開講した。医療・福祉の様々な場面ごとに、また患者のライフステージの変化も意識して、チーム医療における薬剤師の役割を学べるよう授業を計画した。事例演習と解説講義を織り交ぜて授業展開した。毎回の授業後に課題として200字程度の振り返りを課すことにより、授業内容の定着を図るよう工夫した。また、学生の振り返りの中で良い着眼点のものなどを次回授業で紹介し、学生のモチベーション向上につなげる工夫とした。
		2022年9月	4年次生「連携医療学」において、反転授業と授業用アプリ「レスポ」を活用した。対面授業では事例に基づく演習を中心とし、レスポで学生に考えを表出させ、それを画面上で共有することにより他学生の異なった視点を知ることができるように、また学生の意見に応じて解説を加えるなどダイナミックな展開を心がけて実施した。本科目の授業評価ではすべての細目で学年平均を上回る評価を得た。
		2023年3月	新設科目の「統合薬学演習」を本開講。前年度より薬学部内にワーキンググループを設置し、演習の立案、準備を進めた。演習にはジグソー法を取り入れ、学生が主体的に基礎薬学から臨床までの知識を統合して活用できるような課題設定を工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）がん化学療法レジメン管理マニュアル第3版	共著	2019年8月	医学書院
（論文）Evaluation of risk factors for nephrotoxicity associated with high-dose vancomycin in Japanese patients.	共著	2021年2月	Die Pharmazie vol. 76 No. 2
（論文）Population pharmacokinetic model development and exposure-response analysis of vincristine in patients with malignant lymphoma.	共著	2021年4月	Cancer Chemotherapy and Pharmacology vol. 87 No. 4
（論文）Association of methicillin resistance with mortality of hospital-acquired Staphylococcus aureus bacteremia.	共著	2021年11月	The Journal of international medical research vol. 49 No. 11
（論文）Fatigue in patients with cancer receiving outpatient chemotherapy: a prospective two-center study.	共著	2023年2月	Journal of pharmaceutical health care and sciences vol. 9 No. 1
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
一般女性から見たウィメンズヘルスに関する相談相手としての薬剤師		2023年7月	医療薬学フォーラム2023
薬局実務実習後の学生の意見に基づく実習内容の質的評価		2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会
学生の意見に基づく薬局実務実習項目の実施状況ならびに充実度の評価		2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会
基礎と臨床の対話により知識統合教育を模索する		2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会
医療従事者による症例検討会に関するスコーピングレビュー		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
ARB/カルシウム拮抗薬配合錠処方歴と血圧の変化との連関解析		2023年7月	第6回フレッシュャーズ・カンファランス
80歳以上の高血圧患者におけるARB/サイアザイド系利尿薬配合錠開始後の血圧値の分類変化		2023年7月	第6回フレッシュャーズ・カンファランス
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年8月～現在		日本医療薬学会JPHCS編集委員会 委員	
2022年6月～現在		日本医療薬学会2022年度学術第3小委員会 委員長	
2022年7月～現在		日本病院薬剤師会生涯研修委員会研修小委員会 委員長	
2022年12月～現在		日本臨床薬理学会 社員	

【注】 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬物治療学 I 研究室	職名 教授	氏名 加藤 隆児
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 わかりやすいオンデマンド講義の提供	2020年4月1日～	コロナ感染状況下においてオンデマンド講義を行う際に、学生アンケートの結果も踏まえて、オンデマンドでもわかりやすい講義が提供できるよう工夫した	
2 作成した教科書、教材、参考書 加藤隆児, 原明義. 第2部 循環器系疾患. Principal Pharmacotherapy 改訂3版. ネオメディカル. 齋藤義正, 加藤隆児. 第2部 消化器系疾患 (1). Principal Pharmacotherapy 改訂3版. ネオメディカル. 松崎潤太郎, 加藤隆児. 第2部 消化器系疾患 (2). Principal Pharmacotherapy 改訂3版. ネオメディカル. 加藤隆児. 第8章 その他の医療の担い手について. 早期臨床体験テキスト 改訂版. ネオメディカル.	2022年3月30日 2022年3月30日 2022年3月30日 2022年3月12日	薬物治療学に関する教科書 薬物治療学に関する教科書 薬物治療学に関する教科書 早期体験学習に関する教科書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本TDM学会第63回セミナー (ハンズオンセミナー) 日本TDM学会第65回セミナー (ハンズオンセミナー)	2022年8月27日 2023年1月21日	TDMを行う際に使用する測定機器の使い方や解析の仕方に関してのセミナーを行った TDMを行う際に使用する測定機器の使い方や解析の仕方に関してのセミナーを行った	
4 その他教育活動上特記すべき事項 新コアカリキュラム対応カリキュラム作成の学内FDへの参加	2023年2月15日	薬学部新コアカリキュラム対応カリキュラム作成のための学内FD活動に参加した	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) <i>Contributions of caspase-8 and -9 to liver injury from CYP2E1-produced metabolites of halogenated hydrocarbons.</i>	共著	2018年	<i>Xenobiotica</i> 48, 60-72.
(論文) <i>An Impaired Immune Tolerance Animal Model Distinguishes the Potential of Troglitazone/Pioglitazone and Tolcapone/Entacapone to Cause IDILI.</i>	共著	2018年	<i>Toxicol Sci</i> 161, 412-420.
(論文) <i>Interaction of platinum agents, cisplatin, carboplatin and oxaliplatin against albumin in vivo rats and in vitro study using inductively coupled plasma-mass spectrometry.</i>	共著	2019年	<i>Biopharm Drug Dispos</i> 40, 242-249.
(論文) <i>The 2-Hydroxyiminostilbene Metabolite of Carbamazepine or the Supernatant from Incubation of Hepatocytes with Carbamazepine Activates Inflammasomes: Implications for Carbamazepine-Induced Hypersensitivity Reactions.</i>	共著	2019年	<i>Drug Metab Dispos</i> 47, 1093-1096.
(論文) <i>Reactive metabolite of gefitinib activates inflammasomes: implications for gefitinib-induced idiosyncratic reaction.</i>	共著	2020年	<i>J Toxicol Sci</i> 45, 673-680.

(論文) <i>Activation of inflammasomes by tyrosine kinase inhibitors of vascular endothelial growth factor receptor: Implications for VEGFR TKIs-induced immune related adverse events.</i>	共著	2021年	<i>Toxicol In Vitro 71, 105063.</i>
(論文) <i>Amiodarone, Unlike Dronedarone, Activates Inflammasomes via Its Reactive Metabolites: Implications for Amiodarone Adverse Reactions.</i>	共著	2021年	<i>Chem Res Toxicol 34, 1860-1865.</i>
(論文) <i>Clozapine induces an acute proinflammatory response that is attenuated by inhibition of inflammasome signaling: implications for idiosyncratic drug-induced agranulocytosis.</i>	共著	2022年	<i>Toxicol Sci 186, 70-82.</i>
(論文) <i>Role of caspase-8 and/or -9 as biomarkers that can distinguish the potential to cause toxic- and immune related-adverse event, for the progress of acetaminophen-induced liver injury.</i>	共著	2022年	<i>Life Sci 294, 120351</i>
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
これだけは知っておきたい! TDMに必要な薬物動態の基礎知識とその活用方法. ベーシックレクチャー2「実はTDMが苦手なあなたへ! 症例から学ぶTDM実践 ~薬物動態の基礎知識と活かし方~」		2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会
JSTDM-IATDMCT Joint Symposium 2023 in Asia		2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会
TDMによる重篤副作用の予測・予防の現状と課題		2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会
がん分子標的薬TDMの現状と今後の課題		2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会
薬剤師・薬学研究者が国際学会で発表することのメリット-国際学会で発表してみよう-. シンポジウム5皆さんの研究成果を世界に向けて発信してみませんか?		2023年10月	第17回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会
腎機能評価における性差. シンポジウム25「薬物療法における性差の課題について考えてみませんか? ~基礎と臨床からのアプローチ~」		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
TDMによるアセトアミノフェン誘発肝障害発症予測の可能性. 共催シンポジウム1-C-S05「即時臨床応用のためのTDMと臨床薬理を考える」		2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会
Sunitinib誘発肝障害の発症機序の解明とバイオマーカーの探索		2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会
Brigatinib誘発性副反応の発症メカニズム —THP-1細胞を用いた免疫活性化に関する検討—		2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会
トロバフロキサシン誘発肝障害の発症機序の解明		2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会
リファンピシン併用によるロルラチニブ誘発性肝障害の発症メカニズムの解明 —THP-1細胞を用いた免疫活性化に関する検討—		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
肥満を伴う糖尿病状態のラット脳内におけるオレキシン受容体発現の変動		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会

ミネラルコルチコイド拮抗薬スピロラクトンの肺血管リモデリングに対する作用の検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
ヒト血管内皮細胞に対するミネラルコルチコイド受容体ブロッカーエサキセレノンのインフラマソーム抑制作用の検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
トロバフロキサシン誘発肝障害の発症時に放出されるDAMPsの検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
共有結合医薬品と特異体質性薬物 副反応の関連性－発症機構の解明とその予測予防法の開発－	2024年1月	日本薬学会東海支部特別講演会
Development of a toxicity risk assessment system that considers the effects of nonparenchymal cells.	2023年9月	The international joint meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 (ICCP450) and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (JSSX)
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2020年7月～現在	日本TDM学会 理事	
2022年7月～現在	日本循環制御医学会 理事	
2019年9月～現在	International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, Councilor	
2021年7月～現在	International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, Communication Committee, Vice Chair	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 専門教授	氏名 角山 香織
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月～ 6月	「医療人マインド」(多職種連携教育の1つ)(1年次開講)において、講師の講演後に感想・質問用紙に自身の意見を記載させ、他学部生と交換して共有することにより、3学部生がお互いの考えに触れられるように工夫した。
		2018年4月～ 7月	科目「臨床導入学習1(実務実習事前学習)」において、本薬学部で初めて4年次生にシミュレーターを用いた症例に基づく実習を導入した。実習では、心房細動、喘息の病態と薬物治療の効果・副作用のモニタリングに必要なフィジカルアセスメントが学べるように工夫した。
		2019年4月～ 6月	「医療人マインド」(多職種連携教育の1つ)(1年次開講)において、講師の講演後に3学部生が口頭で意見交換する時間を毎回設けて交流を促し、お互いの考えに触れられるように工夫した。
		2019年9月～ 12月	科目「早期体験学習2」(1年次開講)において、薬学部6年間の学習に興味を持ち、今後の学習の見通しを立てるきっかけとなるように、循環器系、呼吸器系、代謝系の症例を通した演習を行った。症例に使用されている治療薬の投与前後の身体の変化をシミュレーターを用いて体験させることにより、薬理作用を実感できるように工夫した。
		2019年2月～ 2020年2月	薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年度改訂版)に基づく実務実習において、薬局・病院の一貫した実習となるように薬局・病院間の連携強化に努めた。特に医療機関の様々な機能の理解を促すために、大阪医科大学病院(当時)と高槻市・茨木市・豊中市の複数協力病院との連携実習を構築し、実習生、指導薬剤師との面談を頻回に行うなど円滑に実習が進むよう尽力した。
		2020年6月～ 8月	コロナ禍のため、実習時間を短縮し密を避ける必要があった。そこで、科目「臨床導入学習1(実務実習事前学習)」において、フィジカルアセスメントに関する導入講義や手技の説明などは、オンデマンド教材を作成し事前に視聴してもらうように工夫した。これにより、大学登校時には、シミュレーターを用いた手技の実践に集中し効率的に実習を行うことができた。
		2020年6月～ 8月	コロナ禍のため「医薬品情報学」(3年次開講)のオンデマンド教材を作成して授業を行った。学生が飽きてしまわないように、また、復習しやすいように1本の動画の時間を短くするよう工夫した。
		2020年9月～ 12月	「専門職連携医療論」(多職種連携教育の1つ)(2年次開講)において、コロナ禍で対面でのグループワークが困難となった。3学部合同演習の機会を確保できるように、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いてオンラインでのグループワークを実施するように工夫した。

	2021年4月～7月	コロナ禍のため「医薬品情報学」（3年次開講）のオンデマンド教材を更新して授業を行った。学生が飽きてしまわないように、途中で演習や発問を入れ、動画にタイマー設定を入れ込み動画を視聴しながら取り組めるように工夫した。また、復習しやすいように1本の動画の時間を短くするよう工夫した。
	2021年6月10日	「医療倫理」（多職種連携教育の1つ）（3年次開講）において、コロナ禍で対面でのグループワークが困難となった。3学部合同演習の機会を確保できるように、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いてオンラインでのグループワークを実施するよう工夫した。
	2021年9月～12月	「専門職連携医療論」（多職種連携教育の1つ）（2年次開講）において、これまで3学部合同演習は8コマのうち2コマだけであったが、4コマを合同演習となるように内容を刷新した。引き続きコロナ禍で対面でのグループワークが困難であったため、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いてオンラインでのグループワークを実施するよう工夫した。
	2022年6月6日	「医療倫理」（多職種連携教育の1つ）（3年次開講）において、対面で3学部合同の演習を実施した。当初1日かけて実施する予定であったが、コロナの感染状況を鑑み実施直前に半日での開催に変更したが、グループワークの時間と成果物の発表の時間が確保できるように工夫した。
	2022年4月～7月	「医薬品情報演習」（4年次開講）において、演習の解説をオンデマンド教材として視聴してもらえるようにすることで、演習そのものは対面少人数（80名程度）で大学で実施できるように工夫した。オンデマンド教材の視聴を促すために、1つ目の課題の解説内容が、2つ目の課題に取り組む際のヒントになるように工夫した。演習時は、学生が質問しやすいように頻りに教室を巡回した。
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年9月～2021年5月	2021年度に初めて開講する「医療倫理」（多職種連携教育の1つ）（3年次開講）にむけ、グループワークで使用する症例について、3学部の多職種連携教育担当教員で協同して作成した。
	2020年9月～2021年5月	「医療安全」（多職種連携教育の1つ）（6年次開講）のグループワークで使用する症例について、3学部の多職種連携教育担当教員で協同して作成した。
	2020年2月	多職種連携教育科目で使用できるように医学部、看護学部の教員と共同で「実践 多職種連携教育（中外医学社）」を作成した。
	2020年4月～2023年2月	新型コロナウイルス感染症の状況により臨地で実務実習が実施できない場合に活用できるように、病院実務実習で学習する項目について、指導薬剤師と協力してオンデマンド教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年7月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会において「医薬品リスク管理計画(RMP)の利活用に関する卒業研修会の有用性評価」について発表した。
	2018年9月	日本医療薬学会第70回医療薬学公開シンポジウムにおいて「近畿地区における大学-薬局-病院の連携強化に向けた取り組み」について講演した。
	2019年1月	第14回日本医学シミュレーション学会大会において「薬学部初年次における学習意欲向上を目指したシミュレーション教育の実践とその評価」について発表した。

	2019年7月	第51回日本医学教育学会大会において「災害対応を主題としたProblem-based learning and discussionを用いた多職種連携教育の試み」について発表した。
	2020年7月	第52回日本医学教育学会大会において「大学間の物理的課題を乗り越える多職種連携教育の授業方法の評価」について発表した。
	2020年7月	第52回日本医学教育学会大会において「多学部教員合同による多職種連携教育テキストブックの作成経験」について発表した。
	2021年1月	3大学（関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学）医工薬連環科学シンポジウムにおいて「薬学部における多職種連携教育について」について講演した。
	2021年3月	日本薬学会第141年会において「初年次教育におけるインスリン自己注射及び自己血糖測定体験前後の学生の意識変化に関する評価」について発表した。
	2022年8月	第54回日本医学教育学会大会において「遠隔会議システムを活用した医療倫理に関する多職種連携教育の試み」について発表した。
	2023年3月	日本薬学会第143年会において「授業アンケートに基づく「多職種連携論－医療倫理」演習の評価と今後の課題」について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年10月	第94回「認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in近畿」にタスクフォースとして参加した。
	2019年5月	医学教育共同利用拠点岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）が主催する第72回医学教育セミナーとワークショップにおいて「シミュレーション教育法を用いて多職種教育を設計しよう」をテーマにワークショップ企画・実施した。
	2019年10月	第10回日本アプライド・セラピューティクス学会において「『医薬協業』を推進する医療人教育」をテーマにシンポジウムを企画・実施した。
	2020年9月	第5回日本薬学教育学会大会において、授業アンケート等の自由記載の評価方法の1つとして質的分析を取り上げ「質的分析入門～コーディングとその後解析に少し触れてみよう～」をテーマにワークショップを開催した。
	2020年9月	第5回日本薬学教育学会大会において「臨床準備教育の方略を考える～近畿地区統一評価基準の活用を踏まえて～」をテーマにシンポジウムを企画・実施し、シンポジストとしても登壇した。
	2021年8月	第108回「認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in近畿」にタスクフォースとして参加した。
	2022年4月、9月	第111回（4月）、第114回（9月）「認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in近畿」にタスクフォースとして参加した。
	2022年8月	第7回日本薬学教育学会大会において「改訂モデル・コアカリキュラムで求められる臨床教育を実践しよう！～実務実習生に何をどう伝えるかを考える～」をテーマにシンポジウムを企画・実施した。

	2023年3月	第117回「認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in近畿」にタスクフォースとして参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）実践 多職種連携教育	共著	2020年2月	中外医学社
（論文）添付文書の読み解き方に関する卒後研修会の評価（第2報）～受講前後における「薬物動態」及び「臨床成績」に対する認識の変化～	共著	2019年3月	大阪薬科大学紀要, 13:145-154
（論文）初年次教育における学習意欲向上を目指したシミュレーション教育の評価	共著	2020年3月	大阪薬科大学紀要, 14:149-158
（論文）大学間の物理的課題を乗り越える多職種連携教育の授業方法の評価	共著	2022年3月	大阪医科薬科大学薬学部雑誌, 1:109-118
（論文）近畿地区統一概略評価基準「臨床準備教育における概略評価表（例示）＜近畿地区版＞」の作成経緯と運用	共著	2023年1月	薬学教育, 6:83-89
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ARB/カルシウム拮抗薬配合錠処方歴と血圧の変化との連関解析		2023年6月	第6回フレッシュャーズ・カンファランス
80歳以上の高血圧患者におけるARB/サイアザイド系利尿薬配合錠開始後の血圧値の分類変化		2023年6月	第6回フレッシュャーズ・カンファランス
一般女性から見たウィメンズヘルスに関する相談相手としての薬剤師		2023年7月	第31回クリニカルファーマシーシンポジウム
薬局実務実習後の学生の意見に基づく実習内容の質的評価		2023年8月	第8回日本薬学教育学会
学生の意見に基づく薬局実務実習項目の実施状況ならびに充実度の評価		2023年8月	第8回日本薬学教育学会
薬学実務実習における多職種連携と教育を実践してみよう！～災害医療編～		2023年8月	第8回日本薬学教育学会
基礎と臨床の対話により知識統合教育を模索する		2023年8月	第8回日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2009年～現在	日本アプライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会 評議員		
2018年4月～2021年3月	大阪府薬剤師会 学術倫理審査推進委員会 委員		
2018年4月～現在	大阪府薬剤師会 教職薬剤師会支部 会計		
2019年～現在	一般社団法人薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 副委員長		
2020年4月～現在	日本医薬品情報学会 代議員		
2019年4月～2021年6月	第23回日本医薬品情報学会総会・学術大会 実行委員長		

2020年8月～現在	大阪府薬剤師会 薬学生実務実習受入対策委員会 委員
2021年5月～2022年3月	一般社団法人日本私立薬科大学協会 薬学教育モデル・コアカリキュラム「学修領域（大項目「F.臨床薬学」）検討小委員会」 委員
2021年12月～2023年3月	文部科学省 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会 委員
2022年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会 薬学教育調査・研究・評価委員会 委員
2022年5月～現在	一般社団法人薬学教育協議会 「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂のためのワーキンググループ」 委員 (F.臨床薬学)
2022年8月～現在	一般社団法人私立薬科大学協会 教育研究問題検討委員会 委員
2022年8月～現在	一般社団法人薬学教育協議会 「6年制薬学教育 実務実習ガイドライン改訂ワーキンググループ」 委員
2022年9月～現在	一般社団法人私立薬科大学協会 広報誌編集委員会 委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授(特任)	氏名 金 美恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年1月20日 2019年4月1日 2020年9月25日	実務実習のグループ化に向けて施設対象説明会開催 臨床導入学習1反転授業を取り入れた 臨床導入学習2コロナ対策少人数ローテート実習
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年3月～ 2019年4月5日	臨床導入学習1テキスト作成 共著－薬剤師のための臨床検査の知識－改訂7版発行
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2019年9月1日  2019年4月～	地域包括支援センター看護師対象「インスリンの使い方」講演  OSCE SP養成ワーキング
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～2021年6月		日本社会薬学会関西支部会計	
2018年4月～現在		「薬のチェック」編集アドバイザー	
2021年3月～現在		守口敬仁会病院倫理委員会外部委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授(特任)	氏名 井上 薫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年8月17日	科目「薬学総合演習」において、視聴覚資料を利用した講義を行った。
		2020年8月1日	科目「薬学総合演習」において、視聴覚資料(オンデマンド)を利用した講義を行った。
		2020年9月29日	科目「臨床導入学習2」において、視聴覚資料を利用したガイダンスを行った。実習における感染予防対策などを中心に学生に周知徹底した。
		2021年8月1日	科目「薬学総合演習」において、視聴覚資料(オンデマンド)を利用した講義を行った。学生が理解を深めることが出来るよう、問題演習も組み合わせた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年～2022年	臨床導入学習1の教材における「一般院内製剤・薬局製剤及び配合変化など」における学習ノートの作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年1月11日	「大阪府薬剤師会無菌調剤室利用者研修会」において実技講演を行った。
		2022年1月8日	「大阪府薬剤師会無菌調剤室利用者研修会」において実技講演を行った。
		2022年8月7日	「アイセイ薬局主催・無菌セミナー」において実技講演を行った。
		2023年1月7日	「大阪府薬剤師会無菌調剤室利用者研修会」において実技講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2019年～2022年	科目「薬学総合演習」の実務分野で卒業試験の問題作成に関り、学生の理解度アップに努めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
対象年度になし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
対象年度になし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター倫理審査委員会及び受託研究審査委員会の施設外委員		
2021年5月～2022年12月	新型コロナワクチン接種事業出務活動(高槻地区及び三島地区)		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授 (特任)	氏名 神林 祐子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書)			
緩和医療・支持療法 49 がん疼痛	単著	2022	じほう (東京) 冊. 380-385, 2022
II各論 3 感覚器 C 末梢神経障害 薬剤師の関わり	単著	2022	JASCC がん支持療法テキストブック、金原出版 (東京) 冊. 165, 2022
22 鎮痛薬 Evidence Update 2023 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する	単著	2023	南山堂 (東京) pp. 126-129, 2023. 1
第 10 章ホルモン療法薬“がん薬物療法のひきだし 腫瘍薬学の基本から応用まで	単著	2020	医学書院 (東京) . pp. 98-105.
第 11 章 免疫療法薬“がん薬物療法のひきだし 腫瘍薬学の基本から応用まで	単著	2020	医学書院 (東京) . pp. 106-110.
【病気とくすり 2020 基礎と実践 Expert's Guide】病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 がん疼痛.	単著	2020	南山堂 (東京) pp. 1624-1633.
⑳ 鎮痛薬 Evidence Update 2022: 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する	単著	2022	南山堂 (東京) 125-128, 2022
(論文)			
Evaluation of lung adverse events with nivolumab using the spontaneous reporting system in Japan.	共著	2023	Sci Rep. 2023 May 31;13(1):8819.
Evaluation of Time to Onset and Outcome of Cardiac Adverse Events Associated with Nilotinib using Post-Marketing Surveillance.	共著	2023	Oncology. 2023;101(12):799-807.
Evaluation of Time to Onset and Outcome of Lung Adverse Events Related to Pembrolizumab Using Marketing Surveillance.	共著	2023	Oncology. 2023;101(12):817-821.
Factors associated with non-response to naldemedine for opioid-induced constipation in cancer patients: A subgroup analysis.	共著	2022	Oncology. 2023;101(7):407-414.
Evaluation of lung adverse events with trastuzumab using the Japanese pharmacovigilance database.	共著	2022	Oncology. 2023;101(6):397-405.
Evaluation of lung toxicity with bevacizumab using the spontaneous reporting database.	共著	2022	Sci Rep. 2022 Sep 16;12(1):15619.
Predictors of the development of nab-paclitaxel-induced peripheral neuropathy in breast cancer patients: post hoc analysis of a prospective, phase II, self-controlled clinical trial.	共著	2022	Med Oncol. 2022 Jul 19;39(10):153.
Risk factors for opioid-induced constipation in cancer patients: a single-institution, retrospective analysis.	共著	2022	Support Care Cancer. 2022 Jul;30(7):5831-5836.

Predictors for development of palbociclib-induced neutropenia in breast cancer patients as determined by ordered logistic regression analysis.	共著	2021	Sci Rep. 2021 Oct 8;11(1):20055.
Factors affecting the effect of naldemedine for opioid-induced constipation: a single-institution, retrospective analysis.	共著	2021	Pharmazie. 2021 Apr 1;76(4):175-178.
Predictors for development of denosumab-induced hypocalcaemia in cancer patients with bone metastases determined by ordered logistic regression analysis.	共著	2021	Sci Rep. 2021 Jan 13;11(1):978.
Predictive factors for the development of proteinuria in cancer patients treated with bevacizumab, ramucirumab, and aflibercept: a single-institution retrospective analysis.	共著	2020	Sci Rep. 2020 Feb 6;10(1)
Predictors of the usefulness of mirogabalin for neuropathic pain: a single-institution retrospective study.	共著	2020	Pharmazie. 2020 Nov 1;75(11):602-605.
Comparison of the efficacy of cryotherapy and compression therapy for preventing nanoparticle albumin-bound paclitaxel-induced peripheral neuropathy: A prospective self-controlled trial.	共著	2020	Breast. 2020 Feb;49:219-224.
Predictive factors for taxane acute pain syndrome determined by ordered logistic regression analysis.	共著	2019	Support Care Cancer. 2019 Jul;27(7):2673-2677.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
がん患者におけるオピオイド誘発性便秘症の危険因子 単一施設における後方視的研究		2023年6月	第28回日本緩和医療学会学術大会
乳がん患者におけるnab-paclitaxelによる末梢神経障害の予測因子の検討		2023年10月	第61回日本癌治療学会学術集会
第33回日本医療薬学会年会		2023年11月	医薬品副作用データベース（JADER）を用いたbevacizumabによる肺毒性評価
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授(特任)	氏名 和田 恭一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 病棟・カンファレンスでそのまま使える想定問答集151, 千堂 年昭/編集代表,	共著	2019年10月	じほう(東京)
(著書) "臨床薬学 テキストシリーズ 循環器/腎・泌尿器/代謝/内分泌" 乾賢一 監修 第1章 循環器疾患 5. 心筋症 pp. 74-79	共著	2020年1月	中山書店(東京)
(著書) 病気とくすり2020 第2章 精神・中枢神経の病気とくすり 脳卒中 第5章 循環器の病気とくすり 心不全 pp. 125-134, pp398-407	共著	2020年3月	南山堂(東京)
(著書) 腫瘍循環器診療ハンドブック 小室一成 監修 pp. 219-224	共著	2020年12月	メジカルレビュー社
(著書) 病気とくすり2020 第2章 精神・中枢神経の病気とくすり 脳卒中 第5章 循環器の病気とくすり 心不全 pp. 129-137, pp404-415	共著	2021年3月	南山堂(東京)
(論文) Takaya Uno, Kyoichi Wada, Sachi Matsuda, Megumi Ikura, Hiromi Takenaka, Nobue Terakawa, Akira Oita, Satoshi Yokoyama, Atsushi Kawase, Kouichi Hosomi, Mitsutaka Takada. Clotrimazole troches can alter everolimus pharmacokinetics in post-transplant patients: A case report	共著	2019年6月	British Journal of Clinical Pharmacology., 85, 2176-2178
(論文) Takaya Uno, Kyoichi Wada, Kouichi Hosomi, Sachi Matsuda, Megumi Morii Ikura, Hiromi Takenaka, Nobue Terakawa, Akira Oita, Satoshi Yokoyama, Atsushi Kawase, Mitsutaka Takada. Drug interactions between tacrolimus and clotrimazole troche: a data mining approach followed by a pharmacokinetic study	共著	2020年1月	European Journal of Clinical Pharmacology 76(1) 117 - 125, 2020

(論文) Megumi Ikura, Tsutomu Nakamura, Takaya Uno, Kazuki Nakagita, Hiromi Takenaka, Sachi Matsuda, Ryosuke Oda, Kyoichi Wada, Yuji Hattori, Osamu Seguchi, Masanobu Yanase, Naoki Hayakawa, Norihide Fukushima. Discontinuation of oral amphotericin B therapy does not influence the pharmacokinetics of tacrolimus in heart transplant patients	共著	2021年8月	Int J Clin Pharmacol Ther. 59(8):566-571, 2021
(論文) Kazuki Matsui, Yutaro Mukai, Kota Sakakura, Kyoichi Wada, Tsutomu Nakamura, Atsufumi Kawabata, Nobue Terakawa, Naoki Hayakawa, Kengo Kusano, Kouichi Hosomi, Satoshi Yokoyama, Mitsutaka Takada. Relationship between serum bepridil concentration and corrected QT interval	共著	2021年1月	Int J Clin Pharmacol Ther. 59(1):63-70, 2021
(論文) Mai Otokubo, Kyoichi Wada, Megumi Ikura, Kotoka Hayase, Takaya Uno, Kazuki Nakagita, Naoki Hayakawa, Takuya Watanabe, Osamu Seguchi, Norihide Fukushima, Tsutomu Nakamura*. Risk assessment of neutropenia during low-dose valganciclovir prophylaxis for heart transplant recipients.	共著	2022年4月	Biol. Pharm. Bull. 45(4):452-459 (2022).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～	日本臓器保存生物医学会 (評議員)		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授(特任)	氏名 古川 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 病院薬剤師のためのスキルアップ×キャリアアップガイド	共著	2021年2月	じほう社
(著書) お薬立ちBOOK2022	共著	2022年3月	南山堂
(論文) 医療 薬剤部(科)長の育成・研修	単著	2021年10月	国立医療学会学会誌 75(4)
(論文) COVID-19 ワクチンtozinameran 接種に関する管理と調製方法の検討	共著	同 年6月	日本化学療法学会雑誌. 69(5)
<i>Risk Factors for Hepatic Toxicity of High-dose Methotrexate in Patients with Osteosarcoma.</i>	共著	同 年	<i>Anticancer Res</i> 42(2)
<i>Differences in kinetics of tacrolimus concentration after letermovir discontinuation by type of concomitant azole antifungal.</i>	共著	同 年	<i>Int J Hematol</i> 115(2)
<i>Association between the Co-administration of Histamine H2 Receptor Antagonists and the Effectiveness of Capecitabine in Patients with Colorectal Cancer: Propensity Score Analysis.</i>	共著	同 年	<i>J Cancer.</i> 13(10)
<i>Patient-associated risk factors for severe anemia in patients with advanced ovarian or breast cancer receiving olaparib monotherapy: A multicenter retrospective study.</i>	共著	同 年	<i>Front Oncol.</i> 2022 Oct 4:12:898150. doi: 10.3389/fonc.2022.898150.
CD20陽性B細胞性非ホジキンリンパ腫患者におけるリツキシマブバイオ 先発品とバイオ後続品における Infusion Reaction 発現特性の比較	共著	同 年	日本臨床腫瘍薬学会雑誌 24
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2018年4月～2021年3月	厚生労働省医政局経済課 委託事業「後発医薬品使用促進ロードマップ検証検討事業」検討委員会 委員
2021年4月～現在	小林がん学術振興会 選考委員会委員
2021年4月～2023年3月	日本薬剤師レジデント制度研究会 幹事
2021年4月～2023年3月	2023年日本臨床腫瘍薬学会学術大会 顧問
2021年4月～2023年3月	関東地区国立病院薬剤師会 副会長
2021年4月～2023年3月	抗がん剤曝露対策協議会 理事 教育委員会委員
～現在	日本病院薬剤師会会員
～現在	日本医療薬学会会員
～現在	日本臨床腫瘍薬学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬品物理化学研究室	職名 准教授	氏名 尹 康子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2021年6月14日  2022年5月6日 2022年5月13日  2022年6月10日	科目「化学」において、受講学生に演習問題に取り組んでもらうことで、講義内容の理解度を確認した。  科目「化学」において、復習に積極的に取り組んでもらうために課題(宿題)を課すようにした。  科目「化学」において、講義内容のさらなる理解を促し、補助資料として利用できるよう、講義動画を配信した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論分) Marinoquinolones and Marinobactaic Acid: Antimicrobial and Cytotoxic ortho-Dialkylbenzene-Class Metabolites Produced by a Marine Obligate Gammaproteobacterium of the Genus Marinobacterium	共著	2022年8月	<i>Journal of Natural Products</i> , 85, 1763-1770.
(論分) Kumemycinones A-G, Cytotoxic Angucyclinones from a Deep Sea-Derived Actinomycete of the Genus Actinomadura	共著	2022年3月	<i>Journal of Natural Products</i> , 85, 1098-1108.
(論分) Structural study of the recognition mechanism of tau antibody Tau2r3 with the key sequence (VQIINK) in tau aggregation	共著	2021年11月	<i>Biochemical and Biophysical Research Communications</i> , 585, 36-41
(論文) Nyuzenamides A and B: Bicyclic Peptides with Antifungal and Cytotoxic Activity from a Marine-Derived Streptomyces sp.	共著	2021年1月	<i>Organic Letters</i> , 23, 2109-2113
(論文) Crystal structure of the human tau PHF core domain VQIINK complexed with the Fab domain of monoclonal antibody Tau2r3	共著	2020年4月	<i>FEBS Letters</i> , 2140-2149
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析 -結晶化条件の検索と初期構造の決定-		2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会
海洋細菌 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpAの立体構造解析に向けた結晶化条件の検索		2024年3月	日本薬学会 第144年会
腸炎ビブリオ( <i>Vibrio parahaemolyticus</i> )由来シデロフォア生合成酵素 PvsAの立体構造解析に向けた結晶化条件の検索		2024年3月	日本薬学会 第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 衛生化学研究室	職名 准教授	氏名 佐久間 寛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 衛生薬学(環境)	2009年～現在	2年次生に面接あるいはオンデマンド講義形式で実施している。健康の維持増進、疾病の予防をはかる上で、化学物質・放射線の生体への影響、生活環境と健康に関わる衛生薬学的知識習得の重要性を具体例を用いて説明している。講義ではトピックス交えながら、興味を持たせるように努めている。毎年、授業評価アンケートを実施し、前年度の授業評価アンケートに記載された学生の意見を参考に講義内容や方法の改善をはかっている。	
衛生薬学実習	1987年～現在	3年次生に衛生試験法記載の環境試験法のうち水質試験、空気試験に関する項目の測定技法を実地で教授している。実験手技の習得のみならず、原理を理解させるよう努めている。5名程度を1グループとして、自ら考えさせること、衛生薬学関連講義への理解へも波及できるように努めている。毎年、授業評価アンケートを実施し、前年度の授業評価アンケートに記載された学生の意見を参考に説明や方法の改善をはかっている。	
薬学総合演習(衛生)	2003年～現在	6年次生に対して、2～3年次に学んだ衛生薬学分野の生活環境と健康の総復習として面接あるいはオンデマンド講義形式で実施している。卒業生が衛生薬学分野を深く理解し、薬剤師として社会に貢献できるよう研鑽する意識醸成を目指している。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Comparative effects of sulforaphane and allyl isothiocyanate on 3T3-L1 adipogenesis	共著	2022年1月	J. Nutr. Metab., Vol.2022, 1-8.
(論文) Comparative effects of luteolin and quercetin on adipogenesis in 3T3-L1 cells	共著	2021年11月	J. Pharm. Nutr. Sci., Vol. 11, 65-72.

(論文) Hydrogen sulfide donor GYY4137 suppresses proliferation of human colorectal cancer Caco-2 cells by inducing both cell cycle arrest and cell death.	共著	2019年8月	Heliyon, Vol. 5, e02244.
(論文) Nitric oxide represses the proliferation of Caco-2 cells by inducing S-G2/M cell cycle arrest.	共著	2019年10月	Int. J. Physiol. Pathophysiol. Pharmacol., Vol. 11, No. 5, 205-211.
(論文) The peptide glycyl-L-histidyl-L-lysine is an endogenous antioxidant in living organisms, possibly by diminishing hydroxyl and peroxy radicals.	共著	2018年6月	Int. J. Physiol. Pathophysiol. Pharmacol., Vol. 10, No. 5, 132-138.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
天然イソチオシアネート化合物Erysolinによる抗肥満効果の検討		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
ヒト脳血管内皮細胞hCMEC/D3の密着結合に対するメチルグリオキサール及びL-テアニンの影響		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
1995年3月～現在	日本薬理学会評議員		
2010年8月～現在	高槻市食楽ネットワーク会議 (担当者)		
2013年5月～2019年3月	大阪府毒物劇物取扱者試験委員会委員		
2019年7月～2023年3月	関西広域連合毒物劇物取扱者試験委員会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 生体機能解析学研究室	職名 准教授	氏名 坂口 実
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2022年9月～12月	1年次生「基礎細胞生物学」において、視聴覚資料を多用した講義を行い、理解度の確認のため練習問題を作成、配布し、一部について解説した。
		2022年5月9日	6年生科目「先端分子医科学1」第2回乳がんの分子医科学を、最新の知見を取り入れてオンデマンドで講義した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年3月24日	科目「生物学」「基礎細胞生物学」の教科書として2015年3月23日に刊行した「FUNDAMENTAL細胞生物学坂口実(単著)」を改訂し、第2版を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2023年2月15日	本学のワークショップ「カリキュラム・プランニングワークショップー評価計画と学習環境を考えるー」に参加した。
		2023年1月30日	本学のFD「第1回3学部合同FD-高等学校の「情報科目」と大学における「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を考えるー」に参加した。
		2022年12月13日	本学のSDGsセミナー「SDGsー誰ひとり取り残さない」と「万博 いのち輝く未来社会」に参加した。
		2022年10月12日	本学のFD「米国における薬学教育カリキュラムの紹介と日本の薬学教育への応用」に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) FUNDAMENTAL 細胞生物学 第2版	単著	2022年3月	京都廣川書店
(論文) <i>Prolyl oligopeptidase participates in the cytosine arabinoside-induced nuclear translocation of glyceraldehyde 3-phosphate dehydrogenase in a human neuroblastoma cell line.</i>	共著	2021年7月	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , vol. 572, 65-71.
(論文) <i>Berberine-induced nucleolar stress response in a human breast cancer cell line.</i>	共著	2020年7月	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , vol. 528, 227-233.
(論文) <i>Computational design of substrate selective inhibition.</i>	共著	2020年3月	<i>PLoS Comput. Biol.</i> , 16(3): e1007713.
(論文) <i>Effects of normothermic microwave irradiation on CD44+/CD24- in breast cancer MDA-MB-231 and MCF-7 cell lines.</i>	共著	2019年9月	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , vol. 84 (1), 103-110.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
S期のGAPDHの核内移行におけるプロリルオリゴペプチダーゼとの相互作用	2024年3月	第144年会 日本薬学会
ヒト骨髄性白血病細胞に対するSUAM-14746の細胞死誘導メカニズムの解析	2024年3月	第144年会 日本薬学会
ヒト乳がん細胞に対するアスタバ含有Xanthoangelolの細胞死誘導作用	2024年3月	第144年会 日本薬学会
ヒト骨髄性白血病細胞に対するプロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬（SUAM-14746）の細胞死誘導作用	2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会
ヒト乳がん細胞株に対するアスタバ含有カルコン類の抗がん作用	2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年3月	第68回 日本薬学会近畿支部総会・大会（姫路獨協大学）ポスター発表審査員	
2022年10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会（摂南大学・枚方キャンパス）ポスター発表審査員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 感染制御学研究室	職名 准教授	氏名 宮本 勝城
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 オンデマンド授業 ブレンド型授業		2020、2021年度前期 2022年度前期	パワーポイントを用いて動画配信を行った。 動画配信と面接授業を組み合わせを行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 動画 資料		2020、2021、2022年度 2020、2021、2022年度	Microsoft Power Pointを用いてStreamで作成した。 Microsoft Power Pointを用いてAdobe Acrobatで作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Iron-utilization system in Vibrio vulnificus M2799.</i>	共著	2021年12月	<i>Marine Drugs vol. 19 No. 12</i>
<i>Binding of AraC-type activator DesR to the promoter region of Vibrio vulnificus ferrioxamine B receptor gene</i>	共著	2021年11月	<i>Biol. Pharm. Bull. vol. 44 No. 11</i>
<i>VuuB and IutB reduce ferric-vulnibactin in Vibrio vulnificus M2799.</i>	共著	2020年7月	<i>Biometals vol. 33 No. 4-5</i>
<i>Transcriptional regulation of the ferric aerobactin receptor gene by a GntR-like repressor IutR in Vibrio furnissii</i>	共著	2018年9月	<i>FEMS Microbiol. Lett. Vol. 365 No. 20</i>
<i>Identification of the heme acquisition system in Vibrio vulnificus M2799.</i>	共著	2018年2月	<i>Microb. Pathog. Vol. 117</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析 -結晶化条件の検索と初期構造の決定-		2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会
<i>Vibrio vulnificus</i> におけるAraC型転写活性化因子DesRによるferrioxamine B受容体遺伝子desAの転写機構		2024年3月	日本薬学会 第144年会
海洋細菌 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpAの立体構造解析に向けた結晶化条件の検索		2024年3月	日本薬学会 第144年会
腸炎ビブリオ( <i>Vibrio parahaemolyticus</i> )由来シデロフォア生合成酵素 PvsAの立体構造解析に向けた結晶化条件の検索		2024年3月	日本薬学会 第144年会
Bam複合体を標的とした多剤耐性アシネトバクターに対する新規抗菌物質の開発		2024年3月	第96回日本細菌学会総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬品物理化学研究室	職名 准教授	氏名 友尾 幸司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年～	「生物物理化学」及び「物理化学3」の両講義において、毎時間プレ・ポストテストを行い、理解度の確認に役立てている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年3月1日	ベーシック薬学教科書シリーズ「物理化学」(化学同人)共著(第12章担当)で第二版の改訂を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Structural study of the recognition mechanism of tau antibody Tau2r3 with the key sequence (VQIINK) in tau aggregation	共著	2021年12月	Biochemical and Biophysical Research Communications 585:36-41
Iron-Utilization System in <i>Vibrio vulnificus</i> M2799.	共著	同年12月	Mar Drugs. 2021 Dec 17:19(12):710-720
Crystal structure of the human tau PHF core domain VQIINK complexed with the Fab domain of monoclonal antibody Tau2r3	共著	2020年4月	FEBS Letters, 594(13), 2140-2149
VuuB and IutB reduce ferric-vulnibactin in <i>Vibrio vulnificus</i> M2799	共著	同年10月	BioMetals, 33(4-5), 187-200
Investigation of Physiological Properties of Transglycosylated Stevia with Cationic Surfactant and Its Application To Enhance the Solubility of Rebamipide	共著	2018年11月	Journal of Physical Chemistry B, 122(43), 10051-10061
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析 -結晶化条件の検索と初期構造の決定-		2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会
海洋細菌 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpAの立体構造解析に向けた結晶化条件の検索		2024年3月	日本薬学会 第144年会
腸炎ビブリオ( <i>Vibrio parahaemolyticus</i> )由来シデロフォア生合成酵素 PvsAの立体構造解析に向けた結晶化条件の検索		2024年3月	日本薬学会 第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 准教授	氏名 佐藤 卓史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年4月～7月 2019年4月～7月	分析化学2における分析機器の展示 応用分析学による反転授業とTBLを組み合わせた演習	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年3月 2219年2月	分析機器を使用法の動画 分析化学2の予習用サブノート	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年9月1日 2019年11月23日	反転授業と TBL を組み合わせた授業の効果の検証 (第4回薬学教育学会) 改訂モデルコアカリキュラムで目指した学習成果基盤型教育とパフォーマンス評価(大阪薬科大学 公開教育講座)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年2月6日 2022年2月15日	学習成果基盤型教育(OBE)とOBEにおけるカリキュラム・プランニング (FD講演) カリキュラム・プランニング ワークショップ (FD)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) よくわかる薬学機器分析[第2版]	共著	2018年4月	廣川書店
(著書) よくわかる薬学機器分析[第3版]	共著	2022年5月	廣川書店
(論文) Development of a p38 $\alpha$ -selective radioactive probe for qualitative diagnosis of cancer using SPECT.	共著	2019年5月	Ann Nucl Med. 2019 ;33(5):333-343.
(論文) A Novel Analytical Method of Cisplatin Using the HPLC with a Naphthylethyl Group Bonded with Silica Gel ( $\pi$ NAP) Column.	共著	2019年5月	Biol Pharm Bull. 2017;40(3):290-296.
(論文) 初年次教育「アカデミックスキル」の効果解析	共著	2021年12月	大阪薬科大学紀要、15:131-138, 2021
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年6月～現在	日本薬学会 金属の関与する反応シンポジウム評議員		
2015年7月～現在	薬学教育協議会病院薬局実務実習近畿地区調整機構 指導者養成小委員会委		
2018年8月～2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会(大阪) プログラム委員・実行委員		
2021年8月	日本薬学会 第11回全国学生ワークショップタスクフォース		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 環境医療学グループ	職名 准教授	氏名 当麻 成人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年4月15日 2021年4月15日 2020年4月10日 2019年4月12日 2018年4月13日 2022年4月20日 2021年4月21日 2020年4月18日 2019年4月17日 2018年4月18日	科目「身体運動科学」において視聴覚資料を多用した講義を行った。 科目「身体運動科学」において視聴覚資料を多用した講義を行った。 科目「身体運動科学」において視聴覚資料を多用した講義を行った。 科目「身体運動科学」において視聴覚資料を多用した講義を行った。 科目「身体運動科学」において視聴覚資料を多用した講義を行った。 科目「スポーツ運動1」において多種目スポーツ運動を行った。 科目「スポーツ運動1」において多種目スポーツ運動を行った。 科目「スポーツ運動1」において多種目スポーツ運動を行った。 科目「スポーツ運動1」において多種目スポーツ運動を行った。 科目「スポーツ運動1」において多種目スポーツ運動を行った。 科目「スポーツ運動1」において多種目スポーツ運動を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年10月 2018年～現在	学園祭においてイベント協力を行った。 学生部委員会委員として学生の活動に協力した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法	共著	2019年10月	杏林書院
(論文)連続選択タッチ反応テストの利き手と非利き手間差及びタッチ位置間差の検討	共著	2020年3月	大阪薬科大学紀要vol.14
(論文)体育専攻学生のための溺水予防と水泳基礎技能	共著	2021年10月	大阪産業大学人間環境論集
(論文)出村慎一, 青木宏樹 バレーボール選手における連続選択反応テストの信頼性及び差異妥当性の検討	共著	2019年3月	大阪薬科大学紀要vol.13
(論文)幼児の投速度調節の正確性及びその性差	共著	2018年	福井高専紀要vol.52
(論文)Differences in simple, choice, and successive choice reaction times among basketball players, swimmers, and non-athletes	共著	2019年	Journal of sports and human performance, in press.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年～2021年	日本教育医学会理事		
2018年～現在	大阪水泳協会評議員		
2018年～現在	大阪府代表国体水球チーム監督		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 中央機器研究施設	職名 准教授	氏名 箕浦 克彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2021年6月21日  2022年6月10日	科目「化学」において、講義内容の理解を確認するために、受講学生には演習問題に取り組んでもらうことで、講義内容の理解の確認を行った。  科目「化学」において、講義内容のさらなる理解を促すために、オンデマンド動画の配信を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Crystal structure of the human tau PHF core domain VQIINK complexed with the Fab domain of monoclonal antibody Tau2r3	共著	2020年4月	FEBS Letters, 594(13), 2140-2149.
(論文) NMR-based quantitative studies of the conformational equilibrium between their square and folded forms of ascidiacyclamides and its analogues.	共著	2020年9月	RSC Adv., 10: 33317-33326.
(論文) Effect of the addition of cyclodextrin to spray-dried particles of curcumin/polyvinylpyrrolidone on the supersaturated state of curcumin	共著	2021年3月	Adv. Powder. Technol., 32, 1750-1756.
(論文) Structural study of the recognition mechanism of tau antibody Tau2r3 with the key sequence (VQIINK) in tau aggregation	共著	2021年11月	Biochemical and Biophysical Research Communications 585:36-41.
(論文) Structural Investigation of Hesperetin-7-O-Glucoside Inclusion Complex with $\beta$ -Cyclodextrin: A Spectroscopic Assessment	共著	2022年8月	molecules, 27(17):5395.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析 -結晶化条件の検索と初期構造の決定-		2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会
海洋細菌 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株由来ペリプラズム結合タンパク質 FbpA の立体構造解析に向けた結晶化条件の検索		2024年3月	日本薬学会 第144年会
腸炎ビブリオ ( <i>Vibrio parahaemolyticus</i> ) 由来シデロフォア生合成酵素 PvsA の立体構造解析に向けた結晶化条件の検索		2024年3月	日本薬学会 第144年会
抗がん活性を有するアゾラト架橋白金(II)二核錯体とアデノシンにより形成される新奇な8員環キレート錯体		2024年3月	日本薬学会 第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 医薬分子化学研究室	職名 准教授	氏名 山田 剛司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書 よくわかる薬学機器分析		2022年4月	廣川書店 出版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Elucidation of the relationship between CD Cotton effects and the absolute configuration of sixteen stereoisomers of spiroheterocyclic-lactams.	共著	2018年6月	Mar. Drugs 2018 vol.16 223
Altercrasins A-E, decalin derivatives, from a sea-urchin-derived <i>Alternaria</i> sp.: Isolation and structural analysis Including stereochemistry	共著	2019年4月	Mar. Drugs 2019 vol.17 480
New diterpenes with a fused 6-5-6-6 ring system isolated from the marine sponge-derived fungus <i>Trichoderma harzianum</i> .	共著	2019年8月	Mar. Drugs 2019 vol.17 480
Halosmysin A, a novel 14-membered macrodiolide isolated from the marine-algae-derived fungus <i>Halosphaeriaceae</i> sp.	共著	2021年3月	Mar. Drugs 2021 vol.18 320
Isolation and structure elucidation of new cytotoxic macrolides halosmysins B and C from the fungus <i>Halosphaeriaceae</i> sp. associated with a marine alga	共著	2022年3月	Mar. Drugs 2022 vol.22 226
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
身近な海洋生物の毒		2023年10月	健康マスター関西会
Halosphaeriaceae科真菌が産生するdihydrocolletodiolによる抗炎症作用		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 機能分子創製化学研究室	職名 准教授	氏名 和田 俊一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月～現在	科目名：基礎有機化学；リメディアル教育科目として高校の有機化学の内容から始め、大学への橋渡し科目として位置づけている。1人の教員による講義3～4回実施後、演習を教員3～5名で実施している。学生からの授業評価も演習を組み入れることで良好である。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis and Biological Evaluation of Histone Deacetylase and DNA Topoisomerase II-Targeted Inhibitors	共著	2018年5月	Bioorganic & Medicinal Chemistry, vol. 26, No. 8
(論文) Influence of lysine residue in amphipathic helical peptides on targeted delivery of RNA into cancer cells	共著	2019年8月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, vol. 29, No. 15
(論文) $\alpha$ -Aminoisobutyric Acid-Containing Amphipathic Helical Peptide-Cyclic RGD Conjugation as a Potential Drug Delivery System for MicroRNA Replacement Therapy in Vitro.	共著	2019年11月	Molecular Pharmaceutics, vol. 16, No. 11
(論文) Influence of Aib-Containing Amphipathic Helical Chain Length in MAP(Aib)-cRGD as Carrier for siRNA Delivery	共著	2022年2月	CHEMISTRY & BIODIVERSITY, vol. 19, No. 2
(著書) Aib含有ペプチド性キャリアによる核酸医薬の細胞内移送技術	共著	2023年1月	『新規モダリティ医薬品のための新しいDDS技術と製剤化』技術情報協会
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ApoB標的アンチセンス核酸gap領域へのリン酸トリエステル修飾の導入と活性への影響		2023年7月	日本核酸医薬学会 第8回年会
Effect of Lysine Replacement with Arginine in Amphipathic Helical Peptide on siRNA Delivery into Cells		2023年11月	第60回ペプチド討論会
還元環境に応答するリンカーを有した 5-aminolevulinic acid-環状RGDコンジュゲート体の合成		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本薬学会会員		
2018年4月～現在	日本薬学会医薬化学部会会員		
2018年4月～現在	日本ペプチド学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 分子構造化学研究室	職名 准教授	氏名 浅野 晶子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2018年4~7月	科目「化学」「化学演習」では、独自に編集した教材を使用した講義を行った。また、毎回小テストを行うことにより、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。(授業評価: 4.4)	
	2019年4~7月	科目「化学」「化学演習」では、独自に編集した教材を使用した講義を行った。また、毎回小テストを行うことにより、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。(授業評価: 4.6)	
	2020年4~7月	科目「化学」「化学演習」では、動画を作成し、オンデマンド授業を行った。また、毎回課題の提出を課すことで、学生の理解度を確認した。(授業評価: 4.5)	
	2021年4~7月	科目「化学」では、独自に編集した教材を使用した講義を行い、復習用の動画を毎講義後に提供した。また、成績不良者を対象に補講を行った。(授業評価: 4.5)	
	2022年4~7月	科目「化学」では、独自に編集した教材を使用した講義を行い、復習用の動画を毎講義後に提供した。また、成績不良者を対象に補講を行った。(授業評価: 4.0)	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Ascidiacyclamides containing oxazoline and thiazole motifs assume square conformations and show high cytotoxicity.	共著	2018年8月	<i>J. Pep. Sci.</i> , e3120.
(論文) Incorporation of $\beta$ -amino acids into ascidiacyclamides: Effects on conformation, cytotoxicity and interaction with copper (II) ion.	共著	2019年9月	<i>J. Pep. Sci.</i> , e3225.
(論文) NMR-based quantitative studies of the conformational equilibrium between their square and folded forms of ascidiacyclamides and its analogues.	共著	2020年9月	<i>RSC Adv.</i> , 10:33317-33326.
(論文) Effect of the powerful plasticity of the tert-butyl side chain on the conformational equilibrium of ascidiacyclamide.	共著	2021年7月	<i>J. Pep. Sci.</i> , e3363.
(論文) Experimental evidence for CH $\cdots$ $\pi$ interaction-mediated stabilization of the square form in phenylglycine-incorporated ascidiacyclamide.	共著	2023年1月	<i>RSC Adv.</i> , 13:2458-2466.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Buforin IIをモデルとしたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの創製と評価	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
C18AAをモデルとしたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの合成と評価	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
Development of helical peptides utilizing aspartate picolyl eester as a side chain crosslink by metal ions.	2023年11月	第60回ペプチド討論会
側鎖にピコリルエステルを含有するペプチドの金属イオンを介した側鎖架橋によるヘリックス構造の安定性評価	2024年3月	日本薬学会第144年会
両親媒性ペプチド中のアミノ酸側鎖環サイズが脂質二重膜へ及ぼす影響の評価	2024年3月	日本薬学会第144年会
両親媒性ヘリックスペプチド中のジ置換アミノ酸の導入位置による脂質二重膜への影響評価	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2021年8月～2023年2月	高槻市ワクチン接種業務（月2～4回）	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料 9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬物治療学 I 研究室	職名 准教授	氏名 幸田 祐佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
①SimMan3G医療シミュレータを活用 「医療薬学導入学習」		2022年9月～ 現在	フィジカルアセスメントと薬学的管理を体験し、副反応発現時の身体変化を把握できるような学習を目指している。 アナフィラキシーショック時の緊急時対応(エピペン)を修得し、将来、薬剤師がワクチン接種の担い手として果たす役割について考えられるような学習を目指している。
②ワクチン接種シミュレーションを実施 「医療薬学導入学習」		2022年9月～ 現在	装着式上腕筋肉注射シミュレータを用いて筋肉内注射を体験し、かつ安全なワクチン接種部位を修得するために、上腕を中心とした解剖学の基礎を学べるような学習を目指している。
③フィジカルアセスメントモデルを活用 「医療薬学導入学習」		2018年～現在	バイタルサインやフィジカルアセスメントに関する体験学習を実施している。医療用モデル(フィジコ)の病態を把握し、フィジカルアセスメントにより得られた患者情報から、くすりの作用と副作用、薬物治療効果を評価できるような学習を目指している。
④薬物治療学 3、4、5		2018年～現在	各種疾病の病態を理解した上で、適正な薬物治療に参画できる能力を身に付けられるような教育を目指している。学生が患者の病態生理を把握し、さらにくすりの専門家としてより良い薬物治療をイメージできるような講義を心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
①医療薬学導入学習 ワクチン接種シミュレーションに関わる教材		2022年9月～ 現在	特に肩、腋窩、上腕部解剖学に関する医学用語、アナフィラキシーショック時の薬物治療を学ぶためのスライド、プリントを作成している。正しいワクチン接種部位とアナフィラキシーショック時の緊急時対応を学ぶための動画スライド、プリントを作成している。
②病態・薬物治療学演習用症例		2018年～現在	肥満を伴う糖尿病患者の病態を把握し、適正な薬物治療を提案できるような題材を作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
薬剤師による予防接種研修プログラム 修了証取得		2022年6月	ワクチン接種の実技研修

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Thiamine supplementation modulates oxidative stress by inhibiting hepatic adenosine diphosphate(ADP)-ribosylation in obese diabetic rats	共著	2019年1月	Fundam. Toxicol. Sci. Vol.6 No.1 1-8
Obesity-related hypertension and enhanced plasma orexin-A level are attenuated by the consumption of thiamine water in diabetic rats under cerebral oxidative stress conditions	共著	2019年12月	Fundam. Toxicol. Sci. Vol.6 No.9 383-390
Age-related hepatic glucose-dependent insulinotropic polypeptide expression is modified by ongoing thiamine supplementation in obese diabetic rats	単著	2020年12月	Fundam. Toxicol. Sci. Vol.7 No.6 291-299
Focus on orexin-A in obese diabetes rats: upregulation of orexin-A receptor in the diabetic brain	単著	2021年12月	Fundam. Toxicol. Sci. Vol.8 No.7 235-241
Effects of continuous thiamine intake on onset and progression of type 2 diabetes in leptin-receptor deficient mice	単著	2023年3月	Fundam. Toxicol. Sci. Vol.10 No.2 83-90
Mechanisms of non-steroidal anti-androgen-induced liver injury: Reactive metabolites of flutamide and bicalutamide activate inflammasomes	共著	2023年4月	Toxicology in Vitro 90, 105606
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effect of thiamine supplementation on orexin A level in obese diabetic rats		2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会
肥満を伴う糖尿病状態のラット脳内におけるオレキシン受容体発現の変動		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
Sunitinib誘発肝障害の発症機序の解明とバイオマーカーの探索		2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会
Brigatinib誘発性副反応の発症メカニズム —THP-1細胞を用いた免疫活性化に関する検討—		2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会
トロバフロキサシン誘発肝障害の発症機序の解明		2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会
リファンピシン併用によるロルラチニブ誘発性肝障害の発症メカニズムの解明		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
ミネラルコルチコイド拮抗薬スピロラク톤の肺血管リモデリングに対する作用の検討		2024年3月	日本薬学会第144年会
ヒト血管内皮細胞に対するミネラルコルチコイド受容体ブロッカーエサキセレノンのインフラマソーム抑制作用の検討		2024年3月	日本薬学会第144年会
トロバフロキサシン誘発肝障害の発症時に放出されるDAMPsの検討		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年7月	健康マスター関西会講演会「肥満に伴う糖尿病と睡眠障害」		
2023年3月	日本薬学会第143年会・ポスター発表学生優秀発表賞 審査員		
2022年~2023年	大阪医科薬科大学薬学部フィジカルアセスメントセミナー スタッフ		
2006年1月~現在に至る	日本毒性学会 評議員		
2006年4月~現在に至る	日本薬理学会 学術評議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 総合科学系領域 自然学グループ	職名 准教授	氏名 永田 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 オンデマンド授業 (授業評価等を含む)		2020/5/1から	コロナ禍に於けるオンデマンド授業の実践
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
(論文) <i>Sós</i> 置換に関する <i>Surányi</i> の全単射のある2次元版 について	共著	2023年3月	大阪医科薬科大学薬学部雑誌 Vol. 2, pp. 21-55
(論文) ある型の置換の個数についてII	共著	2022年3月	大阪医科薬科大学薬学部雑誌 Vol. 1, pp. 19-45
(論文) ある型の置換の個数について	共著	2021年3月	大阪薬科大学紀要 Vol. 15, p. 51-70
(論文) ヒトが生成する置換の統計的性質II,	共著	2020年3月	大阪薬科大学紀要 Vol. 14, p. 19-48
(論文) ヒトが生成する置換の統計的性質	共著	2019年3月	大阪薬科大学紀要 Vol. 13, p. 5-36
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬品作用解析学研究室	職名 准教授	氏名 清水 佐紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2018年～現在  2022年～現在	授業評価において、講義及び実習科目共に、高い学生評価が得られた。  「機能形態学」の関連実習として、本部キャンパスにて「解剖見学実習」を開講した(二年次生希望者対象)。アクティブラーニングの一環として、生命の尊厳、臓器・組織の実構造を理解させるとともに、医療人としての心構えを修得させる。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年～現在	各講義に対して、配布資料を作成した。  教科書等の作成はなし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年～現在	大学で開催されるFD講習会に参加した。
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2021年～現在	FD委員会に属し、FD活動に取り組んだ。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(総説) 大野行弘、國澤直史、 <u>清水佐紀</u> 、てんかんモデルを用いたてんかん原性研究	共著	2020年2月	メディカル・サイエンス・ダイジェスト, 46: 79-83, 2020
(論文) A. Nishitani, H. Nagayoshi, S. Takenaka, M. Asano, <u>S. Shimizu</u> , Y. Ohno, T. Kuramoto, Involvement of NMDA receptors in tremor expression in Aspa/Hcn1 double-knockout rats.	共著	2020年11月	Exp Anim., 69: 388-394, 2020
(総説) Y. Ohno, N. Kunisawa, <u>S. Shimizu</u> , Emerging Roles of Astrocyte Kir4.1 Channels in the Pathogenesis and Treatment of Brain Diseases.	共著	2021年10月	Int. J. Mol. Sci., 22:10236, 2021
(論文) M. Kato, N. Kunisawa, <u>S. Shimizu</u> , H. A. Iha, Y. Ohno, Mechanisms Underlying Dopaminergic Regulation of Nicotine-Induced Kinetic Tremor.	共著	2022年6月	Front Pharmacol., 13: 938175, 2022
(著書) <u>清水佐紀</u> 、大野行弘、カラー図説: 抗発作薬の作用機序, "日本臨牀" 2022年12月号特集「てんかん診療 update」	共著	2022年12月	日本臨牀社, p. 1883-1887, 2022
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
抗てんかん薬の反復的投与によるけいれん発作の予防効果および神経興奮性及ぼす影響		2023年6月	第143回日本薬理学会近畿部会
ニコチンによる運動興奮症状の発現におけるアストロサイトの関与		2023年6月	第143回日本薬理学会近畿部会
ニコチンによる運動興奮症状発現におけるアストロサイト活性化の役割		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会大会
フルオロクエン酸投与によるアストロサイト不活性化モデルの作成		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会大会
抗LGI1抗体の海馬内投与マウスにおけるけいれん感受性の評価		2023年11月	第53回日本臨床神経生理学会学術大会
Effect of the Kir4.1 blocker, quinacrine, on lipopolysaccharide-induced cognitive impairment		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
Effects of the intrahippocampal injection of anti-Lgi1 antibody on cognitive function and seizure susceptibility in mice		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
神経炎症を伴う認知機能障害に対するKir4.1チャネル阻害薬の作用評価		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
フルオロクエン酸によるアストロサイトの不活性化がペンテレンテトラゾール誘発けいれんに及ぼす影響		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会

Kir4.1チャンネル阻害薬quinacrineの抗うつ効果におけるアストロサイトの関与	2024年3月	日本薬学会第144年会
Kir4.1チャンネル阻害薬quinacrineの神経炎症を伴う認知機能障害に対する改善作用	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員（2008年4月～ 会員）	
2019年4月～現在	日本神経精神薬理学会 評議員（2008年4月～ 会員）	
2008年4月～現在	日本薬学会 会員	
2010年4月～、2013年4月～現在	日本毒性学会 会員、日本神経科学学会 会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 製剤設計学研究室	職名 准教授	氏名 門田 和紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2022.4	対面とオンデマンドの併用授業 国家試験に対応できるように演習問題を取り入れる
2 作成した教科書、教材、参考書		2022.8 2022.9	広義 製剤学 薬剤学実習 テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 広義 製剤学 第2版	共著	2022年8月	京都廣川書店
(解説) Particle preparation and morphology control with mutual diffusion across liquid-liquid interfaces	共著	2021年1月	KONA Powder and Particle Journal, 38, 122-135 (2021)
(論文) In silico evaluation of particle transport and deposition in the airways of individual patients with chronic obstructive pulmonary disease	共著	2022年5月	European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics, 174, 10-19 (2022)
(論文) Controlled release behavior of curcumin from kappa-carrageenan gels with flexible texture by the addition of metal chlorides	共著	2020年4月	Food Hydrocolloids, 101, 105564 (2020)
(論文) Development of porous particles using dextran as an excipient for enhanced deep lung delivery of rifampicin	共著	2019年1月	International Journal of Pharmaceutics, 555, 280-290 (2019)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年3月～現在	粉体工学会編集委員会		
2019年4月～現在	国際粉体工業展(大阪)委員		
2020年6月～現在	日本海水学会編集委員会		
2021年4月～現在	日本薬学会編集委員会		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 准教授	氏名 細畑 圭子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2018年～2022年	科目「医療統計学」において、視聴覚資料を利用した講義を行った(2022年度・授業評価3.9)。
		2018年～2022年	演習「薬物治療学演習」において、SGDおよびプレゼンテーションによるグループ発表を成績評価の対象とし、学生の能動的取り組みを促進する工夫をした(2022年度・授業評価3.7)。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年～現在	実習「臨床導入学習」において、スモールグループディスカッションで用いる医療シナリオを教材として作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年	実習「臨床導入学習」において、SGD後のグループ発表に対するピア評価にICTツールを導入し、即時フィードバックへと繋げた教育上の工夫を教育成果論文として発表した(細畑圭子、金 美恵子、恩田光子、岩永一範、「ICTを活用したSGDにおけるピア評価の試み」、『薬学教育』, 第2巻, p201-p206, 2018)。
		2019年	実習「臨床導入学習」において、反転学習を導入し、予習による知識の修得度を確認するため個人テストとグループテストを行い、テスト形式を剥がしたシールの数が多いほど点数が低くなるスクラッチカード方式で採点することにより学生の実習への能動的取り組みを促進した教育実践について学会シンポジウムで講演した(演題名: 薬学教育における臨床薬理学、第40回日本臨床薬理学会年会)
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2023年3月	長野県大鹿村主催の公開講座で、地域住民を対象に、福祉と健康に関する講演を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Advances in Clinical Chemistry (Chapter 2: Biomarkers of high salt intake)	共著	2021年9月	Elsevier出版, pp. 71-106.
(論文) Vanin-1 in renal pelvic urine reflects kidney injury in a rat model of hydronephrosis.	共著	2018年10月	International Journal of Molecular Sciences, 19(10): 3186
(論文) Adverse cutaneous drug reactions associated with old- and new-generation antiepileptic drugs using the Japanese pharmacovigilance database.	共著	2019年4月	Clinical Drug Investigation, 39(4): 363-368.
(論文) Comparison of safety profiles of new oral anticoagulants with warfarin using the Japanese spontaneous reporting database	共著	2019年7月	Clinical Drug Investigation, 39(7): 665-670.

(論文) Association of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis with antiepileptic drugs in pediatric patients: Subgroup analysis based on a Japanese spontaneous database.	共著	2019年10月	Journal of Clinical Pharmacy and Therapeutics, 44(5): 775-779.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新規vanin-1阻害剤の急性腎障害軽減効果の検討		2023年8月	第28回日本病態プロテアーゼ学会学術集会
腎疾患治療薬開発を指向した新規vanin-1阻害剤の創製		2023年8月	第28回日本病態プロテアーゼ学会学術集会
医薬品副作用データベースに基づく薬物性緑内障の発現状況解析		2024年1月	第56回日本成人病(生活習慣病)学会
新型コロナウイルス感染リスク因子としての腎疾患		2024年1月	第56回日本成人病(生活習慣病)学会
COVID-19感染の危険因子に関する後方視的観察研究		2024年3月	日本薬学会第144回年会
0.25 mgのセマグルチドで重症重症逆流性食道炎、脱水、ケトosisを起こした2型糖尿病の一例		2024年1月	第61回日本糖尿病学会関東甲信越地方会
Range of plasma natriuretic peptide (BNP) level in hemodialysis patients with high risk of 1-year mortality		2024年3月	第88回日本循環器学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2020年9月～現在	日本病態プロテアーゼ学会評議員		
2020年12月～2022年12月	日本高血圧学会 フューチャープラン委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪医科薬科大学	講座名	総合科学系 人間文化学グループ
職名	准教授	氏名	城下 賢一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
独自の授業資料の作成		2018-2022年度	担当する授業では（1コマでおおよそA4用紙8枚分くらい）詳細な授業資料を独自に作成し、これに基づいて授業を進めることで学生の理解増進を図るとともに、予習復習をしやすいようにしている。
AV教材の用意		2020-2022年度	オンライン授業をきっかけに対面授業に回帰した現在でも、授業映像・音声を独自に録画録音し、受講生が自由に視聴できるようにして、予習復習に役立ててもらえるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
昭和史講義【戦後篇】		2020年8月	本書は、最先端の実証研究者による『昭和史講義』シリーズの戦後篇の下巻で、55年体制成立以降、主に1950年代後半から昭和の終わりまでを扱っている。応募者はこのうち、第4章「岸内閣の内政と外交」を担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）「18歳選挙権」時代のシティズンシップ教育：日本と諸外国の経験と模索	共著	2019年2月	法律文化社
（論文）薬事法改正と行政・団体関係1956-1960：自民党政権初期の政策決定過程の事例分析	単著	2020年12月	『立命館大学人文科学研究so紀要』124号
（論文）農協農政運動の展開 政治的影響力確保のための活動	単著	2021年3月	『大阪薬科大学紀要』15号
（論文）日本薬剤師協会による薬業経済安定のころみ1958-1963	単著	2022年3月	『大阪医科薬科大学薬学部雑誌』第1号
（論文）岸信介と佐藤栄作：兄弟の戦後政党政治史	単著	2023年1月	『日本歴史』896号
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年7月～現在	吹田市国民健康保険運営協議会 委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 総合科学系 自然学グループ	准教授	竹本 宏輝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
(論文) <i>Appearance of the Hoyle state and its breathing mode in <math>^{12}\text{C}</math> despite strong short-range repulsion of the nucleon-nucleon potential</i>	共著	2023年4月	<i>Phys. Rev. C</i> 107
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
複素スケーリングされた生成座標法で得られた Bloch-Blink 波動関数による $^8\text{Be}$ の共鳴の解析		2024年3月	日本物理学会 2024年春季大会
複素スケーリングされた生成座標法を用いた微視的クラスターモデルによる共鳴と散乱の記述		2024年3月	日本物理学会 2024年春季大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 准教授	氏名 長谷井 友尋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年度後期	講義に発問を積極的に取り入れ、学生に考えてもらう機会を作るよう務めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度以降	クリッカーのresponを用いて自身の講義の向上に努めた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2002年8月～現在	日本薬学会会員		
2009年4月～現在	大気環境学会会員		
2016年8月～現在	日本薬学教育学会会員		
2021年3月～現在	日本環境化学学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬剤学研究室	職名 准教授	氏名 本橋 秀之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2020年4月～  2019年9月21～  2019年4月1～	<p>「生物薬剤学2」をハイブリッドで担当した。授業評価3.4。薬物の体内動態を規定する諸要因のうち代謝と排泄について講義をしている。授業の他オンデマンド教材を提供し、学生の理解を深めるための方を講じている。</p> <p>「薬剤学実習」を担当している。薬物の体内動態を理解するための実験手法について理解を深めるため薬物動態や速度論、TDMなどに関わる実習を行っている。</p> <p>「特別演習・実習(研究)」を担当している。4～6年次生を研究室に受け入れ、実際に研究を進めることで科学的思考や研究の進め方について指導している。自発的に研究に取り組む姿勢を涵養し、研究の重要性を理解できるよう努めている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年7月～	「薬剤学実習」のテキストを改訂した。毎年度の実習内容の改善に合わせて、テキストの改訂を行っている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Internalization of FITC-albumin in human adipose-derived stem cells: Involvement of clathrin and caveolin.</i>	共著	2020年5月	<i>Pharmazie</i> , 77: 141-146, 2022
(論文) <i>Fatty acids bound to albumin induce prostaglandin E2 production in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2.</i>	共著	2020年9月	<i>Biochem Biophys Res Commun.</i> 530(1):273-277 (2020).
(論文) <i>Factors Associated With Efficacy and Nivolumab-Related Interstitial Pneumonia in Non-Small Cell Lung Cancer: A Retrospective Survey</i>	共著	2020年1月	<i>Cancer Control.</i> 27(4):1073274820977200. (2020)
(論文) 化学療法によるB型肝炎発症予防対策ガイドライン遵守率向上への薬剤師の貢献	共著	2020年3月	日本病院薬剤師会雑誌、56, 322-326, 2020
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年4月～現在	日本薬剤学会代議員		
2013年1月～現在	日本薬物動態学会評議員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 言語文化学グループ	職名 准教授	氏名 天ヶ瀬 葉子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2018年4月～現在	科目「薬学英语」でグループ・ペアワーク、ロールプレイなどのアクティブラーニングを取り入れた授業を行なっている。	
	2020年5月～現在	医学薬学専門語彙学習アプリを教材として活用し、反復学習を促した専門語彙教育を行なっている。	
	2020年4月～2021年7月	Microsoft Teams, Forms, Streamを用いて、オンデマンドおよびオンライン双方向授業を行なった。	
	2020年5月	Microsoft Teams, Forms, Streamを用いて、薬理学実習を行なった(オンデマンド)	
	2021年4月～現在	Microsoft Teamsを利用し、Formsを課題に用いて授業を行なっている。	
	2021年9月～12月	科目「異文化言語演習2」で専門内容を平易な英語表現を使うアクティブラーニング授業を行なった(2021年度ベストティーチャー賞受賞)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年5月	共著で「薬理学実習書」を作成し、動画教材を作成した。	
	2020年5月	共著で、医学薬学専門語彙学習アプリ iOS Android版 “Medical Terminology: Affixes”をリリースした。	
	2020年9月	共著で、医学薬学専門語彙学習アプリ iOS Android版 “Medical Terminology: Basic”をリリースした。	
	2021年3月	共著で、医学薬学専門語彙学習アプリ iOS Android版 “Medical Terminology: Subtechnical”をリリースした。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年9月1日	日本薬学教育学会第3回大会で、「薬学系大学生対象の多義語の習得を中心とした英語専門用語の指導の試み」と題して発表した。	
	2019年2月23日	JACET関西ESP SIG 第4回研究会で、「薬学系大学生のための専門語彙教材開発と効果の検証」と題して発表した。	
	2019年8月25日	日本薬学教育学会第4回大会で、「大阪薬科大学応用薬学科目「薬学英语」における取り組み—質問紙法による受講生の授業評価—」と題して発表した。	
	2020年9月12・13日	日本薬学教育学会第5回大会で、「大阪薬科大学応用薬学科目「薬学英语」における取り組み—質問紙法による受講生の授業評価—」と題して発表した。	
	2020年12月6日	第3回JAAL in JACET 学術交流集会で、「薬学系大学生のための 専門語彙学習アプリの開発と評価：語構成 (affix) から学ぶ専門用語」と題して発表した。	

	2021年8月22日	日本薬学教育学会第6回大会で、「2020年度薬学系大学生のための専門語彙学習アプリの導入と評価」と題して発表した。	
	2022年3月27日	日本薬学会第142年会で、「多義語である英語医療用語の習得に関する予備的研究」と題して発表した。	
	2022年7月30日	大学英語教育学会（JACET）関西支部 ESP研究会 2022年度第1回研究会で、「多義語である英語医療用語の習得と学習者の意識調査」と題して発表した。	
	2023年3月4日	2022年度 大学英語教育学会（JACET）関西支部大会で、「カタカナ語の対応がある医療専門語彙の発音の学習」と題して発表した。	
	2023年3月26日	日本薬学会第143年会で、「英語医療専門用語指導における発音指導の重要性の検証」と題して発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2021年3月13・14日	第102回認定指導薬剤養成のためのワークショップ in 近畿 タスクフォースとして参加	
	2021年11月13・14日	第110回認定指導薬剤養成のためのワークショップ in 近畿 タスクフォースとして参加	
	2023年2月25・26日	第116回認定指導薬剤養成のためのワークショップ in 近畿 タスクフォースとして参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Extraction of peroxisome proliferator-activated receptor $\alpha$ agonist-induced lipid metabolism-related and unrelated genes in rat liver and analysis of their genomic location	共著	2020年8月	J Toxicol Sci. 45(8) 449-473
Peroxisome proliferator-activated receptor $\alpha$ agonist-induced histidine decarboxylase gene expression in the rat and mouse liver	共著	2020年8月	J Toxicol Sci. 45(8) 475-492
Quantification and Clonal Culture of Neural Stem Cells from the Hippocampus of Adult Mouse	共著	2022年9月	Methods Mol Biol. 2429: 357-365
Alteration in peritoneal cells with the chemokine CX3CL1 reverses age-associated impairment of recognition memory	共著	2022年8月	Geroscience. 44(4): 2305-2318
Peripheral Regulation of Central Brain-Derived Neurotrophic Factor Expression through the Vagus Nerve.	共著	2023年2月	Int J Mol Sci. 24(4), 3543
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2018年4月～2021年3月	京都市薬剤師会大学薬剤師会 予備代議員
2021年7月～2023年1月	高槻市新型コロナワクチン大規模接種事業に薬剤師として出務

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 病態分子薬理学研究室	職名 准教授	氏名 田和 正志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Preventive effects of nitrate-rich beetroot juice supplementation on monocrotaline-induced pulmonary hypertension in rats.	共著	2021年4月	PLoS One. 2021;16(4):e0249816.
(論文) Alteration of the soluble guanylate cyclase system in coronary arteries of high cholesterol diet-fed rabbits.	共著	2021年8月	Pharmacol Res Perspect. 2021;9(4):e00838.
(論文) Soluble Guanylate Cyclase-Mediated Relaxation in Aortas from Rats with Renovascular Hypertension.	共著	2022年3月	Pharmacology. 2022;107(3-4):235-240.
(論文) Factors influencing the soluble guanylate cyclase heme redox state in blood vessels.	共著	2022年8月	Vascul Pharmacol. 2022;145:107023.
(論文) Ameliorative Effects of Beetroot Juice Supplementation on Monocrotaline-Induced Pulmonary Hypertension in Rats.	共著	2022年11月	Future Pharmacol. 2022;2:547-557.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬の冠攣縮性狭心症治療薬としての可能性		8月	生体機能と創薬シンポジウム2023
モノクロタリン誘発肺高血圧症に対するビートルートジュース摂取の治療効果		9月	第45回日本高血圧学会総会
冠攣縮に対する可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬の有用性		1月	第33回日本循環薬理学会
虚血性急性腎障害に対する可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬の影響		1月	第33回日本循環薬理学会
老齢マウスの血管老化に対するビートルートジュース摂取の効果		2月	第53回日本心脈管作動物質学会
可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬のブタ冠動脈および冠静脈に対する弛緩作用の比較		3月	第144回日本薬理学会近畿部会
可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬が虚血性急性腎障害に及ぼす影響		3月	第144回日本薬理学会近畿部会
尿毒素キヌレニンが血管機能に及ぼす影響		3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在		日本薬理学会評議員	

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 准教授 (特任)	氏名 津山 俊子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 中央危機研究施設MS室	職名 講師	氏名 藤嶽 美穂代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			1年次前期「化学」において、黒板とパワーポイントを使い、わかりやすい説明を心がけました。毎回、小テストを実施し復習する習慣がつくようにしました。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Accurate Molecular Weight Measurements of Cystine Derivatives on FAB-MS</i>	共著	2022年3月	大阪医科薬科大学 薬学部雑誌 (Vol. 2 2023)
(論文) <i>The Use of FAB-MS to Study Characters of Silicic Acids and Silicates in Sodium Silicate Solution</i>	共著	2020年10月	大阪電気通信大学 研究論集(自然科学編) 第55号(2020年)
(論文) <i>New syntheses of haloketo acid methyl esters and their transformation to halolactones by reductive cyclization</i>	共著	2020年9月	<i>Russ. Chem. Bull., Int. Ed., Vol. 69, No. 9, September, 2020</i>
(論文) <i>The analysis of the content of biologically active phenolic compounds, flavonoids, and glycoalkaloids in harvested red, yellow, and green tomatoes, tomato leaves, and tomato stems</i>	共著	同 年	<i>Current Topics in Phytochemistry Vol. 15, 2019</i>
(論文) <i>Guianofruits A and B from the Fruit Oil of Andiroba (Carapa guianensis, Meliaceae) and Their Effects on LPS-Activated NO Production</i>	共著	2018年6月	<i>ChemistrySelect, Vol. 3, 2018</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年3月	日本薬学会年會にて発表		
2021年4月	日本医用マススペクトル学会 医用質量分析認定士に認定		
2020年12月	日本質量分析学会(質量分析技術者研究会にて発表)		
2018年8月	日本質量分析学会誌に中央機器研究施設MS室を紹介		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬物治療学II研究室	職名 講師	氏名 山口 敬子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
臨床化学		2018年～現在	一方的な知識の羅列に終わることなく理解度確認のために座学科目では演習プリントを作成し双方向の授業に近づけるべく毎回のアンケート提出により今後のより良い授業の追求に活用している。また演習実習の授業においては、最大限に学生との疎通を再優先とし個別に理解度を確認しながら自主性を促し、最大限の効果を引き出す工夫を創出する。
薬学総合演習		2018年～現在	
薬局方総論		2018年～現在	
薬物治療学1		2018年～現在	
薬物治療学2		2022年～現在	
早期体験学習1		2018年～現在	
早期体験学習2		2018年～2021年	
医療薬学導入実習		2022年～現在	
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
自閉症の原因遺伝子であるNLGN4の切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
慢性炎症性脱髄性多発神経炎に関連する分子であるneurofascinの代謝		2024年3月	日本薬学会第144年会
認知機能に関与するシナプス分子であるLRRC4Bの $\gamma$ -セクレターゼによる代謝について		2024年3月	日本薬学会第144年会
L1CAMの膜の内外でのプロテアーゼ切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
ミクログリアがA $\beta$ を認識し貪食する際に利用するタンパク質であるAXLの $\gamma$ -セクレターゼによる切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
膜内プロテアーゼである $\gamma$ -セクレターゼによるEphrin-B3の切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
脳ミクログリアに特異的に発現するTMEM119のプロテアーゼによる代謝		2024年3月	日本薬学会第144年会
抗NMDA受容体脳炎の患者の髄液中の抗体の新規検出法		2024年3月	日本薬学会第144年会
抗AMPA受容体脳炎1例の髄液中の抗体の標的サブユニットと抗原決定基		2024年3月	日本薬学会第144年会
ミミズ抽出液は培養細胞上清中のタウへ分解作用を示す		2024年3月	日本薬学会第144年会
認知症関連蛋白であるタウ蛋白の重合過程における蛋白間分子架橋の影響についての検討		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年3月～現在	日本分析化学会近畿支部幹事		
2019年3月～現在	こうのとりのゆりかご in 関西 電話相談員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬学生涯学習センター	職名 講師	氏名 河合 悦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2018年10月 12月	～	科目「医薬品安全性学」 薬害を含め医薬品のリスク管理の概要と医薬品による臓器毒性について、発症機序や対処法について講義を行った。教科書に加えて書き込み式のプリントを使って、パワーポイントのスライドを使用した。
	2019年10月 12月	～	科目「医薬品安全性学」 薬害を含め医薬品のリスク管理の概要と医薬品による臓器毒性について、発症機序や対処法について講義を行った。教科書に加えて書き込み式のプリントを使って、パワーポイントのスライドを使用した。各回、授業の終わりには『小テスト』を実施し、その日の授業のポイントを確認した。
	2019年10月 12月	～	科目「薬理学実習」
	2020年4月～6月		科目「アカデミックスキル」 大学の初年次科目として、理解力、洞察力、思考力などの”幅広い教養”を身につけるための基礎的技術を学べる様に、グループ討論を中心に進めた。解決課題をSDGsの17の目標から選ぶことで、サステナブルな社会への関心へとつながることも目的として授業内容を構成した。
	2020年10月 12月	～	科目「医薬品安全性学」(授業評価:4.2) 薬害を含め医薬品のリスク管理の概要と医薬品による臓器毒性について、発症機序および対処法について講義を行った。オンライン配信の形式で実施した。教科書とプリントの使用し、1回の授業を2～3回の分割して授業動画を作成した。各動画ごとに課題として、『小テスト』を実施し、その日の授業のポイントを確認できるようにした。
	2021年4月～6月		科目「アカデミックスキル」 大学の初年次科目として、理解力、洞察力、思考力などの”幅広い教養”を身につけるための基礎的技術を学べる様に、KJ法を用いたグループ討論を中心に進めた。
	2021年4月～6月		科目「医薬品安全性学」(授業評価:4.1) 薬害を含め医薬品のリスク管理の概要と医薬品による臓器毒性について、発症機序および対処法について講義を行った。オンライン配信の形式で実施した。教科書とプリントの使用し、1回の授業を2～3回の分割して授業動画を作成した。各動画ごとに課題として、『小テスト』を実施し、その日の授業のポイントを確認できるようにした。
	2022年4月～6月		科目「アカデミックスキル」 大学の初年次科目として、理解力、洞察力、思考力などの”幅広い教養”を身につけるための基礎的技術を学べる様に、KJ法を用いたグループ討論を中心に進めた。
	2022年4月～6月		科目「医薬品安全性学」(授業評価:4.2) 薬害を含め医薬品のリスク管理の概要と医薬品による臓器毒性について、発症機序および対処法について講義を行った。オンライン配信の形式で実施した。教科書とプリントの使用し、1回の授業を2～3回の分割して授業動画を作成した。各動画ごとに課題として、『小テスト』を実施し、その日の授業のポイントを確認できるようにした。

2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年4月～現在	薬学生涯学習センターの教員として、薬剤師のリカレント教育の推進や環境整備に関わっている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2006年4月～現在に至る	一般社団法人 日本毒性学会 学術評議員		
2007年4月～現在に至る	公益社団法人 日本薬理学会 学術評議員		
2014年5月～現在に至る	大阪医科薬科大学病院病院倫理委員会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 生化学研究室	職名 講師	氏名 藤井 忍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 生物科学実習 (3年生科目)  生化学1 (1年生科目)	1992年～  2007年～	脂質、糖質、核酸、タンパク質に関する実習 学生が興味を持てるよう、身近な卵白のタンパク質をイオン交換クロマトグラフィーで分離し、それぞれの画分や、ミルクプロテイン飲料、市販血清のSDS-PAGEを行わせ、その結果などを解説している  脂質、糖質、タンパク質 (酵素を含む) に関する講義 各項目の講義終了後に簡単なポストテスト (確認テスト) を行い、学生に自分の理解度を確認させている。講義は、出来る限り学生の中に入って質問したりするとともに、板書を多用し、板書の不足分は補助プリントとして配布することで、学生が、自主学習できるように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 生物科学実習  生化学1	1992年～  2007年～	実習テキスト: 血清成分の定量、タンパク質のイオン交換クロマトグラフィーによる分離、酵素反応を担当 補助教材: ヴォートの基礎生化学から、ぜひ覚えてほしい部分を抜粋し、板書出来ない部分はプリントとして配布。また、各項目に関するCBTレベルの5択問題を作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
レーニンジャーの新生化学 (第7版) (上) 第2章 水 p61-101の翻訳を担当	共著	2019年5月	廣川書店
A simple, rapid, and efficient method for generating multigene-knockout culture cells by the CRISPR/Cas9 system	共著	2023年5月	Genes to Cell Vol. 28 No. 5 p390-397
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
初期応答遺伝子誘導におけるストレス応答プロテインキナーゼの役割分担の解析		2023年10月	第96回に補90年生化学大会
炎症応答におけるストレス応答プロテインキナーゼ (SAPK) ファミリーの機能—ヒト単球系細胞株THP-1の多重遺伝子ノックアウト細胞を用いた解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
Jun/Fos ファミリー遺伝子の多重ノックアウトHeLa細胞を用いたAP-1 標的遺伝子の発現応答性の解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
RSK/MSK ファミリーキナーゼの多重ノックアウトHeLa細胞の作成と解析—CRISPR/Cas9による多重ノックアウト法を用いて—		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
MAPKAPキナーゼファミリー遺伝子の網羅的多重ノックアウトHeLa細胞を用いたシグナル経路の解析		2023年12月	第46回日本分子生物学会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 講師	氏名 山沖 留美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 化学 (授業評価等を含む) 衛生薬学実習	2022年4月 2022年9月		
2 作成した教科書、教材、参考書 化学 これでわかる化学演習 2022年度衛生薬学実習	2022年4月 2022年4月 2022年9月	自主制作 三共出版 自主制作	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 大学運営委員会参画 (FDを含む)	2022年4月	学生委員会委員；FD委員会委員；修学指導委員会委員	
1 教育内容・方法の工夫 化学 (授業評価等を含む) 物理化学放射化学実習	2021年4月 2021年9月		
2 作成した教科書、教材、参考書 化学 これでわかる化学演習 2022年度物理化学放射化学実習	2021年4月 2021年4月 2021年9月	自主制作 三共出版 自主制作	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 大学運営委員会参画 (FDを含む)	2021年4月	学生委員会委員；FD委員会委員；修学指導委員会委員	
1 教育内容・方法の工夫 化学 (授業評価等を含む) 物理化学放射化学実習	2020年4月 2020年9月		
2 作成した教科書、教材、参考書 化学 これでわかる化学演習 2022年度物理化学放射化学実習	2020年4月 2020年4月 2020年9月	自主制作 三共出版 自主制作	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	

1 教育内容・方法の工夫 化学 物理化学放射化学実習 (授業評価等を含む)	2019年4月 2019年9月		
2 作成した教科書、教材、参考書 化学 これでわかる化学演習 2022年度物理化学放射化学実習	2019年4月 2019年4月 2019年9月	自主制作 三共出版 自主制作	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
1 教育内容・方法の工夫 化学 物理化学放射化学実習 (授業評価等を含む)	2018年4月 2018年9月		
2 作成した教科書、教材、参考書 化学 これでわかる化学演習 2022年度物理化学放射化学実習	2018年4月 2018年4月 2018年9月	自主制作 三共出版 自主制作	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Microbial Control in the Primary Packaging of Pills Using Ionizing Radiation and Its Effect on Characteristic Constituents for Quality Control in Irradiated Pills</i>	共著	2022年	<i>Processes, 10(2)</i>
放射線利用の認知－医療分野から	単著	2021年10月	<i>JAPI Newsletter, 24(3)</i>
医療で活用される放射線	単著	2021年9月	<i>Mail-Booklet 健康マスター 関西会, 9</i>
ESRIによる照射植物性食品・医薬品原料の検出と品質評価への応用	単著	2020年	<i>放射線化学, 109</i>
<i>Effectiveness of electron beam irradiation for microbial decontamination of turmeric powder (Curcuma longa Linne) and analysis of curcuminoid degradation.</i>	共著	2018年	<i>J. Food Processing and Preservation, 42</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
電離放射線による生薬製剤の微生物制御		2023年7月	第60回アイソトープ・放射線研究発表会
放射線加工による高機能ヒアルロン酸の創製とがん幹細胞標的型BNCTへの応用		2024年1月	題2回BNCT研究会
放射線照射によるヒアルロン酸の低分子化		2024年3月	日本薬学会144年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
～現在	放射線利用促進協議会 協議員
2019年10月～現在	放射線化学学会 理事
2020年	日本保健物理学会 第53回研究発表会実行委員
2022年	アメリカ化学学会論文審査員
2022年	Food Chemistry (Elsevier) 論文審査員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 RI研究施設	職名 講師	氏名 平田 雅彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～7月  2017～2022	科目「放射化学」において、学生の理解が深まるよう能動的な手法を取り入れた。  科目「化学」において学生の理解を深めるため問題演習を組み合わせた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017～2022	「物理放射化学実習」のテキストの作成と改定を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017～2022	1、2、3種放射線取扱主任者講習の講師を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
放射線照射による ヒアルロン酸の低分子化		2024年3月	日本薬学会 第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 感染制御学研究室	職名 講師	氏名 土屋 孝弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年6月1日 2020年4月～7月 2021年5月7日 2021年4月～7月 2023年5月2日 2023年5月16日 2022年4月～7月 2022年5月13日 2023年4月～7月	免疫学において視聴覚資料を用いた講義を行った。 免疫学において毎回確認テストを行い知識の定着を図った。 免疫学において視聴覚資料を用いた講義を行った。 免疫学において毎回確認テストを行い知識の定着を図った。 免疫学において視聴覚資料を用いた講義を行った。 免疫学において視聴覚資料を用いた講義を行った。 免疫学において毎回確認テストを行い知識の定着を図った。 免疫学において視聴覚資料を用いた講義を行った。 免疫学において毎回確認テストを行い知識の定着を図った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
<i>Crystal structure of the human tau PHF core domain VQIINK complexed with the Fab domain of monoclonal antibody Tau2r3</i>	共著	2020年4月	<i>FEBS Letters</i> 594(13) 2140 - 2149 2020
<i>Direct anti-biofilm effects of macrolide antibiotics on <i>Acinetobacter baumannii</i>: comprehensive and comparative demonstration by a simple assay using microtiter plate combined with peg-lid</i>	共著	2020年11月	<i>Biomedical Research(Tokyo)</i> 2020 41 (6) 259-268
<i>VuuB and IutB reduce ferric-vulnibactin in <i>Vibrio vulnificus</i> M2799</i>	共著	2020年7月	<i>BioMetals</i> 33(4-5) 187 - 200 2020
<i>Structural study of the recognition mechanism of tau antibody Tau2r3 with the key sequence (VQIINK) in tau aggregation</i>	共著	2021年11月	<i>Biochem Biophys Res Commun.</i> 585:36-41. 2021
<i>Enhancement of <i>Acinetobacter baumannii</i> biofilm growth by cephem antibiotics via enrichment of protein and extracellular DNA in the biofilm matrices</i>	共著	2022年7月	<i>J. Appl. Microbiol.</i> 2022. 133(3), 2002-2013
<i>Iron-Utilization System in <i>Vibrio vulnificus</i> M2799</i>	共著	2021年11月	<i>Mar Drugs.</i> 19(12):710. 2021

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
腸炎ビブリオ（ <i>Vibrio parahaemolyticus</i> ）由来シデロフォア生合成酵素 PvsAの立体構造解析に向けた結晶化条件の検索	2024年3月	日本薬学会第144年会
海洋細菌 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株由来ペリプラズム結合タンパク質FbpAの立体構造解析に向けた結晶化条件の検索	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
なし		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 有機化学研究室	職名 講師	氏名 米山 弘樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年2月 2022年2月 2021年2月	令和5年度有機化学実習テキストの作成（リスクアセスメントの導入） 令和4年度有機化学実習テキストの作成（実験スケールの変更） 令和3年度有機化学実習テキストの作成（コロナ感染症対策変更）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
<i>Synthesis of 5,6-Dihydro-4 H -pyrrolo[1,2- b ]pyrazoles and Homologs from 5-Substituted 2-(Alkynyl)tetrazoles via Microwave-Induced Intramolecular Nitrile-Imine-Alkyne 1,3-Dipolar Cycloaddition</i>	共著	2022年10月	<i>Synthesis</i> 2023, 55, 945-958
<i>Enantiomeric composition of natural pericosine A derived from Periconia byssoides and <math>\alpha</math>-glycosidase inhibitory activity of (-)-enantiomer</i>	共著	2022年6月	<i>Chirality</i> . 2022, 34, 1320-1327.
<i>Introduction of Fluorine into Antitumor-Active Dinuclear Platinum(II) Complexes Leads to Modulation of In Vivo Antitumor Activity in Mice</i>	共著	2022年7月	<i>Inorg. Chem.</i> 2022, 61, 12155-12164
<i>Synthesis of 6-Halo-Substituted Pericosine A and an Evaluation of Their Antitumor and Antiglycosidase Activities</i>	共著	2022年6月	<i>Mar. Drugs</i> 2022, 20, 438
<i>Design, synthesis, and evaluation of new vanin-1 inhibitors based on RR6</i>	共著	2022年4月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 2022, 65, 116791
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
腎疾患治療薬開発を指向した新規vanin-1阻害剤の創製		2023年8月	第28回病態プロテアーゼ学会学術集会
Rancinamycin Ia の合成研究		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
フッ素置換を有するパンテテイン誘導体の開発と vanin-1 阻害作用の構造活性評価		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
ヒト血清中アピラテロンの未知代謝物の同定と合成		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
触媒的不斉アザマイケル反応を用いた不斉四級炭素構築法の検討		2023年11月	第49回反応と合成の進歩シンポジウム
腎疾患治療薬開発を指向したパンテテイン類縁体の合成とvanin-1阻害活性の評価		2023年11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
oxaliplatin耐性大腸がん細胞に対する白金(II)二核錯体の細胞毒性評価		2024年3月	日本薬学会144年会
$\alpha$ -ケトビニルカルビノール部分構造を有するシクロペンテン型天然物の合成研究		2024年3月	日本薬学会144年会
アピラテロンの新規代謝物の合成研究		2024年3月	日本薬学会144年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2021年7月～2022年6月	高槻市ワクチン接種事業への協力
2014年4月～現在	大阪医科薬科大学薬学部同窓会役員
	日本薬学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 病態生化学研究室	職名 講師	氏名 小池 敦資
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Formononetin attenuates H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>-induced cell death through decreasing ROS level by PI3K/Akt-Nrf2-activated antioxidant gene expression and suppressing MAPK-regulated apoptosis in neuronal SH-SY5Y cells.</i>	共著	2021年7月	<i>Neurotoxicology vol. 85</i>
<i>Statins attenuate antiviral IFN-β and ISG expression via inhibition of IRF3 and JAK/STAT signaling in poly(I:C)-treated hyperlipidemic mice and macrophages.</i>	共著	2021年1月	<i>The FEBS journal vol. 288</i>
<i>Molecular Mechanism Underlying Inflammatory Cell Death via Necroptosis in M1 Macrophages</i>	単著	2020年12月	<i>YAKUGAKU ZASSHI vol. 140</i>
<i>Pan-caspase inhibitors induce necroptosis via ROS-mediated activation of mixed lineage kinase domain-like protein and p38 in classically activated macrophages.</i>	共著	2019年7月	<i>Experimental cell research vol. 380</i>
<i>A Limonoid, 7-Deacetoxy-7-Oxogedunin (CG-1) from Andiroba (Carapa guianensis, Meliaceae) Lowers the Accumulation of Intracellular Lipids in Adipocytes via Suppression of IRS-1/Akt-Mediated Glucose Uptake and a Decrease in GLUT4 Expression.</i>	共著	2019年4月	<i>Molecules vol. 24</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬剤誘導性肺線維症の急性増悪機構の解析		2023年・9月	第22回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム2023
Necrosulfonamideによるすい臓がん細胞株の細胞死誘導機構の解析		2023年・11月	第96回日本生化学会大会
膵臓がん細胞におけるnecrosulfonamideの細胞死誘導機構の解析		2024年・3月	日本薬学会第144年会
肥満がブレオマイシン誘導性肺線維症に及ぼす影響の解析		2024年・3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月~2023年3月	日本薬学会ファルマシアトピックス小委員		
2021年4月~現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ・講師		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 製剤設計学研究室	職名 講師	氏名 内山 博雅
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年	科目「物理薬剤学」において教科書の重点事項を分かりやすくした資料を作成配布し、授業中に学生が必要事項を書き込み、整理できるように工夫した。  科目「薬剤学実習」では、実習したことが復習できるような動画の作成および授業で学習したことがイメージしやすくなる実習書の作成を行った。	
	2021年	科目「物理薬剤学」において教科書の重点事項を分かりやすくした資料を作成配布し、授業中に学生が必要事項を書き込み、整理できるように工夫した。  科目「薬剤学実習」では、実習したことが復習できるような動画の作成および授業で学習したことがイメージしやすくなる実習書の作成を行った。	
	2020年	科目「薬剤学実習」では、実習したことが復習できるような動画の作成および授業で学習したことがイメージしやすくなる実習書の作成を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>The formation of an amorphous composite between flavonoid compounds: Enhanced solubility in both oil components and aqueous media</i>	共著	2021年11月	<i>Journal of Drug Delivery Science and Technology, vol. 62</i>
(論文) <i>Single-stranded <math>\beta</math>-1,3-1,6-glucan as a carrier for improved dissolution and membrane permeation of poorly water-soluble compounds</i>	共著	2020年11月	<i>Carbohydrate Polymers, vol. 247</i>
(論文) <i>A simple blending with <math>\alpha</math>-glycosylated naringin produces enhanced solubility and absorption of pranlukast hemihydrate</i>	共著	2019年8月	<i>International Journal of Pharmaceutics, vol. 567</i>
(論文) <i>Solubility and Permeability Improvement of Quercetin by an Interaction Between <math>\alpha</math>-Glucosyl Stevia Nanoaggregates and Hydrophilic Polymer</i>	共著	2019年6月	<i>Journal of Pharmaceutical Sciences, vol. 108</i>

(論文) <i>Jelly containing composite based on <math>\alpha</math>-glucosyl stevia and polyvinylpyrrolidone: Improved dissolution property of curcumin</i>	共著	2018年3月	<i>European Journal of Pharmaceutical Sciences, vol. 117</i>
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
グリチルリチン酸モノアンモニウムが形成するゾルおよびゲルの物性に関する検討.		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
重水素化フルルピロフェンの物理化学的性質および膜透過性の評価.		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
乾式コーティングによる不快な味抑制微粒子の設計と味覚センサー評価.		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
アミロイドナノフィブリルをバインダーとした薬物含有超微粒子集合体.		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
シクロデキストリンによるブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボンの可溶化.		2023年9月	第39回シクロデキストリンシンポジウム
グリチルリチン酸モノアンモニウムの分子集合体形成と薬物の可溶化機構の検討		2023年10月	73回日本薬学会関西支部会
乾式コーティング法によるマスキング微粒子設計の最適化と味評価.		2023年11月	第40回製剤と粒子設計シンポジウム
生体適合・生分解性CD-MOFの合成の洗浄レス化と医薬応用.		2023年11月	第39回ゼオライト研究発表会
メカノケミカル法を用いた CD-MOF の合成と薬物導入.		2023年12月	第36回日本吸着学会
噴霧乾燥法による4-aminosalicylic acid-isoniazid共結晶吸入製剤の設計.		2024年3月	日本薬学会第144年会
Carvedilolを含有した様々な粒子形態を持つSupraparticlesの作製.		2024年3月	日本薬学会第144年会
A jelly formulation design for suppressing bitter taste of catechin.		2023年9月	20th APCChE2023
Design of jelly formulations improved solubility of poorly-water soluble polyphenols.		2023年9月	20th APCChE2023
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～現在	薬剤学会 物性FG執行部		
2021年4月～現在	薬剤学会 「薬剤学」 投稿論文審査委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 言語文化学グループ	職名 講師	氏名 田邊 久美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017. 4	大阪薬科大学の2017年度前期における異文化言語演習の授業評価では、すべての項目において5段階中4以上の評価であった。実践ビジネス英語の授業もすべての項目において、5段階中すべて5の評価であった。  ほぼ毎回授業で小テストを行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2017. 6. 1	2017年から学内TOEIC IPの実施及びTOEICスコアアップ直前対策講座を行っている。 ワーキンググループのファシリテーター	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 比喩—英米文学の視点から	共著	2019年5月	英宝社
(著書) <i>The Interconnections between Victorian Writers, Artists and Places</i>	共著(編著)	2019年10月	Cambridge Scholars Publishing
(論文) <i>Beyond Continuity—Abrupt Parallelism” in Hopkins’ Fancy as the Bridge between Poetry and Science (3)</i>	単著	2017年5月	Hopkins Research vol. 45
(論文) <i>The Fancy on Witches in the Nineteenth Century Viewing from The Lancashire Witches</i>	単著	2019年9月	Journal of Modern Education Review, ISSN 2155-7993, Vol. 9, No. 9
(論文) バタフィールドとモリス周辺におけるbarbarismとsimplicityの嗜好	単著	2021年6月	『論集』(第68巻第1号)
(論文) 『お気に召すまま』におけるfancy	単著	2023年3月	Bulletin of the Faculty of Pharmacy, Osaka Medical and Pharmaceutical University Vol. 2 (2023)
(論文) <i>The Winter's Tale</i> とルネサンス期の魔術	単著	2023年3月	『人文研究』(第54号)
(実践報告) 薬学部における TOEIC の取り組み (2017-2021年度)	単著	2022年3月	『人文研究』(第53号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬物治療学II研究室	職名 講師	氏名 柳田 寛太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2022年5月20日	薬物治療学3の講義で、学生がパーキンソン病の病態を理解できるように、実際の患者さんの動画を取り入れたスライドを作製した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) APLP2 is predominantly cleaved by $\beta$ -secretase and $\gamma$ -secretase in the human brain.	共著	2023年3月	Psychogeriatrics. ;23(2):311-318.
(論文) Ribavirin Treatment for Severe Schizophrenia with Anti-Borna Disease Virus 1 Antibodies 30 Years after Onset.	共著	2023年2月	Case Rep Psychiatry. 27;2023:4899364.
(論文) Plasma NFL is associated with mild cognitive decline in patients with diabetes.	共著	2022年5月	Psychogeriatrics. ;22(3):353-359
(論文) Association of weekday-to-weekend sleep differences and stress response among a Japanese working population: a cross-sectional study.	共著	2021年6月	Sleep Med. ;82:159-164.
(論文) Renal function is associated with blood neurofilament light chain level in older adults.	共著	2020年11月	Sci Rep. 23;10(1):20350.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
自閉症の原因遺伝子であるNLGN4の切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
慢性炎症性脱髄性多発神経炎に関連する分子であるneurofascinの代謝		2024年3月	日本薬学会第144年会
認知機能に関与するシナプス分子であるLRRC4Bの $\gamma$ -セクレターゼによる代謝について		2024年3月	日本薬学会第144年会
L1CAMの膜の内外でのプロテアーゼ切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
ミクログリアがA $\beta$ を認識し貪食する際に利用するタンパク質であるAXLの $\gamma$ セクレターゼによる切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
膜内プロテアーゼである $\gamma$ -セクレターゼによるEphrin-B3の切断		2024年3月	日本薬学会第144年会
脳ミクログリアに特異的に発現するTMEM119のプロテアーゼによる代謝		2024年3月	日本薬学会第144年会
抗NMDA受容体脳炎の患者の髄液中の抗体の新規検出法		2024年3月	日本薬学会第144年会
抗AMPA受容体脳炎1例の髄液中の抗体の標的サブユニットと抗原決定基		2024年3月	日本薬学会第144年会
ミミズ抽出液は培養細胞上清中のタウへ分解作用を示す		2024年3月	日本薬学会第144年会
認知症関連蛋白であるタウ蛋白の重合過程における蛋白間分子架橋の影響についての検討		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 助教	氏名 羽田 理恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年～ 2019年～	薬局・病院実務実習 臨床導入学習1・2
2 作成した教科書、教材、参考書			臨床導入学習で使用する教材 実務実習ガイダンス資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2019年～ 2019年～	OSCE実施部会 SP養成ワーキンググループ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年～	認定実務実習指導薬剤養成のためのワークショップ タスクフォース		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 生体機能解析学研究室	職名 助教	氏名 田中 智
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
S期のGAPDHの核内移行におけるプロリルオリゴペプチダーゼとの相互作用		2024年3月	第144年会 日本薬学会
ヒト骨髄性白血病細胞に対するSUAM-14746の細胞死誘導メカニズムの解析		2024年3月	第144年会 日本薬学会
ヒト乳がん細胞に対するアシタバ含有Xanthoangelolの細胞死誘導作用		2024年3月	第144年会 日本薬学会
ヒト骨髄性白血病細胞に対するプロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬(SUAM-14746)の細胞死誘導作用		2024年10月	第73回 日本薬学会関西支部 総会・大会
ヒト乳がん細胞株に対するアシタバ含有カルコン類の抗がん作用		2024年10月	第73回 日本薬学会関西支部 総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 衛生化学研究室	職名 助教	氏名 東 剛志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～ 2018年4月～ 2018年4月～ 2018年4月～ 現在に至る	1年次科目: 早期体験学習1 (企業見学のプレ/ ポストSGD) 3年次科目: 衛生薬学実習 OSCEサポートスタッフ ・前年度の授業アンケートに記載された学生の意見を参考に講義方法の改善を行っている。 ・実習の際に環境項目の測定で用いる関連器具の実物と使用方法を見せることにより、講義内容を身近に関心を持ってもらえるようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		衛生薬学実習テキスト 毎年作成している。衛生試験法の改訂に伴い、各年度毎に内容をアップデートしている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当無し	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Performance and efficiency of removal of pharmaceutical compounds from hospital wastewater by lab-scale biological treatment system.	共著	2018年3月	Environ. Sci. Pollut. Res., 25(15), 14647-14655(2018).
(論文) Removal of pharmaceuticals in water by introduction of ozonated microbubbles.	共著	2019年4月	Sep. Purif. Technol., 212, 483-489(2019).
(論文) Effects of natural sunlight on antimicrobial-resistant bacteria (AMRB) and antimicrobial-susceptible bacteria (AMSB) in wastewater and river water.	共著	2021年4月	Sci. Total. Environ., 766, 142568(2021).
(論文) Disinfection of antibiotic-resistant bacteria in sewage and hospital effluent by ozonation.	共著	2021年4月	Ozone Sci. Eng., 43(5), 413-426(2021).
(論文) Inactivation of bacteria and residual antimicrobials in hospital wastewater by ozone treatment.	共著	2022年7月	Antibiotics 11(7), 862(2022).

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
医療機関に由来する排水高度処理へのオゾンの応用口	2023年6月	日本オゾン協会第32回年次研究講演会
医療と環境の関わりについて口	2023年8月	第3回研究カフェ
医療機関に由来する排水高度処理へのオゾンの応用口	2023年12月	日本オゾン協会第40回オゾン技術に関する講習会・見学会
医療機関における排水高度処理へのオゾンの応用	2024年3月	日本医療・環境オゾン学会 環境応用部会／オゾン水研究会 第82回オゾン水研究会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年4月～現在に至る	日本水環境学会関西支部幹事	
2018年4月～現在に至る	Science of the Total Environment Editorial Board	
2020年8月～現在に至る	Antibiotics Reviewer Board	
2022年1月～現在に至る	Frontiers in Microbiology Associate Editor	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 生薬科学研究室	職名 助教	氏名 平田 佳之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2019/9/1 (後期実習科目)	「漢方・生薬学実習」の科目において、日本薬局方(局方)に記載されている漢方薬及び生薬の関連法規にの説明と局方に従った各種試験及び鑑定試験について講義した。(授業評価実施済)。	
	2020/9/1 (後期実習科目)	「漢方・生薬学実習」の科目において、日本薬局方(局方)に記載されている漢方薬及び生薬の関連法規にの説明と局方に従った各種試験及び鑑定試験について講義した。(授業評価実施済)。	
	2021/9/1 (後期実習科目)	「漢方・生薬学実習」の科目において、日本薬局方(局方)に記載されている漢方薬及び生薬の関連法規にの説明と局方に従った各種試験及び鑑定試験について講義した。(授業評価実施済)。	
	2022/9/1 (後期実習科目)	「漢方・生薬学実習」の科目において、日本薬局方(局方)に記載されている漢方薬及び生薬の関連法規にの説明と局方に従った各種試験及び鑑定試験について講義した。また、生薬を用いた蒸留などによる(授業評価実施済)。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019/9/1 (後期実習科目)	科目「漢方・生薬学実習」の実習テキストの作成	
	2020/9/1 (後期実習科目)	科目「漢方・生薬学実習」の実習テキストの作成	
	2021/9/1 (後期実習科目)	科目「漢方・生薬学実習」の実習テキストの作成	
	2022/9/1 (後期実習科目)	科目「漢方・生薬学実習」の実習テキストの作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2019/4/1 (前期講義科目)	関西大学化学生命工学部にて保険機能食品に関する科目「健康生命科学」の講義を担当し、健康食品管理士の資格科目を担当	
	2020/4/1 (前期講義科目)	関西大学化学生命工学部にて保険機能食品に関する科目「健康生命科学」の講義を担当し、健康食品管理士の資格科目を担当	
	2021/4/1 (前期講義科目)	関西大学化学生命工学部にて保険機能食品に関する科目「健康生命科学」の講義を担当し、健康食品管理士の資格科目を担当	
	2021/4/1 (前期講義科目)	関西大学化学生命工学部にて保険機能食品に関する科目「健康生命科学」の講義を担当し、健康食品管理士の資格科目を担当	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称

(論文) <i>Biotic elicitation at different feeding time in cell suspension cultures of Eurycoma longifolia Jack, a valuable medicinal plant, for enhancement of cytotoxic activity of bioactive compounds against human colon cancer cell line</i>	共著	2021年6月	<i>In Vitro Cellular &amp; Developmental Biology - Plant</i> 2021
(論文) <i>Isoform Selectivity of HDAC Inhibitors Has a Significant Effect on PD-L1 Expression in the Triple-negative Cancer Cell Line MDA-MB-231</i>	共著	2022年4月	<i>Yakugaku zasshi : Journal of the Pharmaceutical Society of Japan</i> 142(4) 431-437 2022
(論文) <i>Sirtuin inhibition and neurite outgrowth effect as new biological activities for Areca catechu nut alkaloids</i>	共著	2022年8月	<i>Phytomedicine Plus</i> 2(3) 100294-100294 2022
(論文) <i>MDMX elevation by a novel Mdmx-p53 interaction inhibitor mitigates neuronal damage after ischemic stroke</i>	共著	2022年12月	<i>Scientific reports</i> 12(1) 21110-21110 2022
(論文) <i>Isozyme-specific histone deacetylase 1/2 inhibitor K560 attenuates oxidative stress-induced retinal cell death</i>	共著	2023年1月	<i>Neuroscience Letters</i> 793 136978-136978 2023
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 機能分子創製化学研究室	職名 助教	氏名 林 淳祐
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 基礎有機化学実習			1年生の初めの実習として器具の使い方などに関して、説明した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年	2023年用の実習テキストに実験を安全に行うための注意点を記載し、編集した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Influence of Aib-Containing Amphipathic Helical Chain Length in MAP(Aib)-cRGD as Carrier for siRNA Delivery.</i>	共著	2022年2月	<i>Chemistry &amp; biodiversity</i> 19(2) e202100728
(著書) 核酸医薬における化学修飾核酸の概要と研究開発	共著	2021年12月	医薬品におけるDDS技術開発と製剤への応用 233-247
(著書) <i>REDUCT-siRNA:細胞内還元環境に应答して活性化するプロドラッグ型RNA創薬</i>	共著	2020年12月	月刊メディカル・サイエンス・ダイジェスト 46(9) 2020年
(論文) <i><math>\alpha</math>-Aminoisobutyric Acid-Containing Amphipathic Helical Peptide-Cyclic RGD Conjugation as a Potential Drug Delivery System for MicroRNA Replacement Therapy in Vitro.</i>	共著	2019年11月	<i>Molecular pharmaceuticals</i> 16(11) 4542-4550
(論文) <i>Influence of lysine residue in amphipathic helical peptides on targeted delivery of RNA into cancer cells.</i>	共著	2019年8月	<i>Bioorganic &amp; medicinal chemistry letters</i> 29(15) 1934-1937
(論文) <i>Syntheses of prodrug-type 2'-O-methyl dithiomethyl oligonucleotides modified at natural four nucleoside residues and their conversions into natural 2'-hydroxy oligonucleotides under reducing condition.</i>	共著	2018年10月	<i>bioorganic &amp; medicinal chemistry</i> 26(22) 5838-5844
(論文) <i>Effective gene silencing activity of prodrug-type 2'-O-methyl dithiomethyl siRNA compared with non-prodrug-type 2'-O-methyl siRNA.</i>	共著	2018年7月	<i>Bioorganic &amp; medicinal chemistry letters</i> 28(12) 2171-2174
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本核酸医薬学会会員		
	日本薬学会会員		
	日本核酸化学学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 社会薬学・薬局管理 理学研究室	職名 助教	氏名 庄司 雅紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2016年4月－現在	4年生を対象とした臨床導入学習1および2において医療現場での業務と基礎学習の結びつきを意識した また学生たちが主体的に取り組めるよう工夫した	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年10月	薬剤師実務のアウトカム 薬剤師の貢献を示すアウトカム研究を始めるときに読む本 (分担執筆 p63-4)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年8月	日本薬学教育学会大会シンポジウム「若手薬剤師が考える薬学教育の課題とその対策」臨床研究結果の教育への応用に着目した検討	
4 その他教育活動上特記すべき事項		OSCE実施部会委員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>A non-randomized, controlled, interventional study to investigate the effects of community pharmacists' cognitive behavioral therapy-based interventions on medication adherence and relevant indicators in patients with depression.</i>	共著	2023年2月	<i>BMC psychiatry vol. 23 No. 1</i>
<i>A pilot study of Pharmacist-Dietician Collaborative support and Advice (PDCA) for patients with type 2 diabetes in community pharmacy: A single-arm, pre-post study</i>	共著	2022年7月	<i>Pharmacy Practice vol. 20 No. 2</i>
薬局薬剤師が抗うつ薬の服用に抵抗感を抱く患者に対して実践している工夫に関するテキストアナリシス	共著	2020年9月	日本精神薬学会誌4巻1号
<i>The relationship between community pharmacists' social distance from and their confidence in interacting with patients with depression in Japan</i>	共著	同 年8月	<i>International Journal of Clinical Pharmacy vol. 42 No. 6</i>
<i>The change in pharmacists' attitude, confidence and job satisfaction following participation in a novel hypertension support service.</i>	共著	2019年12月	<i>International journal of pharmacy practice vol. 27 No. 6</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬局薬剤師と管理栄養士の実症例を通じた連携学習「くすりと食事研究会」の実施及び評価		2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会
地域薬局における骨粗鬆症の予防・啓発活動に関するスコーピングレビュー		2023年11月	第33回日本医療薬学会
薬局管理栄養士と薬剤師の協働による高血圧症患者の食事支援効果の検証ースタディプロトコル		2023年9月	日本社会薬学会第41年会
薬局薬剤師と薬局管理栄養士の協働による治療効果に関するスコーピングレビュー		2024年3月	日本薬学会第144年会
薬局薬剤師による糖尿病患者に対する運動療法、健康教室の効果に関するスコーピングレビュー		2024年3月	日本薬学会第144年会
薬学部生に対する認知行動変容アプローチに基づく服薬支援演習の実施報告ー受講者の立場からー		2023年11月	第17回日本薬局学会学術総会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2021年10月-現在	くすりと食事研究会 運営
2021年6月	認知行動療法を応用した服薬支援・セルフケア 講師
2021年3月	武田薬品工業株式会社 糖尿病治療継続・治療満足を考える会 講師
2022年8月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 査読

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬物治療学 I 研究室	職名 助教	氏名 田中 早織
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2022年4月	配布資料は穴埋め式にし、学生に記入させる方式を取り入れています。講義終了後にレスポンスにて小テストを実施し、学習した内容を復習できるようにしています。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>S Tanaka, S Ito, C Shimamoto, H Matsumura, T Inui, Y Marunaka, T Nakahari. Nitric oxide synthesis stimulated by arachidonic acid accumulation via PPAR <math>\alpha</math> in acetylcholine-stimulated gastric mucous cells.</i>	共著	2021年7月	<i>Experimental physiology.</i> 106(9)
<i>Y Ikeuchi, H Kogiso, S Hosogi, S Tanaka, C Shimamoto, H Matsumura, T Inui, Y Marunaka, T Nakahari. Carbocysteine stimulated an increase in ciliary bend angle via a decrease in [Cl<sup>-</sup>]<sub>i</sub> in mouse airway cilia.</i>	共著	2018年10月	<i>Pflugers Archiv : European journal of physiology</i> 471(2)
<i>H Kogiso, S Hosogi, Y Ikeuchi, S Tanaka, T Inui, Y Marunaka, T Nakahari. [Ca<sup>2+</sup>]<sub>i</sub> modulation of cAMP-stimulated ciliary beat frequency via PDE1 in airway ciliary cells of mice</i>	共著	2018年3月	<i>Experimental Physiology</i> 103(3)
<i>Y Ikeuchi, H Kogiso, S Hosogi, S Tanaka, C Shimamoto, T Inui, T Nakahari, Y Marunaka. Measurement of [Cl<sup>-</sup>]<sub>i</sub> unaffected by the cell volume change using MQAE-based two-photon microscopy in airway ciliary cells of mice</i>	共著	2018年3月	<i>Journal of Physiological Sciences</i> 68(2)
<i>H Kogiso, Y Ikeuchi, M Sumiya, S Hosogi, S Tanaka, C Shimamoto, T Inui, Y Marunaka, T Nakahari. Seihai-to (TJ-90)-induced activation of airway ciliary beatings of mice: Ca<sup>2+</sup> modulation of cAMP-stimulated ciliary beatings via PDE1</i>	共著	2018年3月	<i>International Journal of Molecular Sciences</i> 19(3)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Sunitinib誘発肝障害の発症機序の解明とバイオマーカーの探索	2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会
Brigatinib誘発性副反応の発症メカニズム —THP-1細胞を用いた免疫活性化に関する検討—	2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会
トロバフロキサシン誘発肝障害の発症機序の解明	2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会
2型糖尿病合併脂質異常症モデルラットにおいて黒酢が血中脂質濃度にもたらす影響	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
リファンピシン併用によるロルラチニブ誘発性肝障害の発症メカニズムの解明 —THP-1細胞を用いた免疫活性化に関する検討—	2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
肥満を伴う糖尿病状態のラット脳内におけるオレキシン受容体発現の変動	2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
ミネラルコルチコイド拮抗薬スピロラク톤の肺血管リモデリングに対する作用の検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
ヒト血管内皮細胞に対するミネラルコルチコイド受容体ブロッカーエサキセレノンのインフラマソーム抑制作用の検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
トロバフロキサシン誘発肝障害の発症時に放出されるDAMPsの検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2015年2月～現在	日本薬学会	
2016年5月～現在	日本薬学教育学会	
2019年6月～現在	日本糖尿病・肥満動物学会	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬剤学研究室	職名 助教	氏名 竹林 裕美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年8月 2019年10月 2020年11月 2021年8月 2022年6月 2018(～2022)年 9月～12月	科目「薬学総合演習」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。 科目「薬学総合演習」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。 科目「薬学総合演習」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。 科目「薬学総合演習」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。 科目「薬学総合演習」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。 科目「薬剤学実習」において、薬物のタンパク結合に関する実習を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018(～2022)年 9月～12月	科目「薬剤学実習」の実習書「薬剤学実習テキスト」の薬物のタンパク結合測定項目について作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
(論文) Pioglitazone induces hypoxia-inducible factor 1 activation in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2.	共著	2018年9月	Biochem Biophys Res Commun. 503(3):1682-1688
(論文) Effects of cyanidin and its glycosides on the transport of rhodamine 123 in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2.	共著	2018年	Current Topics in Pharmacology. 22:11-18
(論文) Fatty acids bound to albumin induce prostaglandin E2 production in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2.	共著	2020年8月	Biochem Biophys Res Commun. 530(1):273-277
(論文) Internalization of FITC-albumin in human adipose-derived stem cells: Involvement of clathrin and caveolin.	共著	2022年5月	Pharmazie. 77:141-146
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ドキシソルピシンを負荷したヒト脂肪幹細胞由来条件培地の殺細胞効果		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
腎近位尿管上皮細胞株HK-2におけるHIF-1活性化に及ぼすEPレセプターア		2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会
ヒト近位尿管上皮細胞株RPTEC/TERT1及びHK-2を用いたベンダムスチンの		2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会
ヒト脂肪幹細胞由来順化培地によるドキシソルピシン誘発細胞障害に対する保		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
ヒト脂肪幹細胞におけるカルニチン輸送特性		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

	日本薬学会会員
	日本薬剤学会会員
	日本医療薬学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 分子構造化学研究室	職名 助教	氏名 加藤 巧馬
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017年4月～現在  2017年4月～7月 2018年4月～7月 2019年4月～7月 2020年4月～7月  2022年9月～12月  2017年10月25日 2018年11月7日  2019年10月1日  2022年10月1日	科目「特別演習・実習」において、研究室に配属された学生の卒業研究を指導した。卒業研究では指示された実験を行うのではなく、研究テーマについて自身で主体的に進める必要があることを理解させるように務めている。  科目「基礎薬学実習」において、薬学生として入学後の様々な実習科目に必要な基礎的な科学的知識と実験器具の基本的な扱い方についての実習を行った。  科目「物理化学実習」において、薬学における物理化学の基本的な知識と技能を修得するために、医薬品の安定性や溶解度など代表的な性質や変化を定量的に取り扱う実習を行った。  科目「早期体験学習1」において、薬局見学を行った。実際の見学の事前と事後にスモールグループディスカッションを行い、見学における学習効果を活かせるように指導を行った。  科目「早期体験学習1」において、特別養護老人ホーム見学を行った。実際の見学の事前と事後にスモールグループディスカッションを行い、見学における学習効果を活かせるように指導を行った。  科目「早期体験学習1」において、薬局見学を行った。実際の見学の事前と事後にスモールグループディスカッションを行い、見学における学習効果を活かせるように指導を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2021年8月7日  2022年8月6日	高槻市主催の「子ども科学教室」というイベントにおいて、小学生高学年を対象とした「バスボムを作ろう」という講座の講師を年に1度務めている。継続中	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Cell - Penetrating Peptides: Design, Development and Applications	共著	2022年12月	Wiley - VCH GmbH
(論文) Effects of Substituting Disubstituted Amino Acids into the Amphipathic Cell Penetrating Peptide Pep-1	共著	2022年11月	Chem. Pharm. Bull., 70(11), 812-817
(論文) Synthesis of six-membered carbocyclic ring $\alpha$ , $\alpha$ -disubstituted amino acids and arginine-rich peptides to investigate the effect of ring size on the properties of the peptide	共著	2021年5月	Bioorg. Med. Chem., 38, 116111

(論文) Crystal structure of <i>N</i> -[ <i>N</i> -[ <i>N</i> -( <i>tert</i> -butoxy-carbon-yl)-L- $\alpha$ -aspart-yl]-L- $\alpha$ -aspart-yl]-L- $\alpha$ -aspartic acid 1 <sup>4</sup> ,2 <sup>4</sup> ,3 <sup>4</sup> -trimethyl ester 3 <sup>1</sup> -2-oxo-2-phenyl-ethyl ester {Boc-[Asp(OMe)] <sub>3</sub> -OPac}	共著	2019年4月	Acta Crystallogr. E., 75(5), 585-588
(論文) Cell-Penetrating Peptides Using Cyclic $\alpha$ , $\alpha$ -Disubstituted $\alpha$ -Amino Acids with Basic Functional Groups	共著	2018年3月	ACS Biomater. Sci. Eng., 4(4), 1368-1376
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
生体活性ペプチドの効率的導出に向けたヘリカルテンプレートの開発		2023年5月	日本ケミカルバイオロジー学会 第17回年会
架橋部位を持つ五員環状アミノ酸によるAib配列ペプチドの二次構造変化		2023年5月	日本ケミカルバイオロジー学会 第17回年会
キラルな三員環状ジ置換アミノ酸を含むAibペプチドのコンフォメーション解析		2023年7月	第60回化学関連支部合同九州大会
Buforin IIをモデルとしたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの創製と評価		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
C18AAをモデルとしたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの合成と評価		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
Development of Helical Peptides Utilizing Aspartate Picolyl Ester as a Side Chain Crosslink by Metal Ions		2023年11月	第60回ペプチド討論会
$\alpha$ -トリフルオロメチル基を含む非天然アミノ酸の合成とペプチドステアブル化への影響		2023年11月	第40回日本薬学会九州山口支部大会
側鎖にピコリルエステルを含有するペプチドの金属イオンを介した側鎖架橋によるヘリックス構造の安定性評価		2024年3月	日本薬学会第144年会
両親媒性ペプチド中のアミノ酸側鎖環サイズが脂質二重膜へ及ぼす影響の評価		2024年3月	日本薬学会第144年会
両親媒性ヘリックスペプチド中のジ置換アミノ酸の導入位置による脂質二重膜への影響評価		2024年3月	日本薬学会第144年会
$\alpha$ -トリフルオロメチル $\alpha$ -(4-ペンテニル)グリシンの合成とペプチド側鎖架橋への応用		2024年3月	日本薬学会第144年会
架橋部位を有する環状ジ置換アミノ酸を導入したヘリカルペプチドによる不斉エポキシ化		2024年3月	日本薬学会第144年会
ヘリカルテンプレートペプチドの開発とDDSキャリアへの応用		2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2011年11月～現在	日本薬学会会員		
2013年9月～現在	日本ペプチド学会会員		
2016年1月～現在	日本DDS学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 病態分子薬理学研究室	職名 助教	氏名 中川 恵輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018~2022	薬理学実習
2 作成した教科書、教材、参考書		2018~2022.9	薬理学実習テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
(論文) <i>Indoxyl sulfate induces ROS production via the aryl hydrocarbon receptor-NADPH oxidase pathway and inactivates NO in vascular tissues</i>	共著	2021年1月	<i>Life Sci</i> , 265, 118807
(論文) <i>Preventive effects of nitrate-rich beetroot juice supplementation on monocrotaline-induced pulmonary hypertension in rats</i>	共著	同年4月	<i>PLoS One</i> , 16, e0249816
(論文) <i>Soluble Guanylate Cyclase-Mediated Relaxation in Aortas from Rats with Renovascular Hypertension</i>	共著	同年12月	<i>Pharmacology</i> , 107, 235-240
(論文) <i>Vascular Endothelial Dysfunction in the Thoracic Aorta of Rats with Ischemic Acute Kidney Injury: Contribution of Indoxyl Sulfate</i>	共著	2022年2月	<i>Oxid Med Cell Longev</i> , 2022, 7547269
(論文) <i>Acute Kynurenine Exposure of Rat Thoracic Aorta Induces Vascular Dysfunction via Superoxide Anion Production</i>	共著	同年2月	<i>Biol Pharm Bull</i> , 45, 522-527
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬の冠攣縮性狭心症治療薬としての可能性		2023年8月	生体機能と創薬シンポジウム2023
虚血性急性腎障害に対するsGC刺激薬の影響		2023年8月	あべの薬理学懇話会
モノクロタリン誘発肺高血圧症に対するビートルートジュース摂取の治療効果		2023年9月	第45回日本高血圧学会総会
冠攣縮に対する可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬の有用性		2024年1月	第33回日本循環薬理学会
虚血性急性腎障害に対する可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬の影響		2024年1月	第33回日本循環薬理学会
高齢マウスの血管老化に対するビートルートジュース摂取の効果		2024年2月	第53回日本心脈管作動物質学会
可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬のブタ冠動脈および冠静脈に対する弛緩作用の比較		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
Roxadustat がラット胸部大動脈の血管緊張調節に及ぼす影響		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬が虚血性急性腎障害に及ぼす影響		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
尿毒素キヌレニンが血管機能に及ぼす影響		2024年3月	日本薬学会第144年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2016年3月～現在	日本薬学会会員
2017年12月～現在	日本薬理学会会員
2018年3月～現在	日本ポリフェノール学会
2018年3月～現在	日本NO学会会員
2018年8月～現在	日本循環薬理学会会員
2023年4月～現在	日本薬理学会学術評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 生体分析学研究室	職名 助教	氏名 近藤 直哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Development of matrix metalloproteinase-targeted probes for lung inflammation detection with positron emission tomography</i>	共著	2018年1月	<i>Sci Rep.</i> 2018 8(1):1347.
<i>Radioiodinated bicyclic RGD peptide for imaging integrin <math>\alpha v \beta 3</math> in cancers</i>	共著	2020年7月	<i>Biochem Biophys Res Commun.</i> 2020; 528(1):168-173.
<i>Evaluation of 3-Borono-L-Phenylalanine as a Water-Soluble Boron Neutron Capture Therapy Agent</i>	共著	2022年5月	<i>Pharmaceutics.</i> 2022;14(5):1106.
<i>A Red-Emitting Fluorescence Sensor for Detecting Boronic Acid-Containing Agents in Cells</i>	共著	2022年10月	<i>Sensors (Basel).</i> 2022;22(19):7671.
<i>Development of a 2-(2-Hydroxyphenyl)-1 H-benzimidazole-Based Fluorescence Sensor Targeting Boronic Acids for Versatile Application in Boron Neutron Capture Therapy</i>	共著	2023年3月	<i>Cancers (Basel).</i> 2023;15(6):1862.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本薬学会会員		
	日本核医学会会員		
	日本分子イメージング学会会員		
	日本中性子捕捉療法学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 薬品作用解析学研究室	職名 助教	氏名 國澤 直史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 機能形態学1 (授業評価等を含む) 薬理学実習		2022年10月 2022年9月-12月	講義 講義
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Mechanisms Underlying Dopaminergic Regulation of Nicotine-Induced Kinetic Tremor.	共著	2022年6月	Front. Pharmacol. 13:938175.
(論文) Emerging Roles of Astrocyte Kir4.1 Channels in the Pathogenesis and Treatment of Brain Diseases.	共著	2021年9月	Int. J. Mol. Sci. 22(19):10236.
(論文) 新規てんかん関連因子Phf24の機能解析	共著	2021年9月	BIO Clinica. 36:55-59.
(論文) Increased seizure sensitivity, emotional defects and cognitive impairment in PHD finger protein 24 (Phf24)-null rats.	共著	2019年9月	Behav Brain Res. 369:111922.
(論文) Antipsychotic Treatment of Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia (BPSD): Management of Extrapyrimal Side Effects.	共著	2019年9月	Front Pharmacol. 10:1045.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ニコチンによる運動興奮症状の発現におけるアストロサイトの関与		2023年6月	第143回日本薬理学会近畿部会
抗てんかん薬の反復的投与によるけいれん発作の予防効果および神経興奮性に及ぼす影響		2023年6月	第143回日本薬理学会近畿部会
ニコチンによる運動興奮症状発現におけるアストロサイト活性化の役割		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
フルオロクエン酸投与によるアストロサイト不活性化モデルの作成		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
フルオロクエン酸によるアストロサイトの不活性化がペンチレントラゾール誘発けいれんに及ぼす影響		2024年3月	第144回日本薬理学会近畿部会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年11月～現在	日本薬理学会(2020年4月～現在 学術評議員)		
2014年4月～現在	日本神経科学学会		
2014年7月～現在	日本神経精神薬理学会		
2014年8月～現在	日本薬学会		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
  - ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 有機薬化学研究室	職名 助教	氏名 葉山 登
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 有機化学実習での講義 有機化学での演習		2021年～2023年 2021年～2023年	有機化学の実験操作を指導した。 有機化学の講義で学生の質問に答えた。
2 作成した教科書、教材、参考書 有機化学実習テキスト		2021年～2023年	有機化学実習で使用するテキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Asymmetric hetero-Michael addition to <math>\alpha, \beta</math>-unsaturated carboxylic acids using thiourea-boronic acid hybrid catalysts</i>	共著	2021年6月	<i>Tetrahedron</i> , 2021, 89, 132089
(論文) <i>Cui-catalyzed coupling reactions of 4-iodopyrazoles and alcohols: Application toward withasomnine and Homologs</i>	共著	2021年6月	<i>Molecules</i> , 2021, 26, 3370
(論文) 多機能性ボロン酸触媒による不斉共役付加反応の開発とキラルスイッチ反応への展開	単著	2021年3月	<i>Yakugaku Zasshi</i> 2021, 141, 293
(論文) <i>A solvent-dependent chirality-switchable thia-Michael addition to <math>\alpha, \beta</math>-unsaturated carboxylic acids using a chiral multifunctional thiourea catalyst</i>	共著	2020年6月	<i>Chemical Science</i> 2020, 11, 5572
(論文) <i>Inhibition of angiogenesis and tumor growth by a novel 1,4-naphthoquinone derivative</i>	共著	2021年6月	<i>Drug Development Research</i> 2019, 80, 395
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒト血清中のアビラテロン未知代謝物の構造解析		2023年5月	第71回質量分析総合討論会
Abirateroneおよびその代謝物のモノメリックC18固定相における分離機構の計算科学的考察		2023年6月	第30回クロマトグラフィーシンポジウム
腎疾患治療薬開発を指向した新規vanin-1阻害剤の創製		2023年8月	第28回病態プロテアーゼ学会学術集会
Abirateroneおよびその代謝物のモノメリックおよびポリメリックC18固定相における分離機構の考察		2023年9月	日本分析化学会第72年会
不斉共役付加反応の新展開～不斉補助基から不斉触媒へ～		2023年10月	金剛化学株式会社講演会
Abirateroneおよびその代謝物の逆相固定相における分離機構の考察		2023年10月	第34回クロマトグラフィー科学会議
Rancinamycin Ia の合成研究		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会

フッ素置換基を有するパンテテイン誘導体の開発と vanin-1 阻害作用の構造活性評価	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
ヒト血清中アビラテロンの未知代謝物の同定と合成	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
腎疾患治療薬開発を指向したパンテテイン類縁体の合成と vanin-1 阻害活性の評価	2023年11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
触媒的不斉アザマイケル反応を用いた不斉四級炭素構築法の検討	2023年11月	第49回反応と合成の進歩シンポジウム
アビラテロンの新規代謝物の合成研究	2024年3月	日本薬学会第144年会
$\alpha$ -ケトビニルカルピノール部分構造を有するクロペンテノン型天然物の合成研究	2024年3月	日本薬学会第144年会
Bisphenol A およびその誘導体に対する分子インプリントポリマーの保持能および分子認識能の検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
Identification of unknown metabolites of abiraterone in human serum	2023年10月	3rd International BMS Symposium
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2009年4月～現在	日本薬学会会員	
2013年4月～現在	有機合成化学協会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪医科薬科大学	講座名	生化学研究室
職名	助教	氏名	伊藤 千紘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Regulation of Krüppel homolog 1 expression by photoperiod in the bean bug, <i>Riptortus pedestris</i> .	共著	2021年5月	The Royal Entomological Society, <i>Physiological Entomology</i> , Vol.46 Issue 1
(論文) Functional Analysis of a Juvenile Hormone Inducible Transcription Factor, Krüppel homolog 1, in the Bean Bug, <i>Riptortus pedestris</i> .	共著	2022年12月	Zoological Society of Japan, <i>Zoological Science</i> , 39(6)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
炎症応答におけるストレス応答プロテイン キナー(SAPK) ファミリーの機能- ヒト単球系細胞株THP-1の多重遺伝子 ノックアウト細胞を用いた解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
Jun/Fosファミリー遺伝子の多重ノックアウトHeLa細胞を用いたAP-1標的遺伝子の発現応答性の解析		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
RSK/MSKファミリーキナーゼの多重ノックアウトHeLa細胞の作成と解析 - CRISPR/Cas9による多重ノックアウト法を用いて-		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部大会
初期応答遺伝子誘導におけるストレス応答プロテインキナーゼの役割分担の解析		2023年10月	第96回日本生化学会大会
MAPKAPキナーゼファミリー遺伝子の網羅的多重ノックアウトHeLa細胞を用いたシグナル経路の解析		2023年12月	第46回日本会分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2004年～現在	日本動物学会会員		
2004年～現在	日本時間生物学会会員 (2013年より評議員)		
2021年～現在	日本分子生物学会、日本生化学会、日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 医薬分子化学研究室	職名 助教	氏名 安田 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2022年9月-12月	基礎有機化学実習において、一人一人の疑問に親身に答えるよう努め、授業評価アンケートにて個人名で高評価を複数頂いた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)Fullerene derivatives as inhibitors of the SARS-CoV-2 main protease	共著	2023年1月	<i>Bioorganic and Medicinal Chemistry Letters, Vol. 80</i>
(論文)Development of p62-Keap1 Protein-Protein Interaction Inhibitors as Doxorubicin-Sensitizers Against Non-Small Cell Lung Cancer	共著	2022年10月	<i>Results in Chemistry Vol. 4</i>
(論文)Inhibitors of the protein-protein interaction between phosphorylated p62 and Keap1 attenuate chemoresistance in a human hepatocellular carcinoma cell line	共著	2020年3月	<i>Free Radical Research Vol. 54, No. 11-12</i>
(論文)Ropinirole, a New ALS Drug Candidate Developed Using iPSCs.	共著	2020年2月	<i>Trends in Pharmacological Sciences No. 41, Vol. 2</i>
(論文)Synthesis and Evaluation of Nevirapine Analogs to Study the Metabolic Activation of Nevirapine	共著	2020年2月	<i>Drug Metabolism and Pharmacokinetics No. 35, Vol. 2</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
亜鉛イオン応答型光分解性保護基の開発研究		2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会
亜鉛イオン応答型光分解性保護基の開発		2023年11月	第49回反応と合成の進歩シンポジウム
亜鉛イオン応答性光分解性保護基の開発研究		2024年3月	日本薬学会第144年会
側鎖にアセトアミド構造を有するナフタレン誘導体の細胞内Nrf2活性化効果		2024年3月	日本薬学会第144年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2022年6月～現在	薬学共用試験センター OBT実施委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 病態生化学研究室	職名 助教	氏名 中辻 匡俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Thermodynamic stability of human lipocalin-type prostaglandin D synthase under various pH conditions</i>	共著	2023年2月	<i>Journal of Biochemistry</i> , mvd016.
(論文) <i>Structure-based prediction of the IgE epitopes of the major dog allergen Can f 1</i>	共著	2022年3月	<i>The FEBS Journal</i> , 289(6), 1668-1679
(論文) <i>Zinc mediates the interaction between ceruloplasmin and apo-transferrin for the efficient transfer of Fe(III) ions</i>	共著	2021年12月	<i>Metallomics</i> , 13(12), mfab065
(著書) 医薬品のDDSにおけるL-PGDS技術概要および開発事例	共著	2021年12月	情報機構, 第3章 第2節 医薬品のDDSにおけるL-PGDS技術概要および開発事例
(著書) 生体内輸送タンパク質による難水溶性薬剤の可溶化と経口投与	共著	2021年9月	シーエムシー出版, <i>Bio Industry</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
肥満によるエストロゲン受容体陽性乳癌のTamoxifen耐性獲得機構の解明		2023年5月	第69回日本生化学会近畿支部例会
肥満による乳癌の薬剤耐性獲得におけるHippo経路の関与		2023年6月	第65回日本脂質生化学会
リポカリン型プロスタグランジンD合成酵素の多量体化による腫瘍標的ドラッグデリバリーシステムの開発		2023年7月	第23回日本蛋白質科学会年会
リポカリン型プロスタグランジンD合成酵素の多量体化による腫瘍標的ナノキャリアの開発		2023年7月	第39回日本DDS学会学術集会
H-PGDS阻害剤によるセルレイン誘発性急性膵炎の炎症制御機構の解析		2023年9月	第22回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフォーラム 2023
肥満によるエストロゲン受容体陽性乳癌のホルモン療法耐性獲得機構の解明		2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会
癌微小環境において脂肪細胞がトリプルネガティブ乳癌の転移能に与える影響		2023年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会

脂肪細胞の培養上清を加えて培養することによる ER陽性乳癌のTamoxifen耐性にHippo経路が関係する	2023年10月	第96回日本生化学会大会
脂肪細胞によるエストロゲン受容体陽性乳癌のタモキシフェン耐性の獲得	2024年3月	日本薬学会第144年会
癌微小環境における脂肪細胞によるトリプルネガティブ乳癌細胞の遊走促進	2024年3月	日本薬学会第144年会
H-PGDS阻害剤による急性膵炎の炎症制御	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2020年4月～現在	日本乳癌学会会員	
2022年7月～現在	日本生化学会会員	
2022年7月～現在	日本脂質生化学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床漢方薬学研究室	職名 助手	氏名 松田 昂樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年9月～	「漢方・生薬学実習」において、生薬や煎じ薬の味見を行ってもらい、生薬の四気・五味と薬能の関係を体験的に学べる実習を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Seasonal variation in the total saponin content of platycodon roots cultivated in Japan</i>	共著	2023年	<i>J Nat Med</i> , 77: 64-72, 2023
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
六味地黄丸の老化細胞に対する抗炎症効果		2023年9月	第69回生薬学会年会
ジャノヒゲとセッコウリュウノヒゲの実証栽培試験より得られた課題と考察について		2023年12月	薬用植物栽培研究会第5回研究総会
キキョウの種子生産とその出芽特性について(その2)		2023年12月	薬用植物栽培研究会第5回研究総会
加熱処理生薬・清炒麻黄の標準化 -分光測色計を用いた色による規定-		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年9月～現在		日本生薬学会会員	
2022年11月～現在		薬用植物栽培研究会会員	
2022年11月～現在		日本薬学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪医科薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 助手	氏名 松村 光紗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年9月～ 2023年1月24日	3学部(医・薬・看)合同の学生の症例カンファレンスに参加した。 実務実習生の症例プレゼンテーションに参加した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年2月11・ 12日	認定実務実習指導薬剤師要請のためのワークショップへ参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年6月～2023年5月	日本薬学会会員		
2022年5月～2023年5月	日本病院薬剤師会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率 (%)
1年	324	315	97.2%
2年	366	353	96.4%
3年	296	275	92.9%
4年	270	266	98.5%
5年	283	273	96.5%
6年	311	274	88.1%

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワクチン接種をした学生数 <sup>1)</sup>
風疹	123	102
麻疹	53	115
水痘	255	27
ムンプス	142	69
B型肝炎	230	

[注] 1) 4年次12月末までにワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 <sup>1)</sup>		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 <sup>2)</sup>	大講義室	346~381	2	727	
	中講義室	94~240	10	1,670	うち2室は可動機
	小講義室	59	8	472	全席可動機
	セミナー室	14~32	7	134	全席可動機
	情報科学演習室	84	1	84	
実習室	薬剤・薬理系実習室	80	2	160	
	理化学・衛生系実習室	80	2	160	RI実習室を併設
	有機・生薬系実習室	80	2	160	生薬標本室を併設
	生物系実習室	80	2	160	
	臨床導入学習施設	8~96	13	210	模擬製剤室、模擬無菌製剤室、一般製剤室、コンピューター演習室、グループ演習室(8室)など
自習室等 <sup>3)</sup>	自習室	64	2	128	通常はパーティションで仕切らず1室として運用している別に、グループ学習室を薬学部図書館に併設している
	学生ラウンジ (開放スペース)	516	1	516	ホワイエを含む

※A棟 (管理・図書館棟)、B棟 (研究等)、C棟・D棟 (講義・実習棟) の屋内では無線LANが利用可能

薬用植物園	<p>① 薬学部キャンパス内に設置している</p> <p>② 植物園全体は4,995㎡ 標本園、温室、ビニールハウス、管理棟、資材倉庫などからなる</p> <p>③ 約300種の植物を保有・栽培している</p> <p>④ 生薬標本室はC棟 (講義・実習棟) に設置している</p> <p>⑤ 一般向けの薬用植物園見学会を開催している (月1回、8月と冬季を除く)</p>
-------	---

- [注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席が可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考にして備考欄に記入してください。コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください (教卓にあるものを除く)。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表 1. 講座・研究室の施設

施設名 <sup>1),2)</sup>	面積 <sup>3)</sup>	収容人員 <sup>4)</sup>	室数	備考
教員個室 (教授室など)	28m <sup>2</sup>	1人	26	個室は研究室責任者、他の指導教員は研究室に在室
第1研究室	110m <sup>2</sup>	20人	24	卒業研究などを指導する研究室 (センター含む) は23
第2研究室	30m <sup>2</sup>	6人	25	卒業研究などを指導する研究室 (センター含む) は23
大学院研究室 (大)	54m <sup>2</sup>	10人	10	2 研究室で共同利用
大学院研究室 (小)	27m <sup>2</sup>	5人	3	

- 1) 施設名は例示です。これらに対応する貴学の施設名でご作成ください。
- 2) 同じ施設に面積が大きく異なるものがある場合は、施設名を「〇〇室 (大)」、「〇〇室 (小)」のように分けてください。また、複数の講座・研究室で共用する施設には、備考欄にその旨を記載してください。
- 3) 同じ区分とすると部屋の面積に幅がある場合は、平均値を整数で記入してください。
- 4) 1 室当たりの基準となる収容人数を記入してください。基準人数に幅がある場合は「〇～△人」と記入してください。

表 2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 <sup>1),2)</sup>	室数	施設の内容
中央機器研究施設	19	MS、NMR、X線回折装置、ESR、タンパク質構造解析など
実験動物施設	12	マウス、ラット、モルモット、ウサギ、イヌ飼育室、実験室など
RI実験施設	7	実験室 1～5、共同機器室、測定室など
共同機器室	3	低温室、培養室、NMR室

- 1) 例示のように、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。面積などは不要です。
- 2) 例示以外の実験施設 (例えば、培養室など) があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) <sup>1)</sup>	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 <sup>2)</sup>	備考 <sup>3)</sup>
薬学部図書館 (阿武山キャンパス)	219	1,768	12.4	閲覧室	0	貸出用ノートパソコン4台 複合機2台	薬学部：1740 大学院：28
				プラウジング コーナー	22	複合機4台	
				情報検索コーナー1	20	デスクトップパソコン20台 タブレット2台 プリンタ2台	
				情報検索コーナー2	1	デスクトップパソコン1台	
				図書館自習室1	10		
				図書館自習室2	20		
				多目的室	20		
グループ学習室	10						
計	219	1,768	12.4		103	デスクトップパソコン21台 ノートパソコン4台 タブレット2台 プリンタ2台 複合機4台	

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には、情報処理端末をいくつ設置しているかを記入してください。

3) 「備考」欄には、「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) <sup>2)</sup>	電子ジャー ナルのタイ トル数 <sup>3)</sup>	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) <sup>1)</sup>	国内書	外国書			2020年度	2021年度	2022年度	
薬学部図書館 (阿武山キャンパス)	97,642	97,642	274	428	1,270	11,234	1,421	1,111	1,015	
計	97,642	97,642	274	428	1,270	11,234	1,421	1,111	1,015	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記入してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。